

ICOM<sup>®</sup>

取扱説明書 [応用編]



SOHOROUTER  
**SR-11**

取扱説明書 [基本編]に記載のない内容について説明  
しています。本書の設定例集と併せてご覧ください。



Icom Inc.

---

## はじめに

本書は、付属の取扱説明書[基本編]をお読みいただいていることを前提としています。はじめて本製品をお使いになるときには、取扱説明書[基本編]を先にお読みになってから、本書をお読み下さい。

本書では、実際にネットワークの接続を行うために、いくつかの具体的な設定例と、WWW設定画面の各設定項目についての詳細を説明しています。

設定例において、指定のない項目は、出荷時の状態で通信が可能ですが、詳しく設定したいときは、本書を参考に設定してください。

本書の説明に使用するWWW設定画面の色合いは、お使いのディスプレイによって異なることがあります。

なお、本書で使用している設定画面の色合いは、RGB方式にて作成しているため、カラープリンターで印刷出力される場合、プリンターによっては「CMYKモードに置き換えて印刷しますか?」などの確認ダイアログが表示されたり、印刷できない場合があります。

---

## 表記について

取扱説明書[応用編]は、次の規則にしたがって表記しています。

「 」表記・・・本製品の設定画面にある各項目名、設定値などを(「 」)で囲んで表記します。

[ ]表記・・・本製品の設定画面の名称、本製品の前後パネルに配置された表示器、端子名などを([ ])で囲んで表記します。

< >表記・・・本製品の設定ページにあるコマンドボタンの名称を(< >)で囲んで表記します。

---

## 登録商標について

アイコム株式会社、アイコム、Icom Inc.、icomロゴは、アイコム株式会社の登録商標です。

WAVEMASTERは、アイコム株式会社の登録商標です。

Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

Macintosh、Mac-OSは、米国アップルコンピューター社の登録商標です。

Netscape Navigatorは、Netscape Communications Corporationの商標です。

Adobe、Acrobatは、アドビシステムズ社の登録商標です。

その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。

# 回線種別の設定

以下の要領に従って、回線種別を設定します。

## 1. 設定ページを表示する

本製品のEthernetポートにパソコンを接続し(取扱説明書[基本編] 第4章参照)、WWWブラウザを起動します。

アドレスバーに、「http://192.168.0.1/」を入力して、本製品に直接アクセスします。

以下の画面を表示します。



## 2. [回線設定]画面の表示

<回線設定>をクリックし、ご契約、ご使用になる回線種別を選択したのち、<登録して再起動>をクリックします。



再起動後、選択した回線種別の[接続状況]画面(設定ページ)を表示します。

選択した回線種別

- ISDNダイヤルアップ ..... 第1部参照
- フレッツISDN ..... 第2部参照
- OCNエコノミー ..... 第3部参照
- 専用線(64 / 128kbps) ..... 第4部参照



# 取扱説明書[応用編]の構成

取扱説明書[応用編]では、お客様がご契約になられる回線について、回線種別、設定例ごとに分類して説明しています。

本書の構成は、次のとおりです。

- 
- 第1部 ISDNダイヤルアップ
  - 第2部 フレッツISDN
  - 第3部 OCNエコノミー
  - 第4部 専用線(64 / 128kbps)
  - 第5部 ネットワークの設定例集
  - 第6部 無線LANの設定例集
  - 第7部 アナログポートの設定例集
  - 第8部 付属ソフトウェアについて





SOHOROUTER  
**SR-11**

## 第1部 ISDNダイヤルアップ

第 1章	回線と接続.....	1
第 2章	本体設定と管理 .....	19
第 3章	ネットワーク .....	31
第 4章	アナログ設定 .....	53
第 5章	通信記録 .....	65
第 6章	保存と記録 .....	69
第 7章	ISDNダイヤルアップの設定例集 .....	71
付 録	設定画面の構成 .....	113

取扱説明書[基本編]に記載のない内容について説明  
しています。本書の設定例集と併せてご覧ください。



この章では、  
設定ページの、<回線と接続>メニューで表示される画面について説明します。

---

1. [接続状況]画面 .....	2
2. [接続先の追加]/[~の設定]画面 .....	3
2-1. [接続]画面 .....	3
2-2. [自動接続]画面 .....	7
2-3. [自動切断]画面 .....	11
2-4. [着信]画面 .....	12
2-5. [WAN設定]画面 .....	15
2-6. [アドレス変換]画面 .....	16
3. [回線設定]画面 .....	17

# 1 回線と接続

## 1. [接続状況]画面



通信中の回線接続状況と、使用する回線種別について表示します。  
登録できる接続先は、20件までです。(フレッツISDNでの接続先の登録件数を含む)



- ①<全切断> ..... B1とB2チャンネルの通信(アナログ通信を除く)を同時に切断します。
- ②<B1切断> ..... B1チャンネルの通信(アナログ通信を除く)を切断します。
- ③<B2切断> ..... B2チャンネルの通信(アナログ通信を除く)を切断します。
- ④接続状況 ..... 各チャンネルでの通信が、本製品から「発信」されているのか、外部からのアクセスにより「着信」しているのかを表示します。
- ⑤接続先名 ..... 通信している接続先(プロバイダーなど)の名称を表示します。  
なお、表示されるのは本製品に接続先として登録されている名称です。
- ⑥相手先電話番号 ..... 通信している接続先(プロバイダーなど)の電話番号を表示します。
- ⑦IPアドレス ..... 通信している接続先(プロバイダーなど)のIPアドレスを表示します。
- ⑧接続時間 ..... 通信が開始されてから、本画面にアクセスした時点までの接続時間を表示します。  
最新の接続時間を表示するには、WWWブラウザの<更新>ボタンをクリックしてください。
- ⑨番号 ..... 登録された接続先の整理番号を表示します。  
登録が早い順番に番号が付きますが、登録削除による欠番があるときに接続先を追加すると、その欠番に登録されます。
- ⑩名称 ..... 登録された接続先(プロバイダーなど)の名称を表示します。
- ⑪接続制御 ..... 登録した接続先に、手で接続するときのボタンです。
- ⑫接続方法 ..... 登録された接続先への接続設定が、「自動」なのか、「手動」なのかを表示します。
- ⑬登録削除 ..... 登録してある接続先を、削除するときのボタンです。

2. [接続先の追加]/[ ~ の設定]画面

2-1. [接続]画面



登録		取消	
<b>接続設定</b>			
①	②	接続先名 ③	プロバイダ
		電話番号1	1234567890 * 以降はサブアドレス
		電話番号2	* 以降はサブアドレス
		電話番号3	* 以降はサブアドレス
		ユーザID ⑤	123
		パスワード ⑥	***
		認証プロトコル ⑦	相手に合わせる
		デフォルトGWを構築 ⑧	しない/する
		コールバック要求 ⑨	しない
		コールバック電話番号 ⑩	* 以降はサブアドレス
		プライマリDNSサーバ ⑪	
		セカンダリDNSサーバ ⑫	
<b>スループットBOD</b>		登録/取消▲	
		BODを使用 ⑬	しない/する
		移行	
		トラフィック量 ⑭	
		1B→2B	75 %
		2B→1B	25 %
			BODを使用するには、通信速度を可及しておく必要があります。
			55～95の範囲で記載
			5～45の範囲で記載

- ①<登録> ..... この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> ..... この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③接続先名 ..... 接続する相手先名を、任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。  
(入力例：icom)
- ④電話番号1～3 ..... 接続先から指定された電話番号を、市外局番から入力します。  
次のように入力すると、すべて同じ電話番号として処理します。  
1111-22-3333、1111(22)3333、1111223333  
相手先よりサブアドレスの付加を指定された場合、電話番号の末尾に、\*(アスタリスク)記号に続けて指定された半角英数字を入力します。  
(入力例：1111223333\*333)  
なお、一つの接続先に対して、同じユーザーIDで複数の電話番号を認める場合、3件までの電話番号が登録可能です。  
2件以上登録することで、マルチダイヤル機能を動作させることが可能になります。  
マルチダイヤル機能は、「電話番号1」が話中などで接続できない場合、「電話番号2」に自動発信します。さらに接続できない場合は、「電話番号3」に自動発信します。  
以降、接続できない場合は、もう一度だけ「電話番号1」から自動発信を繰り返します。(最大で各2回発信します。)  
無課金コールバック要求(⇒P5)による発信時は、登録されているすべての電話番号で接続できない場合、マルチダイヤル機能は動作しません。
- ⑤ユーザID ..... 接続先から指定されたユーザー名(ログイン名)を入力します。  
(入力例：user)

# 1 回線と接続

## 2-1. [接続]画面(つづき)

登録		取消	
<b>接続設定</b>			
① 接続先名	③	プロバイダ1	
電話番号1		1234567890	* 以降はサブアドレス
電話番号2	④		* 以降はサブアドレス
電話番号3			* 以降はサブアドレス
ユーザーID	⑤	123	
パスワード	⑥	***	
認証プロトコル	⑦	相手に合わせる	
デフォルトGWを構築	⑧	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する	
コールバック要求	⑨	<input type="radio"/> しない	
コールバック電話番号	⑩		* 以降はサブアドレス
プライマリDNSサーバ	⑪		
セカンダリDNSサーバ	⑫		
<b>スループットBOD</b>			登録/取消▲
BODを使用	⑬	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	BODを使用するには、通信速度を可変しておく必要があります。
移行トラフィック量	⑭	1B→2B 75 %	55～95の範囲で記載
		2B→1B 25 %	5～45の範囲で記載

- ⑥パスワード ..... 接続先から指定されたパスワードを入力します。  
入力された文字は、すべて「\*」または「 」で表示されます。  
(表示例：\*\*\*\*)
- ⑦認証プロトコル ..... ユーザーIDとパスワードを本製品から発信する時の認証プロトコルを選択します。
- 認証なし : 相手からの認証要求をすべて拒否する
  - 相手に合わせる : 認証方式を相手先に合わせる(出荷時の設定)
  - PAP : PAP方式で認証を受ける
  - CHAP : CHAP方式で認証を受ける
- ⑧デフォルトGWを構築 ..... LAN環境で発生したパケットのうち、宛先不明のパケットを送り出す出口を意味し、この接続をその出口とするかしないかを選択します。
- しない : パケットデータを送る先が支社など、閉じられた環境のとき選択します。
  - する : パケットデータを送る先がインターネットなどグローバルな環境のとき選択します。(出荷時の設定)

2-1. [接続]画面(つづき)

登録		取消	
<b>接続設定</b>			
① 接続先名	③	プロバイダ	
電話番号1	④	1234567890	*以降はサブアドレス
電話番号2			*以降はサブアドレス
電話番号3			*以降はサブアドレス
ユーザID	⑤	123	
パスワード	⑥	***	
認証プロトコル	⑦	相手に合わせる	
デフォルトGWを構築	⑧	<input type="checkbox"/> しない <input checked="" type="checkbox"/> する	
コールバック要求	⑨	<input type="checkbox"/> しない	
コールバック電話番号	⑩		*以降はサブアドレス
プライマリDNSサーバ	⑪		
セカンダリDNSサーバ	⑫		
<b>スループットBOD</b>			登録/取消▲
BODを使用	⑬	<input type="checkbox"/> しない <input checked="" type="checkbox"/> する	BODを使用するには、通信速度を可変しておく必要があります。
移行	1B→2B	75 %	55～95の範囲で記載
トラフィック量	2B→1B	25 %	5～45の範囲で記載

- ⑨コールバック要求 ..... 相手先に発信したときに、相手先かけなおしてもらうように(コールバック)要求するかどうかを設定します。
- しない：コールバックを要求しません。
  - CBCP：CBCP(Callback Control Protocol)に対応している相手先の端末に、コールバックを要求します。こちらから接続するときの通信料金は、要求した側に課金されます。
  - 無課金：相手先が同じ機能を搭載した弊社製のルータを使っている場合に機能し、要求した側に通信料金は課金されません。ただし、相手先に発信者番号が通知されていない場合は、無課金コールバックを行うことはできません。
- コールバック要求できるのは、相手先が次のいずれかの場合だけです。  
Windows 95/98/NT 4.0などのCBCP対応の端末  
相手先が同じ機能を搭載した弊社製のルータを使っている場合
- ⑩コールバック電話番号 ..... CBCPによるコールバックを利用する場合に、相手先かけなおしてもらう電話番号を入力します。  
また、電話番号に続けて「\*(アスタリスク)」+サブアドレス(任意の半角英数字32文字以内)を入力することもできます。
- ⑪プライマリDNSサーバ ..... 接続先からDNSサーバのアドレスが2つ指定されている場合は、どちらか一方、または指定されているプライマリDNSアドレスを入力します。  
(入力例：123.114.101.34)
- ⑫セカンダリDNSサーバ ..... 接続先からDNSサーバのアドレスが2つ指定されている場合は、どちらか一方、または指定されているセカンダリDNSアドレスを入力します。  
(入力例：123.114.151.64)  
相手先が、IPCP(DNSアドレス送信)に対応している場合は、回線接続時にDNSアドレスを自動取得できますので、⑪、⑫の設定は不要です。

# 1 回線と接続

## 2-1. [接続]画面(つづき)

登録	取消	
① ② <b>接続設定</b>		
③ 接続先名	プロバイダ	
電話番号1	1234567890	* 以降はサブアドレス
電話番号2		* 以降はサブアドレス
電話番号3		* 以降はサブアドレス
⑤ ユーザID	123	
⑥ パスワード	***	
⑦ 認証プロトコル	相手に合わせる	
⑧ デフォルトGWを構築	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する	
⑨ コールバック要求	しない	
⑩ コールバック電話番号		* 以降はサブアドレス
⑪ プライマリDNSサーバ		
⑫ セカンダリDNSサーバ		
<b>スルーブットBOD</b>		登録/取消▲
BODを使用 ⑬	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する	BODを使用するには、通信速度を可変にしておく必要があります。
移行トラフィック量 ⑭	1B→2B 75 % 2B→1B 25 %	55～95の範囲で記載 5～45の範囲で記載

⑬BODを使用 .....

スルーブットBOD機能は、回線を通るパケット量を監視しながら、必要に応じて自動的にチャネルの増減を行う機能です。ただし、この機能を使うことができるのは、MP接続に対応している相手先と128kbps(回線速度)の契約をしていて、[自動接続]画面の「④通信速度」(P7)を「64k可変」もしくは「128k可変」に設定している場合だけです。また、相手先がBACPプロトコルに対応している場合は、自動的にこのプロトコルを使用して通信を行います。

⑭移行トラフィック量 .....

スルーブットBODを使うとき有効となり、ここで設定する回線を通るパケット量の増減に応じて、その設定値になれば使用するBチャネルの本数(1B 2B、2B 1B)を自動的に切り替えます。

2-2. [自動接続]画面



- ①<登録> ..... この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> ..... この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。  
 なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③自動接続 ..... ネットワーク上のパソコンから、インターネットにアクセスする操作をすると、自動で回線を接続するかしないかを選択します。  
 「する」を設定した場合、インターネットへアクセスする操作を行うだけで、自動的にISDN回線に接続されて課金されます。  
 ネットワークの設定内容や運用のしかたによっては、回線が長時間接続されたままになったり、意図しない自動接続が行われてしまう可能性がありますので、必ず[接続状況]画面や、本製品の[B1]ランプおよび[B2]ランプを確認してください。
- ④通信速度 ..... Bチャンネルを使って、接続先とどのように通信するかを選択します。
  - 64k固定 : 接続先と64kbpsに固定して通信
  - 128k固定 : 接続先と128kbpsに固定して通信
  - 64k可変 : [接続]画面の「⑬BODを使用」(⇨P6)を「する」と設定しているときの選択肢です。  
 64kbpsで接続し、スループットが「⑭移行トラフィック量」(⇨P6)の設定値を上回ると、2B通信に移行します。  
 相手先が2B通信に対応しないときは、1B通信となります。
  - 128k可変 : [接続]画面の「⑬BODを使用」(⇨P6)を「する」と設定しているときの選択肢です。  
 128kbpsで接続し、スループットが「⑭移行トラフィック量」(⇨P6)の設定値を下回ると、1B通信に移行します。  
 相手先が2B通信に対応しないときは、1B通信となります。

# 1 回線と接続

## 2-2. [自動接続]画面(つづき)

自動接続設定		登録/取消▲
自動接続	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する	
通信速度	64k可変	
接続制限設定		登録/取消▲
料金による制限	0 円 / 月	
接続回数による制限	0 回 / 日	
通算接続時間による制限	0 分	
接続可能な時間帯	00 : 00 ~ 00 : 00	
終了時刻で強制切断	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する	
自動接続制限状況		登録/取消▲
リセット		
料金制限(料金/リセット時刻)	0円/2000/01/01 00:00	
回数制限(回数/リセット時刻)	0回/2000/01/01 00:00	
時間制限(通算接続時間)	0分	

### ⑤料金による制限 .....

一定期間当たりの自動接続料金を制限できます。積算された通信料金が制限を超えると、自動接続できなくなります。0(制限なし)円～999999円まで入力できます。積算の期間は、「日」「週」「月」の中から選択できます。積算の期間を過ぎた時点で、設定した積算料金に対する制限は自動的に再始動します。

料金による制限を設定するときは、次の点にご注意ください。

必ず、[接続状況]画面に表示される日付と時刻を確認してください。日付と時刻は、停電対策用電池が消耗すると、初期値に戻ります。また、積算された料金もゼロに戻ります。

料金による制限は、あくまでも目安ですので、実際の料金請求額と異なることがあります。

ネットワークの設定や運用状態によっては、正しく動作しない場合があります。

料金による制限は、INSネットから通知される料金情報によって通信料金を積算します。通信によっては、通信情報が通知されないことや、実際の料金と異なる料金情報が通知されることがあります。たとえば、INSネット64のテレホーダイを利用する場合は、通常の通信時と同じように接続時間あたりの料金情報が通知されるので、実際の通信料金が制限を超える前に、自動接続できなくなることがあります。

通信料金は、回線切断後に確定します。よって、回線接続中の[接続状況]画面に表示する累積料金合計の欄には、回線を切断するまで反映されません。

### 注意！

停電対策用電池を電池ボックスに入れていない状態で電源を切る(ACアダプターを抜く)と、積算値がリセットされます。

## 2-2. [自動接続]画面(つづき)

登録   取消	
<b>① ② 自動接続設定</b>	
自動接続 ③	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
通信速度 ④	64k可変
<b>接続制限設定</b> <span style="float:right">登録/取消▲</span>	
料金による制限 ⑤	0 円 / 月
接続回数による制限 ⑥	0 回 / 日
通算接続時間による制限 ⑦	0 分
接続可能な時間帯 ⑧	00 : 00 ~ 00 : 00
終了時刻で強制切断 ⑨	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
<b>自動接続制限状況</b> <input type="button" value="リセット"/> ⑩ <span style="float:right">登録/取消▲</span>	
料金制限(料金/リセット時刻) ⑪	0円 / 2000/01/01 00:00
回数制限(回数/リセット時刻) ⑫	0回 / 2000/01/01 00:00
時間制限(通算接続時間) ⑬	0分

- ⑥接続回数による制限 ..... 一定期間当たりの自動接続の回数を制限できます。積算された接続回数が制限を超えると、自動接続できなくなります。0(制限なし)回～65535回まで入力できます。積算の期間は、「日」「週」「月」の中から選択できます。積算期間を過ぎた時点で、設定した積算回数に対する制限は自動的に再始動します。  
接続回数による制限を設定するときは、必ず、[接続状況]画面に表示される日付と時刻を確認してください。  
日付と時刻は、停電対策用電池が消耗すると、初期値に戻ります。また、積算された接続回数もゼロに戻ります。
- ⑦通算接続時間による制限 ..... 期間を制限せず、自動接続の時間を制限できます。回線接続後、制限時間を経過すると、通信中でも回線を切断します。0(制限なし)分～65535分まで入力できます。  
通算接続時間による制限を設定するときは、必ず、[接続状況]画面に表示される日付と時刻を確認してください。  
日付と時刻は、停電対策用電池が消耗すると、初期値に戻ります。また、積算された接続時間もゼロに戻ります。
- ⑧接続可能な時間帯 ..... 自動接続を可能とする時間帯を設定します。開始時刻より終了時刻が早い時間の場合、終了時刻は次の日の時刻となります。
- ⑨終了時刻で強制切断 ..... 接続可能な時間帯を超えると、通信中でも強制的に自動切断するかどうかを選択します。
- ⑩<リセット> ..... 以下の[自動接続制限状況]に表示する内容を、初期値「0」に戻します。
- ⑪料金制限(料金/リセット時刻) ..... 表示する時刻までの自動接続による通信料金と、次回リセットされる日時について表示します。  
これらの表示は、あくまでも目安です。  
契約回線のサービスによっては、実際と表示がことなることがありますので、あくまでも目安としてご利用ください。

# 1 回線と接続

## 2-2. [自動接続]画面(つづき)

登録		取消	
<b>① ② 自動接続設定</b>			
自動接続 ③		<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	
通信速度 ④		64k可変	
<b>接続制限設定</b>			
料金による制限 ⑤		0 円 / 月	
接続回数による制限 ⑥		0 回 / 日	
通算接続時間による制限 ⑦		0 分	
接続可能な時間帯 ⑧		00 : 00 ~ 00 : 00	
終了時刻で強制切断 ⑨		<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	
<b>自動接続制限状況</b> <input type="button" value="リセット"/> ⑩			
料金制限 (料金 / リセット時刻) ⑪		0円 / 2000/01/01 00:00	
回数制限 (回数 / リセット時刻) ⑫		0回 / 2000/01/01 00:00	
時間制限 (通算接続時間) ⑬		0分	

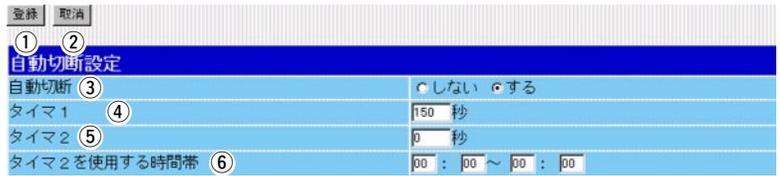
⑫回数制限(回数/リセット時刻)

表示する時刻までの自動接続回数と、次回リセットされる日時について表示します。

⑬時間制限(通算接続時間) .....

表示する時刻までの自動接続による通信時間について表示します。

2-3. [自動切断]画面



- ①<登録> ..... この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> ..... この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③自動切断 ..... 接続中の回線を自動で切断するか、<全切断>、<B1切断>または<B2切断>ボタン([接続状況]画面内)をクリックするまで、切断しないかを選択します。  
 自動切断を「する」に設定すると、一定時間、回線上で通信がなかったときは、自動的に切断されます。  
 自動切断は、ISDN回線に流れるデータの無い状態が150秒(出荷時の設定)以上経過すると、自動的に切断します。  
 次のような場合は、正常に切断したかどうか、必ず[接続状況]画面の状況表示や、本製品の[B1]および[B2]ランプを確認してください。
  - ネットワーク上のパソコンが定期的に通信を行うような場合
  - [例]メールサーバへのアクセスや、ソフトウェアの自動アップデートを定期的にインターネット側サーバに問い合わせるように設定している場合など
  - 接続した相手から、データが定期的に送信されてくるような場合
  - 本製品が着信されている場合（本製品をリモートアクセスサーバにしているときなど）
 回線を接続した側で回線を切断することをおすすめします。
- ④タイマ1 ..... 設定した時間、通信がない場合、自動的に回線を切断します。  
 0秒(切断制限なし)～65535秒まで入力できます。  
 (出荷時の設定：150秒)
- ⑤タイマ2 ..... 下記「⑥タイマ2を使用する時間帯」で設定した時間帯で動作し、設定した時間、通信がない場合、回線を自動的に切断します。  
 0秒(出荷時の設定)にすると、自動切断を行いません。
- ⑥タイマ2を使用する時間帯 ..... 上記「⑤タイマ2」が動作する時間帯を設定します。  
 設定時間帯以外は、「④タイマ1」の設定値で動作します。

【設定例】

「⑤タイマ2」は、0秒(初期値)で、時間帯にテレホーダイ有効時間を設定すると、その時間帯だけ、自動切断機能が無効になります。

タイマ2の時間帯を設定するときは、必ず、[接続状況]画面に表示される日付と時刻を確認してください。

# 1 回線と接続

## 2-4. [着信設定]画面



- ①<登録> ..... この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> ..... この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。  
なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③着信 ..... 相手先からの着信を許可するかしないかを選択します。
- ④電話番号チェック ..... 電話番号による認証をするかしないかを選択します。  
「する」に設定すると、[接続]画面の「④電話番号1～3」に設定された電話番号と、ISDN回線網から通知される電話番号とで認証を行います。  
相手先が電話番号を非通知で発信している場合は、「④電話番号1～3」が設定されていても認証が行えないため、着信しません。
- ⑤通信チャンネル ..... 相手先に着信を許可するBチャンネルの数を選択します。  
上記「④電話番号チェック」で「しない」を選択すると、この項目の設定に関係なく、1Bチャンネルでの通信に限定されます。
- ⑥PIAFSによる着信 ..... PIAFS通信対応機器からの信号を受信するとき、その着信条件を選択します。
- しない : 着信を許可しない
  - 32kのみする : 32kbpsで通信するときだけ着信を許可する
  - 64kのみする : 64kbpsで通信するときだけ着信を許可する
  - する : 32/64kbpsで通信するときだけ着信を許可する
- PIAFS(64kbps)は、Ver.2.0(NTT DoCoMo方式)にだけ対応しています。

2-4. [着信設定]画面(つづき)

- ⑦コールバック ..... 相手先からコールバック要求を受信したとき、その条件を選択します。
- 不許可                                      コールバック接続を許可しない
  - 許可    コールバック接続を許可する
  - コールバックのみ着信                      コールバック接続だけ着信を許可する
- コールバック着信するときは、次の点にご注意ください。**  
**通信料金は、本製品側に課金されます。**  
**相手先に課金されるのは、CBCPでのコールバックを要求するために接続する時の通信料金だけです。**
- コールバック要求できるのは、相手先が次のいずれかの場合だけです。  
 Windows95/98/NT4.0などのCBCP対応の端末  
 相手先が同じ機能を搭載した弊社製のルータを使っている場合  
 なお、「④電話番号チェック」を「しない」に設定していると、コールバック機能は動作しません。
- ⑧コールバック電話番号 ..... コールバック電話番号を指定しないでCBCPでのコールバックを要求してくる場合、こちらからかけなおす電話番号を入力します。  
 相手先がコールバック電話番号を指定してくる場合は、空欄にしておきます。
- どちらかがコールバック電話番号を指定しないときは、通信は不成立になりますのでご注意ください。  
 無課金コールバックの場合は、通知されてきた発信者番号へ折り返し接続しますので、設定不要です。
- ⑨ユーザID ..... 着信時の認証において、ユーザIDを使うとき設定します。
- ⑩パスワード ..... 着信時の認証において、パスワードを使うとき設定します。
- ⑪認証方法 ..... 着信時の認証方法を設定します。
- 認証なし                                      受信ユーザIDや、受信パスワードによる認証をしない
  - PAPまたはCHAP                              PAPまたはCHAP方式で認証を行う
  - PAP    PAP方式で認証を行う
  - CHAP    CHAP方式で認証を行う
  - RADIUS    LAN内のRADIUSサーバで認証を行う

# 1 回線と接続

## 2-4. [着信設定]画面(つづき)

登録	取消
①	②
<b>着信設定</b>	
着信 ③	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
電話番号チェック ④	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
通信チャンネル ⑤	2Bまで許可
PIAFSによる着信 ⑥	しない
コールバック ⑦	不許可
コールバック電話番号 ⑧	<input type="text"/> * 以降はサブアドレス
ユーザID ⑨	<input type="text"/>
パスワード ⑩	<input type="password"/>
認証方法 ⑪	PAPまたはCHAP
着信を許可する時間帯 ⑫	00 : 00 ~ 00 : 00

- ⑫着信を許可する時間帯 ..... この画面の「③着信」で「する」を設定している場合、着信を受け付ける時間帯を設定します。  
開始時刻より終了時刻が早い時間の場合、終了時刻は次の日の時刻となります。

## 2-5. [WAN設定]画面



- ①<登録> ..... この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> ..... この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③本体のWAN側 ..... IPアドレス/サブネットマスク  
 自分のWAN側のIPアドレスとサブネットマスクを設定します。  
 プロバイダーなど、接続先がIPCPに対応している場合は、設定の必要がありません。
- ④Numberedで使用 ..... 通信対象となる相手先ルータがUnnumberedに対応しない場合など、LAN側とWAN側に異なるIPアドレスを設定するとき使用します。  
 使用するときは、「③本体WAN側」のIPアドレスとサブネットマスク、「⑤相手のWAN側」のIPアドレスを入力してください。
- ⑤相手のWAN側 ..... IPアドレス  
 Numbered接続をする場合には、ここに自己WAN側IPアドレスを入力する必要があります。  
 接続先がプロバイダーなど、IPCPに対応している場合は、設定の必要がありません。

# 1 回線と接続

## 2-6. [アドレス変換]画面



- ①<登録> ..... この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> ..... この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③アドレス変換 ..... NAT、IPマスカレード機能を使用して、グローバルアドレスをプライベートアドレスに変換するかしないかを選択します。
- ④マスカレードIPアドレス ..... IPCPによってプロバイダーから取得したIPアドレスをマスカレードIPアドレスとして使用しますので、入力は不要です。
- ⑤静的マスカレード ..... マスカレードIP(ルータグローバルIP)に対して、アクセスしてきたパケットをプロトコルにより判定し、ここで指定したプライベートIPアドレスを割り当てたローカル端末へアドレス変換します。最大32個のマスカレードテーブルを設定できます。
- ローカルIP : プライベートIPアドレスを入力します。  
(入力例: 192.168.0.1.0)
  - プロトコル : TCP、UDP、TCP/UDPから選択します。
  - 開始ポート : 選択したプロトコルの開始ポート番号を入力します。
  - 終了ポート : 選択したプロトコルの終了ポート番号を入力します。
- 入力後は、<追加>をクリックして、[現在の登録]欄に登録されたことを確認後、<登録>をクリックしてください。
- ⑥静的NATテーブル設定 ..... プロバイダーとのLAN型契約などで、複数のグローバルIPアドレスを取得した場合に、ローカルIPアドレスに1対1で変換させるためのテーブル設定です。最大32個のNATテーブルを設定できます。
- グローバルIP : 指定されたグローバルIPアドレスを入力します。  
(入力例: 172.16.0.49)
  - ローカルIP : 任意のプライベートIPアドレスを入力します。  
(入力例: 192.168.0.10)
- 入力後は、<追加>をクリックして、[現在の登録]欄に登録されたことを確認後、<登録>をクリックしてください。

## 3. [回線設定]画面



取消 登録して再起動 回線種別の設定は再起動後に有効になります。

① ②

回線設定

回線種別 ③

- ISDNダイヤルアップ
- フレッツISDN
- 専用線(64kbps)
- 専用線(128kbps)
- OCNエコノミー

<ご注意>  
回線種別を変更した場合、再起動が必要です。

ISDN着信識別番号設定

電話番号 ④

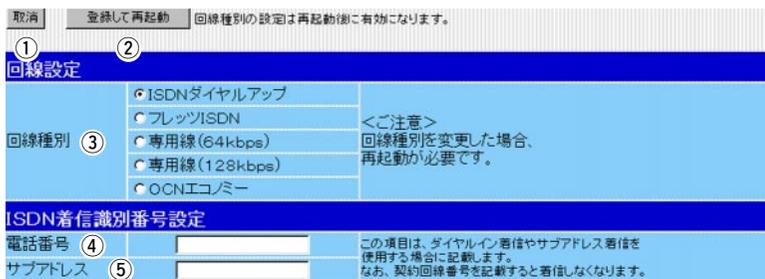
サブアドレス ⑤

この項目は、ダイヤルイン着信やサブアドレス着信を使用する場合に記載します。  
なお、契約回線番号を記載すると着信しなくなります。

- ①<取消> ..... この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
- ②<登録して再起動> ..... この画面中の設定内容を変更したとき、その内容を有効にするため、本製品を再起動します。
- ③回線種別 ..... 以下の5つから、使用する回線を選択します。
- ISDNダイヤルアップ(出荷時の設定)  
「INSネット64」を利用して、ダイヤルアップ接続をする設定を行います。
  - フレッツISDN  
NTTが提供するフレッツISDNを利用して、ご契約のプロバイダーと定額接続するための設定を行います。
  - 専用線(64kbps)  
通信速度が64kbpsの専用線を利用するための設定を行います。
  - 専用線(128kbps)  
通信速度が128kbpsの専用線を利用するための設定を行います。
  - OCNエコノミー  
NTTが提供するプロバイダーと契約してインターネット接続のための専用線サービスを利用する設定を行います。  
OCNには「ダイヤルアクセスサービス」もありますが、この場合の設定は、「ISDNダイヤルアップ」を選択して設定を行ってください。

# 1 回線と接続

## 3. [回線設定]画面(つづき)



④電話番号 ..... NTTのダイヤルインサービス(有料)を利用して着信識別するとき、ダイヤルイン番号を入力します。  
ダイヤルイン番号は、市外局番から入力してください。  
契約電話番号だけを入力すると、本製品への着信がすべて拒否されますので、ご注意ください。  
電話番号は、半角31文字まで入力できます。  
電話番号を次のように入力すると、すべて同じ番号として処理します。  
1111-22-3333、1111(22)3333、1111223333  
ダイヤルイン番号は、NTTのダイヤルインサービス(有料)と契約している場合だけ有効です。

⑤サブアドレス ..... サブアドレスで着信識別するときに入力します。  
NTTとの契約は不要で、ISDN回線契約者が、ここに入力したサブアドレスを契約電話番号と一緒にダイヤルしてきたとき、着信が可能になります。  
サブアドレスは、任意の英数字、半角31文字以内で入力します。

この章では、  
設定ページの、<本体設定と管理>メニューで表示される画面について説明します。

---

1. [本体管理設定]画面 .....	20
2. [SYSLOG設定]画面 .....	22
3. [メール着信通知設定]画面 .....	23
4. [着信メール一覧]画面 .....	28
5. [時計設定]画面 .....	29

## 2 本体設定と管理

### 1. [本体管理設定]画面



登録	取消
① ② 管理者ID設定	
管理者ID ③	<input type="text"/>
管理者/パスワード ④	<input type="password"/>
パスワードの確認入力 ⑤	<input type="password"/>
⑥ ⑦ 使用者ID設定	
使用者ID ⑦	<input type="text"/>
使用者/パスワード ⑧	<input type="password"/>
パスワードの確認入力 ⑨	<input type="password"/>
手動接続・切断を許可	<input type="checkbox"/> する
接続設定編集を許可 ⑩	<input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> する
通信記録表示・クリアを許可 ⑪	<input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> する
登録/取消▲	
使用者1	
使用者ID	<input type="text"/>
使用者/パスワード	<input type="password"/>
パスワードの確認入力	<input type="password"/>
手動接続・切断を許可	<input type="checkbox"/> する
接続設定編集を許可	<input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> する
通信記録表示・クリアを許可	<input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> する
使用者2	
使用者ID	<input type="text"/>
使用者/パスワード	<input type="password"/>
パスワードの確認入力	<input type="password"/>
手動接続・切断を許可	<input type="checkbox"/> する
接続設定編集を許可	<input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> する
通信記録表示・クリアを許可	<input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> する
使用者3	
使用者ID	<input type="text"/>
使用者/パスワード	<input type="password"/>
パスワードの確認入力	<input type="password"/>
手動接続・切断を許可	<input type="checkbox"/> する
接続設定編集を許可	<input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> する
通信記録表示・クリアを許可	<input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> する
使用者4	
使用者ID	<input type="text"/>
使用者/パスワード	<input type="password"/>
パスワードの確認入力	<input type="password"/>
手動接続・切断を許可	<input type="checkbox"/> する
接続設定編集を許可	<input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> する
通信記録表示・クリアを許可	<input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> する

- ①<登録> ..... この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> ..... この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。  
なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③管理者ID ..... 本製品の設定ページへのアクセスを制限する場合に、管理者としての名前を、大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。  
(入力例：Router)  
管理者IDを設定すると、次のアクセスからユーザー名の入力を求められますので、そこに管理者IDを入力します。
- ④管理者パスワード ..... 「③管理者ID」に対するパスワードを設定する場合、大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。  
入力した文字は、すべて「\*(アスタリスク)」で表示されます。  
(表示例：\*\*\*\*)  
管理者パスワードを設定すると、次のアクセスからパスワードの入力を求められますので、そこに管理者パスワードを入力します。
- ⑤パスワードの確認入力 ..... 「④管理者パスワード」の入力間違いを防ぐために、パスワードを再入力します。  
(表示例：\*\*\*\*)

1. [本体管理設定]画面(つづき)

- ⑥使用者1～4 ..... [管理者ID設定]で設定した管理者とは別に、設定ページへのアクセスを許可する使用者を設定する場合、チェックボックスをクリックします。最大4人の使用者を登録できます。
- ⑦使用者ID ..... 本製品の設定ページへのアクセスを許可された使用者の名前を、大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角30(全角15)文字以内で入力します。  
(入力例：icom)  
使用者IDを設定すると、管理者IDが設定されているときと同じようにパスワードの入力を求められますので、そこに使用者IDを入力します。
- ⑧使用者パスワード ..... 「⑥使用者ID」に対するパスワードを設定する場合、大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角30(全角15)文字以内で入力します。  
(表示例：\*\*\*\*)  
使用者パスワードを設定すると、管理者パスワードが設定されているときと同じようにパスワードの入力を求められますので、そこに使用者パスワードを入力します。
- ⑨パスワードの確認入力 ..... 「⑦使用者パスワード」の入力間違いを防ぐため、パスワードを再入力します。  
(表示例：\*\*\*\*)
- ⑩接続設定編集を許可 ..... 使用者に接続先の追加や、設定の編集を許可するかしないかの選択です。
- ⑪通信記録表示・クリアを許可 ... 使用者に[通信記録]画面へのアクセスと、画面中の<クリア>の操作を許可するかしないかの選択です。

## 2 本体設定と管理

### 2. [SYSLOG設定]画面



ログ情報などをSYSLOGホストを利用して管理する場合、SYSLOG機能を利用したファイルとして一括管理ができます。以下の項目から、SYSLOGとして出力する情報を選択します。



- ①<登録> ..... この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> ..... この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③DEBUGを使用 ..... ISDNやPPPなど各種デバッグ情報をSYSLOGに出力するかしないかを選択します。
- ④INFOを使用 ..... INFOタイプのメッセージをSYSLOGに出力するかしないかを選択します。
- ⑤NOTICEを使用 ..... NOTICEタイプのメッセージをSYSLOGに出力するかしないかを選択します。
- ⑥ホストアドレス ..... SYSLOG機能を使用する場合、SYSLOGを受けるホストのアドレスを入力します。  
ホストは、SYSLOGサーバ機能に対応している必要があります。
- ⑦ファシリティ ..... SYSLOGのファシリティを入力します。  
0～23の値を設定してください。  
通常「1」を使用します。

### 3. [メール着信通知設定]画面



登録 取消

① ②

#### サーバ設定

メール着信通知機能を使用 ③  しない  する

メールサーバ(POP) ④

メールアカウント ⑤

メールパスワード ⑥

確認時刻(時:分)/間隔(分) ⑦ 00:00

接続先 ⑧ 01:プロバイダ

#### メール転送設定

メール転送機能を使用 ⑨  しない  する

転送先メールサーバ(SMTP) ⑩

転送先メールアドレス ⑪

発信元メールアドレス ⑫

#### メールフィルタ

登録/取消

番号 使用 フィルタ動作 ⑬ ⑭ ⑮

01	<input checked="" type="checkbox"/>	To	の	先頭	が		と一致	する	メールを	表示	する
02	<input type="checkbox"/>	To	の	先頭	が		と一致	する	メールを	表示	する
03	<input type="checkbox"/>	To	の	先頭	が		と一致	する	メールを	表示	する
04	<input type="checkbox"/>	To	の	先頭	が		と一致	する	メールを	表示	する
05	<input type="checkbox"/>	[A]	の	[B]	が	[C]	と一致	する	メールを	表示	する

該当しないメールを 表示 する

①<登録> ..... この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。

②<取消> ..... この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。  
 なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

#### サーバ設定

本製品が、接続先(プロバイダーなど)のメールサーバに自動接続して、着信メールの有無を確認するための情報を設定する画面です。

指定の接続先の設定が「手動接続」であっても、着信メールの自動接続を行います。

対応するプロトコルは、POP3だけです。

③メール着信通知機能を使用 ... メール着信通知機能を使用するかしないかを選択します。  
 この機能を使用すると、着信メールがあるときは、本製品の[MSG]ランプを点滅すると同時に、その内容を[着信メール一覧]画面(☞P28)に表示します。

④メールサーバ(POP) ..... メールサーバのサーバ名を入力します。  
 ドメイン名は、任意の英数字、半角127文字以内で入力します。  
 ご契約のプロバイダーによって指定される内容が異なりますので、入力する前に内容をご確認ください。

## 2 本体設定と管理

### 3. [メール着信通知設定]画面(つづき)

登録 取消

① ②

### サーバ設定

メール着信通知機能を使用 ③  しない  する

メールサーバ(POP) ④

メールアカウント ⑤

メールパスワード ⑥

確認時刻(時:分)/間隔(分) ⑦ 00:00

接続先 ⑧ 01:プロバイダ

### メール転送設定

メール転送機能を使用 ⑨  しない  する

転送先メールサーバ(SMTP) ⑩

転送先メールアドレス ⑪

発信元メールアドレス ⑫

### メールフィルタ

登録/取消

番号 使用 フィルタ動作 ⑮

番号	使用	フィルタ動作
⑬	<input type="checkbox"/>	⑭ To の 先頭 が 一致 する メールを 表示 する
02	<input type="checkbox"/>	To の 先頭 が 一致 する メールを 表示 する
03	<input type="checkbox"/>	To の 先頭 が 一致 する メールを 表示 する
04	<input type="checkbox"/>	To の 先頭 が 一致 する メールを 表示 する
05	<input type="checkbox"/>	[A] の [B] が [C] と一致 [D] メールを [E] する

該当しないメールを 表示 する

- ⑤メールアカウント ..... メールサーバ上のユーザーIDまたはメールアカウントを入力します。入力は、任意の英数字、半角127文字以内です。入力例：メールアドレスが、「SR11@icom.co.jp」のときは、「SR11」と入力します。  
ご契約のプロバイダーによって指定される内容が異なりますので、入力する前に内容をご確認ください。
- ⑥メールパスワード ..... メールサーバにアクセスするときのパスワードまたはメールパスワードを入力任意の英数字、半角31文字以内でします。
- ⑦確認時刻(時:分)/間隔(分) ... メールサーバに自動接続する時刻、または間隔を設定します。時刻を指定するときは24時間制、間隔を指定するときは分単位で入力します。  
時刻で指定したときは、[時計設定]画面(⇒P29)に設定された時刻を基準に動作します。
- ⑧接続先 ..... メールサーバへアクセスするとき使用する接続先を選択します。印をクリックすると、登録されている接続先を表示しますので、その中から選びます。

3. [メール着信通知設定]画面(つづき)

メール転送設定

[サーバ設定]で設定したメールサーバに着信したメールを、別のメールサーバに転送するための情報を設定する画面です。

接続先が指定する内容を、該当する欄に設定します。

設定内容については、接続先のネットワーク管理者(インターネットサービスプロバイダー)にお尋ねください。

- ⑨メール転送機能を使用 ..... メール転送機能を使用するかしないかを選択します。  
メール着信通知機能の設定も併せて行わないと、機能しません。
- ⑩転送先メールサーバ(SMTP) ..... 転送先メールサーバ(SMTPサーバ)の名前を、任意の英数字、半角127文字以内で入力します。  
接続先のプロバイダーによって指定される内容が異なりますので、入力する前に内容をご確認ください。
- ⑪転送先メールアドレス ..... 転送先のメールアドレスを、任意の英数字、半角127文字以内で入力します。
- ⑫発信元メールアドレス ..... メール発信者のメールアドレスを、任意の英数字、半角127文字以内で入力します。
- 転送機能制限事項 ..... 表示可能文字数  
転送されるメール内容は、半角1023(全角511)文字までです。  
制限を超えた文字列については、表示されません。

## 2 本体設定と管理

### 3. [メール着信通知設定]画面(つづき)

登録 取消

① ②

#### サーバ設定

メール着信通知機能を使用 ③  しない  する

メールサーバ(POP) ④

メールアカウント ⑤

メールパスワード ⑥

確認時刻(時:分)/間隔(分) ⑦ 00:00

接続先 ⑧ 01:プロバイダ

#### メール転送設定

登録/取消 ▲

メール転送機能を使用 ⑨  しない  する

転送先メールサーバ(SMTP) ⑩

転送先メールアドレス ⑪

発信元メールアドレス ⑫

#### メールフィルタ

登録/取消 ▲

番号 使用

フィルタ動作 ⑮

番号	使用	フィルタ動作
⑬	<input checked="" type="checkbox"/>	To の 先頭 が 一致 する メールを 表示 する
02	<input type="checkbox"/>	To の 先頭 が 一致 する メールを 表示 する
03	<input type="checkbox"/>	To の 先頭 が 一致 する メールを 表示 する
04	<input type="checkbox"/>	To の 先頭 が 一致 する メールを 表示 する
05	<input type="checkbox"/>	[A] の [B] が [C] と一致 [D] メールを [E] する

該当しないメールを 表示 する

#### メールフィルタ

メール着信通知機能を使って[着信メール一覧]画面に表示、または転送するメールを限定したい場合に、その比較対象にする条件を設定します。

- ⑬番号 ..... 最大6(5+1)件のフィルターを登録できます。  
フィルターを複数使う場合、着信メールとフィルターの設定内容をこの番号の小さな順に比較します。  
01~05番の条件に該当しない場合は、最下欄の「該当しないメールを」で指定する内容にしがいます。
- ⑭使用 ..... 指定のフィルター条件を有効にする場合は、該当する番号欄のチェックボックスをクリックします。

3. [メール着信通知設定]画面(つづき)

⑮フィルタ動作 .....

比較する対象になる条件を、この欄の  印をクリックして表示するプルダウンメニューから選択します。  
 下記の[A]～[D]のプルダウンメニューの内容は、以下のようになっています。

[A]の[B]が[C]と一致[D]メールを[E]をする

- [A]：比較対象条件
  - To        : 宛先の文字列が対象
  - CC        : カーボンコピー(同報通信)の文字列が対象
  - From      : 差出人の文字列が対象
  - Subject : 件名の文字列が対象
- [B]：比較対象条件
  - 一部      : 文字列の一部が対象
  - 先頭     : 文字列の先頭が対象
  - 末尾     : 文字列の末尾が対象
- [C]：比較対象条件
  - 入力できる文字列は、任意の英数字、半角127(全角63)文字以内です。
- [D]：比較対象条件
  - する      : 比較対象条件と一致するメールが対象
  - しない   : 比較対象条件と一致しないメールが対象
- [E]：比較対象条件 / 該当しないメールを
  - 表示      : 対象となるメールを表示する
  - 無視      : 対象となるメールを表示しない
  - 転送 + 表示 : 対象となるメールを転送して表示する

新しい着信メールがあると、本製品の[MSG]ランプを点滅して、着信したことを通知します。

## 2 本体設定と管理

### 4. [着信メール一覧]画面



メール着信の一覧を表示する画面です。  
下記の画面は、1件のメールを着信した状態です。



①<全て削除> .....

この画面に表示するメールをすべて削除します。  
削除してもメールサーバのメールは削除されません。

②<表示ランプリセット> .....

クリックすると、[MSG]ランプの着信通知表示が通常状態に戻ります。

③<削除> .....

このボタンのフレーム内のメールだけを消去します。  
削除してもメールサーバのメールは削除されません。

制限事項 .....

最大表示件数：16件  
表示が17件以上になると古い順に消去されます。  
メールサーバに20件のメールがあると、新着順に16件表示して、残りの4件については、受信を行いません。

表示可能文字数

To/Cc/From/Subjectの各欄については、半角255(全角127)文字まで表示します。

着信メールの本文表示欄については、半角1023(全角511)文字まで表示します。

制限を超えた文字列については、表示されません。

メールフィルターが有効な場合は、その部分の文字列が、[メールフィルター]画面で設定する条件と比較対象外として処理します。

メール転送機能が有効な場合、「表示可能文字数」の範囲内の内容しか転送できません。

## 5. [時計設定]画面



登録		取消	
<b>内部時計設定</b>			
① 本体の時刻	②	2000年	01月 01日 01時 40分
③ 設定する時刻	④	2001年	02月 09日 13時 27分
<b>自動時計設定</b>			
⑤ 自動時計設定を使用	⑥	<input type="checkbox"/> しない <input checked="" type="checkbox"/> する	
NTPサーバ1 IPアドレス	⑦	133.100.9.2	
NTPサーバ2 IPアドレス	⑧		
アクセス時間間隔	⑨	1 日	
前回アクセス日時	⑩	---/---/---	
次回アクセス日時		2000/01/02 00:00	

- ①<登録> ..... この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> ..... この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③本体の時刻 ..... 本製品に設定されている時刻を表示します。
- ④設定する時刻 ..... 本製品の設定ページにアクセスしたとき、パソコンの時計設定を取得して表示します。  
表示する時間は、[時計設定]画面アクセス時の時間です。  
正確に設定したいとき、全設定を初期化したとき、停電対策用電池を交換したあとなどは、画面更新(左フレームの[時計設定]項目をクリック)してから、<登録>をクリックしてください。
- ⑤自動時計設定を使用 ..... インターネット上に存在するタイムサーバに日時の問い合わせを行い、内部時計を自動設定します。
- ⑥NTPサーバ1 IPアドレス ..... 最初にアクセスさせたいタイムサーバのIPアドレスを入力します。
- ⑦NTPサーバ2 IPアドレス ..... 「⑥NTPサーバ1 IPアドレス」の次にアクセスさせるタイムサーバがあるときは、そのIPアドレスを入力します。  
返答がないときは、再度「⑥NTPサーバ1 IPアドレス」で設定したタイムサーバにアクセスします。
- ⑧アクセス時間間隔 ..... タイムサーバにアクセスさせる間隔を、日数で設定します。  
最大99日まで設定できます。  
ダイヤルアップ接続で、前回アクセスした日から設定した日数が経過している場合は、接続時にアクセスします。  
常時接続では、設定した日数にしたがってアクセスします。
- ⑨前回アクセス日時 ..... タイムサーバにアクセスした日時を表示します。
- ⑩次回アクセス日時 ..... タイムサーバにアクセスする予定日時を、「⑨前回アクセス日時」と「⑧アクセス時間間隔」で設定された日数より算出して表示します。

---

## 2 本体設定と管理

この章では、  
設定ページの、<ネットワーク>メニューで表示される画面について説明します。

---

1. [本体ネットワーク設定]画面 .....	32
2. [無線LAN設定]画面 .....	36
3. [簡易DNSサーバ設定]画面 .....	40
4. [IPフィルタ設定]画面 .....	41
5. [RIP設定]画面 .....	45
6. [ルーティング設定]画面 .....	46

# 3 ネットワーク

## 1. [本体ネットワーク設定]画面

- ① 本体ネットワーク設定
- ② 簡易LAN設定
- ③ 簡易DNSサーバ設定
- ④ IPフィルタ設定
- ⑤ RIP設定
- ⑥ ルーティング設定

登録 取消 登録して再起動 このページの設定は再起動後に有効になります。再起動が必要な項目が変更されています。

### ① ② ③ 本体名称/IPアドレス設定

④ 本体名称	SR-11
⑤ IPアドレス	192.168.0.1
⑥ サブネットマスク	255.255.255.0

### リモートアクセス用IP設定

登録/取消

リモートアクセスサーバを使用 ⑦	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する	
IPアドレス1 ⑧		DHCPの割り当て範囲と重ならないように設定します。
IPアドレス2		

### DHCPサーバ設定

登録/取消

DHCPサーバ機能を使用 ⑨	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する	
割り当て開始IPアドレス ⑩	192.168.0.10	
割り当て個数 ⑪	90 個	
サブネットマスク ⑫	255.255.255.0	
リース期間 ⑬	9 日	
ドメイン名 ⑭		
プライマリDNSサーバ ⑮		DNSサーバの代理応答機能を使用する場合は無効となります。
セカンダリDNSサーバ ⑯		
プライマリWINSサーバ ⑰		
セカンダリWINSサーバ ⑱		

### 静的DHCPサーバ設定

登録/取消

登録の追加	
MACアドレス	IPアドレス
<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="button" value="追加"/>	

### 現在の登録

MACアドレス	IPアドレス
---------	--------

- ①<登録> ..... この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。変更された内容で運用するには、再起動が必要です。
- ②<取消> ..... この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③<登録して再起動> ..... この画面中の設定内容を変更したとき、その内容を有効にするため、本製品を再起動します。
- ④本体名称 ..... ネットワーク上で、本製品を識別する名前です。設定した名前は、ネットワーク上の有線/無線接続されたパソコンから、本製品に直接アクセスするためのドメイン名の一部として使えます。  
入力形式：[http://web.本体名称/]  
この場合、[簡易DNSサーバ設定]画面の「④DNSサーバの代理応答」(≒P40)を「する」(初期設定)に設定しておく必要があります。また、ほかのネットワーク機器と重複しないように、アルファベットで始まる半角英数字(A~Z、0~9、-)、31文字以内で設定します。  
全角文字(15文字以内)も入力できますが、DNSサーバの代理応答機能は利用できません。
- ⑤IPアドレス ..... [WAN設定]画面の「③本体のWAN側」(≒P15)で設定した内容をこの項目に反映します。
- ⑥サブネットマスク ..... [WAN設定]画面の「③本体のWAN側」(≒P15)で設定した内容をこの項目に反映します。

1. [本体ネットワーク設定]画面(つづき)

登録 取消		登録して再起動		このページの設定は再起動後に有効になります。 再起動が必要な項目が変更されています。	
<b>① ② ③ 本体名称/IPアドレス設定</b>					
④ 本体名称	SR-11				
⑤ IPアドレス	192.168.0.1				
⑥ サブネットマスク	255.255.255.0				
<b>リモートアクセス用IP設定</b>					登録/取消
リモートアクセスサーバを使用	⑦ <input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する				
IPアドレス1					DHCPの割り当て範囲と重ならないように設定します。
⑧ IPアドレス2					
<b>DHCPサーバ設定</b>					登録/取消
DHCPサーバ機能を使用	⑨ <input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する				
割り当て開始IPアドレス	⑩ 192.168.0.10				
割り当て回数	⑪ 90 回				
サブネットマスク	⑫ 255.255.255.0				
リース期間	⑬ 9 日				
ドメイン名	⑭				
プライマリDNSサーバ	⑮				DNSサーバの代理応答機能を使用する場合は無効となります。
セカンダリDNSサーバ	⑯				
プライマリWINSサーバ	⑰				
セカンダリWINSサーバ	⑱				
<b>静的DHCPサーバ設定</b>					登録/取消
登録の追加					
MACアドレス				IPアドレス	
				追加	
現在の登録					
MACアドレス				IPアドレス	

⑦ リモートアクセスサーバ  
を使用 .....

本製品に有線または無線で直接接続されていない遠隔地のパソコンを、ローカルネットワーク上のパソコンとして認識させ、リモートアクセスすることができます。  
この項目で「する」を選択し、さらに2つのリモートアクセス用IPアドレス(下記「⑧IPアドレス1/IPアドレス2」)を設定することで、リモートアクセスが可能となります。

⑧ IPアドレス1/IPアドレス2 ...

リモートアクセスさせたいパソコンに割り当てるIPアドレスを入力します。  
設定するときは、次のことに注意してください。

- IPアドレスは、2つ(IPアドレス1/IPアドレス2)設定する
- 本製品のIPアドレスと同じネットワーク部をもつIPアドレスを、リモートアクセスさせたいパソコンに設定する
- 例：「192.168.0.1」であれば、ドット(.)で区切られた上位3グループの「192.168.0.」が同じIPアドレスを設定します。
- 本製品や、ローカルネットワーク上のパソコンに割り当てられるIPアドレスと重複しないように設定する
- リモートアクセスするパソコンがDNSを使用する場合は、DNSサーバのIPアドレスをリモートアクセスするパソコンに設定してください。

### 3 ネットワーク

#### 1. [本体ネットワーク設定]画面(つづき)

登録	取消	登録して再起動	このページの設定は再起動後に有効になります。 再起動が必要な項目が変更されています。
<b>① ② ③ 本体名称/IPアドレス設定</b>			
④	本体名称	SR-11	
⑤	IPアドレス	192.168.0.1	
⑥	サブネットマスク	255.255.255.0	
<b>リモートアクセス用IP設定</b> <span>登録/取消</span>			
⑦	リモートアクセスサーバを使用	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する	
⑧	IPアドレス1		DHCPの割り当て範囲と重ならないように設定します。
	IPアドレス2		
<b>DHCPサーバ設定</b> <span>登録/取消</span>			
⑨	DHCPサーバ機能を使用	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する	
⑩	割り当て開始IPアドレス	192.168.0.10	
⑪	割り当て個数	90 個	
⑫	サブネットマスク	255.255.255.0	
⑬	リース期間	9 日	
⑭	ドメイン名		
⑮	プライマリDNSサーバ		DNSサーバの代理応答機能を使用する場合は無効となります。
⑯	セカンダリDNSサーバ		
⑰	プライマリWINSサーバ		
⑱	セカンダリWINSサーバ		
<b>静的DHCPサーバ設定</b> <span>登録/取消</span>			
登録の追加			
	MACアドレス		IPアドレス
			<input type="button" value="追加"/>
現在の登録			
	MACアドレス		IPアドレス

- ⑨DHCPサーバ機能を使用 ..... 本製品を動的DHCPサーバとして使用するかどうかを設定します。本製品に有線および無線で直接接続しているパソコンのTCP/IP設定を、“IPアドレスを自動的に取得する”と設定している場合、本製品のDHCPクライアントになります。この機能によって、動的にDHCPサーバである本製品からIPアドレス/サブネットマスク、ルータやDNSサーバのIPアドレス/ドメイン名が与えられます。
- ⑩割り当て開始IPアドレス ..... 本製品に有線および無線で直接接続するパソコンへ、IPアドレスを自動で割り当てるときの開始アドレスを設定します。
- ⑪割り当て個数 ..... 上記「⑩割り当て開始IPアドレス」から連続で自動割り当て可能なアドレスの最大個数を、5～128のあいだで設定します。
- ⑫サブネットマスク ..... 上記「⑩割り当て開始IPアドレス」に対するサブネットマスクです。
- ⑬リース期間 ..... DHCPサーバが自動で、ローカルIPアドレスを定期的に、クライアントに割り当てなおよす期限を日数で指定します。
- ⑭ドメイン名 ..... Ethernetでドメイン名を使用しているときなど必要があれば、DHCPサーバがクライアントに通知するネットワークアドレスのドメイン名を入力します。

1. [本体ネットワーク設定]画面(つづき)

The screenshot shows a network configuration interface with the following sections and fields:

- ① ② ③ 本体名称/IPアドレス設定**
  - ④ 本体名称: SR-11
  - ⑤ IPアドレス: 192.168.0.1
  - ⑥ サブネットマスク: 255.255.255.0
- リモートアクセス用IP設定**
  - ⑦ リモートアクセスサーバを使用: しない する
  - ⑧ IPアドレス1: [ ]
  - IPアドレス2: [ ]
- DHCPサーバ設定**
  - ⑨ DHCPサーバ機能を使用: しない する
  - ⑩ 割り当て開始IPアドレス: 192.168.0.10
  - ⑪ 割り当て回数: 90 個
  - ⑫ サブネットマスク: 255.255.255.0
  - ⑬ リース期間: 9 日
  - ⑭ ドメイン名: [ ]
  - ⑮ プライマリDNSサーバ: [ ]
  - ⑯ セカンダリDNSサーバ: [ ]
  - ⑰ プライマリWINSサーバ: [ ]
  - ⑱ セカンダリWINSサーバ: [ ]
- 静的DHCPサーバ設定**
  - 登録の追加
 

MACアドレス	IPアドレス
[ ]	[ ]
  - 現在の登録
 

MACアドレス	IPアドレス
[ ]	[ ]

- ⑮プライマリDNSサーバ ..... [接続]画面(⇒P5)で設定した同項目の内容を、この項目に反映します。「⑨DHCPサーバ機能を使用」を「する」に設定し、必要に応じて使い分けたいDNSサーバのアドレスが2つある場合は、優先するどちらか一方を入力します。  
入力すると、本製品のIPアドレスの代わりに設定したDNSサーバアドレスをDHCPクライアントに通知します。
- ⑯セカンダリDNSサーバ ..... [接続]画面(⇒P5)で設定した同項目の内容をこの項目に反映します。上記「⑮プライマリDNSサーバ」と同様に、使い分けたいDNSサーバアドレスのもう一方を入力します。
- ⑰プライマリWINSサーバ ..... Microsoftネットワークを使ってWINSサーバを利用する場合は、WINSサーバアドレスを入力します。WINSサーバのアドレスが2つある場合は、どちらか一方を入力します。
- ⑱セカンダリWINSサーバ ..... 上記「⑰プライマリWINSサーバ」と同様、WINSサーバのアドレスが2つある場合は、残りの一方を入力します。
- ⑲静的DHCPサーバ設定 ..... DHCPサーバ機能を使用して自動割り当てるIPアドレスを、特定のパソコンに固定するとき、パソコンのMACアドレスとIPアドレスの組み合わせを登録する欄です。  
入力後は、<追加>をクリックしてください。  
この欄には、最大16個の組み合わせまで登録でき、登録するパソコンのIPアドレスは、DHCPサーバ機能で割り当てることができる範囲外のアドレスを指定してください。

# 3 ネットワーク

## 2. [無線LAN設定]画面

- 本体ネットワーク設定
- 無線LAN設定**
- 無線LANソフトウェア設定
- IDフィルタ設定
- IP設定
- ルーティング設定



- ①<登録> ..... この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。変更された内容で運用するには、再起動が必要です。
- ②<取消> ..... この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③<登録して再起動> ..... この画面中の設定内容を変更したとき、その内容を有効にするため、本製品を再起動します。
- ④ESS ID ..... ワイヤレス接続による本製品、およびローカルネットワークへの不正なアクセスなどを防止するための識別用IDを入力します。同じESS IDが設定された本製品と無線端末のあいだでのみ、ワイヤレス接続できます。大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。 (出荷時の設定：LG) また、入力した文字は、すべて「\*」で表示されます。(表示例：\*\*)
- ⑤ESS IDの確認入力 ..... 「④ESS ID」の入力間違いを防ぐために、ESS IDを再入力します。大文字/小文字の区別に注意してください。 (表示例：\*\*)
- ⑥チャンネル ..... 本製品と無線端末がワイヤレス接続に使用する無線伝送用チャンネルを設定します。  
無線伝送エリア内に、別の無線LANなどの機器が存在する場合は、相互の電波干渉を避けるために、5チャンネル以上間隔をあけて設定してください。  
伝送距離は、約50m(見通し距離：室内)です。

2. [無線LAN設定]画面(つづき)

登録 取消		登録して再起動		アドレス登録以外の設定は再起動時に有効になります。											
<b>無線LAN設定</b>															
ESS ID ④	**	この項目の設定は再起動時に有効になります。													
ESS IDの確認入力 ⑤	**														
<b>無線詳細設定</b>															
チャンネル ⑥	14														
Rts/Ctsスレッシュホールド ⑦	無し														
WEPキーを使用 ⑧	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する														
キージェネレータ ⑨															
WEPキー ⑩	<table border="1"> <tr> <th>選択</th> <th>文字列</th> </tr> <tr> <td><input type="radio"/> 1</td> <td>00-00-00-00-00</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/> 2</td> <td>00-00-00-00-00</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/> 3</td> <td>00-00-00-00-00</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/> 4</td> <td>00-00-00-00-00</td> </tr> </table>	選択	文字列	<input type="radio"/> 1	00-00-00-00-00	<input type="radio"/> 2	00-00-00-00-00	<input type="radio"/> 3	00-00-00-00-00	<input type="radio"/> 4	00-00-00-00-00				
選択	文字列														
<input type="radio"/> 1	00-00-00-00-00														
<input type="radio"/> 2	00-00-00-00-00														
<input type="radio"/> 3	00-00-00-00-00														
<input type="radio"/> 4	00-00-00-00-00														
<b>MACアドレスセキュリティ設定</b>															
MACアドレスセキュリティを使用 ⑪	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	この項目の設定は再起動時に有効になります。													
本体無線部のMACアドレス ⑫	00-90-C7-0B-01-A9														
<b>登録の追加</b>															
MACアドレス ⑬		追加													
<b>現在の登録</b>															
登録済みの端末	受信中の端末	通信状況													

⑦Rts/Ctsスレッシュホールド

ネゴシエーションするために送るパケットのデータサイズを、「500バイト」または「1000バイト」から選択します。(出荷時の設定：無し) Rts/Cts(Request to send/Clear to send)スレッシュホールドを設定すると、隠れ端末の影響による通信速度の低下を防止できます。隠れ端末とは、下図のように、それぞれが無線ルータ[B]と通信できても、互いが直接通信できない無線端末[A]-[C]どうし([A]に対して[C]、[C]に対して[A])のことを呼びます。通信の衝突を防止するには、送信要求(Rts)信号を受信した無線ルータ[B]が、無線伝送エリア内にある無線端末[A]および[C]に送信可能(Cts)信号を送り返すことで、Rts信号を送信していない無線端末は無線ルータ[B]が隠れ端末と通信中であることを認識させます。これにより、Rts信号を送信していない無線端末[A]または[C]は、無線ルータ[B]へのアクセスを自制して、通信の衝突を防止できます。



⑧WEPキーを使用 .....

無線ネットワーク間で通信するデータを保護するために、WEP方式(Wired Equivalent Privacy)によるデータの暗号化をするかしないかを選択します。WEPキーを使用「する」と設定した場合、「⑨キージェネレータ」、および「⑩WEPキー」の設定に基づいて暗号化されます。

### 3 ネットワーク

#### 2. [無線LAN設定]画面(つづき)

#### ⑨キージェネレータ .....

暗号化および復号化に使う鍵を生成するための文字列を設定します。入力する文字は、すべて「\*」で表示します。(表示例：\* \*) 入力された文字列より生成された鍵は、下記の「⑩WEPキー」のテキストボックスに表示されます。

通信対象となる相手間で、同じ文字列(大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字/記号)を設定します。通信の対象となる相手間で、設定された文字列が異なると、暗号化されたデータを復号できません。

#### ⑩WEPキー .....

「⑨キージェネレータ」のテキストボックスに入力した文字列より生成されたキーが、「1」、「2」、「3」、「4」の各「文字列」に、40ビット(16進数：10文字)ずつ表示されます。

「1」、「2」、「3」、「4」から選択したキーだけを暗号化に使用します。復号化できるのは、「1」、「2」、「3」、「4」から選択した表示内容を相手が暗号化に使用する場合だけです。

「1」、「2」、「3」、「4」の各テキストボックスに直接入力することもできます。(この場合、「⑨キージェネレータ」のテキストボックスに、文字列は表示されません。)

#### ⑪MACアドレスセキュリティを使用 .....

あらかじめ、登録しておいたMACアドレスと同じ無線端末だけが、本製品にワイヤレス接続できるようにするかしないかを選択します。この項目の設定を変更したあとは、<登録して再起動>をクリックして本製品を再起動してください。

#### ⑫本体無線部のMACアドレス ...

本製品の無線部に登録されたMACアドレスを表示します。

2. [無線LAN設定]画面(つづき)

登録		取消		登録して再起動		アドレス登録以外の設定は再起動後に有効になります。											
<b>無線LAN設定</b>																	
ESS ID	④	**		この項目の設定は再起動後に有効になります。													
ESS IDの確認入力	⑤	**															
<b>無線詳細設定</b>																	
チャンネル	⑥	14		登録/取消▲													
Rts/Ctsスレッシュホールド	⑦	無し															
WEPキーを使用	⑧	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する															
キージェネレータ	⑨																
WEPキー	⑩	<table border="1"> <thead> <tr> <th>選択</th> <th>文字列</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><input type="radio"/> 1</td> <td>00-00-00-00-00</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/> 2</td> <td>00-00-00-00-00</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/> 3</td> <td>00-00-00-00-00</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/> 4</td> <td>00-00-00-00-00</td> </tr> </tbody> </table>	選択	文字列	<input type="radio"/> 1	00-00-00-00-00	<input type="radio"/> 2	00-00-00-00-00	<input type="radio"/> 3	00-00-00-00-00	<input type="radio"/> 4	00-00-00-00-00					
選択	文字列																
<input type="radio"/> 1	00-00-00-00-00																
<input type="radio"/> 2	00-00-00-00-00																
<input type="radio"/> 3	00-00-00-00-00																
<input type="radio"/> 4	00-00-00-00-00																
<b>MACアドレスセキュリティ設定</b>																	
MACアドレスセキュリティを使用	⑪	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する		この項目の設定は再起動後に有効になります。													
本体無線部のMACアドレス	⑫	00-90-C7-0B-01-A9															
<b>登録の追加</b>																	
MACアドレス	⑬			追加													
<b>現在の登録</b>																	
登録済みの端末		受信中の端末		通信状況													

⑬MACアドレス .....

MACアドレスセキュリティが有効なとき、この欄に設定したMACアドレスが登録された無線通信LANカードを装着する弊社製ネットワーク機器と通信できます。

入力は、半角文字で12桁を入力します。

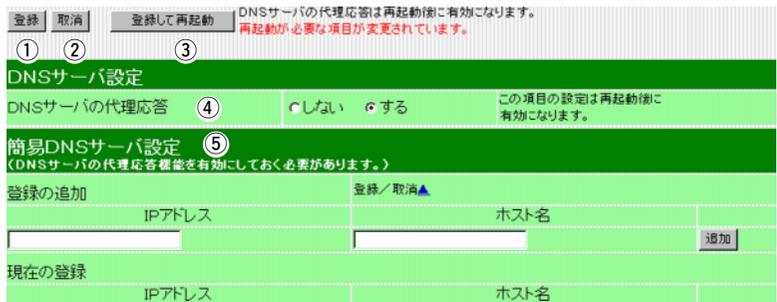
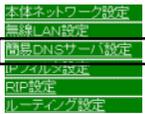
入力後は、<追加>をクリックして、画面の一番下に表示される[現在の登録]欄に登録されたことを確認してください。

MACアドレスを次のように入力すると、すべて同じアドレスとして処理します。 11-11-11-22-33-33、111111223333

無線通信LANカードのMACアドレスを知りたいときは、弊社無線通信カードに付属する取扱説明書をご覧ください。

## 3 ネットワーク

### 3. [簡易DNSサーバ設定]画面



- ①<登録> ..... この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。変更された内容で運用するには、再起動が必要です。
- ②<取消> ..... この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③<登録して再起動> ..... この画面中の設定内容を変更したとき、その内容を有効にするため、本製品を再起動します。
- ④DNSサーバの代理応答 ..... 本製品を代理DNSサーバとして代理応答するかしないかの設定です。代理DNS機能とは、プロバイダー側のDNSサーバアドレスを検出したり、パソコンからのDNS要求をDNSサーバへ転送したりする機能です。  
代理DNS機能を利用すると、Ethernet上のパソコンのDNSサーバを本製品のアドレスに設定すると異なるプロバイダーに接続するときでもDNSサーバのアドレスを変更する必要がありませんので便利です。
- ⑤簡易DNSサーバ設定 ..... 代理DNSサーバ機能を使うとき、本製品を簡易DNSサーバとして使用できます。  
簡易DNSサーバを使用する場合、パソコンのホスト名と対応するIPアドレスの組合せを登録する欄です。  
簡易DNSサーバ機能を使用すると、UDP/53によるドメイン名からIPアドレスを検索するDNS要求と、IPアドレスからドメイン名を検索するDNS逆引き要求に応じます。  
ホスト名として“ホスト名.ドメイン名”を登録しておく、ホスト名のみ一致する場合でも応答が返されます。  
入力後は、<追加>をクリックしてください。  
ローカルなIPアドレスとそのホスト名を登録するときは、静かなDHCPサーバを利用してMACアドレスとIPアドレスの組み合わせを固定しておくことをおすすめします。

4. [IPフィルタ設定]画面

- 本体ネットワーク設定
- 無線LAN設定
- 簡易DNSサーバ設定
- IPフィルタ設定**
- DMZ設定
- ルーティング設定

番号	方向	方法	プロトコル	ポート番号	始点	終点	IPアドレス	サブネットマスク	IPアドレス
削除	(10) OUT	透過(接続中)	TCP	宛先	137	139	*	255.255.255.255	-
削除	64	OUT	透過(接続中)	UDP	宛先/発信元	137	139	*	255.255.255.255

- ①<追加> ..... 上記の画面で入力した条件で、IPフィルターを設定します。  
追加した内容は、この画面の下に表示されます。
- ②番号 ..... 最大64件のフィルターを登録できます。  
フィルターを登録すると、本製品が受信または送信するパケットごとに、登録されたフィルターと比較します。  
この項目では、フィルターを比較する順位を指定します。  
フィルターを複数設定しているときは、番号の小さい順番に比較を開始します。  
フィルターの条件に一致した時点で、それ以降の識別番号のフィルターは比較しません。
- ③<編集> ..... 設定済みのフィルターを編集するボタンです。  
編集するフィルター番号を入力してから、ボタンをクリックします。
- ④フィルタ方向 ..... パケットの通信方向で、WAN側から本製品に対して、フィルターの対象となる方向を設定します。  
以下の中から選択してください。
  - OUT 本製品からWAN側に送信するIPパケットに対して、フィルタリング処理を行います。  
フィルタリング処理は、アドレス変換の前に行います。
  - IN WAN側から本製品が受信するIPパケットに対して、フィルタリング処理を行います。  
フィルタリング処理は、アドレス変換のあとに行います。
  - BOTH 本製品がWAN側に送信、およびWAN側から受信する両方のIPパケットに対して、フィルタリング処理を行います。

### 3 ネットワーク

#### 4. [IPフィルタ設定]画面(つづき)

番号	方向	方法	プロトコル	ポート番号	始点	終点	IPアドレス	サブネットマスク	IPアドレ	
削除 (10)	OUT	透過(接続中)	TCP	宛先	137	139	*	255.255.255.255	-	
削除	64	OUT	透過(接続中)	UDP	宛先/発信元	137	139	*	255.255.255.255	-

#### ⑤フィルタ方法 .....

フィルタリングの方法として、以下の3通りがあります。

- 遮断 回線の接続に関係なく、フィルタリングの条件に一致した場合、そのパケットをすべて破棄します。
- 透過 回線の接続に関係なく、フィルタリングの条件に一致した場合、そのパケットをすべて通過させます。
- 透過(接続中) 回線がすでに接続されている状態で、フィルタリングの条件に一致した場合、そのパケットを通過させますが、回線が接続されていない場合には、そのパケットを破棄します。このように、パケットの送信をきっかけに自動発呼することを防止するときに設定してください。

#### ⑥プロトコル .....

フィルタリングの対象となるパケットのトランスポート層プロトコルを選ぶ項目です。

- ALL すべてのプロトコルの条件に一致します。
- TCP TCPプロトコルの条件だけに一致します。
- TCP\_FIN TCP\_FIN/RSTのパケットが処理の対象になります。
- TCP\_EST TCP\_SYNフラグのパケットが処理の対象になります。
- UDP UDPプロトコルの条件だけに一致します。
- ICMP ICMPプロトコルの条件だけに一致します。
- その他 IP層ヘッダーに含まれる上位層プロトコル番号を入力します。

プロトコル表示の右の欄に、プロトコル番号を10進数で0～255までの半角数字を入力してください。

4. [IPフィルタ設定]画面(つづき)

番号	方向	方法	プロトコル	ポート番号	始点	終点	IPアドレス	サブネットマスク	IPアドレス
削除	(10) OUT	透過 (接続中)	TCP	宛先	137	139	*	255.255.255.255	-
削除	64	OUT	透過 (接続中)	UDP	宛先/発信元	137	139	*	255.255.255.255

⑦ポート番号 .....

フィルタリングの対象となるTCP/UDPポート番号を入力する項目です。印をクリックし、対象となるポートが「宛先」、「発信元」、もしくは「宛先/発信元」なのかを指定して、番号を始点から終点まで連続で入力します。また、特定のポートだけを指定するときは、始点だけまたは、始点/終点に同一の番号を入力してください。入力できるポート番号は、10進数で1～65535までの半角数字です。なお、「宛先/発信元」を選択した場合は、宛先、発信元のどちらかが一方が一致すると、フィルタリングの対象とします。

⑧発信元IPアドレス .....

IPアドレスは、ドット(.)ごとに区切られた4つの10進数(0～255までの半角数字)で構成してください。

- 始点IPアドレス/終点IPアドレス  
発信元ホストのIPアドレスを設定することにより、特定のホストからのパケットをフィルタリングします。  
何も入力しない場合は、すべてのアドレスを対象とします。
- 始点サブネットマスク/終点サブネットマスク  
この項目で指定したIPアドレスのネットマスクを設定します。  
IPアドレスとサブネットマスクは、始点から終点まで連続で入力します。また、特定の発信元ホストだけを指定するときは、始点だけ入力してください。

### 3 ネットワーク

#### 4. [IPフィルタ設定]画面(つづき)

番号	方向	方法	プロトコル	ポート番号	始点	終点	IPアドレス	サブネットマスク	宛先IPアドレス
削除 (10)	OUT	透過 (接続中)	TCP	宛先	137	139	*	255.255.255.255	-
削除	64	OUT	透過 (接続中)	UDP	宛先/発信元	137	139	*	255.255.255.255

⑨宛先IPアドレス .....

IPアドレスは、ドット(.)ごとに区切られた4つの10進数(0～255までの半角数字)で構成してください。

● 始点IPアドレス/終点IPアドレス

宛先ホストのIPアドレスを設定することにより、特定のホストに対するパケットをフィルタリングします。  
始点に何も入力しない場合は、すべてのアドレスを対象とします。

● 始点サブネットマスク/終点サブネットマスク

この項目で指定したIPアドレスのネットマスクを設定します。  
IPアドレスとサブネットマスクは、始点から終点まで連続で入力します。また、特定の宛先ホストだけを指定するときは、始点だけ入力してください。

【発信元/宛先IPアドレスの設定例】

- IPアドレスに192.168.1.0
- サブネットマスクに255.255.255.252

フィルターの対象となるIPアドレスは、192.168.1.0から192.168.1.3までとなります。

⑩<削除> .....

設定したフィルターを削除するボタンです。

ご参考に

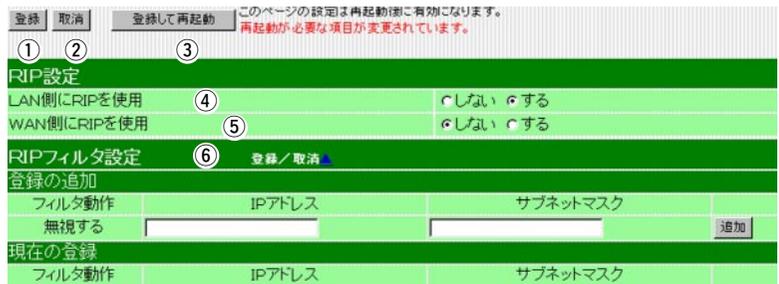
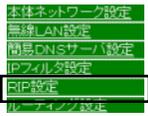
ISDNダイヤルアップ回線設定では、出荷時の設定として、下の画面サンプルのようにフィルターが登録されています。

番号	方向	方法	プロトコル	ポート番号		発信元IPアドレス			宛先IPアドレス						
				方向	始点	終点	IPアドレス	サブネットマスク	IPアドレス	サブネットマスク	IPアドレス	サブネットマスク			
削除	63	OUT	透過 (接続中)	TCP	宛先	137	139	*	255.255.255.255	-	255.255.255.255	*	255.255.255.255	-	255.255.255.255
削除	64	OUT	透過 (接続中)	UDP	宛先/発信元	137	139	*	255.255.255.255	-	255.255.255.255	*	255.255.255.255	-	255.255.255.255

なお、設定されているフィルターの目的は、以下のとおりです。

63、64番 : Windows 95/98/NT/2000が行う定期的な通信によって発生する「意図しない自動接続」を防止

## 5. [RIP設定]画面



- ①<登録> ..... この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。変更された内容で運用するには、再起動が必要です。
- ②<取消> ..... この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③<登録して再起動> ..... この画面中の設定内容を変更したとき、その内容を有効にするため、本製品を再起動します。

### RIP設定

RIPを使用することで隣接ルータと経路情報を交換して、経路を動的に作成します。

LAN間ダイヤルアップ接続やHSD(高速専用線)間で使用します。

RIPを使うと、RIPパケットがそのルータのブロードキャストアドレスを使って、約30秒毎にブロードキャストされます。

- ④LAN側にRIPを使用 ..... LAN側にRIPパケットをブロードキャストするかどうかを選択します。
- ⑤WAN側にRIPを使用 ..... WAN側にRIPパケットをブロードキャストするかどうかを選択します。
- ⑥RIPフィルタ設定 ..... 同一サブネットで使う複数のルータにおいて、特定のルータが出力するRIPパケットを受信しないように、そのパケットを出力するルータのIPアドレスとサブネットマスクを入力します。  
最大20件の登録が可能です。

入力後は、<追加>をクリックしてください。

### 3 ネットワーク

#### 6. [ルーティング設定]画面

- 本体ネットワーク設定
- 無線LAN設定
- 静態DNSサーバ設定
- IPフィルタ設定
- rip設定
- ルーティング設定**

ネットワーク インターフェイス リスト

インターフェイス	IPアドレス	ネットマスク
local	192.168.0.1	255.255.255.0

IP経路情報

宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	ネット	作成	メトリック
192.168.0.1	255.255.255.255	192.168.0.1	loc	sta	0
192.168.0.0	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0
192.168.0.1	255.255.255.255	192.168.0.1	local	static	0
192.168.0.255	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0

スタティックルーティング設定

登録の追加

経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値
local				

現在の登録

経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値
----	----	--------	--------	--------

セレクトルーティング

番号 設定 編集

接続方法 手動発信 "拒絶する"を選択した場合は全ての経路に対して適用されます

経路 01:プロバイダ

発信元IPアドレス -

プロトコル制御 使用しない ポート番号 -

宛先IPアドレスまたはドメイン名

セレクトルーティングを使用する時間帯 00:00 ~ 00:00

終了時刻で強制切断 しない する

番号	経路	接続方法	発信元IPアドレス	プロトコル制御	ポート番号	宛先IPアドレスまたはドメイン名	使用する時間帯	強制切断
01	01:プロバイダ	手動発信		使用しない			00:00 - 00:00	しない

#### IP経路情報

ルータがパケットの送信において、そのパケットをどのルータまたは端末に配送すべきかの情報を表示します。

この画面には、[スタティックルーティング設定]画面(P47)で追加した経路も表示されます。

- ①宛先 ..... ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスを表示します。
- ②ネットマスク ..... ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスに対するネットマスクを表示します。
- ③ゲートウェイ ..... ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスに対するゲートウェイを表示します。
- ④ネット ..... ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスに対する転送先インターフェイスを表示します。  
その詳細は、この画面の最上部に「ネットワーク インターフェイス リスト」として表示されます。
- ⑤作成 ..... どのように経路情報が作られたかを表示します。
  - static スタティック(定義された)ルートにより作成されています。
  - rip ダイナミック(自動生成された)ルートにより作成されています。
  - misc ブロードキャストに関するフレーム処理で作成されています。
- ⑥メトリック ..... 経路のコストを表示します。

6. [ルーティング設定]画面(つづき)

ネットワーク インターフェイス リスト		
インターフェイス	IPアドレス	ネットマスク
local	192.168.0.1	255.255.255.0

IP経路情報						
宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	ネット	作成	メトリック	
192.168.0.1 ①	255.255.255.255 ②	192.168.0.1 ③	loc ④	sta ⑤	⑥	0
192.168.0.0	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc		0
192.168.0.1	255.255.255.255	192.168.0.1	local	static		0
192.168.0.255	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc		0

スタティックルーティング設定					
登録の追加					
経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値	
local ⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	追加

現在の登録					
経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値	

セレクトルーティング ⑫ ⑬					
番号 ⑭	設定	編集			
接続方法 ⑮	手動発信 "拒絶する"を選択した場合は全ての経路に対して適用されます				
経路 ⑯	01:プロバイダ1				
発信元IPアドレス ⑰	-				
プロトコル制御 ⑱	使用しない ポート番号 -				
宛先IPアドレスまたはドメイン名 ⑲					
セレクトルーティングを使用する時間帯 ⑳	00:00 ~ 00:00				
終了時刻で強制切断 ㉑	し/しない する				
⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕
削除	01	01:プロバイダ1	手動発信	使用しない	

発信元IPアドレス	プロトコル制御	ポート番号	宛先IPアドレスまたはドメイン名	使用する時間帯	強制切断
	使用しない			00:00 - 00:00	し/ない

スタティックルーティング設定

パケットの中継経路を、意図的に定義するルーティングテーブルです。登録できるのは、最大20件までです。

入力後は、<追加>をクリックして、[現在の登録]欄に登録されたことを確認してください。また、その内容は、[IP経路情報]画面(☞P46)にも表示されます。

- ⑦経路 .....
  - local : 登録する経路情報がLAN側の場合です。
  - 登録先選択 : 登録する接続先がWAN側の場合、  をクリックすると、登録された接続先があれば表示します。
  
- ⑧宛先 .....
 

経路にLAN側を選択したときは、対象となる相手先のIPアドレスを入力します。

経路にWAN側を選択したときは、対象となる相手先のネットワークIPアドレスを入力します。
  
- ⑨ネットマスク .....
 

対象となる宛先のIPアドレスに対するネットマスクを入力します。
  
- ⑩ゲートウェイ .....
 

ルーティングの対象となるパケット転送先ルータのゲートウェイを入力します。
  
- ⑪メトリック値 .....
 

宛先までのコストを表す数値を入力します。

数値が小さければ転送能力の高い回線と見なされ、数値が大きければ転送能力が低い回線と見なされます。

0 ~ 16まで入力できます。

### 3 ネットワーク

#### 6. [ルーティング設定]画面(つづき)

ネットワーク インターフェイス リスト		
インターフェイス	IPアドレス	ネットマスク
local	192.168.0.1	255.255.255.0

IP経路情報					
宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	ネット	作成	メトリック
192.168.0.①	255.255.255.②	192.168.0.1 ③	loc④	sta⑤	⑥ 0
192.168.0.0	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0
192.168.0.1	255.255.255.255	192.168.0.1	local	static	0
192.168.0.255	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0

スタティックルーティング設定				
登録の追加				
経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値
local ⑦	⑧	⑨	⑩	⑪

現在の登録				
経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値

セレクトルーティング ⑫ ⑬				
番号 ⑭	設定	編集		
接続方法 ⑮	手動発信	* 拒絶する*を選択した場合は全ての経路に対して適用されます		
経路 ⑯	01:プロバイダ			
発信元IPアドレス ⑰	-			
プロトコル制御 ⑱	使用しない	ポート番号	-	
宛先IPアドレスまたはドメイン名 ⑲				
セレクトルーティングを使用する時間帯 ⑳	00 : 00 ~ 00 : 00			
終了時刻で強制切断 ㉑	しぬい、する			

⑳	番号	経路	接続方法	発信元IPアドレス	プロトコル制御	ポート番号	宛先IPアドレスまたはドメイン名	使用する時間帯	強制切断
削除	01	01:プロバイダ	手動発信		使用しぬい			00:00 - 00:00	しぬい

発信元IPアドレス	プロトコル制御	ポート番号	宛先IPアドレスまたはドメイン名	使用する時間帯	強制切断
	使用しぬい			00:00 - 00:00	しぬい

#### セレクトルーティング

スタティックルーティングに加えて、以下の機能を併せて設定することで、より詳細な条件でルーティングが行えます。

- 発信元IPアドレス情報をもとに、特定の相手(相手先のパソコンを限定する)と通信できるソースルーティング機能
- プロトコルとポート番号を指定することで、特定のアプリケーションデータを優先して送受信することができる優先ルーティング機能
- IPアドレスやURL情報をもとに、特定の発信元からのデータを遮断できるURLフィルター機能

⑫<設定> .....

入力した値を、本製品に設定するボタンです。  
クリックすると、一番下の欄に、設定した内容を表示します。

⑬<編集> .....

設定されている内容を変更・編集するために、画面の各欄に表示させるボタンです。

変更・編集するときは、一番下の欄から該当する登録内容の番号を、「⑭番号」欄に入力してから、このボタンをクリックします。

⑭番号 .....

データを送受信する優先度を、1～16の番号で指定する欄です。  
半角数字で入力し、最大16件、登録できます。

小さい番号に設定された内容が優先して比較され、設定内容と一致すると、それ以降の内容については比較しません。

6. [ルーティング設定]画面(つづき)

ネットワーク インターフェイス リスト		
インターフェイス	IPアドレス	ネットマスク
local	192.168.0.1	255.255.255.0

IP経路情報						
宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	ネット	作成	メトリック	
192.168.0.1 ①	255.255.255.0 ②	192.168.0.1 ③	loc ④	sta ⑤	⑥	0
192.168.0.0	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc		0
192.168.0.1	255.255.255.255	192.168.0.1	local	static		0
192.168.0.255	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc		0

スタティックルーティング設定					
登録の追加					
経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値	
local ⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	追加

現在の登録					
経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値	

セレクトルーティング ⑫ ⑬					
番号 ⑭	設定	編集			
接続方法 ⑮	手動発信 "拒絶する"を選択した場合は全ての経路に対して適用されます				
経路 ⑯	01:プロバイダ1				
発信元IPアドレス ⑰	-				
プロトコル制御 ⑱	使用しない ポート番号 -				
宛先IPアドレスまたはドメイン名 ⑲					
セレクトルーティングを使用する時間帯 ⑳	00 : 00 ~ 00 : 00				
終了時刻で強制切断 ㉑	し/しない する				

⑳	㉑	⑲	⑱	⑰	⑮	⑯
番号	経路	接続方法	発信元IPアドレス	プロトコル制御	ポート番号	宛先IPアドレスまたはドメイン名
01	01:プロバイダ1	手動発信		使用しない		

⑳	㉑	⑲	⑱	⑰	⑮	⑯
発信元IPアドレス	プロトコル制御	ポート番号	宛先IPアドレスまたはドメイン名	使用する時間帯	強制切断	
	使用しない			00:00 - 00:00	し/しない	

⑮接続方法 .....

送受信するデータが、登録された内容に一致したとき、その相手先への接続方法を選択します。

「手動発信」を選択すると、その接続先について手動接続します。

「自動発信」を選択すると、その接続先について自動接続します。

「拒絶する」を選択すると、その接続先へは接続しません。

ISDNダイヤルアップ環境で、「自動発信」を設定される場合は、意図しない接続でも、通話料が課金されることがありますので、注意してください。

⑯経路 .....

登録された接続先を選択します。

複数の接続先が登録されている場合、 印をクリックして選択します。

セレクトルーティング機能を設定しているときは、通常のルーティング経路よりもソースルーティングで設定された経路を優先します。したがって、あらかじめ通常のルーティングで自動接続が設定されている接続先をソースルーティングの経路に選択すると、通常のルーティングで設定された自動接続は、解除されます。なお、メール着信通知機能と同じ接続先(⇒P23)を選んだ場合、その接続先に対するメール着信通知機能は自動的に停止します。

[接続状況]画面において、通常の「自動接続」は赤色の文字、「手動接続」は黒色の文字で[接続方法]欄に表示されますが、セレクトルーティングの経路に設定されているときは、青色の文字で表示されます。

### 3 ネットワーク

#### 6. [ルーティング設定]画面(つづき)

ネットワーク インターフェイス リスト		
インターフェイス	IPアドレス	ネットマスク
local	192.168.0.1	255.255.255.0

IP経路情報					
宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	ネット	作成	メトリック
192.168.0.①	255.255.255.②	192.168.0.1 ③	loc④	sta⑤	⑥ 0
192.168.0.0	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0
192.168.0.1	255.255.255.255	192.168.0.1	local	static	0
192.168.0.255	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0

スタティックルーティング設定				
登録の追加				
経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値
local ⑦	⑧	⑨	⑩	⑪

現在の登録					
経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値	

セレクトルーティング ⑫ ⑬					
番号 ⑭	設定	編集			
接続方法 ⑮	手動発信	*「拒絶する」を選択した場合は全ての経路に対して適用されます			
経路 ⑯	01:プロバイダ				
発信元IPアドレス ⑰	-				
プロトコル制御 ⑱	使用しない	ポート番号	-		
宛先IPアドレスまたはドメイン名 ⑲					
セレクトルーティングを使用する時間帯 ⑳	00:00 ~ 00:00				
終了時刻で強制切断 ㉑	*しない、*する				

⑳	番号	経路	接続方法	発信元IPアドレス	プロトコル制御	ポート番号	宛先IPアドレスまたはドメイン名	使用する時間帯	強制切断
削除	01	01:プロバイダ	手動発信		使用しない			00:00 ~ 00:00	しない

⑰発信元アドレス ..... セレクトルーティングを使用するとき、選択した「経路」を使用する発信元端末のIPアドレスを指定する欄です。  
 一台だけ指定するときは、左のボックスに入力します。

⑱プロトコル制御 ..... 優先ルーティングとして使用する場合、使用プロトコル、およびそのポート番号を指定します。  
 ポート番号とは、ホスト上のインターネットアプリケーション(FTPやWEBブラウザ)を識別するのに使用する番号で、どのアプリケーションがどのポート番号を使用するかが決められています。  
 たとえば、メール受信専用を設定するときは、使用プロトコルを「TCP」、ポート番号を「110」に設定します。

⑲宛先IPアドレスまたはドメイン名 ..... 接続先端末のIPアドレス、または特定のドメイン名を指定する欄です。  
 ワイルドカードとして、「?」「\*」が入力できます。また、「?」は任意の一文字、「\*」は任意の文字列として認識されます。  
 この機能を利用するときは、本製品のDNS代理応答機能を併用してください。  
 URLフィルターとして使用するときは、この項目と同時に「⑮接続方法」を「拒絶する」に設定してください。  
 たとえば、[\* .icom.co.jp]を指定した場合は、[www.icom.co.jp]や[pop.icom.co.jp]へのデータが拒絶されます。

6. [ルーティング設定]画面(つづき)

ネットワーク インターフェイス リスト

インターフェイス	IPアドレス	ネットマスク
local	192.168.0.1	255.255.255.0

IP経路情報

宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	ネット	作成	メトリック
192.168.0.1 ①	255.255.255.255 ②	192.168.0.1 ③	loc ④	sta ⑤	⑥ 0
192.168.0.0	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0
192.168.0.1	255.255.255.255	192.168.0.1	local	static	0
192.168.0.255	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0

スタティックルーティング設定

登録の追加

経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値
local ⑦	⑧	⑨	⑩	⑪

現在の登録

経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値
----	----	--------	--------	--------

セレクトルーティング ⑫ ⑬

番号 ⑭

接続方法 ⑮  \*拒絶する\*を選択した場合は全ての経路に対して適用されます

経路 ⑯ 01:プロバイダ1

発信元IPアドレス ⑰ -

プロトコル制御 ⑱ 使用しない ⑲ ポート番号 -

宛先IPアドレスまたはドメイン名 ⑲

セレクトルーティングを使用する時間帯 ⑳ 00 : 00 ~ 00 : 00

終了時刻で強制切断 ㉑  しない  する

⑳ 番号	経路	接続方法	発信元IPアドレス	プロトコル制御	ポート番号	宛先IPアドレスまたはド
削除	01	01:プロバイダ1	手動発信	使用しない		

発信元IPアドレス	プロトコル制御	ポート番号	宛先IPアドレスまたはドメイン名	使用する時間帯	強制切断
	使用しない			00:00 - 00:00	しない

㉑セレクトルーティングを使用  
する時間帯 .....

設定された経路情報の利用開始時刻と終了時刻を入力します。  
開始時刻より終了時刻が早い時間の場合、終了時刻は次の日の時刻と  
なります。

開始および終了時刻は、<本体設定と管理>メニューの[時計設定]画  
面で設定(⇒P29)された時刻で動作します。必ず、<回線と接続>メ  
ニューの[接続状況]画面に表示される時刻を確認してください。

㉒終了時間で強制切断 .....

上記「㉑セレクトルーティングを使用する時間帯」で設定された時間を  
経過したときに、通信中でも強制的に切断するかどうかを選択します。

㉓設定内容表示 .....

セレクトルーティングとして設定されている内容を表示します。

㉔<削除> .....

このボタンの行に表示する設定内容を消去します。

---

## 3 ネットワーク

この章では、  
設定ページの、<アナログ設定>メニューで表示される画面について説明します。

---

1. [ポート共通の設定]画面 .....	54
2. [ポート1の設定]/[ポート2の設定]画面 .....	56
3. [転送 / 短縮番号]画面 .....	63
4. [セレクト番号]画面 .....	64

## 4 アナログ設定

### 1. [ポート共通の設定]画面



- ①<登録> ..... この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> ..... この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。  
なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③内線通話の使用設定 ..... [TEL1]と[TEL2]に接続されたアナログ機器間での内線通話形態を選択します。
- 内線を使用しない  
アナログ機器間で、通話しません。
  - 内線のみ使用する  
アナログ機器間で、通話します。  
どちらのアナログ機器からでも「\*」「0」とダイヤルすることで、もう一方を呼び出しできます。
  - 内線転送を使用する(出荷時の設定)  
外線電話を、内線通話を介して取り次ぎます。
- ④フレックスホン機能 ..... フレックスホン(コールウェイティング、通信中転送、三者通話、着信転送機能)の利用形態を設定します。
- 疑似(出荷時の設定)  
フレックスホン機能を利用しない、またはNTTとフレックスホンの契約をしないで、ほぼ同等の機能を利用したい場合に選択します。
  - NTTとの契約による  
NTTが提供するフレックスホンを利用します。  
(NTTとの契約が必要です)
- ⑤コールウェイティング ..... 通話中に新たな電話がかかってきたときに、通話中の電話を切らずに、かかってきた電話に応答する機能です。  
契約/設定内容によって、三者通話、通信中転送に移行することができます。
- ⑥通信中転送 ..... 通話を、第三者(外線)に転送する機能を使用するかしないかを選択します。

## 1. [ポート共通の設定]画面(つづき)

登録		取消	
①	②	内線通話	
内線通話の使用設定		内線転送を使用する	
フレックスホンの設定			
登録 / 取消			
③ (注意)NTTフレックスホンの使用になる場合はNTTとの契約が必要です。			
フレックスホン機能		④ <input checked="" type="radio"/> 疑似 <input type="radio"/> NTTとの契約による	
コールウェーティング	⑤	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	疑似にてコールウェーティングをした場合はポート番の設定で通話中に着信があると音でお知らせがするに設定されます。
通信中転送	⑥	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	
三者通話	⑦	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	
着信転送	⑧	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	
優先着信			
登録 / 取消			
優先着信	⑨	すべてのポートに着信	時間差優先着信が0秒の場合は優先ポートのみ着信します。
時間差優先着信	⑩	02 秒	
リソースBOD			
発信割り込みを使用	⑪	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	
受信割り込みを使用	⑫	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	

- ⑦三者通話 ..... 三人で通話する機能を使用するかしないかを選択します。契約 / 設定内容によって、他の二者間の通話にすることもできます。
- ⑧着信転送 ..... 転送先の電話番号は、[転送 / 短縮番号]画面、「③着信転送番号の登録」(P63)で設定します。
- ⑨優先着信 ..... 着信時に、どちらのポートに接続されたアナログ機器の着信音を優先して鳴らすかを指定します。
- すべてのポートに着信(出荷時の設定)  
両方のポートに接続されたアナログ機器の着信音が同時に鳴ります。
  - ポート1を優先  
[TEL1]に接続されたアナログ機器の着信音が優先して鳴ります。
  - ポート2を優先  
[TEL2]に接続されたアナログ機器の着信音が優先して鳴ります。
- ⑩時間差優先着信 ..... 上記、「⑨優先着信」で優先指定したポートに接続されたアナログ機器だけの着信音を鳴らす時間を設定します。設定した時間を経過しても応答しない(受話器を取らない)場合、両方のポートに接続されたアナログ機器の着信音が鳴ります。なお、0秒に設定した場合は、優先指定したポートに接続されたアナログ機器の着信音しか鳴りません。ただし、優先指定されたポートが通話中の場合、もう一方のポートへ着信させます。
- ⑪発信割り込みを使用 ..... 2Bでの通信中に、[TEL1]/[TEL2]ポートに接続されたアナログ機器からの発信を許可するかしないかを選択します。受話器を取ることで、1Bの通信に自動的に切り替わります。
- ⑫受信割り込みを使用 ..... 2Bでの通信中に、[TEL1]/[TEL2]ポートに接続されたアナログ機器への着信を許可するかしないかを選択します。着信中は、1Bでの通信となります。

## 4 アナログ設定

### 2. [ポート1の設定]/[ポート2の設定]画面

ポート共通の設定
ポート1の設定
ポート2の設定
転送/転送番号
セレクト番号

登録		取消	
① ② 設定			
回線番号(ダイヤルイン番号)*サブアドレス ③		ナンバースタイル ④	
接続機器の種類 ⑤		ナンバースタイル ⑥	
標準設定		対応しない	
無鳴動着信 ⑦		する しない	
ポート使用設定 ⑧		宛着信で使用	
受話音量 ⑨	送話音量 ⑩	外線呼出音 ⑪	内線呼出音 ⑫
標準	標準	呼出音1	呼出音1
なりわけ着信機能 ⑬		なりわけ呼出音 ⑭	
着信拒否する		呼出音1	
<b>着信機能</b> 登録/取消			
グローバル着信 ⑮		する しない	
セレクト着信 ⑯		する しない	
通話中に着信があると音でお知らせ ⑰		する しない	
<b>送信機能</b> 登録/取消			
発信者番号通知 ⑱		する しない	
高位レイヤ整合性を上げて発信 ⑲		する しない	
<b>ダイヤルタイミング</b> 登録/取消			
ダイヤル待ち時間 ⑳		5 秒	
フッキング判定時間 ㉑		1 秒	
<b>着信転送</b> 登録/取消			
転送トーカー ㉒		あり なし	
転送元トーカー ㉓		あり なし	
起動タイミング ㉔		呼出回数 4 回	
		即、起動	

- ①<登録> .....
- ②<取消> .....
- ③回線番号(ダイヤルイン番号)  
\*サブアドレス .....

この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。

この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。  
なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

NTTのダイヤルインサービス(有料)を契約している / 契約する場合  
ダイヤルイン番号を入力します。ポートごと(TEL1、TEL2)にダイヤル  
イン番号を入力(ひとつは回線契約番号でもよい)することで、着信  
形態を個別に指定できます。また、本製品の機能を活用するためにも、  
入力する必要があります。

なお、ダイヤルインサービスには、グローバル着信機能(回線契約番号  
にかかってきた電話を、ダイヤルイン番号を割り当てた端末で着信す  
る機能)が含まれます。(契約時に、「グローバル着信する」で契約する  
ことをおすすめします。)

NTTのダイヤルインサービス(有料)が未契約 / 契約しない場合  
何も入力しません。ただし、サブアドレスを利用して、着信形態を個  
別に指定する場合は、回線契約番号に続けて「\*(アスタリスク)」+ サ  
ブアドレス(任意の半角英数字32文字以内)を入力します。(NTTとの  
契約は不要で、ISDN回線契約者が、この欄に入力したサブアドレス  
を契約電話番号と一緒にダイヤルしてきたときに限り、着信します。)

サブアドレスを設定すると、アナログ回線契約者からの電話を着信  
できなくなりますので、ご注意ください。

アナログ回線契約者からの電話においても着信形態を指定したい場  
合は、ダイヤルインサービス、i・ナンバーサービス(いずれも有料)  
などをご契約ください。

## 2. [ポート1の設定]/[ポート2の設定]画面(つづき)

登録 取消			
① ② 設定			
回線番号(ダイヤルイン番号)*サブアドレス ③	i・ナンバー ④ ポート <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3		
接続機器の種類 ⑤ 標準設定	ナンバーディスプレイ ⑥ 対応しない		
無の自動着信 ⑦	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
ポート使用設定 ⑧	<input type="checkbox"/> 宛着信で使用		
受話音量 ⑨ 標準	送話音量 ⑩ 標準	外線呼出音 ⑪ 呼出音1	内線呼出音 ⑫ 呼出音1
なりわけ着信機能 着信拒否する ⑬	なりわけ呼出音 ⑭ 呼出音1		
<b>着信機能</b> 登録/取消▲			
グローバル着信 ⑮	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
セレクト着信 ⑯	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
通話中に着信があると音でお知らせ ⑰	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
<b>送信機能</b> 登録/取消▲			
発信者番号通知 ⑱	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
高位レイヤ整合性をつけて発信 ⑲	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
<b>ダイヤルタイミング</b> 登録/取消▲			
ダイヤル待ち時間 ⑳	5 秒		
フッキング判定時間 ㉑	1 秒		
<b>着信転送</b> 登録/取消▲			
転送トーカー ㉒	<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし		
転送元トーカー ㉓	<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし		
起動タイミング ㉔	呼出回数 4 回 <input type="button" value="即 起動"/>		

## ④ i・ナンバーポート .....

[TEL1]、[TEL2]に割り当てる i・ナンバーを選択します。

i・ナンバーサービス(有料)の契約にて取得した2つ、または3つの電話番号を、[TEL1]、[TEL2]に設定することにより、アナログ機器を鳴り分けることができます。

## ⑤ 接続機器の種類 .....

接続されているアナログ機器の種類を選択します。

- 標準設定：接続する機器を指定しません。(出荷時の設定)
- 電話：アナログ電話機専用です。
- FAX：G3FAX専用です。
- モデム：アナログモデム専用です。

接続機器の種類を「電話」または「FAX」と指定すると、アナログ回線とISDN回線契約者から高位レイヤ整合性をつけずに発信された通信(電話、FAX)は着信できなくなりますので、ご注意ください。

## ⑥ ナンバーディスプレイ .....

- 対応しない(出荷時の設定)

ナンバーディスプレイに対応した電話機、表示器などを接続していない場合に選択します。

- INSナンバーディスプレイ

ナンバーディスプレイに対応した電話機、表示器などを接続している場合に選択します。

ナンバー・ディスプレイサービスを契約(有料)していない場合、アナログ回線からの発信は、番号が表示されません。

- キャッチホンナンバーディスプレイ

キャッチホンナンバーディスプレイに対応した電話機や表示器などを接続し、キャッチホン・ディスプレイサービスを契約(有料)している場合に選択します。

## 4 アナログ設定

### 2. [ポート1の設定]/[ポート2の設定]画面(つづき)

登録   取消			
① ② 設定			
回線番号(ダイヤルイン/番号)＊サブアドレス ③	ナンバー ④ ポート <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3		
接続機器の種類 ⑤ 標準設定 ▼	ナンバーディスプレイ ⑥ 対応しない ▼		
無鳴動着信 ⑦ 標準 ▼	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
ポート使用設定 ⑧	発着信で使用 ▼		
受話音量 ⑨ 標準 ▼	送話音量 ⑩ 標準 ▼	外線呼出音 ⑪ 呼出音1 ▼	内線呼出音 ⑫ 呼出音1 ▼
なりわけ着信機能 着信拒否する ▼ ⑬	なりわけ呼出音 ⑭ 呼出音1 ▼		
着信機能		登録 / 取消 ▲	
グローバル着信 ⑮	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
セレクト着信 ⑯	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
通話中に着信があると音でお知らせ ⑰	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
送信機能		登録 / 取消 ▲	
発信者番号通知 ⑱	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
高位レイヤ整合性を上げて発信 ⑲	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
ダイヤルタイミング		登録 / 取消 ▲	
ダイヤル待ち時間 ⑳	5 秒		
フッキング判定時間 ㉑	1 秒		
着信転送		登録 / 取消 ▲	
転送トーカー ㉒	<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし		
転送元トーカー ㉓	<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし		
起動タイミング ㉔	呼出回数 4 回	即、起動 ▼	

- ⑦無鳴動着信 ..... 無鳴動着信機能を持ったFAXを接続している場合、着信音を鳴らさずに対応させることができます。
- しない：着信音が鳴ってから応答します。(出荷時の設定)
  - する：着信音が鳴らずに応答します。
- ⑧ポート使用設定 ..... 接続されたアナログ機器の使用用途の制限を選択します。
- 発着信で使用：通常どおりに使用できます。(出荷時の設定)
  - 着信専用：電話をかける/FAXを送ることはできません。
  - 発信専用：電話をとる/FAXを受信することはできません。
  - 使用しない：動作しません。
- ⑨受話音量 ..... 受話器から聞こえる音量を、「最大」「標準」「最小」から設定します。アナログ機器に受話音量調整機能がある場合は、この設定と併せて適量に調整してください。
- ⑩送話音量 ..... 相手の受話器から聞こえる音量を、「最大」「標準」「最小」から設定します。
- 「最大」にすると、比較的小さな声でも相手にハッキリ聞こえますが、「最小」では大きな声で話さないと相手にハッキリ聞こえません。
- ⑪外線呼出音 ..... 外線電話がかかってきたときの着信音パターンを選択します。「⑫内線呼出音」(☞P59)と区別することで、外線もしくは内線着信かを着信音で判断できます。
- 呼出音1(出荷時の設定)
  - 呼出音2
  - 呼出音3

2. [ポート1の設定]/[ポート2の設定]画面(つづき)

登録 取消			
① ② 設定			
回線番号(ダイヤルイン番号)*サブアドレス ③	ナンバー ④ ポート <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3		
接続機器の種類 ⑤ 標準設定	ナンバーディスプレイ ⑥ 対応しない		
無の鳥動着信 ⑦	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
ポート使用設定 ⑧	宛着信で使用		
受話音量 ⑨ 標準	送話音量 ⑩ 標準	外線呼出音 ⑪ 呼出音1	内線呼出音 ⑫ 呼出音1
なりわけ着信機能 着信拒否する ⑬	なりわけ呼出音 呼出音1 ⑭		
<b>着信機能</b> 登録/取消▲			
グローバル着信 ⑮	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
セレクト着信 ⑯	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
通話中に着信があると音でお知らせ ⑰	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
<b>送信機能</b> 登録/取消▲			
発信者番号通知 ⑱	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
高位レイヤ整合性をつけて発信 ⑲	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
<b>ダイヤルタイミング</b> 登録/取消▲			
ダイヤル待ち時間 ⑳	5 秒		
フッキング判定時間 ㉑	1 秒		
<b>着信転送</b> 登録/取消▲			
転送トーン ㉒	<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし		
転送元トーン ㉓	<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし		
起動タイミング ㉔	呼出回数 4 回 <input type="button" value="即 起動"/>		

- ⑫内線呼出音 ..... 内線電話がかかってきたときの着信音パターンを選択します。  
「⑪外線呼出音」(☞P58)と区別することで、外線もしくは内線着信かを着信音で判断できます。  
●呼出音1(出荷時の設定)  
●呼出音2  
●呼出音3
- ⑬なりわけ着信機能 ..... あらかじめNTTに登録した電話番号で電話がかかってきたときの着信形態を設定します。  
●通常・話中共に着信：通話中に着信すると、着信していることを音でお知らせします。  
●話中は着信しない：通話中は着信しません。  
●着信拒否する：登録した電話番号からの電話のみ着信します。  
(出荷時の設定) (未登録電話番号からの電話は着信しません)  
この機能を利用するには、NTTとの契約(有料)が必要です。
- ⑭なりわけ呼出音 ..... あらかじめNTTに登録した電話番号で電話がかかってきたときの着信音パターンを設定します。  
●呼出音1(出荷時の設定)  
●呼出音2  
●呼出音3  
この機能を利用するには、NTTとの契約(有料)が必要です。

## 4 アナログ設定

### 2. [ポート1の設定]/[ポート2の設定]画面(つづき)

登録 取消			
① ② 設定			
回線番号(ダイヤルイン番号)*サブアドレス ③	ナンバー ④ ポート <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3		
接続機器の種類 ⑤ 標準設定	ナンバーディスプレイ ⑥ 対応しない		
無鳴動着信 ⑦	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
ポート使用設定 ⑧	発着信で使用		
受話音量 ⑨ 標準	送話音量 ⑩ 標準	外線呼出音 ⑪ 呼出音1	内線呼出音 ⑫ 呼出音1
なりわけ着信機能 ⑬ 着信拒否する	なりわけ呼出音 ⑭ 呼出音1		
着信機能		登録/取消▲	
グローバル着信 ⑮	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
セレクト着信 ⑯	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
通話中に着信があると音でお知らせ ⑰	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
送信機能		登録/取消▲	
発信者番号通知 ⑱	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
高位レイヤ整合性を上げて発信 ⑲	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
ダイヤルタイミング		登録/取消▲	
ダイヤル待ち時間 ⑳	5 秒		
フッキング判定時間 ㉑	1 秒		
着信転送		登録/取消▲	
転送トーク ㉒	<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし		
転送元トーク ㉓	<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし		
起動タイミング ㉔	呼出回数 4 回	即、起動	

#### ⑮グローバル着信 .....

グローバル着信を利用する内容でダイヤルインサービス(有料)を契約している場合、回線契約番号にかかってきた電話を、ダイヤルイン追加番号を割り当てたポートにも着信させる設定です。

- する : 回線契約番号でかかってきた電話を着信します。  
(出荷時の設定)
- しない : 回線契約番号でかかってきた電話を着信しません。

**注意!**ダイヤルインサービスが未契約で、[回線設定]画面の「④電話番号」(☞P18)、本画面の「③回線番号(ダイヤルイン番号)\*サブアドレス」(☞P56)が空欄の場合、または回線契約番号を設定したポートでも、本項目は「する」に設定してください。「しない」を設定すると、まったく着信できなくなります。

#### ⑯セレクト着信 .....

本製品に任意の電話番号を登録することにより、それらから発信された電話の着信形態を指定するかしないかを選択します。

- する : 発信者により、着信形態を指定します。
- しない : 着信形態を指定しません。

電話番号は、[セレクト番号]画面(☞P64)で登録します。

「する」に設定した場合、「⑧ポート使用設定」(☞P58)で「発信専用」に設定されていても、有効です。

#### ⑰通話中に着信があると音でお知らせ .....

通話中に新たな着信があった場合、音で通知するかしないかを選択します。

[ポート共通の設定]画面の「⑤コールウェイティング」(☞P54)を「する」としている場合、本設定を「する」に設定します。

2. [ポート1の設定]/[ポート2の設定]画面(つづき)

⑱発信者番号通知 ..... 電話をかけたときに、「③回線番号(ダイヤルイン番号)\*サブダイヤル」(⇨P56)で設定された番号を、相手側に通知するかしないかを選択します。

⑲高位レイヤ整合性をつけて  
発信 ..... [TEL1]、[TEL2]に接続されている機器の種類(電話、FAXなど)を相手先に通知することで、ISDN回線契約している発信先の接続機器ごとに鳴り分け(自動応答)をするかしないかを選択します。  
「⑤接続機器の種類」(⇨P57)で、「電話」または「FAX」を選択し、この項目で「する」を選択すると、相手先のTAなどで、接続機器の種類が「電話」か「FAX」に指定されている場合に限り、発信装置に合わせて該当する機器が自動的に応答します。

⑳ダイヤル待ち時間 ..... [TEL1]、[TEL2]に接続されたアナログ機器から電話をかけたとき、末尾番号がダイヤルされてから発信するまでの時間を設定します。

㉑フッキング判定時間 ..... フックボタンを押して(受話器を置いて)から、実際に通話回線が切断されるまでの時間を設定します。  
設定された時間内にフックボタンをはなす(受話器を取る)と、保留状態となり、通話の転送ができます。

## 4 アナログ設定

### 2. [ポート1の設定]/[ポート2の設定]画面(つづき)

登録   取消			
<b>① ② 設定</b>			
回線番号(ダイヤルイン番号)*サブアドレス ③	ナンバー ④ ポート <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3		
接続機器の種類 ⑤ 標準設定 ▼	ナンバーディスプレイ ⑥ 対応しない ▼		
無鳴動着信 ⑦	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
ポート使用設定 ⑧	宛着信で使用 ▼		
受話音量 ⑨ 標準 ▼	送話音量 ⑩ 標準 ▼	外線呼出音 ⑪ 呼出音1 ▼	内線呼出音 ⑫ 呼出音1 ▼
なりわけ着信機能 着信拒否する ▼ ⑬	なりわけ呼出音 ⑭ 呼出音1 ▼		
<b>着信機能</b> <span style="float:right">登録/取消▲</span>			
グローバル着信 ⑮	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
セレクト着信 ⑯	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
通話中に着信があると音でお知らせ ⑰	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
<b>送信機能</b> <span style="float:right">登録/取消▲</span>			
発信者番号通知 ⑱	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
高位レイヤ整合性を上げて発信 ⑲	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
<b>ダイヤルタイミング</b> <span style="float:right">登録/取消▲</span>			
ダイヤル待ち時間 ⑳	5 秒		
フッキング判定時間 ㉑	1 秒		
<b>着信転送</b> <span style="float:right">登録/取消▲</span>			
転送トーク ㉒	<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし		
転送元トーク ㉓	<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし		
起動タイミング ㉔	呼出回数 4 回 <span style="float:right">即、起動 ▼</span>		

#### ②転送トーク .....

NTTとの契約により着信転送(フレックスホン機能)する場合、電話をかけてきた相手に対して、「ただいま電話を転送していますので、そのままの状態でお待ちください」という音声ガイダンス(メッセージ)を流すか、流さないかを選択します。

[ポート共通の設定]画面の「④フレックスホン機能」(⇨P54)が「疑似」に設定されているときは、機能しません。

#### ③転送元トーク .....

NTTとの契約により着信転送(フレックスホン機能)する場合、転送電話をつなく前に、転送先電話機の手話器を取った相手に対して、「電話が転送されますので、そのままの状態でお待ちください」という音声ガイダンス(メッセージ)を流すか、流さないかを選択します。

[ポート共通の設定]画面の「④フレックスホン機能」(⇨P54)が「疑似」に設定されているときは、機能しません。

#### ④起動タイミング .....

着信転送を設定している状態で電話がかかってきたとき、実際に転送先の電話へ転送を開始するタイミングを設定します。

- 即、起動 : 着信すると同時に、転送が開始されます。  
(出荷時の設定)
- 呼出後起動 : 着信音が、「呼出回数」で設定された回数鳴ったあと、転送が開始されます。

3. [転送 / 短縮番号設定]画面

- ポート共通の設定
- ポート1の設定
- ポート2の設定
- 転送 / 短縮番号**
- レレ外番号

- ①<登録> ..... この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> ..... この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③着信転送番号の登録 ..... [ポート共通の設定]画面の「⑧着信転送」(☞P55)を「する」に設定している場合の転送先を設定します。
  - 転送先名：転送先の名称や名前を入力します。
  - 電話番号：転送先の電話番号を市外局番から入力します。  
NTTとの契約で、着信転送オプションがなくても、動作します。  
「転送先電話番号2」は、[ポート共通の設定]画面の「④フレックスホン機能」(☞P54)を「疑似」に設定していて、「転送先電話番号1」が話中などの理由でつながらないとき、かけ直す電話番号です。
- ④短縮ダイヤルの登録 ..... [TEL1]または[TEL2]に接続されたアナログ機器に共通の短縮ダイヤルを、最大20個、登録できます。  
アナログ機器の[\*]ボタンに続けて2桁の番号をダイヤルするだけで、登録された相手先に電話をかけることができます。  
このとき、[ポート1の設定]/[ポート2の設定]画面の「⑩ダイヤル待ち時間」(☞P61)で設定した時間に関係なく、直ちに発信します。
  - 名前 : 相手先の名称や名前を入力します。
  - フリダイヤル：電話番号ごとに、発信者番号の通知 / 非通知および利用する電話会社を指定する場合に、電話番号の前にダイヤルする番号(例：186 / 184、0070、0041など)を入力します。
  - 電話番号 : 相手先の電話番号を、市外局番から入力します。

## 4 アナログ設定

### 4. [セレクト番号]画面

- ポート共通の設定
- ポート1の設定
- ポート2の設定
- 転送/短縮番号
- セレクト番号**

登録した電話番号(ISDN回線契約者)からの発信について、着信形態を指定します。最大20件登録できます。

[ポート1の設定] / [ポート2の設定]画面の「⑩セレクト着信」(≒P60)が「する」と設定されている場合に限り、有効です。

なお、アナログ回線からの発信についても着信形態を指定したい場合は、別途、INSナンバー・ディスプレイの契約が必要です。

登録	取消	セレクト着信			
①	②				
登録01	相手先名 ③	電話番号 ④	着信ポート&着信動作 ⑤	着信呼出音 ⑥	
			両ポートに着信する	呼出音1	
登録02	相手先名	電話番号	着信ポート&着信動作	着信呼出音	
			両ポートに着信する	呼出音1	
登録03	相手先名	電話番号	着信ポート&着信動作	着信呼出音	
			両ポートに着信する	呼出音1	
登録04	相手先名	電話番号	着信ポート&着信動作	着信呼出音	
			両ポートに着信する	呼出音1	

- ①<登録> ..... この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> ..... この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③相手先名 ..... 相手先の名前や名称を入力します。
- ④電話番号 ..... 相手先の回線契約番号、ダイヤルイン番号またはi-ナンバーを、市外局番から入力します。  
(入力例：012345679)
- ⑤着信ポート&着信動作 .....
  - 両ポートに着信しない  
着信を拒否します。
  - ポート1のみに着信する  
[TEL1]に接続されたアナログ機器だけに着信させます。
  - ポート2のみに着信する  
[TEL2]に接続されたアナログ機器だけに着信させます。
  - ポート1を優先して着信  
[ポート共通の設定]画面、「⑩時間差優先着信」(≒P55)で設定された時間、[TEL1]に接続されたアナログ機器だけに着信させ、そのあと[TEL2]に接続されたアナログ機器にも着信させます。
  - ポート2を優先して着信  
[ポート共通の設定]画面、「⑩時間差優先着信」(≒P55)で設定された時間、[TEL2]に接続されたアナログ機器だけに着信させ、そのあと[TEL1]に接続されたアナログ機器にも着信させます。
  - 両ポートに着信する(出荷時の設定)  
[TEL1]、[TEL2]に接続されたアナログ機器に着信させます。
- ⑥着信呼出音 ..... 登録した電話番号から着信があったときの着信音パターンを選択します。内線/外線呼出音と区別することで、セレクト着信であることが、容易に判断できます。
  - 呼出音1(出荷時の設定)
  - 呼出音2
  - 呼出音3

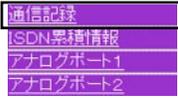
この章では、  
設定ページの、<通信記録>メニューで表示される画面について説明します。

---

1. [通信記録]画面 .....	66
2. [ISDN累積情報]画面 .....	67
3. [アナログポート1]/[アナログポート2]画面 .....	68

# 5 通信記録

## 1. [通信記録]画面



- ①<クリア> .....
- ②日付・時間 .....
- ③通信記録 .....

回線を接続および切断したときの状態を、履歴として表示します。

A screenshot of the communication record interface. At the top left is a 'クリア' (Clear) button. Below it is a table with two columns: '日付・時間' (Date/Time) and '通信記録' (Communication Record). The first row shows '01/01 00:02:56' and '網より切断理由コード#38網障害'. The second row shows '01/01 00:02:56' and 'PPP02 手動接続要求番号(1234567890)'. Circled numbers 1, 2, and 3 point to the 'クリア' button, the date/time column, and the communication record column, respectively.

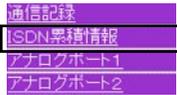
①	② 日付・時間	③ 通信記録
	01/01 00:02:56	網より切断理由コード#38網障害
	01/01 00:02:56	PPP02 手動接続要求番号(1234567890)

「②日付・時間」と「③通信記録」に表示される内容を、消去します。

日時を表示します。

接続状況を表示します。

## 2. [ISDN累積情報]画面



ISDNダイヤルアップ接続する接続先への累積情報を表示します。



### ①ISDN累積情報.....

- 番号 : [接続先の追加]/[~の設定]画面(☞P3～6)にて登録された接続先の番号です。
- 名称 : [接続先の追加]/[~の設定]画面(☞P3～6)にて登録された接続先の名称です。
- 料金合計 : 該当する欄の接続先に対して、自動および手動接続で使用したデータ通信料金の累計を表示します。  
表示される課金情報累計は、あくまでも目安にしてください。実際にNTTから請求される回線使用料金とは異なる場合がありますので、ご注意ください。
- 回数合計 : 該当する欄の接続先に対して、自動および手動で接続した接続回数の累計を表示します。なお、接続に失敗した(ユーザーIDの認証段階以前)通信は、加算されません。
- 時間合計 : 該当する欄の接続先に対して、自動および手動で接続した接続時間の累計を表示します。

### ②ISDN累積情報初期化.....

上記、「①ISDN累積情報」表示を初期化したい場合、初期化する通信回線[A]と、項目[B]を、この欄の[ ]をクリックして表示するプルダウンメニューから選択し、<リセット>をクリックします。

[A]、[B]のプルダウンメニューの内容は、以下のようになっています。

[A]の[B]を<リセット>する

- [A] : 初期化対象通信回線
  - 全電話帳 : 登録されている全通信先
  - 01～20 : 登録されている通信先のいずれか1件
- [B] : 初期化対象項目
  - 全合計項目 : 料金・回数・時間の全合計
  - 料金合計 : 累積通信料金の合計のみ
  - 回数合計 : 累積通信回数の合計のみ
  - 時間合計 : 累積通信時間の合計のみ

## 5 通信記録

### 3. [アナログポート1]/[アナログポート2]画面

通信記録	アナログポート1累積情報 ①
ISDN累積情報	ポート番号 料金合計 回数合計 時間合計
アナログポート1	1 0円 0回 0分
アナログポート2	

アナログポート1累積情報初期化 ②	
▼ を リセット	
クリア ③	
日付・時間 ④	通信記録 ⑤

#### ①アナログポート1/2累積情報

- 料金合計：該当するポートに接続されたアナログ機器からかけた電話の通話料金の合計を表示します。  
表示された課金情報累計は、あくまでも目安にしてください。実際にNTTから請求される回線使用料金とは異なる場合がありますので、ご注意ください。
- 回数合計：該当するポートに接続されたアナログ機器から電話をかけた回数の合計を表示します。なお、つながらなかった場合(相手先が話し中など)は、加算されません。
- 時間合計：該当するポートに接続されたアナログ機器からかけた電話の通話時間の合計を表示します。

#### ②アナログポート1/2累積情報

初期化 .....

「①アナログポート1/2累積情報」表示を初期化したい場合、初期化する項目を、この欄の[ ]をクリックして表示するプルダウンメニューから選択し、<リセット>をクリックします。

プルダウンメニューの内容は、以下のようになっています。

- 初期化対象項目  
全合計項目：料金・回数・時間の全合計  
料金合計：累積通話料金の合計のみ  
回数合計：累積発信回数の合計のみ  
時間合計：累積通話時間の合計のみ

③<クリア> .....

「④日付・時間」と「⑤通信記録」に表示される内容を、消去します。

④日付・時間 .....

電話をかけた / 電話がかかってきた日時を表示します。

⑤通信記録 .....

本製品側からかけた電話は、ダイヤルした電話番号などを表示します。外部からかかってきた電話は、電話をかけてきた相手の電話番号、相手がダイヤルした電話番号などを表示します。

サブアドレスが設定 / ダイヤルされている場合は、サブアドレスも併せて表示します。

ナンバー・ディスプレイサービスを契約(有料)していない場合、アナログ回線契約者からかかってきた電話については、電話番号を表示しません。

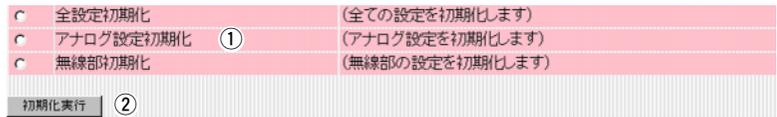
この章では、  
設定ページの、<保存と記録>メニューで表示される画面について説明します。

---

1. [設定初期化]画面 .....	70
2. [設定保存]画面 .....	70

## 6 保存と記録

### 1. [設定初期化]画面



①初期化条件 .....

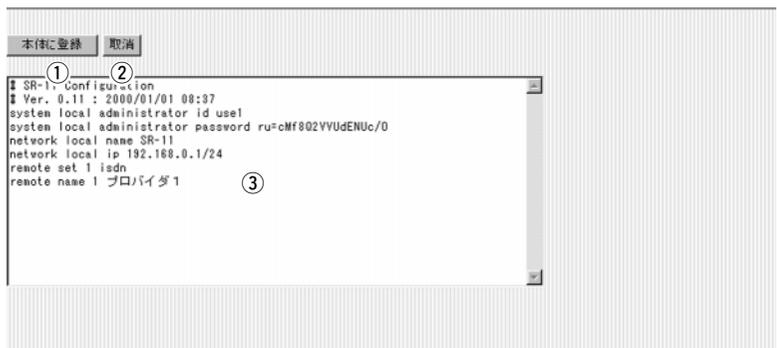
該当する初期化条件に合わせてラジオボタンをクリックします。

- 全設定初期化  
設定した全内容を、出荷時の設定に戻します。
- アナログ設定初期化  
[TEL1]、[TEL2]の設定を、出荷時の設定に戻します。
- 無線部初期化  
無線LANに関係のある設定を、出荷時の設定に戻します。

②<初期化実行> .....

上記、「①初期化条件」で選択された初期化条件にしたがって、初期化を開始します。

### 2. [設定保存]画面



①<本体に登録> .....

「③表示画面」に表示する内容を、設定ページに書き込みます。

②<取消> .....

「③表示画面」に表示する内容を変更したとき、変更を取り消して、このファイルを最初に開いたときの内容に戻します。

③表示画面 .....

全設定(変更含む)内容を表示します。  
この画面内容をパソコンに保存することで、本製品の設定をバックアップすることができます。  
なお、各画面で設定されたパスワードや、キージェネレーター(無線LAN通信用暗号化鍵の生成元文字列)の内容は、暗号化されて表示されます。そのため、保存されたファイルよりそれらが外部へ漏れることはありません。

この章では、

ISDNダイヤルアップによる具体的な接続例に沿って、設定例を説明します。

なお、回線種別は、すでに設定されていることを前提として説明していますので、設定方法を省略しています。(回線種別の設定は、16ページを参照してください。)

---

1. プロバイダーへ端末型接続する .....	72
[A] 手動接続する場合 .....	72
[B] 自動接続する場合 .....	77
2. 二地点間のLAN型接続 .....	80
ルータAの設定 .....	80
ルータBの設定 .....	84
3. LAN型(1B)+端末型(1B)接続 .....	88
ルータAの設定 .....	88
ルータBの設定 .....	90
4. コールバックによるLAN型接続 .....	95
ルータAの設定 .....	95
ルータBの設定 .....	96
5. スループットBODによるLAN型接続 .....	97
ルータAの設定 .....	97
ルータBの設定 .....	99
6. 静的IPマスカレード機能によるWWWサーバの公開 .....	101
7. 公衆回線からLANに接続 .....	104
8. PHSからLANに接続 .....	108

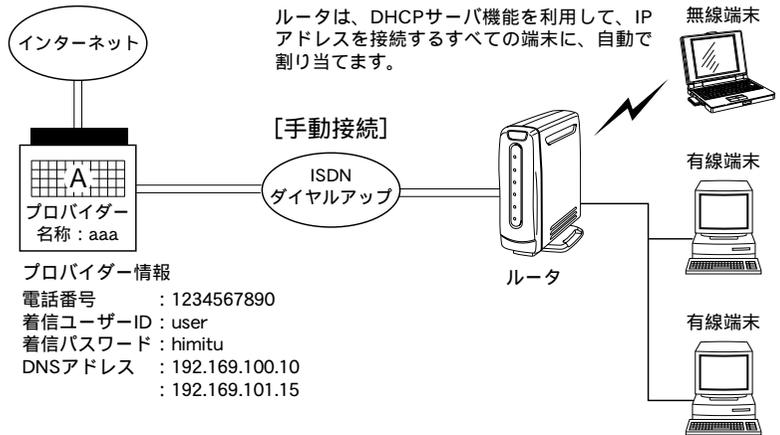
## 7 ISDNダイヤルアップの設定例集

### 1. プロバイダーへ端末型接続する

#### A 手動接続する場合

##### 【条件】

- プロバイダーA：手動接続



工場出荷時、本製品が端末に自動で割り当てることができるIPアドレス数は、30個に設定されています。

IPアドレスを31台以上の端末に自動で割り当てて使用する場合は、[本体ネットワーク設定]画面の「⑩割り当て個数」(P34)で、割り当て個数を増やしてください。

なお、設定可能な範囲は、5～128個までです。

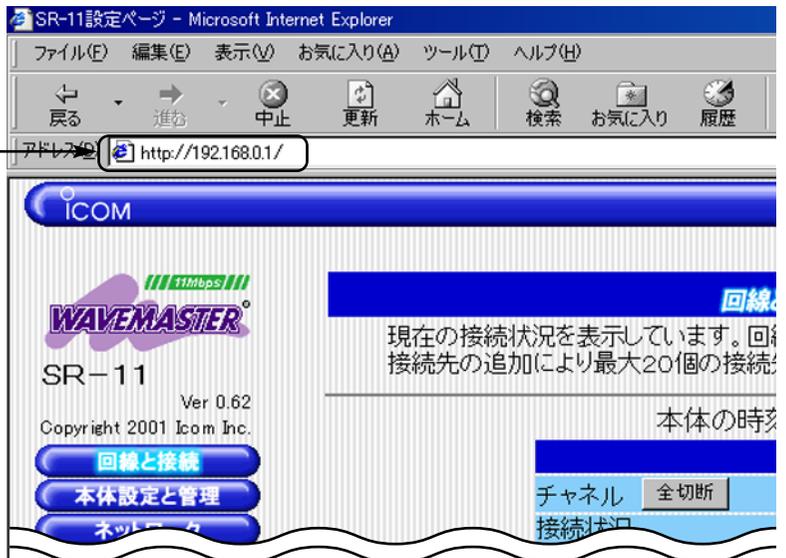
#### 【手順】

1. 設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

本製品のIPアドレスは、出荷時の状態(192.168.0.1)とします。

1. http://192.168.0.1/  
を指定



## 1. プロバイダーへ端末型接続する(つづき)

## 2. 接続先設定

<接続先の追加>をクリックして、プロバイダー情報を以下のように入力します。

7. クリック

1. aaa(任意でよい)

2. 1234567890

3. user

4. himitu  
(表示: \* \* \* \* \*)

5. 192.169.100.10

6. 192.169.101.15

登録 取消

接続設定

接続先名: aaa

電話番号1: 1234567890 \* 以降はサブアドレス

電話番号2: \* 以降はサブアドレス

電話番号3: \* 以降はサブアドレス

ユーザID: user

パスワード: \*\*\*\*\*

認証プロトコル: 相手に合わせる

デフォルトGWを構築: しない する

コールバック要求: しない する

コールバック電話番号: \* 以降はサブアドレス

プライマリDNSサーバ: 192.169.100.10

セカンダリDNSサーバ: 192.169.101.15

スループットBOD

BODを使用	<input type="checkbox"/> しない <input checked="" type="checkbox"/> する	BODを使用するには、通信速度を可変しておく必要があります。
移行トラフィック量	1B→2B: 75 %	55~95の範囲で記載
	2B→1B: 25 %	5~45の範囲で記載

マルチダイヤル機能(⇨P3)を使用する場合は、「電話番号2」、「電話番号3」も入力が必要です。

「5.プライマリDNSサーバアドレス」、「6.セカンダリDNSサーバアドレス」は、プロバイダーから指定されている場合に入力します。

## 3. 管理者IDの設定

必要であれば設定します。

<設定と管理>メニューをクリックして、管理者ID、パスワードを入力します。

3. クリック

1. router(任意)

2. 任意の英数字を入力  
入力値は表示されません。

登録 取消

管理者ID設定

管理者ID: router

管理者パスワード: \*\*\*\*\*

パスワードの確認入力: \*\*\*\*\*

使用者ID設定

使用者ID

使用者パスワード

パスワードの確認入力

手動接続・切断を許可: する

接続設定編集を許可: しない する

通信記録表示・クリアを許可: しない する

使用者1

使用者ID

使用者パスワード

パスワードの確認入力

手動接続・切断を許可: する

接続設定編集を許可: しない する

通信記録表示・クリアを許可: しない する

使用者2

使用者ID

使用者パスワード

パスワードの確認入力

手動接続・切断を許可: する

接続設定編集を許可: しない する

通信記録表示・クリアを許可: しない する

使用者3

使用者ID

使用者パスワード

## 7 ISDNダイヤルアップの設定例集

### 1. プロバイダーへ端末型接続する(つづき)

#### 4. 本体名称の設定

必要であれば設定します。

<ネットワーク>メニューをクリックして、本体名称を入力します。

2. クリック

1. SR-11(任意でよい)



#### 5. 無線LAN設定

<無線LAN設定>をクリックして、無線LANに関して以下のように入力します。

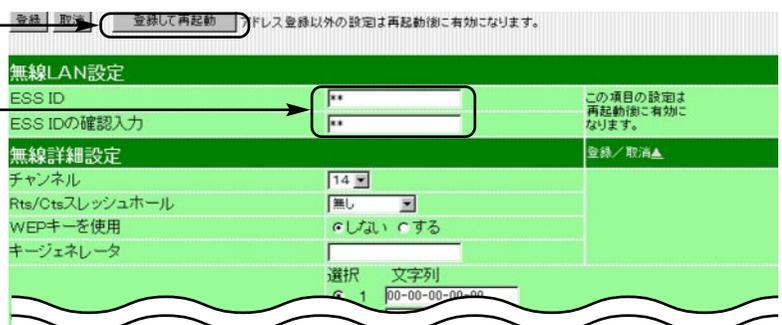
この画面で設定するESS IDを出荷時の設定(半角:LG)で使うと、ほかの無線端末から不正にアクセスされるおそれがありますので、変更することをおすすめします。

無線端末から、本製品のESS IDの設定を変更するときは、本手順で<登録して再起動>操作を行ってから、本製品と通信する無線端末のESS IDを、本製品と同じ値に変更してください。

変更後、無線端末を再起動します。

2. クリック

1. 任意の英数字を入力  
入力値は表示されません。



#### 6. 回線の手動接続

再起動後、[接続状況]画面が表示されますので、以下の要領で操作します。

2. 接続完了後、「発信」を表示(確認)

1. クリック



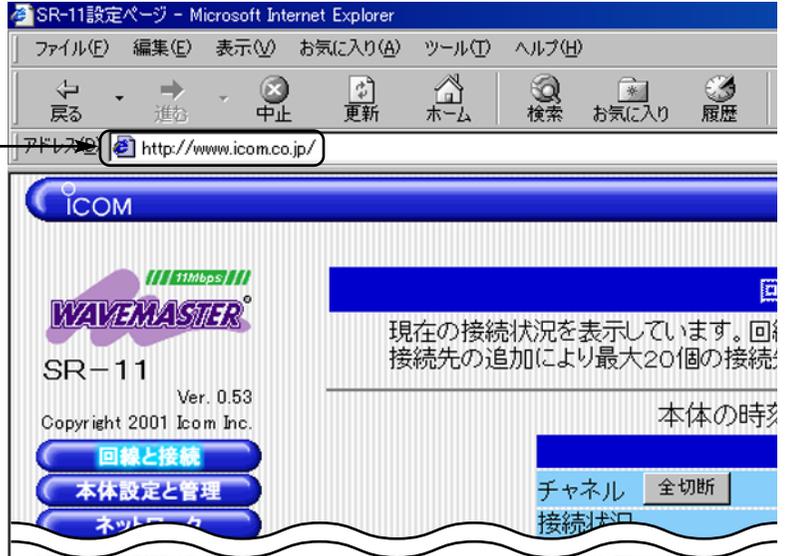
接続できないときは、正しく情報が入力されていることを確認してください。

## 1. プロバイダーへ端末型接続する(つづき)

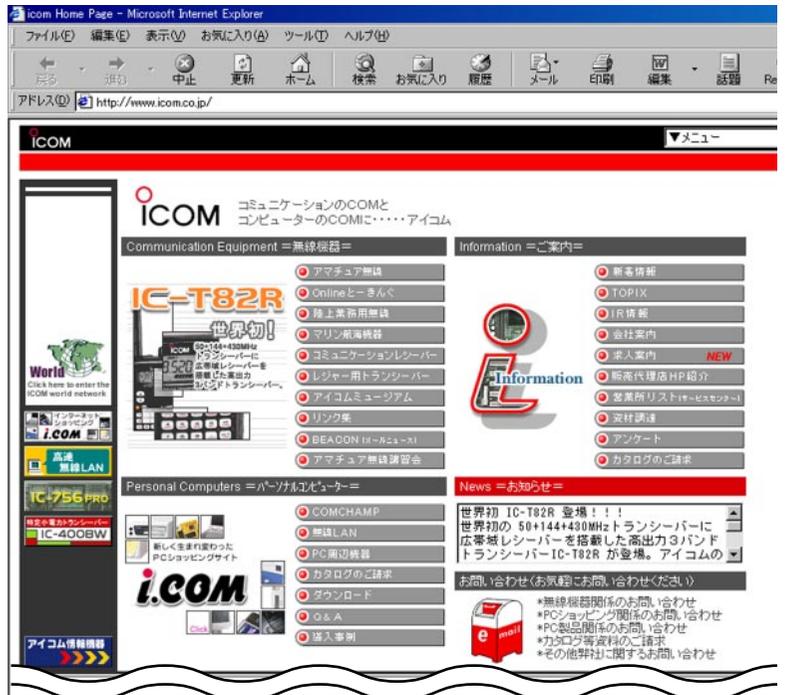
## 7. インターネットWebページの閲覧

操作例として、弊社ホームページを閲覧する場合、以下のように操作します。

1. <http://www.icom.co.jp/>  
を指定



指定したURLのホームページ  
を表示



## 7 ISDNダイヤルアップの設定例集

### 1. プロバイダーへ端末型接続する(つづき)

#### 8.回線の切断

切断には、下記のように、「自動切断」と「手動切断」があります。

##### [8-1 自動切断]

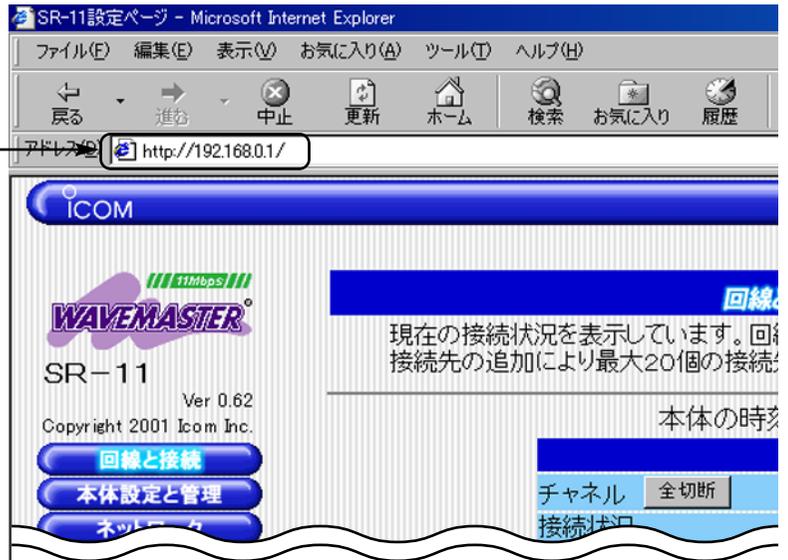
すべての無線および有線端末から、インターネットやメールサーバへのアクセスが150秒(出荷時の設定)以上ない場合は、回線を自動的に切断します。

150秒以上、自動切断されない場合は、ほかにインターネットにアクセスを行っているアプリケーションがないかを調べてください。

自動切断については、取扱説明書[基本編](⇒7-2章)をご覧ください。

##### [8-2 手動切断]

1. <http://192.168.0.1/>を指定



表示される<接続状況>画面で、以下の操作をします。

1. <全切断>をクリック
2. 回線切断後、何も表示しない(確認)



## 1. プロバイダーへ端末型接続する(つづき)

## ㊦ 自動接続する場合

ここで説明する手順は、「64k可変」(出荷時の設定)による設定手順について記載します。

BODについては、6ページの説明をご覧ください。

次の手順にしたがって自動接続の設定を行うと、WWWブラウザやメールソフト等でWebページやメールサーバにアクセスする操作をするだけで、自動的にダイヤルアップ接続が行えます。

自動接続には、下表のような操作が可能です。

設定	接続時の通信速度	BOD	手動操作可能なボタン			
64k固定	64kbps	×	接続	全切断	B1切断	B2切断
128k固定	128kbps	×	接続	全切断	B1切断	B2切断
64k可変	64kbps		接続	全切断	B1切断	B2切断
128k可変	128kbps		接続	全切断	B1切断	B2切断

## 【ご注意】

自動接続をするように設定すると、ネットワークの設定内容や運用によっては、回線が長期接続されたり、意図しない自動接続が行われてしまうことがあります。

設定変更後は、本製品の[B1]ランプまたは[B2]ランプを確認するようにしてください。

## 【条件】

- プロバイダー-A：自動接続

「1.プロバイダーへ端末型接続する(㊦手動接続する場合)」の手順1.～6.にしたがって設定されている状態から、設定の追加を行います。

## 【手順】

1.設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

2.自動接続設定

<aaaの設定>をクリックして、「自動接続」、「通信速度」を以下の要領で設定します。

The screenshot shows the '自動接続設定' (Automatic Connection Settings) page. Annotations include:

- 3. クリック**: Points to the '登録' (Register) button at the top left.
- 1. 「する」を選択**: Points to the 'する' (Do) button in the '自動接続' section.
- 2. [ ]をクリックして、「64k可変」を選択**: Points to the dropdown menu for '通信速度' (Communication Speed), which is currently set to '64k可変'.

The interface also shows '接続制限設定' (Connection Limit Settings) and '自動接続制限状況' (Automatic Connection Limit Status) sections.

## 7 ISDNダイヤルアップの設定例集

### 1. プロバイダーへ端末型接続する(つづき)

#### 3.自動接続の確認

<接続状況画面に戻る>をクリックします。

1. 「自動(64k可変)」表示  
を確認



#### 4.インターネットWebページの閲覧

操作例として、弊社ホームページを閲覧する場合、以下のように操作します。

1. <http://www.icom.co.jp/>  
を指定



自動接続して、指定した画面  
を表示

接続できないときは、正しく  
情報が入力されていること  
を確認してください。



## 1. プロバイダーへ端末型接続する(つづき)

## 5. 手動切断

直ちに通信回線を切断したい場合、設定ページ、[接続状況]画面にアクセスして、以下の操作を行います。

2. <B1切断>をクリック
1. 「発信」表示を確認
3. 回線切断後、何も表示しない(確認)

本体の時刻 : 2000年 01月 01日 01時 00分

回線接続状況

チャンネル 全切断 B1 B1切断 B2 B2切断

接続状況

接続先名

相手先電話番号

IPアドレス

接続時間

ISDN接続状況

番号	名称	接続制御	接続方法	登録削除
01	aaa	接続	自動(64k可変)	削除

## 6. 手動「1B接続」の確認

1. 何も表示されていない(確認)
3. 「発信」表示を確認
2. <接続>をクリック

本体の時刻 : 2000年 01月 01日 01時 00分

回線接続状況

チャンネル 全切断 B1 B1切断 B2 B2切断

接続状況

接続先名

相手先電話番号

IPアドレス

接続時間

ISDN接続状況

番号	名称	接続制御	接続方法	登録削除
01	aaa	接続	自動(64k可変)	削除

## 7. 手動「2B接続」の確認

1. 何も表示されていない(確認)
3. 「発信」表示を確認
2. <接続>をクリック

本体の時刻 : 2000年 01月 01日 01時 00分

回線接続状況

チャンネル 全切断 B1 B1切断 B2 B2切断

接続状況

接続先名

相手先電話番号

IPアドレス

接続時間

ISDN接続状況

番号	名称	接続制御	接続方法	登録削除
01	aaa	接続	自動(64k可変)	削除

接続できないときは、接続先のプロバイダがMP接続に対応していることを確認してください。

# 7 ISDNダイヤルアップの設定例集

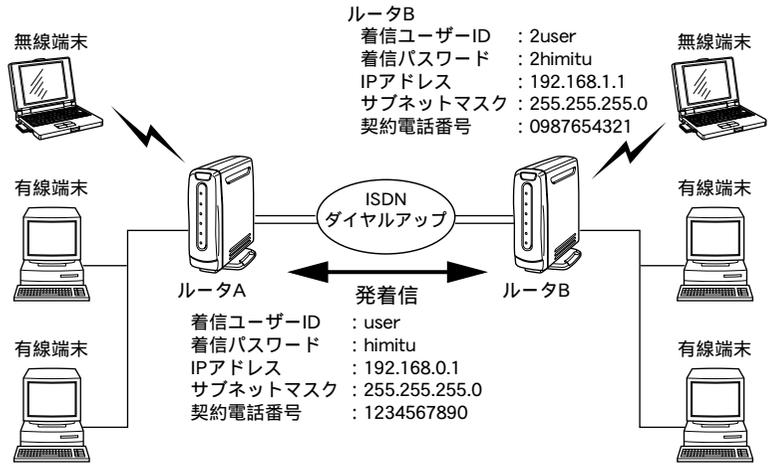
## 2. 二地点間のLAN型接続

### 【認証条件】

- 着信番号
- ユーザーID
- パスワード
- PAP/CHAP

### 【その他の条件】

- Unnumbered接続
- 双方から発着信可能



### ルータAの設定

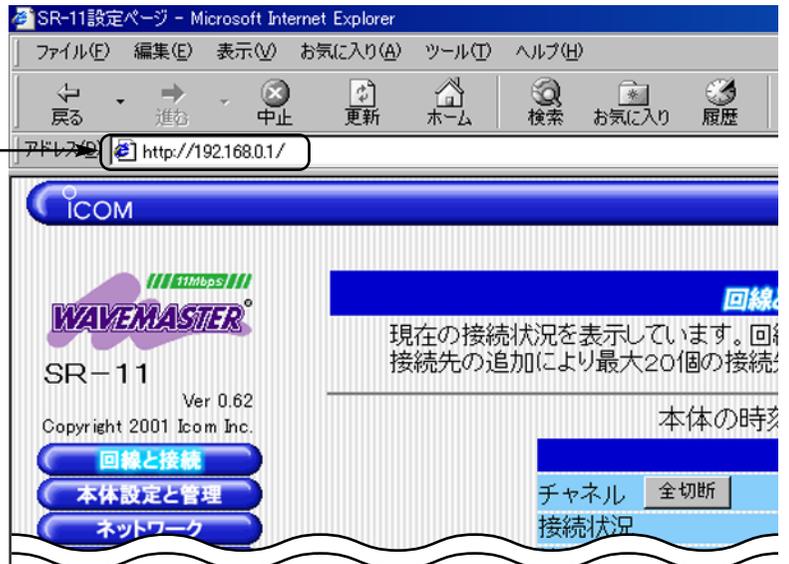
#### 【手順】

1. 設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

本製品のIPアドレスは、出荷時の状態(192.168.0.1)とします。

1. http://192.168.0.1/  
を指定



## 2. 二地点間のLAN型接続(つづき)

## 2. 接続先設定

<接続先の追加>をクリックして、接続先情報を以下のように設定します。

5. クリック	<input type="button" value="登録"/>
---------	-----------------------------------

1. bbb(任意でよい)	接続先名	bbb	
2. 0987654321	電話番号1	0987654321	* 以降はサブアドレス
	電話番号2		* 以降はサブアドレス
	電話番号3		* 以降はサブアドレス
3. 2user	ユーザID	2user	
	パスワード	*****	
4. 2himitu (表示: * * * * *)	認証プロトコル	相手に合わせる	
	デフォルトGWを構築	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する	
	コールバック要求	<input type="radio"/> しない	
	コールバック電話番号		* 以降はサブアドレス
	プライマリDNSサーバ		
	セカンダリDNSサーバ		

スループットBOD			<input type="button" value="登録"/>	<input type="button" value="取消"/>
BODを使用	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する	BODを使用する場合は、通信速度を可変しておく必要があります。		
移行トラフィック量	1B→2B	75 %	55～95の範囲で記載	
	2B→1B	25 %	5～45の範囲で記載	

マルチダイヤル機能(⇐P3)を使用する場合は、「電話番号2」、「電話番号3」も入力必要。

プライマリDNSサーバ、セカンダリDNSサーバの欄は、接続先から指定された場合に入力します。

## 3. 着信設定

<着信>をクリックして、ルータBからの着信について、以下のように設定します。

6. クリック	<input type="button" value="登録"/>
---------	-----------------------------------

1. 「する」を選択	着信	<input checked="" type="radio"/> する	
2. 「する」を選択	電話番号チェック	<input checked="" type="radio"/> する	
3. user	通信チャンネル	2Bまで許可	
	PAPによる着信	許可	
	コールバック	不許可	
4. himitu (表示: * * * * *)	コールバック電話番号		* 以降はサブアドレス
	ユーザID	user	
	パスワード	*****	
5. 「PAPまたはCHAP」を選択	認証方法	PAPまたはCHAP	
	着信を許可する時間帯	00 : 00 ~ 00 : 00	

## 4. アドレス変換の確認

<アドレス変換>をクリックして、アドレス変換設定を確認します。

2. クリック	<input type="button" value="登録"/>
---------	-----------------------------------

1. 「しない」を確認	アドレス変換	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	
	マスカレードIPアドレス		本体WAN側Pを使用する場合は記載不要です。

静的マスカレードテーブル設定				<input type="button" value="登録"/>	<input type="button" value="取消"/>
登録の追加					
ローカルIP	プロトコル	開始ポート	終了ポート		
	TCP			<input type="button" value="追加"/>	
現在の登録					
ローカルIP	プロトコル	開始ポート	終了ポート		

## 7 ISDNダイヤルアップの設定例集

### 2. 二地点間のLAN型接続(つづき)

#### 5. 管理者IDの設定

必要であれば設定します。

<設定と管理>メニューをクリックして、管理者ID、パスワードを設定します。

3. クリック

1. router(任意)

2. 任意の英数字を入力  
入力値は表示されません。

項目	設定値
管理者ID	router
管理者/パスワード	****
パスワードの確認入力	****
使用者ID	
使用者/パスワード	
パスワードの確認入力	
手動接続・切断を許可	<input type="radio"/> する
接続設定編集を許可	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
通信記録表示・クリアを許可	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する

#### 6. 本体名称の設定

必要であれば設定します。

<ネットワーク>メニューをクリックして、本体名称を設定します。

2. クリック

1. SR-11(任意)

項目	設定値
本体名称	SR-11
IPアドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0
リモートアクセスサーバを使用	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
IPアドレス1	
IPアドレス2	
DHCPサーバ機能を使用	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
割り当て開始IPアドレス	192.168.0.10
割り当て個数	30 個
サブネットマスク	255.255.255.0
リース期間	3 日
ドメイン名	
プライマリDNSサーバ	
セカンダリDNSサーバ	
プライマリWINSサーバ	
セカンダリWINSサーバ	

MACアドレス	IPアドレス

ルータAでは、IPアドレス、サブネットマスクを、出荷時の状態とします

## 2. 二地点間のLAN型接続(つづき)

## 7.無線LANセキュリティの設定

この画面で設定するESS IDを工場出荷時の状態(半角:LG)で使うと、ほかの端末から不正にアクセスされるおそれがありますので、変更することをおすすめします。

無線端末から、本製品のESS IDの設定を変更するときは、この手順で<登録して再起動>操作を行ってから、無線端末のESS IDを同じ値に変更してください。

変更後、無線端末を再起動します。

<無線LAN>をクリックして、無線LANについて、以下のように設定します。

2. クリック

1. 任意の英数字を入力  
入力値は表示されません。

登録して再起動 (アドレス登録以外の設定は再起動後に有効になります。)

**無線LAN設定**

ESS ID: \*\*

ESS IDの確認入力: \*\*

**無線詳細設定** [登録/取消▲]

チャンネル: 14

Rts/Ctsスレッシュホールド: 無し

WEPキーを使用: しない する

キージェネレータ: [ ]

WEPキー:

選択	文字列
<input checked="" type="radio"/> 1	00-00-00-00-00
<input type="radio"/> 2	00-00-00-00-00
<input type="radio"/> 3	00-00-00-00-00
<input type="radio"/> 4	00-00-00-00-00

**MACアドレスセキュリティ設定** [登録/取消▲]

MACアドレスセキュリティを使用: しない する

本体無線部のMACアドレス: 00-90-C7-0B-01-A9

**登録の追加**

MACアドレス: [ ] [追加]

**現在の登録**

登録済みの端末	受信中の端末	通信状況

有線端末から再起動を行った場合、約10秒経過して、[接続状況]画面を表示します。

本体の時刻 : 2000年01月01日 00時13分

**回線接続状況**

チャンネル	全切断	B1	B1切断	B2	B2切断
接続状況					
接続先名					
相手先電話番号					
IPアドレス					
接続時間					

**ISDN接続状況**

番号	名称	接続制御	接続方法	登録削除
01	bbb	接続	手動	削除

ルータBの設定を、次ページを参考に行います。

# 7 ISDNダイヤルアップの設定例集

## 2. 二地点間のLAN型接続(つづき)

ルータBの設定

設定には、80ページの図と併せてご覧ください。

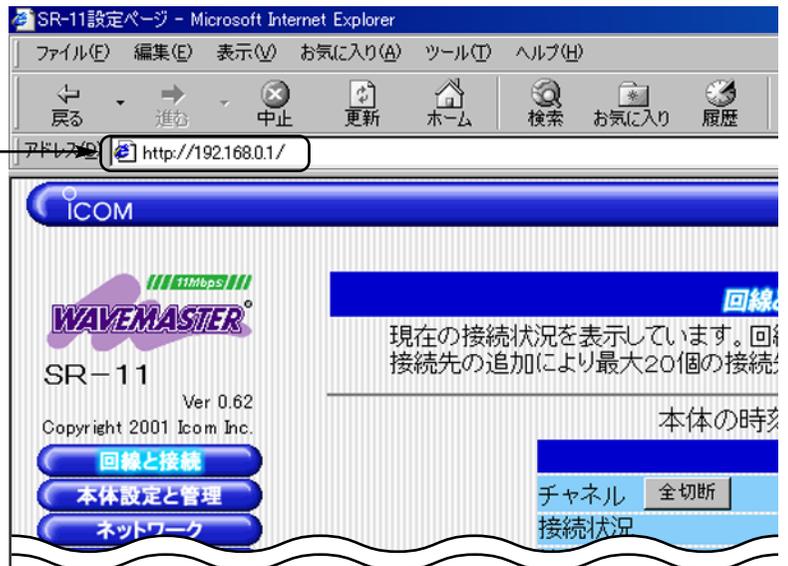
### 【手順】

1. 設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

本製品のIPアドレスは、出荷時の状態(192.168.0.1)とします。

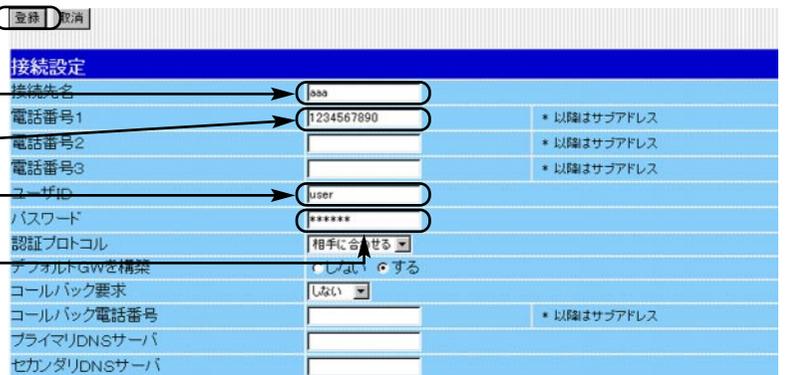
1. http://192.168.0.1/  
を指定



2. 接続先設定

<接続先の追加>をクリックして、接続先情報を以下のように設定します。

- 5. クリック
- 1. aaa(任意でよい)
- 2. 1234567890
- 3. user
- 4. himitu  
(表示: \* \* \* \* \*)



マルチダイヤル機能(⇄P3)を使用する場合は、「電話番号2」、「電話番号3」に入力が必要。  
プライマリDNSサーバ、セカンダリDNSサーバの欄は、接続先から指定された場合に入力します。

## 2. 二地点間のLAN型接続(つづき)

## 3. 着信設定

<着信>をクリックして、ルータAからの着信について、以下のように設定します。

6. クリック

1. 「する」をクリック

2. 「する」をクリック

3. 2user

4. 2himitu  
(表示: \* \* \* \* \*)

5. 「PAPまたはCHAP」を選択

## 4. アドレス変換の確認

<アドレス変換>をクリックして、アドレス変換設定を確認します。

2. クリック

1. 「しない」を確認

## 5. 管理者IDの設定

必要であれば設定します。

<設定と管理>メニューをクリックして、管理者ID、パスワードを設定します。

3. クリック

1. router(任意)

2. 任意の英数字を入力  
入力値は表示されません。

## 7 ISDNダイヤルアップの設定例集

### 2. 二地点間のLAN型接続(つづき)

#### 6. 本体名称の設定

<ネットワーク>メニューをクリックして、本体名称、IPアドレスを設定します。

5. クリック	登録	登録して再起動	このページの設定は再起動後に有効になります。 再起動が必要な項目が変更されています。
1. SR-11B(任意)	本体名称/IPアドレス設定	本体名称	SR-11B
2. 192.168.1.1	IPアドレス	IPアドレス	192.168.1.1
3. 255.255.255.0	サブネットマスク	サブネットマスク	255.255.255.0
	リモートアクセス用IP設定		登録/取消▲
	リモートアクセスサーバを使用	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する	
	IPアドレス1		DHCPの割り当て範囲と重ならないように設定します。
	IPアドレス2		
	DHCPサーバ設定		登録/取消▲
	DHCPサーバ機能を使用	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する	
4. 192.168.1.10	割り当て開始IPアドレス	割り当て開始IPアドレス	192.168.1.10
	割り当て個数	割り当て個数	30 個
	サブネットマスク	サブネットマスク	255.255.255.0
	リース期間	リース期間	3 日
	ドメイン名	ドメイン名	
	プライマリDNSサーバ	プライマリDNSサーバ	DNSサーバの代理応答機能を使用する場合は無効となります。
	セカンダリDNSサーバ	セカンダリDNSサーバ	
	プライマリWINSサーバ	プライマリWINSサーバ	
	セカンダリWINSサーバ	セカンダリWINSサーバ	
	静的DHCPサーバ設定		登録/取消▲
	登録の追加		
	MACアドレス	IPアドレス	追加
	現在の登録		
	MACアドレス	IPアドレス	

本体名称はルータAと重複しないようにします。

ルータAとネットワーク部が異なるIPアドレスを入力します。

IPアドレスのネットワーク部を変更後は、手順6.で<登録して再起動>操作を行ってから、無線端末および有線端末を再起動して、本製品とネットワーク部が同じIPアドレスを取得してください。

## 2. 二地点間のLAN型接続(つづき)

## 7. 無線LANセキュリティの設定

この画面で設定するESS IDを出荷時の設定(半角: LG)で使うと、ほかの端末から不正にアクセスされるおそれがありますので、変更することをおすすめします。

無線端末から、本製品のESS IDの設定を変更するときは、本手順で<登録して再起動>操作を行ってから、無線端末のESS IDを同じ値に変更してください。

変更後、無線端末を再起動します。

<無線LAN>をクリックして、無線LANについて設定します。

2. クリック
1. 任意の英数字を入力  
入力値は表示されません。



約10秒経過して、右の画面を表示しますので、無線端末または有線端末を再起動して、IPアドレスを再取得します。



## 8. 設定ページの表示確認

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.1.1」をアドレスバーに指定して、設定ページにアクセスできることを確認します。

1. http://192.168.1.1/を指定



## 7 ISDNダイヤルアップの設定例集

### 3. LAN型(1B)+端末型(1B)接続

#### 【条件】

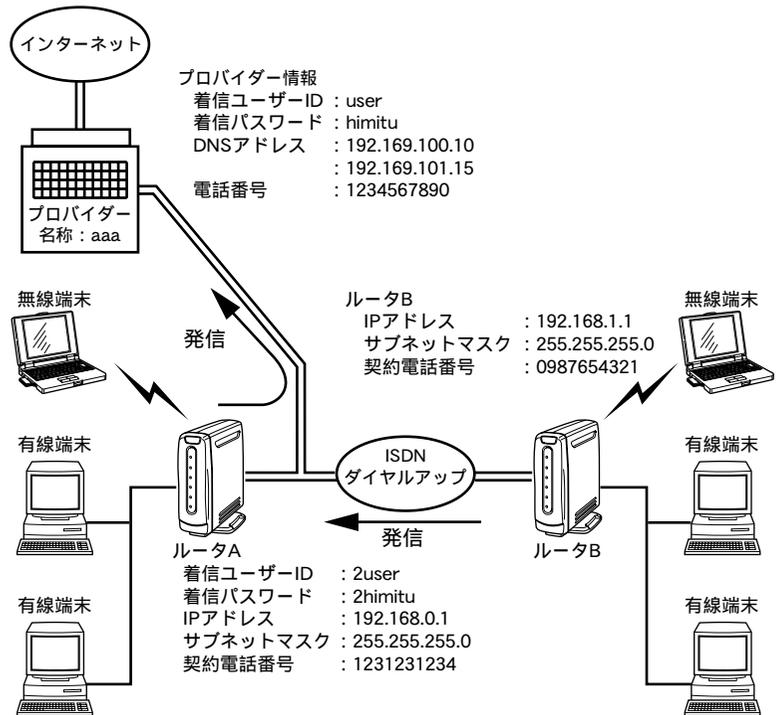
- ルータA  
プロバイダーへ端末型接続  
ルータBからの着信に応じる
- ルータB  
プロバイダーとの契約なし  
ルータAへ発信する

#### 【認証条件】

- 着信番号
- ユーザーID
- パスワード
- PAP/CHAP

#### 【その他の条件】

- Unnumbered接続



ルータAの設定

「1. プロバイダーへ端末型接続する(☑ 手動接続する場合)」の手順1. ~ 5.にしたがって設定されている状態から、設定の追加を行います。

#### 【手順】

1. 設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

1. http://192.168.0.1/  
を指定



## 3. LAN型(1B)+端末型(1B)接続(つづき)

## 2. 接続設定

<接続先の追加>をクリックして、ルータBからの通信を着信するために、以下のように設定します。

6. クリック

1. routerb(任意でよい)	接続先名	routerb	
2. 0987654321	電話番号1	0987654321	* 以降はサブアドレス
3. 2user	電話番号2		* 以降はサブアドレス
	電話番号3		* 以降はサブアドレス
4. 2himitu (表示: * * * * *)	ユーザID	2user	
	パスワード	*****	
5. 「しない」を選択	認証プロトコル	相手に合わせる	
	デフォルトGWを構築	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	
	コールバック要求	しない	
	コールバック電話番号		* 以降はサブアドレス
	プライマリDNSサーバ		
	セカンダリDNSサーバ		

グループットBOD

ここで入力する電話番号は、電話番号チェックの対象とする電話番号です。

## 3. 着信設定

<着信>をクリックして、ルータBからの着信を許可するための認証内容について、以下のように設定します。

6. クリック

1. 「する」を選択	着信	<input checked="" type="radio"/> する <input type="radio"/> しない	
2. 「する」を選択	電話番号チェック	<input checked="" type="radio"/> する <input type="radio"/> しない	
3. 2user	通信チャンネル	2Bまで許可	
	PIAFSによる着信	しない	
4. 2himitu (表示: * * * * *)	コールバック	不許可	
	コールバック電話番号		* 以降はサブアドレス
5. 「PAPまたはCHAP」 を選択	ユーザID	2user	
	パスワード	*****	
	認証方法	IPAPまたはCHAP	
	着信を許可する時間帯	00 : 00 ~ 00 : 00	

## 4. アドレス変換の確認

<アドレス変換>をクリックして、アドレス変換設定を確認します。

2. クリック

1. 「しない」を確認  しない  する

アドレス変換	静的マスカレードテーブル設定		
マスカレードIPアドレス	本体WAN側IPを使用する場合(は記載不要です)。		
登録の追加			
ローカルIP	プロトコル	開始ポート	終了ポート
	TCP		
現在の登録			
ローカルIP	プロトコル	開始ポート	終了ポート
静的NATテーブル設定			
登録の追加			
グローバルIP	-	-	ローカルIP
	-		
現在の登録			
グローバルIP	-	-	ローカルIP

## 7 ISDNダイヤルアップの設定例集

### 3. LAN型(1B)+端末型(1B)接続(つづき)

#### 5.追加接続先の確認

<接続状況画面に戻る>をクリックして、ルータBからの着信用に接続先が追加されたことを確認します。

本体の時刻 : 2000年 01月 01日 00時 01分

回線接続状況					
チャンネル	全切断	B1	B1切断	B2	B2切断
接続状況					
接続先名					
相手先電話番号					
IPアドレス					
接続時間					

ISDN接続状況				
番号	名称	接続制御	接続方法	登録削除
01	aaa	接続	手動	削除
02	routerb	接続	手動	削除

1. 「02」が追加されていることを確認

設定ページを閉じて、以下を参考にルータBの設定を行います。

#### ルータBの設定

設定には、88ページの図と併せてご覧ください。

#### 【手順】

##### 1.設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

本製品のIPアドレスは、出荷時の状態(192.168.0.1)とします。

SR-11設定ページ - Microsoft Internet Explorer

アドレス http://192.168.0.1/

ICOM

WAVEMASTER<sup>®</sup>

SR-11 Ver 0.62  
Copyright 2001 Icom Inc.

回線と接続  
本体設定と管理  
ネットワーク

現在の接続状況を表示しています。回線接続先の追加により最大20個の接続先が追加されます。

本体の時刻

チャンネル 全切断  
接続状況

1. http://192.168.0.1/を指定

## 3. LAN型(1B)+端末型(1B)接続(つづき)

## 2. 接続先設定

<接続先の追加>をクリックして、ルータAに接続するための設定を、以下のように行います。

6. クリック

1. ruterA(任意でよい)

2. 1231231234

3. 2user

4. 2himitu  
(表示: \* \* \* \* \*)

5. 「する」を選択

接続設定	
接続先名	routerA
電話番号1	1231231234
電話番号2	
電話番号3	
ユーザID	2user
パスワード	*****
認証プロトコル	相手に合わせる
デフォルトGWを構築	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
コールバック要求	<input type="radio"/> しない
コールバック電話番号	
プライマリDNSサーバ	
セカンダリDNSサーバ	

マルチダイヤル機能(⇐P3)を使用する場合は、「電話番号2」、「電話番号3」にも入力が必要。

プライマリDNSサーバ、セカンダリDNSサーバは、接続先から指定された場合に入力します。

## 3. 管理者IDの設定

必要であれば設定します。

<設定と管理>メニューをクリックして、管理者ID、パスワードを設定します。

3. クリック

1. router(任意)

2. 任意の英数字を入力  
入力値は表示されません。

管理者ID設定	
管理者ID	router
管理者/パスワード	*****
パスワードの確認入力	*****

使用者ID設定	
<input type="checkbox"/> 使用者ID	
<input type="checkbox"/> 使用者/パスワード	
<input type="checkbox"/> パスワードの確認入力	
<input type="checkbox"/> 手動接続・切断を許可	する
<input type="checkbox"/> 接続設定編集を許可	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
<input type="checkbox"/> 通信記録表示・クリアを許可	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
<input type="checkbox"/> 使用者ID	
<input type="checkbox"/> 使用者/パスワード	
<input type="checkbox"/> パスワードの確認入力	
<input type="checkbox"/> 手動接続・切断を許可	する
<input type="checkbox"/> 接続設定編集を許可	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
<input type="checkbox"/> 通信記録表示・クリアを許可	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
<input type="checkbox"/> 使用者ID	
<input type="checkbox"/> 使用者/パスワード	
<input type="checkbox"/> パスワードの確認入力	
<input type="checkbox"/> 手動接続・切断を許可	する
<input type="checkbox"/> 接続設定編集を許可	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
<input type="checkbox"/> 通信記録表示・クリアを許可	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する

## 7 ISDNダイヤルアップの設定例集

### 3. LAN型(1B)+端末型(1B)接続(つづき)

#### 4. 本体名称の設定

<ネットワーク>メニューをクリックして、本体名称、IPアドレスを設定します。

5. クリック

1. SR-11B(任意)

2. 192.168.1.1

3. 255.255.255.0

4. 192.168.1.10

本体名称/IPアドレス設定	
本体名称	SR-11B
IPアドレス	192.168.1.1
サブネットマスク	255.255.255.0

リモートアクセス用IP設定	
リモートアクセスサーバを使用	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
IPアドレス1	
IPアドレス2	

DHCPサーバ設定	
DHCPサーバ機能を使用	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
割り当て開始IPアドレス	192.168.1.10
割り当て個数	30 個
サブネットマスク	255.255.255.0
リース期間	3 日
ドメイン名	
プライマリDNSサーバ	
セカンダリDNSサーバ	
プライマリWINSサーバ	
セカンダリWINSサーバ	

静的DHCPサーバ設定	
登録の追加	
MACアドレス	IPアドレス
	追加
現在の登録	
MACアドレス	IPアドレス

本体名称は、ルータAと重複しないようにします。

ルータAとネットワーク部が異なるIPアドレスを入力します。

IPアドレスのネットワーク部を変更後は、手順6.で<登録して再起動>操作を行ってから、無線端末および有線端末を再起動して、本製品とネットワーク部が同じIPアドレスを取得してください。

## 3. LAN型(1B)+端末型(1B)接続(つづき)

## 5.無線LANセキュリティの設定

この画面で設定するESS IDを出荷時の設定(半角 : LG)で使うと、ほかの端末から不正にアクセスされるおそれがありますので、変更することをおすすめします。

無線端末から、本製品のESS IDの設定を変更するときは、この手順で<登録して再起動>操作を行ってから、無線端末のESS IDを同じ値に変更してください。

変更後、無線端末を再起動します。

2. クリック

1. 任意の英数字を入力  
入力値は表示されません。

登録 / 取消 ▲ 登録して再起動 登録登録以外の設定は再起動後に有効となります。

**無線LAN設定**

ESS ID  この項目の設定は再起動後に有効になります。

ESS IDの確認入力

**無線詳細設定** 登録 / 取消 ▲

チャンネル 14 ▼

Rts/Ctsスレッシュホールド 無し ▼

WEPキーを使用  しない  する

キージェネレータ

WEPキー

選択	文字列
<input checked="" type="radio"/> 1	00-00-00-00-00
<input type="radio"/> 2	00-00-00-00-00
<input type="radio"/> 3	00-00-00-00-00
<input type="radio"/> 4	00-00-00-00-00

**MACアドレスセキュリティ設定** 登録 / 取消 ▲

MACアドレスセキュリティを使用  しない  する この項目の設定は再起動後に有効になります。

本体無線部のMACアドレス 00-90-C7-0B-01-A9

**登録の追加**

MACアドレス  追加

**現在の登録**

登録済みの端末	受信中の端末	通信状況

約10秒経過して、右の画面を表示しますので、無線端末または有線端末を再起動して、IPアドレスを再取得します。



## 7 ISDNダイヤルアップの設定例集

### 3. LAN型(1B)+端末型(1B)接続(つづき)

#### 6.設定ページの表示確認

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.1.1」をアドレスバーに指定し、本製品の設定ページにアクセスできることを確認します。

1. http://192.168.1.1/  
を指定



#### 7.[接続状況]画面の確認

接続状況画面の名称欄に「routerA」が表示されることを確認します。

1. 「routerA」が表示され  
ることを確認

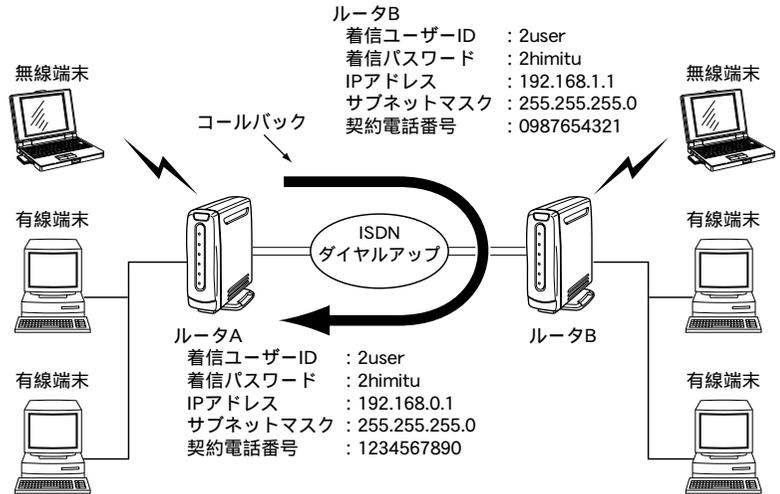


確認後、設定ページを閉じます。

## 4. コールバックによるLAN型接続

## 【条件】

- ルータAがCBCPで要求



ルータAの設定

「2. 二地点間のLAN型接続(ルータAの設定)」の手順1.~8.にしたがって設定されている状態から、設定の追加を行います。

## 【手順】

1. 設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

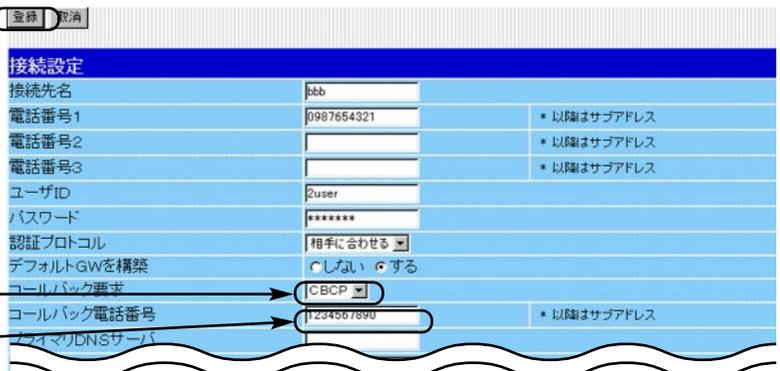
1. http://192.168.0.1/  
を指定



2. コールバック発信設定

<bbbの設定>をクリックして、コールバックについて設定します。

3. クリック



1. 「CBCP」を選択
2. 1234567890

登録後、設定ページを閉じます。

## 7 ISDNダイヤルアップの設定例集

### 4. コールバックによるLAN型接続(つづき)

ルータBの設定

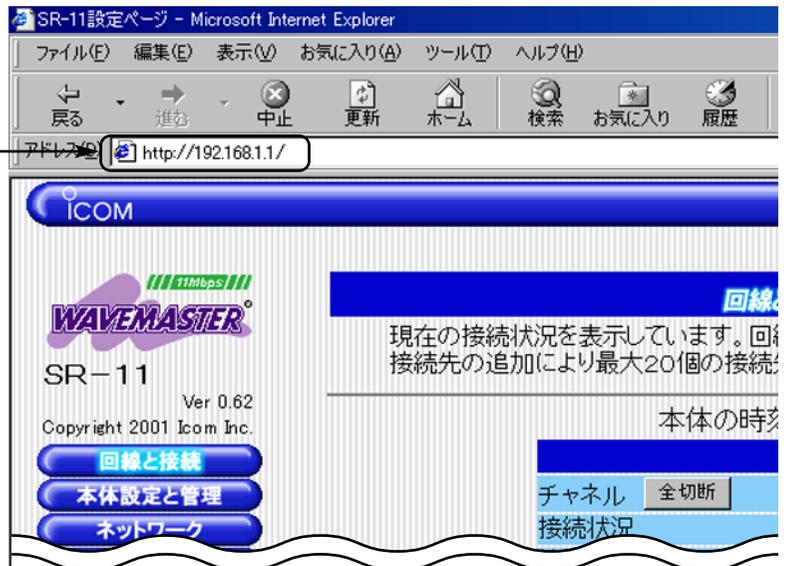
「2. 二地点間のLAN型接続( ルータBの設定)」の手順1.~7.にしたがって設定されている状態から、設定の追加を行います。

#### 【手順】

#### 1.設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.1.1」をアドレスバーに指定します。

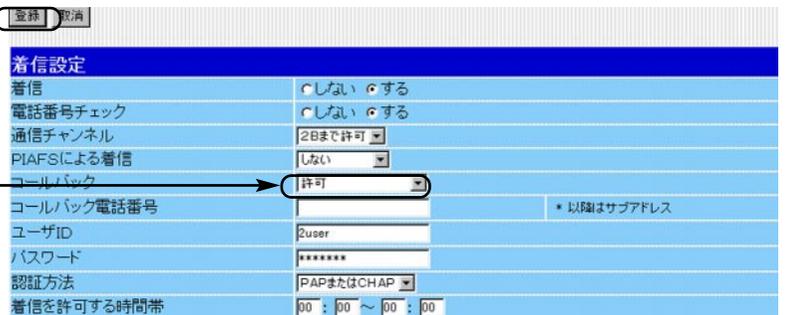
1. http://192.168.1.1/  
を指定



#### 2.コールバック着信設定

<着信>メニューをクリックして、「コールバック」で「許可」を選択し、<登録>をクリックします。

2. クリック



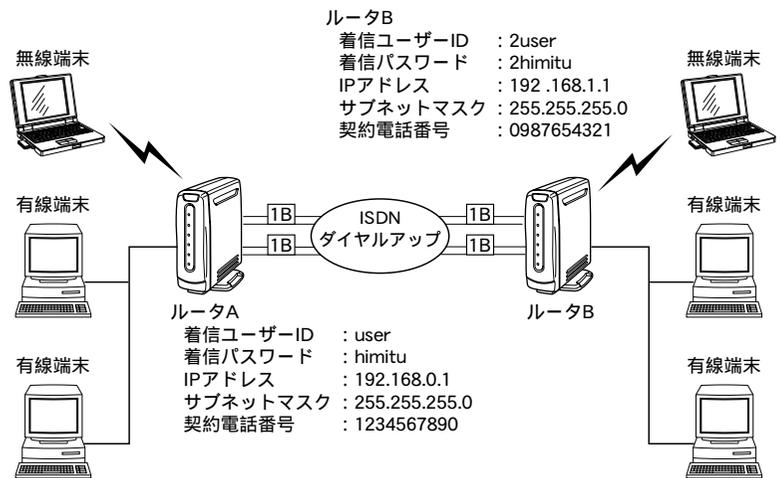
1. 「許可」を選択

登録後、設定ページを閉じます。

## 5. スループットBODによるLAN型接続

## 【条件】

- 接続先が、MP接続に対応していること
- トラフィック量(出荷時の設定)
  - 75%以上 : 2B=1B+1B
  - 25%以上 : 1B=2B-1B



## ルータAの設定

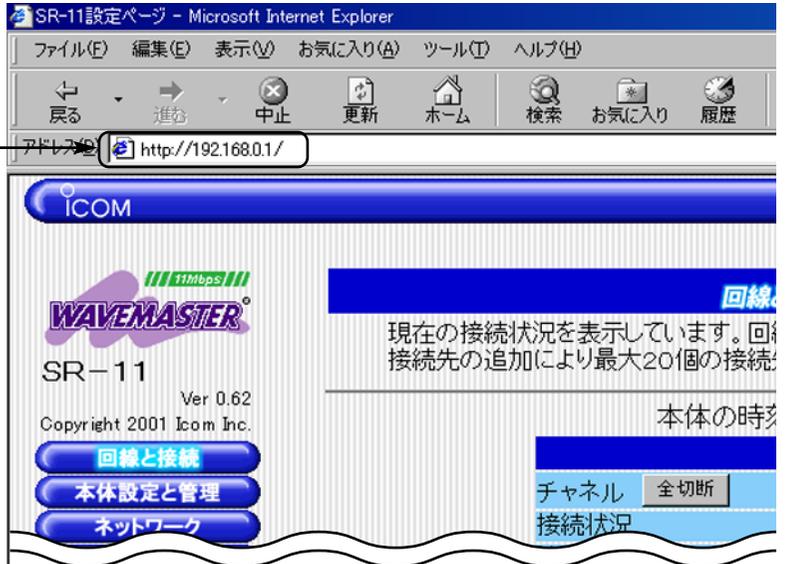
「2. 二地点間のLAN型接続(ルータAの設定)」の手順1.~7.にしたがって設定されている状態から、設定の追加を行います。

## 【手順】

1. 設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

1. http://192.168.0.1/  
を指定



# 7 ISDNダイヤルアップの設定例集

## 5. スループットBODによるLAN型接続(つづき)

### 2. BODの設定

<bbbの設定>をクリックして、「BODを使用」を「する」に設定します。

2. クリック

1. 「する」を選択

接続設定		
接続先名	bbb	
電話番号1	0987654321	* 以降はサブアドレス
電話番号2		* 以降はサブアドレス
電話番号3		* 以降はサブアドレス
ユーザID	2user	
パスワード	*****	
認証プロトコル	相手に合わせる	
デフォルトGWを構築	<input type="checkbox"/> しない <input checked="" type="checkbox"/> する	
コールバック要求	しない	
コールバック電話番号		* 以降はサブアドレス
プライマリDNSサーバ		
セカンダリDNSサーバ		

スループットBOD			登録/取消▲
BODを使用	<input checked="" type="checkbox"/> する		BODを使用するには、通信速度を可変しておく必要があります。
移行トラフィック量	1B→2B 75 %	65~95の範囲で記載	
	2B→1B 25 %	5~45の範囲で記載	

### 3. 自動接続設定

<自動接続>をクリックして、「自動接続」を「する」、「通信速度」を「64k可変」に設定します。

3. クリック

1. 「する」を選択

2. をクリックして、「64k可変」を選択

自動接続設定		登録/取消▲
自動接続	<input checked="" type="checkbox"/> する	
通信速度	64k可変	

接続制限設定		登録/取消▲
料金による制限	0 円 / 月	
接続回数による制限	0 回 / 日	
通算接続時間による制限	0 分	
接続可能な時間帯	00 : 00 ~ 00 : 00	
終了時刻で強制切断	<input type="checkbox"/> しない <input checked="" type="checkbox"/> する	

自動接続制限状況		登録/取消▲
料金制限 (料金/リセット時刻)	0円/2000/01/01 00:00	
回数制限 (回数/リセット時刻)	0回/2000/01/01 00:00	
時間制限 (通算接続時間)	0分	

### 4. 自動接続設定の確認

<接続状況画面に戻る>をクリックして、「接続方法」欄に「自動(64k可変)」と表示されていることを確認します。

1. 「自動(64k可変)」と表示

本体の時刻 : 2000年 01月 01日 00時 20分

回線接続状況					
チャンネル	全切断	B1	B1切断	B2	B2切断
接続状況					
接続先名					
相手先電話番号					
IPアドレス					
接続時間					

ISDN接続状況				
番号	名称	接続制御	接続方法	登録/削除
01	bbb	接続	自動(64k可変)	削除

設定ページを閉じて、ルータBの設定を行います。

## 5. スループットBODによるLAN型接続(つづき)

ルータBの設定

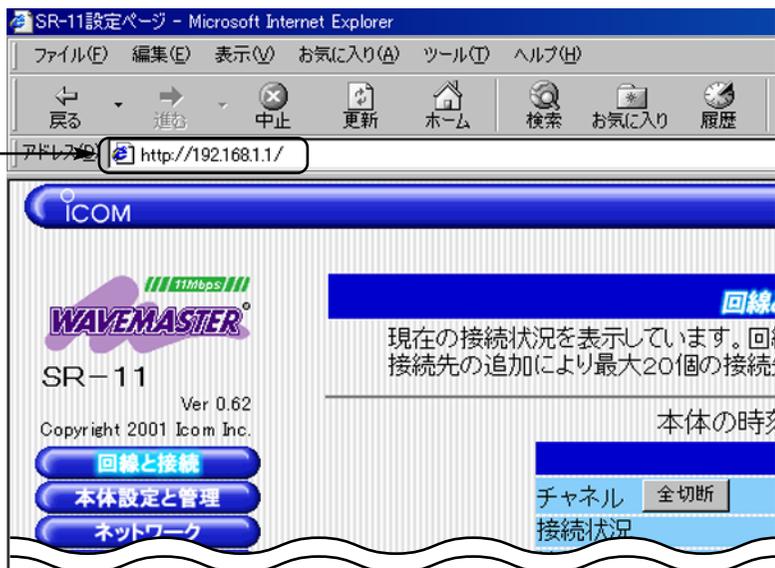
「2. 二地点間のLAN型接続(ルータBの設定)」の手順1.~7.にしたがって設定されている状態から、設定の追加を行います。

## 【手順】

## 1. 設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.1.1」をアドレスバーに指定します。

1. http://192.168.1.1/  
を指定



## 2. BODの設定

<aaaの設定>をクリックして、「BODを使用」を「する」に設定します。

2. クリック



1. 「する」を選択

## 7 ISDNダイヤルアップの設定例集

### 5. スループットBODによるLAN型接続(つづき)

#### 3.自動接続設定

<自動接続>をクリックして、「自動接続」を「する」、「通信速度」を「64k可変」に設定します。

3. クリック

1. 「する」を選択

2. をクリックして、「64k可変」を選択

自動接続設定	
自動接続	<input checked="" type="checkbox"/> する
通信速度	64k可変
接続制限設定	
料金による制限	0 円 / 月
接続回数による制限	0 回 / 日
通算接続時間による制限	0 分
接続可能な時間帯	00 : 00 ~ 00 : 00
終了時刻で強制切断	<input type="radio"/> しぬい <input checked="" type="radio"/> する
自動接続制限状況 <input type="button" value="リセット"/>	
料金制限 (料金 / リセット時刻)	0円 / 2000/01/01 00:00
回数制限 (回数 / リセット時刻)	0回 / 2000/01/01 00:00
時間制限 (通算接続時間)	0分

#### 4.自動接続設定の確認

<接続状況画面に戻る>をクリックして、「接続方法」欄に「自動(64k可変)」と表示されていることを確認します。

1. 「自動(64k可変)」と表示

本体の時刻 : 2000年01月01日00時22分

回線接続状況					
チャンネル	全切断	B1	B1切断	B2	B2切断
接続状況					
接続先名					
相手先電話番号					
IPアドレス					
接続時間					

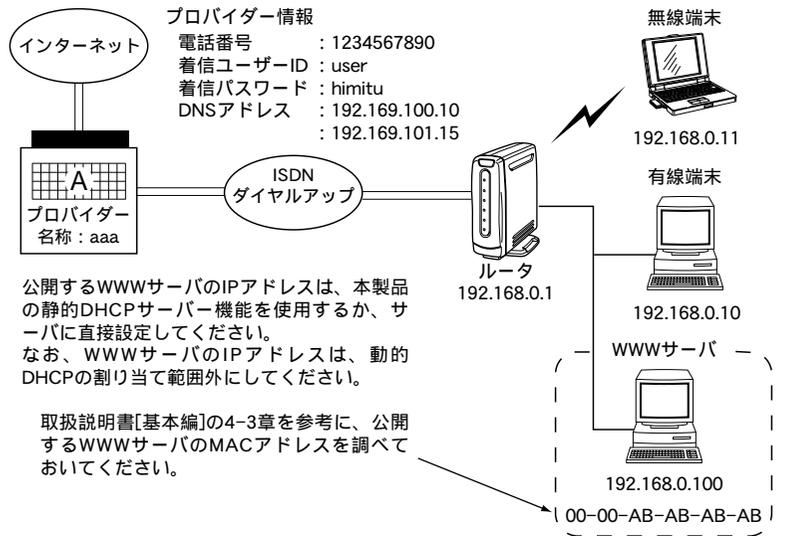
ISDN接続状況				
番号	名称	接続制御	接続方法	登録削除
01	aaa	接続	自動(64k可変)	削除

確認後、設定ページを閉じます。

## 6. 静的IPマスカレード機能によるWWWサーバの公開

## 【条件】

- 手動接続
- プロバイダーと64kbpsで契約
- 自動切断をしない
- WWWサーバのIPアドレス  
192.168.0.100  
ルータから常に上記のIPアドレスを自動取得します。  
サーバは、IPアドレスを自動取得する設定にします。
- プロバイダーから取得したグローバルIPを利用してWWWサーバを公開する



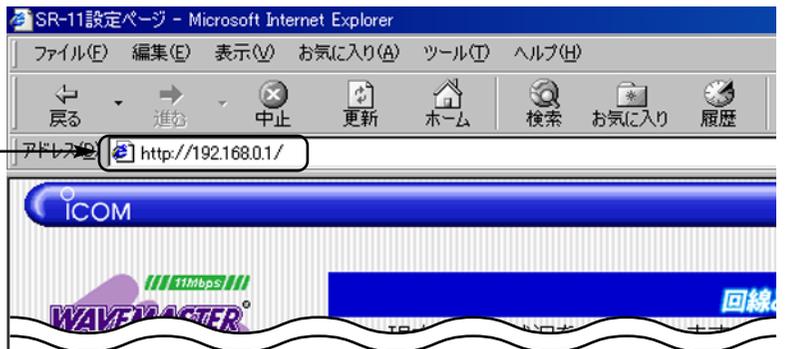
「1. プロバイダーへ端末型接続する( [A] 手動接続する場合 )」の手順1. ~ 5.にしたがって設定されている状態から、設定の追加を行います。

## 【手順】

## 1. 設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

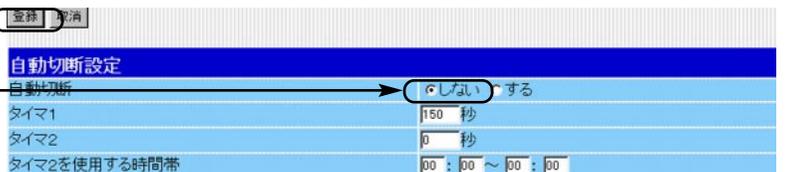
1. http://192.168.0.1/  
を指定



## 2. 自動切断設定

<aaaの設定>、<自動切断>の順にクリックして、「自動切断」を「しない」に設定します。

2. クリック



1. 「しない」を選択

## 7 ISDNダイヤルアップの設定例集

### 6. 静的IPマスカレード機能によるWWWサーバの公開(つづき)

#### 3. アドレス変換と静的マスカレードテーブルの設定

<アドレス変換>をクリックして、以下のように設定します。

8. クリック	登録
1. 「する」を選択	アドレス変換設定
5. 80	アドレス変換 <input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
4. 80	静的マスカレードテーブル設定
3. 「TCP」を選択	登録の追加
2. 192.168.0.100	ローカルIP
6. クリック	プロトコル
7. 2.~5.で設定した内容を表示(確認)	静的NATテーブル設定

#### 5. 静的DHCPサーバの設定

<ネットワーク>メニューの<本体ネットワーク設定>をクリックして、公開するWWWサーバのMACアドレスとIPアドレスを設定します。

5. クリック	登録して再起動
3. クリック	静的DHCPサーバ設定
2. 192.168.0.100	割り当て開始IPアドレス
1. 00-00-AB-AB-AB-AB	割り当て個数
4. 1.、2.で設定した内容を表示(確認)	現在の登録

本製品の再起動を開始します。

約10秒経過して、[接続状況]画面を表示します。

## 6. 静的IPマスカレード機能によるWWWサーバの公開(つづき)

## 6.回線の手動接続と切断

「1. プロバイダーへ端末型接続する(☑ 手動接続する場合)」の手順6. ~ 8.に従ってプロバイダーに接続し、公開するWWWサーバのグローバルIPアドレスを取得します。

本体の時刻 : 2000年 01月 01日 07時 58分

回線接続状況					
チャンネル	全切断	B1	B1 切断	B2	B2 切断
接続状況					
接続先名					
相手先電話番号					
IPアドレス					
接続時間					

ISDN接続状況				
番号	名称	接続制御	接続方法	登録削除
01	aaa	接続	手動	削除

## 7.取得したIPアドレスの確認

<通信記録>メニューをクリックして、手順6.で取得したIPアドレスを確認します。

クリア

日付・時間		通信記録
03/09 09:42:42	01[aaa]MP bundleup	
03/09 09:42:42	01[aaa]CHAP認証成功	
03/09 09:42:42	01[aaa]LCP established	
03/09 09:42:38	aaaに接続	
03/09 09:42:39	01[aaa]IPCP	[Local IP [100.100.100.100] Remote IP [200.200.200.200]] Primary DNS [111.111.111.111] : Secondary DNS [222.222.222.222]
03/09 09:42:39	01[aaa]BACP UP	
03/09 09:42:39	01[aaa]CHAP認証成功	
03/09 09:42:37	01[aaa]LCP established	
03/09 09:42:33	aaaに接続	
03/09 09:42:33	aaa 手動接続要求 番号(1234567890)	

プロバイダーから取得した  
IPアドレス(確認)

確認後、設定ページを閉じます。

# 7 ISDNダイヤルアップの設定例集

## 7. 公衆回線からLANに接続

### 【ルータの条件】

リモートアクセス用IPアドレス

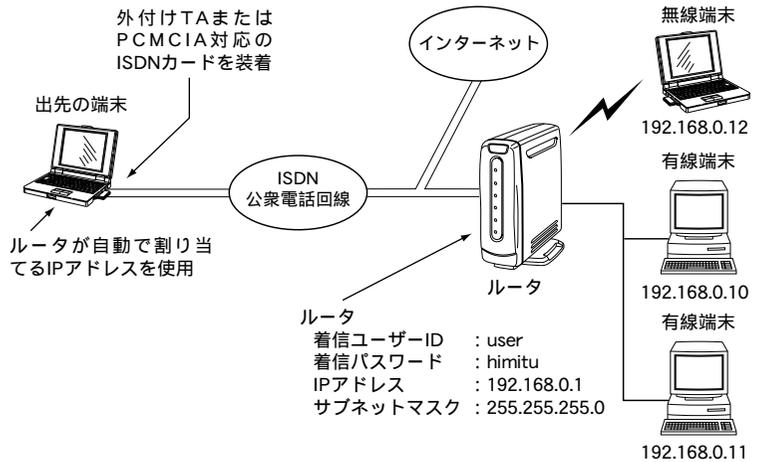
- 192.168.0.100
- 192.168.0.101

### 【出先端末の条件】

- ISDN公衆電話を使用
- PPPソフトのインストール
- TAまたはISDNカードの装着

### 【認証条件】

- ユーザーID
- パスワード
- PAP/CHAP



「1. プロバイダーへ端末型接続する(Ⓐ 手動接続する場合)」の手順1. ~ 7.にしたがって設定されている状態から、設定の追加を行います。

### 【手順】

1. 設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

1. http://192.168.0.1/  
を指定



## 7. 公衆回線からLANに接続(つづき)

## 2. 新規接続先画面の表示

<接続先の追加>をクリックして、リモートアクセス用として、接続先を追加します。

2. クリック

1. remote(任意でよい)

接続設定			登録/取消▲
接続先名	remote		
電話番号1			* 以降はサブアドレス
電話番号2			* 以降はサブアドレス
電話番号3			* 以降はサブアドレス
ユーザID			
パスワード			
認証プロトコル	相手に合わせる ▼		
デフォルトGWを構築	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する		
コールバック要求	しない ▼		
コールバック電話番号			* 以降はサブアドレス
プライマリDNSサーバ			
セカンダリDNSサーバ			
スループットBOD			登録/取消▲
BODを使用	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する		BODを使用するには、通信速度を可変しておく必要があります。
移行	1B→2B	75 %	55~95の範囲で記載
トラフィック量	2B→1B	25 %	5~45の範囲で記載

## 3. 着信の設定

<着信>をクリックして、出先からの着信に関する設定を行います。

6. クリック

1. 「する」を選択

2. 「しない」を選択

3. user

4. himitu  
(表示: \* \* \* \* \*)

5. 「PAPまたはCHAP」を選択

着信設定			登録/取消▲
着信	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する		
電話番号チェック	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する		
通信チャンネル	2Bまで許可 ▼		
PIAFGによる着信	しない ▼		
コールバック	不許可 ▼		
コールバック電話番号			* 以降はサブアドレス
ユーザID	user		
パスワード	*****		
認証方法	PAPまたはCHAP ▼		
着信を許可する時間帯	00 : 00 ~ 00 : 00		

## 7 ISDNダイヤルアップの設定例集

### 7. 公衆回線からLANに接続(つづき)

#### 4. アドレス変換設定

<アドレス変換>をクリックして、「アドレス変換」で「しない」を設定します。

2. クリック

1. 「しない」を選択

静的マスカレードテーブル設定				登録/取消▲
登録の追加	ローカルIP	プロトコル	開始ポート	終了ポート
		TCP		
現在の登録	ローカルIP	プロトコル	開始ポート	終了ポート

静的NATテーブル設定				登録/取消▲
登録の追加	グローバルIP	-	ローカルIP	
		-		追加
現在の登録	グローバルIP	-	ローカルIP	

#### 5. リモートアクセス用IPアドレスの設定

<ネットワーク>メニューをクリックして、リモートアクセス用のIPアドレスを設定します。

4. クリック

1. 「する」を選択

2. 192.168.0.100

3. 192.168.0.101

本体名称/IPアドレス設定	
本体名称	SR-11
IPアドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0

リモートアクセス用IP設定		登録/取消▲
リモートアクセスサーバを使用	しない / <b>する</b>	
IPアドレス1	192.168.0.100	DHCPの割り当て範囲と重ならないように設定します。
IPアドレス2	192.168.0.101	

DHCPサーバ設定		登録/取消▲
DHCPサーバ機能を使用	しない / <b>する</b>	
割り当て開始IPアドレス	192.168.0.10	
割り当て個数	80 個	
サブネットマスク	255.255.255.0	
リース期間	8 日	
ドメイン名		
プライマリDNSサーバ		DNSサーバの代理応答機能を使用する場合は無効となります。
セカンダリDNSサーバ		
プライマリWINSサーバ		
セカンダリWINSサーバ		

静的DHCPサーバ設定			登録/取消▲
登録の追加	MACアドレス	IPアドレス	追加
現在の登録	MACアドレス	IPアドレス	

再起動後、設定ページを閉じます。

## 7. 公衆回線からLANに接続(つづき)

**【出先端末の設定について】** 出先の端末からルータに電話をかけるには、ご使用のOSに対応するPPPソフトが必要です。

Windows95/98/NTでは、一般的に「ダイヤルアップネットワーク」を使用します。インストールについては、OSのヘルプで“ダイヤルアップネットワーク”についての項目をご覧ください。

Macintoshでは、一般的に「Open Transport/PPP」を使用します。詳しくは、OSのヘルプで“PPP”または“リモートアクセス”についての項目をご覧ください。

**【出先端末からインターネットに接続するには】**

接続先が使用するルータの[接続状況]画面の<接続>ボタンで行う(手動発信)か、自動接続を設定している場合は、自分のWWWブラウザから直接、URLを指定してアクセスしてください。

# 7 ISDNダイヤルアップの設定例集

## 8. PHSからLANに接続

### 【出先端末の条件】

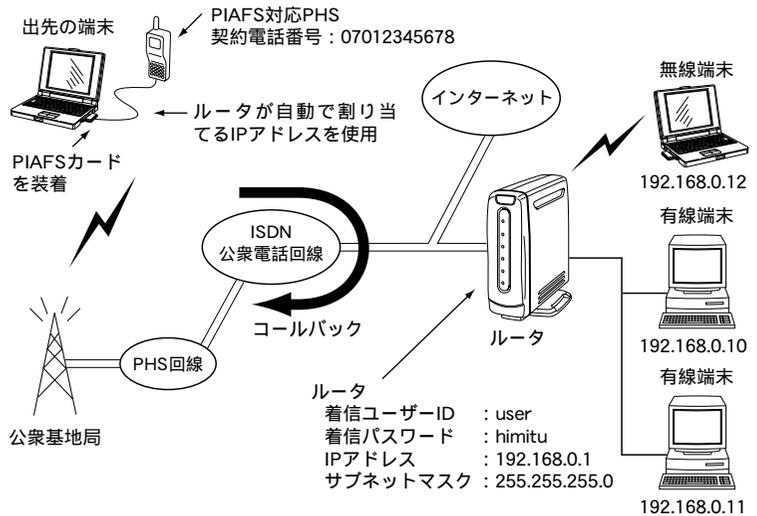
- PHSを使用
- PPPソフトのインストール
- PIAFSカードの装着

### 【ルータの条件】

- コールバック電話号を指定  
07012345678
- リモートアクセス用  
IPアドレス  
192.168.00100  
192.168.00101
- 出先の端末(PHS)からのコールバック着信を許可する

### 【認証条件】

- 電話番号
- ユーザーID
- パスワード
- PAP/CHAP



PIAFS(64kbps)は、Ver.2.0(NTT DoCoMo方式)にだけ対応しています。

「1. プロバイダーへ端末型接続する(A 手動接続する場合)」の手順1.~7.にしたがって設定されている状態から、設定の追加を行います。

### 【手順】

- 1.設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

1. http://192.168.0.1/ を指定



## 8. PHSからLANに接続(つづき)

## 2. 新規接続先画面の表示

<接続先の追加>をクリックして、リモートアクセス用として、接続先を追加します。

3. クリック

1. remote(任意でよい)

2. 07012345678

接続設定			登録/取消▲
接続先名	<input type="text" value="remote"/>		
電話番号1	<input type="text" value="07012345678"/>		* 以降はサブアドレス
電話番号2	<input type="text"/>		* 以降はサブアドレス
電話番号3	<input type="text"/>		* 以降はサブアドレス
ユーザID	<input type="text"/>		
パスワード	<input type="text"/>		
認証プロトコル	相手に合わせる▼		
デフォルトGWを構築	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する		
コールバック要求	しない▼		
コールバック電話番号	<input type="text"/>		* 以降はサブアドレス
プライマリDNSサーバ	<input type="text"/>		
セカンダリDNSサーバ	<input type="text"/>		
スループットBOD			
BODを使用	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する		BODを使用するには、通信速度を可変にしておく必要があります。
移行トラフィック量	1B→2B	<input type="text" value="75"/> %	55～95の範囲で記載
	2B→1B	<input type="text" value="25"/> %	5～45の範囲で記載

ここで入力する「電話番号1」は、電話番号チェックの対象とする電話番号です。

## 3. 着信の設定

<着信>をクリックして、出先からの着信に関する設定を行います。

9. クリック

1. 「する」を選択

2. 「する」を選択

3. 「する」を選択

4. 「許可」を選択

5. 07012345678

6. user

7. himitu  
(表示: \* \* \* \* \*)

8. 「PAPまたはCHAP」を選択

着信設定			登録/取消▲
着信	<input checked="" type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する		
電話番号チェック	<input checked="" type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する		
通信チャンネル	2Bまで許可▼		
PIAFSによる着信	しない▼		
コールバック	許可▼		
コールバック電話番号	<input type="text" value="07012345678"/>		* 以降はサブアドレス
ユーザID	<input type="text" value="user"/>		
パスワード	<input type="text" value="*****"/>		
認証方法	PAPまたはCHAP▼		
着信を許可する時間帯	<input type="text" value="00"/> : <input type="text" value="00"/>	<input type="text" value="00"/> : <input type="text" value="00"/>	

## 7 ISDNダイヤルアップの設定例集

### 8. PHSからLANに接続(つづき)

#### 4. アドレス変換設定

<アドレス変換>をクリックして、「アドレス変換」を「しない」に設定します。

2. クリック

1. 「しない」を選択

アドレス変換設定				
アドレス変換	[しない] する			
マスカレード IPアドレス	<input type="text"/>	本体WAN側IPを使用する場合は記載不要です。		
静的マスカレードテーブル設定				
登録/取消				
登録の追加				
ローカルIP	プロトコル	開始ポート	終了ポート	
<input type="text"/>	TCP	<input type="text"/>	<input type="text"/>	追加
現在の登録				
ローカルIP	プロトコル	開始ポート	終了ポート	
静的NATテーブル設定				
登録/取消				
登録の追加				
グローバルIP	-	ローカルIP		
<input type="text"/>	-	<input type="text"/>		追加
現在の登録				
グローバルIP	-	ローカルIP		

#### 5. リモートアクセス用IPアドレスの設定

<ネットワーク>メニューをクリックして、リモートアクセス用のIPアドレスを設定します。

4. クリック

1. 「する」を選択

2. 192.168.0.100

3. 192.168.0.101

本体名称/IPアドレス設定	
本体名称	SR-11
IPアドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0
リモートアクセス用IP設定	
リモートアクセスサーバを使用	<input checked="" type="checkbox"/> する
IPアドレス1	192.168.0.100
IPアドレス2	192.168.0.101
DHCPサーバ設定	
DHCPサーバ機能を使用	<input checked="" type="checkbox"/> する
割り当て開始IPアドレス	192.168.0.10
割り当て個数	80 個
サブネットマスク	255.255.255.0
リース期間	3 日
ドメイン名	
プライマリDNSサーバ	
セカンダリDNSサーバ	
プライマリWINSサーバ	
セカンダリWINSサーバ	
静的DHCPサーバ設定	
登録/取消	
登録の追加	
MACアドレス	IPアドレス
<input type="text"/>	<input type="text"/>
	追加
現在の登録	
MACアドレス	IPアドレス

再起動後、設定ページを閉じます。

## 8. PHSからLANに接続(つづき)

## 【電話をかけたときの動作】

- 1.Windows95/98/NTの「ダイヤルアップネットワーク」を使って電話をかけます。
- 2.認証を受けるため、ユーザーIDとパスワードを入力します。
- 3.認証が成立して、コールバックが可能であると、右の画面を表示します。



4. “ Administrator Specified ”の文字は、設定例でコールバック電話番号を[着信]画面に指定されていると表示します。  
コールバック電話番号が指定されていない場合は、その部分にコールバック電話番号を入力します。
- 5.表示のダイアログボックスの<OK>をクリックすると、コールバックが行われます。  
<キャンセル>をクリックすると、コールバックを行わないで接続します。  
「コールバックのみ着信」を着信条件に選んでいる場合は、キャンセルした時点で、回線は切断されます。

## 【出先端末の設定について】

出先の端末からルータに電話をかけるには、ご使用のOSに対応するPPPソフトが必要です。

ここで説明するコールバックは、Macintoshで動作しません。

Windows95/98/NTでは、一般的に「ダイヤルアップネットワーク」を使用します。インストールについては、OSのヘルプで“ダイヤルアップネットワーク”についての項目をご覧ください。

Macintoshでは、一般的に「Open Transport/PPP」を使用します。詳しくは、OSのヘルプで“PPP”または“リモートアクセス”についての項目をご覧ください。

## 【出先端末からインターネットに接続するには】

接続先が使用するルータの[接続状況]画面の<接続>ボタンで行う(手動発信)か、自動接続を設定している場合は、自分のWWWブラウザから直接、URLを指定してアクセスしてください。

---

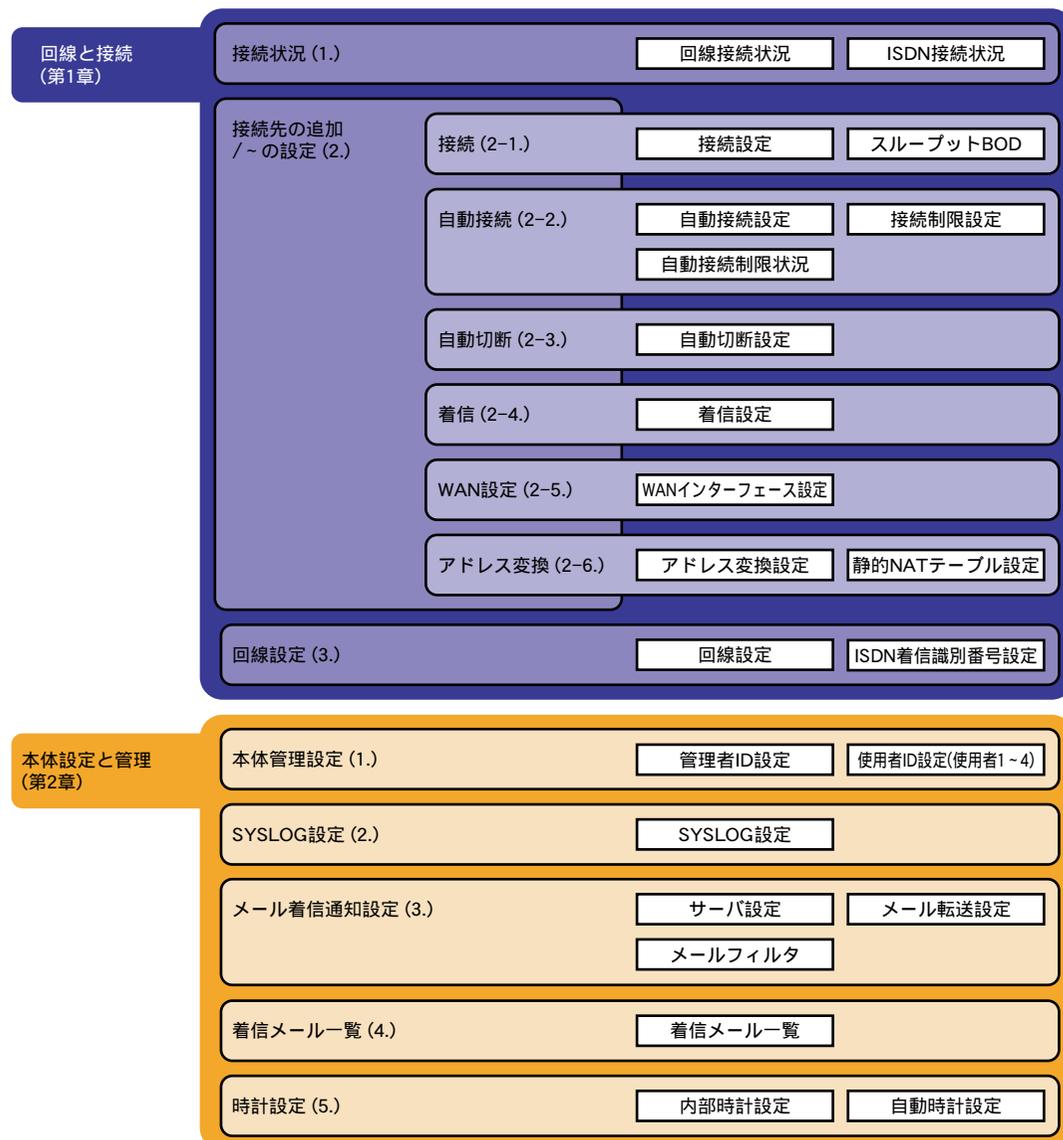
## 7 ISDNダイヤルアップの設定例集

## 設定画面の構成

## 付 録

本製品のWWWブラウザによる設定画面の構成についてまとめています。

設定画面の構成



## 設定画面の構成(つづき)

ネットワーク  
(第3章)

本体ネットワーク設定 (1.)	本体名称 / IPアドレス設定	リモートアクセス用IP設定
	DHCPサーバ設定	静的DHCPサーバ設定
無線LAN設定 (2.)	無線LAN設定	無線詳細設定
	MACアドレスセキュリティ設定	
簡易DNSサーバ設定 (3.)	DNSサーバ設定	簡易DNSサーバ設定
IPフィルタ設定 (4.)	IPフィルタ設定	
RIP設定 (5.)	RIP設定	RIPフィルタ設定
ルーティング設定 (6.)	ネットワークインターフェイスリスト	IP経路情報
	スタティックルーティング設定	セレクトルーティング

アナログ設定  
(第4章)

ポート共通の設定 (1.)	内線通話	フレックスホンの設定
	優先着信	リソースBOD
ポート1/ポート2の設定 (2.)	ポート毎の設定	着信機能
	送信機能	ダイヤルタイミング
	着信転送	
転送 / 短縮番号 (3.)	着信転送番号の登録	短縮ダイヤルの登録
セレクト番号 (4.)	セレクト着信	

通信記録  
(第5章)

通信記録 (1.)	通信記録	
ISDN累積情報 (2.)	ISDN累積情報	ISDN累積初期化
ポート1/ポート2通信累積 (3.)	アナログポート1/アナログポート2累積情報	
	アナログポート1/アナログポート2累積情報初期化	

保存と記録  
(第6章)

設定初期化 (1.)	設定初期化
設定保存 (2.)	設定保存





SOHOROUTER  
**SR-11**

## 第2部 フレッツISDN

第 1章	回線と接続.....	1
第 2章	本体設定と管理 .....	11
第 3章	ネットワーク .....	23
第 4章	アナログ設定 .....	45
第 5章	通信記録 .....	57
第 6章	保存と記録 .....	61
付 録	設定画面の構成 .....	63

取扱説明書[基本編]に記載のない内容について説明  
しています。本書の設定例集と併せてご覧ください。



この章では、  
設定ページの、<回線と接続>メニューで表示される画面について説明します。

---

1. [接続状況]画面 .....	2
2. [接続先の追加]/[~の設定]画面 .....	3
2-1. [接続]画面 .....	3
2-2. [自動接続]画面 .....	5
2-3. [自動切断]画面 .....	6
2-4. [WAN設定]画面 .....	7
2-5. [アドレス変換]画面 .....	8
3. [回線設定]画面 .....	9

# 1 回線と接続

## 1. [接続状況]画面



通信中の回線接続状況と、使用する回線種別について表示します。  
登録できる接続先は、20件までです。(ISDNダイヤルアップでの接続先の登録件数を含む)

本体の時刻 : 2000年 01月 01日 00時 00分

回線接続状況				
チャンネル	全切断 ①	B1 B1切断 ②	B2 B2切断 ③	
接続状況 ④				
接続先名 ⑤				
相手先電話番号 ⑥				
IPアドレス ⑦				
接続時間 ⑧				

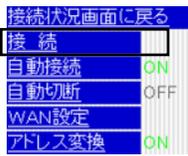
  

フレッツISDN接続状況				
番号	名称	接続制御	接続方法	登録削除
⑨	新⑩成	接続 ⑪	⑫	削除 ⑬

- ①<全切断> ..... B1とB2チャンネルの通信(アナログ通信を除く)を同時に切断します。
- ②<B1切断> ..... B1チャンネルの通信(アナログ通信を除く)を切断します。
- ③<B2切断> ..... B2チャンネルの通信(アナログ通信を除く)を切断します。
- ④接続状況 ..... 通信しているときは、「発信」と表示します。
- ⑤接続先名 ..... 通信している接続先(プロバイダーなど)の名称を表示します。  
なお、表示されるのは本製品に接続先として登録されている名称です。
- ⑥相手先電話番号 ..... 通信している接続先(プロバイダーなど)の電話番号を表示します。
- ⑦IPアドレス ..... 通信している接続先(プロバイダーなど)のIPアドレスを表示します。
- ⑧接続時間 ..... 通信が開始されてから、本画面にアクセスした時点までの接続時間を表示します。  
最新の接続時間を表示するには、WWWブラウザの<更新>ボタンをクリックしてください。
- ⑨番号 ..... 登録された接続先の整理番号を表示します。  
登録が早い順番に番号が付きますが、登録削除による欠番があるときに接続先を追加すると、その欠番に登録されます。
- ⑩名称 ..... 登録された接続先(プロバイダーなど)の名称を表示します。
- ⑪接続制御 ..... 登録した接続先に、手動で接続するときのボタンです。
- ⑫接続方法 ..... 登録された接続先の接続設定が、「自動」なのか「手動」なのかを表示します。
- ⑬登録削除 ..... 登録してある接続先を、削除するときのボタンです。

## 2. [接続先の追加]/[ ~ の設定]画面

### 2-1. [接続]画面



- ①<登録> ..... この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> ..... この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。  
なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③接続先名 ..... 接続する相手先名を、任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。  
(入力例：icom)
- ④電話番号 ..... 接続先から指定された電話番号を、市外局番から入力します。  
次のように入力すると、すべて同じ電話番号として処理します。  
1111-22-3333、1111(22)3333、1111223333  
相手先よりサブアドレスの付加を指定された場合、電話番号の末尾に、\*(アスタリスク)記号に続けて指定された半角英数字を入力します。  
(入力例：1111223333\*333)
- ⑤ユーザID ..... 接続先から指定されたユーザー名(ログイン名)を入力します。  
(入力例：user)
- ⑥パスワード ..... 接続先から指定されたパスワードを入力します。  
入力された文字は、すべて「\*」または「 」で表示されます。  
(表示例：\*\*\*\*)
- ⑦認証プロトコル ..... ユーザーIDとパスワードを本製品から発信する時の認証プロトコルを選択します。
  - 認証なし : 相手からの認証要求をすべて拒否する
  - 相手に合わせる : 認証方式を相手先に合わせる(出荷時の設定)
  - PAP : PAP方式で認証を受ける
  - CHAP : CHAP方式で認証を受ける
- ⑧デフォルトGWを構築 ..... LAN環境で発生したパケットのうち、宛先不明のパケットを送り出す出口を意味し、この接続をその出口とするかしないかを選択します。
  - しない : パケットデータを送る先が支社など、閉じられた環境のとき選択します。
  - する : パケットデータを送る先がインターネットなどグローバルな環境のとき選択します。

# 1 回線と接続

## 2-1. [接続]画面(つづき)

登録	取消
①	②
接続設定	
接続先名 ③	新規作成
電話番号 ④	1 *以降はサブアドレス
ユーザID ⑤	
パスワード ⑥	**
認証プロトコル ⑦	相手に合わせる
デフォルトGWを構築 ⑧	しつぷい する
プライマリDNSサーバ ⑨	
セカンダリDNSサーバ ⑩	

⑨プライマリDNSサーバ ..... 接続先からDNSサーバのアドレスが2つ指定されている場合は、どちらか一方、または指定されているプライマリDNSアドレスを入力します。  
(入力例：123.114.101.34)

⑩セカンダリDNSサーバ ..... 接続先からDNSサーバのアドレスが2つ指定されている場合は、どちらか一方、または指定されているセカンダリDNSアドレスを入力します。  
(入力例：123.114.151.64)

相手先が、IPCP(DNSアドレス送信)に対応している場合は、回線接続時にDNSアドレスを自動取得できますので、⑨、⑩の設定は不要です。

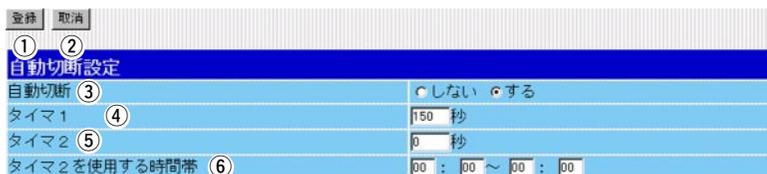
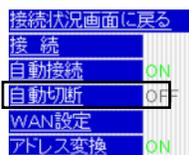
## 2-2. [自動接続]画面



- ①<登録> ..... この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> ..... この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③自動接続 ..... ネットワーク上のパソコンから、インターネットにアクセスする操作をすると、自動で回線を接続するかしないかを選択します。「する」を設定した場合、インターネットへアクセスする操作を行うだけで、自動的にISDN回線に接続されて課金されます。ネットワークの設定内容や運用のしかたによっては、回線が長時間接続されたままになったり、意図しない自動接続が行われてしまう可能性がありますので、必ず[接続状況]画面や、本製品の[B1]ランプおよび[B2]ランプを確認してください。なお、フレッツISDNの場合、自動接続を「する」に設定できる接続先は、1件だけです。2件以上の接続先を登録していて、それぞれに自動接続を「する」と設定しようとした場合、一番最後に設定した接続先の自動接続設定が有効となり、それまでに自動接続設定した接続先は手動接続となります。

# 1 回線と接続

## 2-3. [自動切断]画面



- ①<登録> ..... この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> ..... この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③自動切断 ..... 接続中の回線を自動で切断するか、<全切断>、<B1切断>または<B2切断>ボタン([接続状況]画面内)をクリックするまで、切断しないかを選択します。  
自動切断を「する」に設定すると、一定時間、回線上で通信がなかったときは、自動的に切断されます。  
自動切断は、ISDN回線に流れるデータの無い状態が150秒(出荷時の設定)以上経過すると、自動的に切断します。  
**ネットワーク上のパソコンが定期的に通信を行うような場合は、正常に切断したかどうか、必ず[接続状況]画面の状況表示や、本製品の[B1]および[B2]ランプを確認してください。**  
**[例]メールサーバへのアクセスや、ソフトウェアの自動アップデートを定期的にインターネット側サーバに問い合わせるように設定している場合など**
- ④タイマ1 ..... 設定した時間、通信がない場合、回線を自動的に切断します。  
0秒(切断制限なし)~65535秒まで入力できます。  
(出荷時の設定：150秒)
- ⑤タイマ2 ..... 下記「⑥タイマ2を使用する時間帯」で設定した時間帯で動作し、設定した時間、通信がない場合、自動的に回線を切断します。  
0秒(出荷時の設定)にすると、自動切断を行いません。
- ⑥タイマ2を使用する時間帯 ..... 上記「⑤タイマ2」が動作する時間帯を設定します。  
設定時間帯以外は、「④タイマ1」の設定値で動作します。  
**タイマ2の時間帯を設定するときは、必ず、[接続状況]画面に表示される日付と時刻を確認してください。**

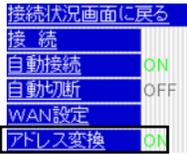
2-4. [WAN設定]画面



- ①<登録> ..... この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> ..... この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③本体のWAN側 ..... IPアドレス/サブネットマスク  
自分のWAN側のIPアドレスとサブネットマスクを設定します。  
プロバイダーなど、接続先がIPCPに対応している場合は、設定の必要がありません。
- ④Numberedで使用する ..... 通信対象となる相手先ルータがUnnumberedに対応しない場合など、LAN側とWAN側に異なるIPアドレスを設定するとき使用します。  
使用するときは、「③本体WAN側」のIPアドレスとサブネットマスク、「⑤相手のWAN側」のIPアドレスを入力してください。
- ⑤相手のWAN側 ..... IPアドレス  
Numbered接続をする場合には、ここに自己WAN側IPアドレスを入力する必要があります。  
接続先がプロバイダーなど、IPCPに対応している場合は、設定の必要がありません。

# 1 回線と接続

## 2-5. [アドレス変換]画面



- ①<登録> ..... この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> ..... この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③アドレス変換 ..... NAT、IPマスカレード機能を使用して、グローバルアドレスをプライベートアドレスに変換するかしないかを選択します。
- ④マスカレードIPアドレス ..... IPCPによってプロバイダーから取得したIPアドレスをマスカレードIPアドレスとして使用しますので、入力は不要です。
- ⑤静的マスカレード ..... マスカレードIP(ルータグローバルIP)に対して、アクセスしてきたパケットをプロトコルにより判定し、ここで指定したプライベートIPアドレスを割り当てたローカル端末へアドレス変換します。最大32個のマスカレードテーブルを設定できます。
- ローカルIP : プライベートIPアドレスを入力します。  
(入力例: 192.168.0.1.0)
  - プロトコル : TCP、UDP、TCP/UDPから選択します。
  - 開始ポート : 選択したプロトコルの開始ポート番号を入力します。
  - 終了ポート : 選択したプロトコルの終了ポート番号を入力します。  
入力後は、<追加>をクリックして、[現在の登録]欄に登録されたことを確認後、<登録>をクリックしてください。
- ⑥静的NATテーブル設定 ..... プロバイダーとのLAN型契約などで、複数のグローバルIPアドレスを取得した場合に、ローカルIPアドレスに1対1で変換させるためのテーブル設定です。最大32個のNATテーブルを設定できます。
- グローバルIP : 指定されたグローバルIPアドレスを入力します。  
(入力例: 172.16.0.49)
  - ローカルIP : 任意のプライベートIPアドレスを入力します。  
(入力例: 192.168.0.10)
- 入力後は、<追加>をクリックして、[現在の登録]欄に登録されたことを確認後、<登録>をクリックしてください。

## 3. [回線設定]画面



取消 登録して再起動 回線種別の設定は再起動後に有効になります。

① ②

回線設定

回線種別 ③

- ISDNダイヤルアップ
- フレッツISDN
- 専用線(64kbps)
- 専用線(128kbps)
- OCNエコノミー

<ご注意>  
回線種別を変更した場合、再起動が必要です。

ISDN着信識別番号設定

電話番号 ④

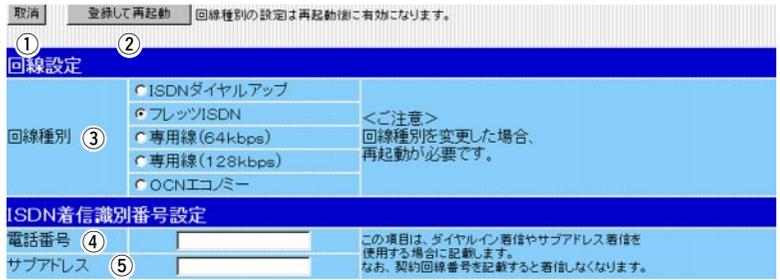
サブアドレス ⑤

この項目は、ダイヤルイン着信やサブアドレス着信を使用する場合に記載します。  
なお、契約回線番号を記載すると着信しなくなります。

- ①<取消> ..... この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ②<登録して再起動> ..... この画面中の設定内容を変更したとき、その内容を有効にするため、本製品を再起動します。
- ③回線種別 ..... 以下の5つから、使用する回線を選択します。
- ISDNダイヤルアップ(出荷時の設定)  
「INSネット64」を利用して、ダイヤルアップ接続をする設定を行います。
  - フレッツISDN  
NTTが提供するフレッツISDNを利用して、ご契約のプロバイダーと定額接続するための設定を行います。
  - 専用線(64kbps)  
通信速度が64kbpsの専用線を利用するための設定を行います。
  - 専用線(128kbps)  
通信速度が128kbpsの専用線を利用するための設定を行います。
  - OCNエコノミー  
NTTが提供するプロバイダーと契約してインターネット接続のための専用線サービスを利用する設定を行います。  
OCNには「ダイヤルアクセスサービス」もありますが、この場合の設定は、「ISDNダイヤルアップ」を選択して設定を行ってください。

# 1 回線と接続

## 3. [回線設定]画面(つづき)



④電話番号 .....

NTTのダイヤルインサービス(有料)を利用して着信識別するとき、ダイヤルイン番号を入力します。

ダイヤルイン番号は、市外局番から入力してください。

契約電話番号だけを入力すると、本製品への着信がすべて拒否されますので、ご注意ください。

電話番号は、半角31文字まで入力できます。

電話番号を次のように入力すると、すべて同じ番号として処理します。

1111-22-3333、1111(22)3333、1111223333

ダイヤルイン番号は、NTTのダイヤルインサービス(有料)と契約している場合だけ有効です。

⑤サブアドレス .....

サブアドレスで着信識別するときに入力します。

NTTとの契約は不要で、ISDN回線契約者が、ここに入力したサブアドレスを契約電話番号と一緒にダイヤルしてきたとき、着信が可能になります。

サブアドレスは、任意の英数字、半角31文字以内で入力します。

この章では、  
設定ページの、<本体設定と管理>メニューで表示される画面について説明します。

---

1. [本体管理設定]画面 .....	12
2. [SYSLOG設定]画面 .....	14
3. [メール着信通知設定]画面 .....	15
4. [着信メール一覧]画面 .....	20
5. [時計設定]画面 .....	21

## 2 本体設定と管理

### 1. [本体管理設定]画面



登録	取消
<b>① ②</b> 管理者ID設定	
管理者ID ③	<input type="text"/>
管理者/パスワード ④	<input type="password"/>
パスワードの確認入力 ⑤	<input type="password"/>
<b>⑥</b> 使用者ID設定 <span style="float:right">登録/取消▲</span>	
<input type="checkbox"/> 使用者ID ⑦	<input type="text"/>
<input type="checkbox"/> 使用者/パスワード ⑧	<input type="password"/>
パスワードの確認入力 ⑨	<input type="password"/>
手動接続・切断を許可	<input type="checkbox"/> する
接続設定編集を許可 ⑩	<input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> する
通信記録表示・クリアを許可 ⑪	<input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> する
<input type="checkbox"/> 使用者ID	<input type="text"/>
<input type="checkbox"/> 使用者/パスワード	<input type="password"/>
パスワードの確認入力	<input type="password"/>
手動接続・切断を許可	<input type="checkbox"/> する
接続設定編集を許可	<input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> する
通信記録表示・クリアを許可	<input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> する
<input type="checkbox"/> 使用者ID	<input type="text"/>
<input type="checkbox"/> 使用者/パスワード	<input type="password"/>
パスワードの確認入力	<input type="password"/>
手動接続・切断を許可	<input type="checkbox"/> する
接続設定編集を許可	<input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> する
通信記録表示・クリアを許可	<input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> する

- ①<登録> ..... この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> ..... この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。  
なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③管理者ID ..... 本製品の設定ページへのアクセスを制限する場合に、管理者としての名前を、大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。  
(入力例：Router)  
管理者IDを設定すると、次のアクセスからユーザー名の入力を求められますので、そこに管理者IDを入力します。
- ④管理者パスワード ..... 「③管理者ID」に対するパスワードを設定する場合、大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。  
入力した文字は、すべて「\*(アスタリスク)」で表示されます。  
(表示例：\*\*\*\*)  
管理者パスワードを設定すると、次のアクセスからパスワードの入力を求められますので、そこに管理者パスワードを入力します。
- ⑤パスワードの確認入力 ..... 「④管理者パスワード」の入力間違いを防ぐために、パスワードを再入力します。  
(表示例：\*\*\*\*)

1. [本体管理設定]画面(つづき)

登録		取消	
<b>① ② 管理者ID設定</b>			
管理者ID	③	<input type="text"/>	
管理者/パスワード	④	<input type="password"/>	
パスワードの確認入力	⑤	<input type="password"/>	
<b>⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ 使用者ID設定</b>			
<input type="checkbox"/>	使用者ID	⑦	<input type="text"/>
<input type="checkbox"/>	使用者/パスワード	⑧	<input type="password"/>
<input type="checkbox"/>	パスワードの確認入力	⑨	<input type="password"/>
<input type="checkbox"/>	手動接続・切断を許可		<input type="radio"/> する
<input type="checkbox"/>	接続設定編集を許可	⑩	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
<input type="checkbox"/>	通信記録表示・クリアを許可	⑪	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
<input type="checkbox"/>	使用者ID		<input type="text"/>
<input type="checkbox"/>	使用者/パスワード		<input type="password"/>
<input type="checkbox"/>	パスワードの確認入力		<input type="password"/>
<input type="checkbox"/>	手動接続・切断を許可		<input type="radio"/> する
<input type="checkbox"/>	接続設定編集を許可		<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
<input type="checkbox"/>	通信記録表示・クリアを許可		<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
<input type="checkbox"/>	使用者ID		<input type="text"/>
<input type="checkbox"/>	使用者/パスワード		<input type="password"/>
<input type="checkbox"/>	パスワードの確認入力		<input type="password"/>
<input type="checkbox"/>	手動接続・切断を許可		<input type="radio"/> する
<input type="checkbox"/>	接続設定編集を許可		<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
<input type="checkbox"/>	通信記録表示・クリアを許可		<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する

- ⑥使用者1～4 ..... [管理者ID設定]で設定した管理者とは別に、設定ページへのアクセスを許可する使用者を設定する場合、チェックボックスをクリックします。最大4人の使用者を登録できます。
- ⑦使用者ID ..... 本設定ページへのアクセスを許可された使用者の名前を、大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角30(全角15)文字以内で入力します。  
(入力例：icom)  
使用者IDを設定すると、管理者IDが設定されているときと同じようにパスワードの入力を求められますので、そこに使用者IDを入力します。
- ⑧使用者パスワード ..... 「⑥使用者ID」に対するパスワードを設定する場合、大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角30(全角15)文字以内で入力します。  
(表示例：\*\*\*\*)  
使用者パスワードを設定すると、管理者パスワードが設定されているときと同じようにパスワードの入力を求められますので、そこに使用者パスワードを入力します。
- ⑨パスワードの確認入力 ..... 「⑦使用者パスワード」の入力間違いを防ぐため、パスワードを再入力します。  
(表示例：\*\*\*\*)
- ⑩接続設定編集を許可 ..... 使用者に接続先の追加や、設定の編集を許可するかしないかの選択です。
- ⑪通信記録表示・クリアを許可 ... 使用者に[通信記録]画面へのアクセスと、画面中の<クリア>の操作を許可するかしないかの選択です。

## 2 本体設定と管理

### 2. [SYSLOG設定]画面



ログ情報などをSYSLOGホストを利用して管理する場合、SYSLOG機能を利用したファイルとして一括管理ができます。以下の項目から、SYSLOGとして出力する情報を選択します。

登録 取消

① ②  
SYSLOG設定

DEBUGを使用	③	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
INFOを使用	④	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
NOTICEを使用	⑤	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
ホストアドレス	⑥	<input type="text"/>
ファシリティ	⑦	<input type="text"/>

- ①<登録> ..... この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> ..... この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③DEBUGを使用 ..... ISDNやPPPなど各種デバッグ情報をSYSLOGに出力するかしないかを選択します。
- ④INFOを使用 ..... INFOタイプのメッセージをSYSLOGに出力するかしないかを選択します。
- ⑤NOTICEを使用 ..... NOTICEタイプのメッセージをSYSLOGに出力するかしないかを選択します。
- ⑥ホストアドレス ..... SYSLOG機能を使用する場合、SYSLOGを受けるホストのアドレスを入力します。  
ホストは、SYSLOGサーバ機能に対応している必要があります。
- ⑦ファシリティ ..... SYSLOGのファシリティを入力します。  
0～23の値を設定してください。  
通常「1」を使用します。

### 3. [メール着信通知設定]画面



登録 取消

① ②

#### サーバ設定

メール着信通知機能を使用 ③  しない  する

メールサーバ(POP) ④

メールアカウント ⑤

メールパスワード ⑥

確認時刻(時:分)/間隔(分) ⑦ 00:00

接続先 ⑧ 01:プロバイダ

#### メール転送設定

メール転送機能を使用 ⑨  しない  する

転送先メールサーバ(SMTP) ⑩

転送先メールアドレス ⑪

発信元メールアドレス ⑫

#### メールフィルタ

登録/取消

番号 使用 フィルタ動作 ⑬ ⑭ ⑮

01	<input checked="" type="checkbox"/>	To	の	先頭	が		と一致	する	メールを	表示	する
02	<input type="checkbox"/>	To	の	先頭	が		と一致	する	メールを	表示	する
03	<input type="checkbox"/>	To	の	先頭	が		と一致	する	メールを	表示	する
04	<input type="checkbox"/>	To	の	先頭	が		と一致	する	メールを	表示	する
05	<input type="checkbox"/>	[A]	の	[B]	が	[C]	と一致	する	メールを	表示	する

該当しないメールを 表示 する

①<登録> ..... この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。

②<取消> ..... この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。  
 なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

#### サーバ設定

本製品が、接続先(プロバイダーなど)のメールサーバに自動接続して、着信メールの有無を確認するための情報を設定する画面です。

指定の接続先の設定が「手動接続」であっても、着信メールの自動接続を行います。

対応するプロトコルは、POP3だけです。

③メール着信通知機能を使用 ... メール着信通知機能を使用するかしないかを選択します。  
 この機能を使用すると、着信メールがあるときは、本製品の[MSG]ランプを点滅すると同時に、その内容を[着信メール一覧]画面(≒P20)に表示します。

④メールサーバ(POP) ..... メールサーバのサーバ名を入力します。  
 ドメイン名は、任意の英数字、半角127文字以内で入力します。  
 ご契約のプロバイダーによって指定される内容が異なりますので、入力する前に内容をご確認ください。

## 2 本体設定と管理

### 3. [メール着信通知設定]画面(つづき)

登録 取消

① ②

サーバ設定

メール着信通知機能を使用 ③  しない  する

メールサーバ(POP) ④

メールアカウント ⑤

メールパスワード ⑥

確認時刻(時:分)/間隔(分) ⑦ 00:00

接続先 ⑧ 01:プロバイダ

メール転送設定

メール転送機能を使用 ⑨  しない  する

転送先メールサーバ(SMTP) ⑩

転送先メールアドレス ⑪

発信元メールアドレス ⑫

メールフィルタ 登録/取消

番号 使用 フィルタ動作 ⑮

番号	使用	フィルタ動作
⑬	<input type="checkbox"/>	⑭ To の 先頭 が 一致 する メールを 表示 する
02	<input type="checkbox"/>	To の 先頭 が 一致 する メールを 表示 する
03	<input type="checkbox"/>	To の 先頭 が 一致 する メールを 表示 する
04	<input type="checkbox"/>	To の 先頭 が 一致 する メールを 表示 する
05	<input type="checkbox"/>	[A] の [B] が [C] と一致 [D] メールを [E] する

該当しないメールを 表示 する

- ⑤メールアカウント ..... メールサーバ上のユーザーIDまたはメールアカウントを入力します。入力は、任意の英数字、半角127文字以内です。入力例：メールアドレスが、「SR11@icom.co.jp」のときは、「SR11」と入力します。  
ご契約のプロバイダーによって指定される内容が異なりますので、入力する前に内容をご確認ください。
- ⑥メールパスワード ..... メールサーバにアクセスするときのパスワードまたはメールパスワードを入力任意の英数字、半角31文字以内でします。
- ⑦確認時刻(時:分)/間隔(分) ... メールサーバに自動接続する時刻、または間隔を設定します。時刻を指定するときは24時間制、間隔を指定するときは分単位で入力します。  
時刻で指定したときは、[時計設定]画面(⇒P21)に設定された時刻を基準に動作します。
- ⑧接続先 ..... メールサーバへアクセスするとき使用する接続先を選択します。  
印をクリックすると、登録されている接続先を表示しますので、その中から選びます。

3. [メール着信通知設定]画面(つづき)

メール転送設定

[サーバ設定]で設定したメールサーバに着信したメールを、別のメールサーバに転送するための情報を設定する画面です。

接続先が指定する内容を、該当する欄に設定します。

設定内容については、接続先のネットワーク管理者(インターネットサービスプロバイダー)にお尋ねください。

- ⑨メール転送機能を使用 ..... メール転送機能を使用するかしないかを選択します。  
メール着信通知機能の設定も併せて行わないと、機能しません。
- ⑩転送先メールサーバ(SMTP) ..... 転送先メールサーバ(SMTPサーバ)の名前を、任意の英数字、半角127文字以内で入力します。  
接続先のプロバイダーによって指定される内容が異なりますので、入力する前に内容をご確認ください。
- ⑪転送先メールアドレス ..... 転送先のメールアドレスを、任意の英数字、半角127文字以内で入力します。
- ⑫発信元メールアドレス ..... メール発信者のメールアドレスを、任意の英数字、半角127文字以内で入力します。
- 転送機能制限事項 ..... 表示可能文字数  
転送されるメール内容は、半角1023(全角511)文字までです。  
制限を超えた文字列については、表示されません。

## 2 本体設定と管理

### 3. [メール着信通知設定]画面(つづき)

登録 取消

① ②

### サーバ設定

メール着信通知機能を使用 ③  しない  する

メールサーバ(POP) ④

メールアカウント ⑤

メールパスワード ⑥

確認時刻(時:分)/間隔(分) ⑦ 00:00

接続先 ⑧ 01:プロバイダ

### メール転送設定

登録/取消▲

メール転送機能を使用 ⑨  しない  する

転送先メールサーバ(SMTP) ⑩

転送先メールアドレス ⑪

発信元メールアドレス ⑫

### メールフィルタ

登録/取消▲

番号 使用

フィルタ動作 ⑮

番号	使用	フィルタ動作
⑬	<input checked="" type="checkbox"/>	To の 先頭 が 一致 する メールを 表示 する
02	<input type="checkbox"/>	To の 先頭 が 一致 する メールを 表示 する
03	<input type="checkbox"/>	To の 先頭 が 一致 する メールを 表示 する
04	<input type="checkbox"/>	To の 先頭 が 一致 する メールを 表示 する
05	<input type="checkbox"/>	[A] の [B] が [C] と一致 [D] メールを [E] する

該当しないメールを 表示 する

#### メールフィルタ

メール着信通知機能を使って[着信メール一覧]画面に表示、または転送するメールを限定したい場合に、その比較対象にする条件を設定します。

- ⑬番号 ..... 最大6(5 + 1)件のフィルターを登録できます。  
フィルターを複数使う場合、着信メールとフィルターの設定内容をこの番号の小さな順に比較します。  
01 ~ 05番の条件に該当しない場合は、最下欄の「該当しないメールを」で指定する内容にしたがいます。
- ⑭使用 ..... 指定のフィルター条件を有効にする場合は、該当する番号欄のチェックボックスをクリックします。

3. [メール着信通知設定]画面(つづき)

⑮フィルタ動作 .....

比較する対象になる条件を、この欄の  印をクリックして表示するプルダウンメニューから選択します。  
 下記の[A]～[D]のプルダウンメニューの内容は、以下のようになっています。

[A]の[B]が[C]と一致[D]メールを[E]をする

- [A]：比較対象条件
  - To        : 宛先の文字列が対象
  - CC         : カーボンコピー(同報通信)の文字列が対象
  - From       : 差出人の文字列が対象
  - Subject    : 件名の文字列が対象
- [B]：比較対象条件
  - 一部       : 文字列の一部が対象
  - 先頭       : 文字列の先頭が対象
  - 末尾       : 文字列の末尾が対象
- [C]：比較対象条件
  - 入力できる文字列は、任意の英数字、半角127(全角63)文字以内です。
- [D]：比較対象条件
  - する       : 比較対象条件と一致するメールが対象
  - しない     : 比較対象条件と一致しないメールが対象
- [E]：比較対象条件 / 該当しないメールを
  - 表示       : 対象となるメールを表示する
  - 無視       : 対象となるメールを表示しない
  - 転送 + 表示 : 対象となるメールを転送して表示する

新しい着信メールがあると、本製品の[MSG]ランプを点滅して、着信したことを通知します。

## 2 本体設定と管理

### 4. [着信メール一覧]画面



メール着信の一覧を表示する画面です。  
下記の画面は、1件のメールを着信した状態です。



①<全て削除> .....

この画面に表示するメールをすべて削除します。  
削除してもメールサーバのメールは削除されません。

②<表示ランプリセット> .....

クリックすると、[MSG]ランプの着信通知表示が通常状態に戻ります。

③<削除> .....

このボタンのフレーム内のメールだけを消去します。  
削除してもメールサーバのメールは削除されません。

制限事項 .....

最大表示件数：16件  
表示が17件以上になると古い順に消去されます。  
メールサーバに20件のメールがあると、新着順に16件表示して、残りの4件については、受信を行いません。

表示可能文字数

To/Cc/From/Subjectの各欄については、半角255(全角127)文字まで表示します。

着信メールの本文表示欄については、半角1023(全角511)文字まで表示します。

制限を超えた文字列については、表示されません。

メールフィルターが有効な場合は、その部分の文字列が、[メールフィルタ]画面で設定する条件と比較対象外として処理します。

メール転送機能が有効な場合、「表示可能文字数」の範囲内の内容しか転送できません。

## 5. [時計設定]画面



- ①<登録> ..... この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> ..... この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。  
なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③本体の時刻 ..... 本製品に設定されている時刻を表示します。
- ④設定する時刻 ..... 本製品の設定ページにアクセスしたとき、パソコンの時計設定を取得して表示します。  
表示する時間は、[時計設定]画面アクセス時の時間です。  
正確に設定したいとき、全設定を初期化したとき、停電対策用電池を交換したあとなどは、画面更新(左フレームの[時計設定]項目をクリック)してから、<登録>をクリックしてください。
- ⑤自動時計設定を使用 ..... インターネット上に存在するタイムサーバに日時の問い合わせを行い、内部時計を自動設定します。
- ⑥NTPサーバ1 IPアドレス ..... 最初にアクセスさせたいタイムサーバのIPアドレスを入力します。
- ⑦NTPサーバ2 IPアドレス ..... 「⑥NTPサーバ1 IPアドレス」の次にアクセスさせるタイムサーバがあるときは、そのIPアドレスを入力します。  
返答がないときは、再度「⑥NTPサーバ1 IPアドレス」で設定したタイムサーバにアクセスします。
- ⑧アクセス時間間隔 ..... タイムサーバにアクセスさせる間隔を、日数で設定します。  
最大99日まで設定できます。  
ダイヤルアップ接続で、前回アクセスした日から設定した日数が経過している場合は、接続時にアクセスします。  
常時接続では、設定した日数にしたがってアクセスします。
- ⑨前回アクセス日時 ..... タイムサーバにアクセスした日時を表示します。
- ⑩次回アクセス日時 ..... タイムサーバにアクセスする予定日時を、「⑨前回アクセス日時」と「⑧アクセス時間間隔」で設定された日数より算出して表示します。

---

## 2 本体設定と管理

この章では、  
設定ページの、<ネットワーク>メニューで表示される画面について説明します。

---

1. [本体ネットワーク設定]画面 .....	24
2. [無線LAN設定]画面 .....	28
3. [簡易DNSサーバ設定]画面 .....	32
4. [IPフィルタ設定]画面 .....	33
5. [RIP設定]画面 .....	38
6. [ルーティング設定]画面 .....	39

### 3 ネットワーク

#### 1. [本体ネットワーク設定]画面



登録	取消	登録して再起動	このページの設定は再起動後に有効になります。 再起動が必要な項目が変更されています。
<b>① ② ③ 本体名称/IPアドレス設定</b>			
④	本体名称	SR-11	
⑤	IPアドレス	192.168.0.1	
⑥	サブネットマスク	255.255.255.0	
<b>リモートアクセス用IP設定</b> <span>登録/取消</span>			
⑦	リモートアクセスサーバを使用	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する	
⑧	IPアドレス1		DHCPの割り当て範囲と重ならないように設定します。
	IPアドレス2		
<b>DHCPサーバ設定</b> <span>登録/取消</span>			
⑨	DHCPサーバ機能を使用	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する	
⑩	割り当て開始IPアドレス	192.168.0.10	
⑪	割り当て個数	90 個	
⑫	サブネットマスク	255.255.255.0	
⑬	リース期間	9 日	
⑭	ドメイン名		
⑮	プライマリDNSサーバ		DNSサーバの代理応答機能を使用する場合は無効となります。
⑯	セカンダリDNSサーバ		
⑰	プライマリWINSサーバ		
⑱	セカンダリWINSサーバ		
<b>静的DHCPサーバ設定</b> <span>登録/取消</span>			
登録の追加			
	MACアドレス		IPアドレス
			<input type="button" value="追加"/>
現在の登録			
	MACアドレス		IPアドレス

- ①<登録> ..... この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。変更された内容で運用するには、再起動が必要です。
- ②<取消> ..... この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③<登録して再起動> ..... この画面中の設定内容を変更したとき、その内容を有効にするため、本製品を再起動します。
- ④本体名称 ..... ネットワーク上で、本製品を識別する名前です。設定した名前は、ネットワーク上の有線/無線接続されたパソコンから、本製品に直接アクセスするためのドメイン名の一部として使えます。  
入力形式：[http://web.本体名称/]  
この場合、[簡易DNSサーバ設定]画面の「④DNSサーバの代理応答」(☞P32)を「する」(初期設定)に設定しておく必要があります。また、ほかのネットワーク機器と重複しないように、アルファベットで始まる半角英数字(A~Z、0~9、-)、31文字以内で設定します。  
全角文字(15文字以内)も入力できますが、DNSサーバの代理応答機能は利用できません。
- ⑤IPアドレス ..... [WAN設定]画面の「③本体のWAN側」(☞P7)で設定した内容をこの項目に反映します。
- ⑥サブネットマスク ..... [WAN設定]画面の「③本体のWAN側」(☞P7)で設定した内容をこの項目に反映します。

1. [本体ネットワーク設定]画面(つづき)

登録 取消		登録して再起動		このページの設定は再起動時に有効になります。 再起動が必要な項目が変更されています。	
<b>① ② ③ 本体名称/IPアドレス設定</b>					
④	本体名称	SR-11			
⑤	IPアドレス	192.168.0.1			
⑥	サブネットマスク	255.255.255.0			
<b>リモートアクセス用IP設定</b>					登録/取消
⑦	リモートアクセスサーバを使用	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する			
⑧	IPアドレス1		DHCPの割り当て範囲と重ならないように設定します。		
	IPアドレス2				
<b>DHCPサーバ設定</b>					登録/取消
⑨	DHCPサーバ機能を使用	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する			
⑩	割り当て開始IPアドレス	192.168.0.10			
⑪	割り当て回数	90 回			
⑫	サブネットマスク	255.255.255.0			
⑬	リース期間	9 日			
⑭	ドメイン名				
⑮	プライマリDNSサーバ		DNSサーバの代理応答機能を使用する場合は無効となります。		
⑯	セカンダリDNSサーバ				
⑰	プライマリWINSサーバ				
⑱	セカンダリWINSサーバ				
<b>静的DHCPサーバ設定</b>					登録/取消
登録の追加					
	MACアドレス		IPアドレス		
				追加	
現在の登録					
	MACアドレス		IPアドレス		

⑦ リモートアクセスサーバ  
を使用 .....

本製品に有線または無線で直接接続されていない遠隔地のパソコンを、ローカルネットワーク上のパソコンとして認識させ、リモートアクセスすることができます。  
この項目で「する」を選択し、さらに2つのリモートアクセス用IPアドレス(下記「⑧IPアドレス1/IPアドレス2」)を設定することで、リモートアクセスが可能となります。

⑧ IPアドレス1/IPアドレス2 ...

リモートアクセスさせたいパソコンに割り当てるIPアドレスを入力します。

設定するときは、次のことに注意してください。

IPアドレスは、2つ(IPアドレス1/IPアドレス2)設定する

本製品のIPアドレスと同じネットワーク部をもつIPアドレスを、リモートアクセスさせたいパソコンに設定する

例：「192.168.0.1」であれば、ドット(.)で区切られた上位3グループの「192.168.0.」が同じIPアドレスを設定します。

本製品や、ローカルネットワーク上のパソコンに割り当てられるIPアドレスと重複しないように設定する

リモートアクセスするパソコンがDNSを使用する場合は、DNSサーバのIPアドレスをリモートアクセスするパソコンに設定してください。

### 3 ネットワーク

#### 1. [本体ネットワーク設定]画面(つづき)

登録 取消 登録して再起動 このページの設定は再起動後に有効になります。再起動が必要な項目が変更されています。

① ② ③ 本体名称/IPアドレス設定

④ 本体名称	SR-11
⑤ IPアドレス	192.168.0.1
⑥ サブネットマスク	255.255.255.0

リモートアクセス用IP設定 登録/取消

リモートアクセスサーバを使用 ⑦ しない する

⑧ IPアドレス1  DHCPの割り当て範囲と重ならないように設定します。

IPアドレス2

DHCPサーバ設定 登録/取消

⑨ DHCPサーバ機能を使用 しない する

⑩ 割り当て開始IPアドレス 192.168.0.10

⑪ 割り当て回数 90 個

⑫ サブネットマスク 255.255.255.0

⑬ リース期間 9 日

⑭ ドメイン名

⑮ プライマリDNSサーバ  DNSサーバの代理応答機能を使用する場合は無効となります。

⑯ セカンダリDNSサーバ

⑰ プライマリWINSサーバ

⑱ セカンダリWINSサーバ

静的DHCPサーバ設定 ⑲ 登録/取消

登録の追加

MACアドレス	IPアドレス
<input type="text"/>	<input type="text"/>

追加

現在の登録

MACアドレス	IPアドレス
---------	--------

- ⑨DHCPサーバ機能を使用 ..... 本製品を動的DHCPサーバとして使用するかどうかを設定します。本製品に有線および無線で直接接続しているパソコンのTCP/IP設定を、“IPアドレスを自動的に取得する”と設定している場合、本製品のDHCPクライアントになります。この機能によって、動的にDHCPサーバである本製品からIPアドレス/サブネットマスク、ルータやDNSサーバのIPアドレス/ドメイン名が与えられます。
- ⑩割り当て開始IPアドレス ..... 本製品に有線および無線で直接接続するパソコンへ、IPアドレスを自動で割り当てるときの開始アドレスを設定します。
- ⑪割り当て回数 ..... 上記「⑩割り当て開始IPアドレス」から連続で自動割り当て可能なアドレスの最大個数を、5～128のあいだで設定します。
- ⑫サブネットマスク ..... 上記「⑩割り当て開始IPアドレス」に対するサブネットマスクです。
- ⑬リース期間 ..... DHCPサーバが自動で、ローカルIPアドレスを定期的に、クライアントに割り当てなおよす期限を日数で指定します。
- ⑭ドメイン名 ..... Ethernetでドメイン名を使用しているときなど必要があれば、DHCPサーバがクライアントに通知するネットワークアドレスのドメイン名を入力します。

## 1. [本体ネットワーク設定]画面(つづき)

登録		取消		登録して再起動	
このページの設定は再起動に有効になります。 再起動が必要な項目が変更されています。					
<b>① ② ③ 本体名称/IPアドレス設定</b>					
④	本体名称	SR-11			
⑤	IPアドレス	192.168.0.1			
⑥	サブネットマスク	255.255.255.0			
<b>リモートアクセス用IP設定</b>					
リモートアクセスサーバを使用 ⑦ <input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する					
⑧	IPアドレス1			DHCPの割り当て範囲と重ならないように設定します。	
	IPアドレス2				
<b>DHCPサーバ設定</b>					
DHCPサーバ機能を使用 ⑨ <input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する					
⑩	割り当て開始IPアドレス	192.168.0.10			
⑪	割り当て回数	90	個		
⑫	サブネットマスク	255.255.255.0			
⑬	リース期間	9	日		
⑭	ドメイン名				
⑮	プライマリDNSサーバ			DNSサーバの代理応答機能を使用する場合は無効となります。	
⑯	セカンダリDNSサーバ				
⑰	プライマリWINSサーバ				
⑱	セカンダリWINSサーバ				
<b>静的DHCPサーバ設定 ⑲</b>					
登録の追加					
	MACアドレス			IPアドレス	
					<input type="button" value="追加"/>
現在の登録					
	MACアドレス			IPアドレス	

- ⑮プライマリDNSサーバ ..... [接続]画面(⇒P4)で設定した内容を、この項目に反映します。  
「⑨DHCPサーバ機能を使用」を「する」に設定し、必要に応じて使い分けたいDNSサーバのアドレスが2つある場合は、優先するどちらか一方を入力します。  
入力すると、本製品のIPアドレスの代わりに、設定したDNSサーバアドレスをDHCPクライアントに通知します。
- ⑯セカンダリDNSサーバ ..... [接続]画面(⇒P4)から設定した内容をこの項目に反映します。  
上記「⑮プライマリDNSサーバ」と同様に、使い分けたいDNSサーバアドレスのもう一方を入力します。
- ⑰プライマリWINSサーバ ..... Microsoftネットワークを使ってWINSサーバを利用する場合は、WINSサーバアドレスを入力します。WINSサーバのアドレスが2つある場合は、どちらか一方を入力します。
- ⑱セカンダリWINSサーバ ..... 上記「⑰プライマリWINSサーバ」と同様、WINSサーバのアドレスが2つある場合は、残りの一方を入力します。
- ⑲静的DHCPサーバ設定 ..... DHCPサーバ機能を使用して自動割り当てるIPアドレスを、特定のパソコンに固定するとき、パソコンのMACアドレスとIPアドレスの組み合わせを登録する欄です。  
入力後は、<追加>をクリックしてください。  
この欄には、最大16個の組み合わせまで登録でき、登録するパソコンのIPアドレスは、DHCPサーバ機能で割り当てることができる範囲外のアドレスを指定してください。

# 3 ネットワーク

## 2. [無線LAN設定]画面

- 本体ネットワーク設定
- 無線LAN設定**
- 無線LANソフトウェア設定
- IDフィルタ設定
- IP設定
- ルーティング設定



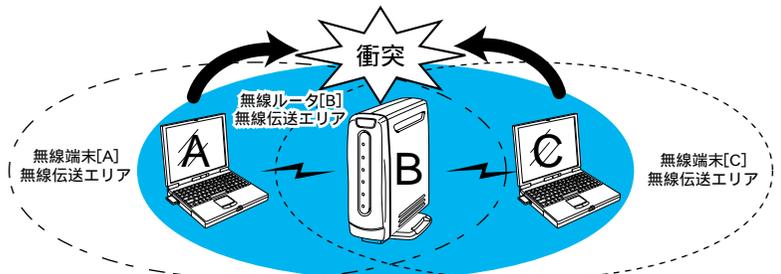
- ①<登録> ..... この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。変更された内容で運用するには、再起動が必要です。
- ②<取消> ..... この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③<登録して再起動> ..... この画面中の設定内容を変更したとき、その内容を有効にするため、本製品を再起動します。
- ④ESS ID ..... ワイヤレス接続による本製品、およびローカルネットワークへの不正なアクセスなどを防止するための識別用IDを入力します。同じESS IDが設定された本製品と無線端末のあいだでのみ、ワイヤレス接続できます。大文字/小文字の区別にご注意して、任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。 (出荷時の設定: LG) また、入力した文字は、すべて「\*」で表示されます。 (表示例: \*\*)
- ⑤ESS IDの確認入力 ..... 「④ESS ID」の入力間違いを防ぐために、ESS IDを再入力します。大文字/小文字の区別にご注意ください。 (表示例: \*\*)
- ⑥チャンネル ..... 本製品と無線端末がワイヤレス接続に使用する無線伝送用チャンネルを設定します。  
無線伝送エリア内に、別の無線LANなどの機器が存在する場合は、相互の電波干渉を避けるために、5チャンネル以上間隔をあけて設定してください。  
伝送距離は、約50m(見通し距離: 室内)です。

2. [無線LAN設定]画面(つづき)

登録 取消		登録して再起動		アドレス登録以外の設定は再起動時に有効になります。											
<b>無線LAN設定</b>															
ESS ID ④	**	この項目の設定は再起動時に有効になります。													
ESS IDの確認入力 ⑤	**														
<b>無線詳細設定</b>															
チャンネル ⑥	14														
Rts/Ctsスレッシュホールド ⑦	無し														
WEPキーを使用 ⑧	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する														
キージェネレータ ⑨															
WEPキー ⑩	<table border="1"> <tr> <th>選択</th> <th>文字列</th> </tr> <tr> <td><input type="radio"/> 1</td> <td>00-00-00-00-00</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/> 2</td> <td>00-00-00-00-00</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/> 3</td> <td>00-00-00-00-00</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/> 4</td> <td>00-00-00-00-00</td> </tr> </table>	選択	文字列	<input type="radio"/> 1	00-00-00-00-00	<input type="radio"/> 2	00-00-00-00-00	<input type="radio"/> 3	00-00-00-00-00	<input type="radio"/> 4	00-00-00-00-00				
選択	文字列														
<input type="radio"/> 1	00-00-00-00-00														
<input type="radio"/> 2	00-00-00-00-00														
<input type="radio"/> 3	00-00-00-00-00														
<input type="radio"/> 4	00-00-00-00-00														
<b>MACアドレスセキュリティ設定</b>															
MACアドレスセキュリティを使用 ⑪	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	この項目の設定は再起動時に有効になります。													
本体無線部のMACアドレス ⑫	00-90-C7-0B-01-A9														
<b>登録の追加</b>															
MACアドレス ⑬		追加													
<b>現在の登録</b>															
登録済みの端末	受信中の端末	通信状況													

⑦Rts/Ctsスレッシュホールド

ネゴシエーションするために送るパケットのデータサイズを、「500バイト」または「1000バイト」から選択します。(出荷時の設定：無し) Rts/Cts(Request to send/Clear to send)スレッシュホールドを設定すると、隠れ端末の影響による通信速度の低下を防止できます。隠れ端末とは、下図のように、それぞれが無線ルータ[B]と通信できても、互いが直接通信できない無線端末[A]-[C]どうし([A]に対して[C]、[C]に対して[A])のことを呼びます。通信の衝突を防止するには、送信要求(Rts)信号を受信した無線ルータ[B]が、無線伝送エリア内にある無線端末[A]および[C]に送信可能(Cts)信号を送り返すことで、Rts信号を送信していない無線端末は無線ルータ[B]が隠れ端末と通信中であることを認識させます。これにより、Rts信号を送信していない無線端末[A]または[C]は、無線ルータ[B]へのアクセスを自制して、通信の衝突を防止できます。



⑧WEPキーを使用 .....

無線ネットワーク間で通信するデータを保護するために、WEP方式(Wired Equivalent Privacy)によるデータの暗号化をするかしないかを選択します。WEPキーを使用「する」と設定した場合、「⑨キージェネレータ」、および「⑩WEPキー」の設定に基づいて暗号化されます。

### 3 ネットワーク

#### 2. [無線LAN設定]画面(つづき)

#### ⑨キージェネレータ .....

暗号化および復号化に使う鍵を生成するための文字列を設定します。入力する文字は、すべて「\*」で表示します。(表示例：\* \*) 入力された文字列より生成された鍵は、下記の「⑩WEPキー」のテキストボックスに表示されます。

通信対象となる相手間で、同じ文字列(大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字/記号)を設定します。通信の対象となる相手間で、設定された文字列が異なると、暗号化されたデータを復号できません。

#### ⑩WEPキー .....

「⑨キージェネレータ」のテキストボックスに入力した文字列より生成されたキーが、「1」、「2」、「3」、「4」の各「文字列」に、40ビット(16進数：10文字)ずつ表示されます。

「1」、「2」、「3」、「4」から選択したキーだけを暗号化に使用します。復号化できるのは、「1」、「2」、「3」、「4」から選択した表示内容を相手が暗号化に使用する場合だけです。

「1」、「2」、「3」、「4」の各テキストボックスに直接入力することもできます。(この場合、「⑨キージェネレータ」のテキストボックスに、文字列は表示されません。)

#### ⑪MACアドレスセキュリティを使用 .....

あらかじめ、登録しておいたMACアドレスと同じ無線端末だけが、本製品にワイヤレス接続できるようにするかしないかを選択します。この項目の設定を変更したあとは、<登録して再起動>をクリックして本製品を再起動してください。

#### ⑫本体無線部のMACアドレス ...

本製品の無線部に登録されたMACアドレスを表示します。

2. [無線LAN設定]画面(つづき)

登録		取消		登録して再起動		アドレス登録以外の設定は再起動後に有効になります。											
<b>無線LAN設定</b>																	
ESS ID	④	**		この項目の設定は再起動後に有効になります。													
ESS IDの確認入力	⑤	**															
<b>無線詳細設定</b>																	
チャンネル	⑥	14		登録/取消▲													
Rts/Ctsスレッシュホールド	⑦	無し															
WEPキーを使用	⑧	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する															
キージェネレータ	⑨																
WEPキー	⑩	<table border="1"> <thead> <tr> <th>選択</th> <th>文字列</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><input type="radio"/> 1</td> <td>00-00-00-00-00</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/> 2</td> <td>00-00-00-00-00</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/> 3</td> <td>00-00-00-00-00</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/> 4</td> <td>00-00-00-00-00</td> </tr> </tbody> </table>	選択	文字列	<input type="radio"/> 1	00-00-00-00-00	<input type="radio"/> 2	00-00-00-00-00	<input type="radio"/> 3	00-00-00-00-00	<input type="radio"/> 4	00-00-00-00-00					
選択	文字列																
<input type="radio"/> 1	00-00-00-00-00																
<input type="radio"/> 2	00-00-00-00-00																
<input type="radio"/> 3	00-00-00-00-00																
<input type="radio"/> 4	00-00-00-00-00																
<b>MACアドレスセキュリティ設定</b>																	
MACアドレスセキュリティを使用	⑪	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する		この項目の設定は再起動後に有効になります。													
本体無線部のMACアドレス	⑫	00-90-C7-0B-01-A9															
<b>登録の追加</b>																	
MACアドレス	⑬			追加													
<b>現在の登録</b>																	
登録済みの端末		受信中の端末		通信状況													

⑬MACアドレス .....

MACアドレスセキュリティが有効なとき、この欄に設定したMACアドレスが登録された無線通信LANカードを装着する弊社製ネットワーク機器と通信できます。

入力は、半角文字で12桁を入力します。

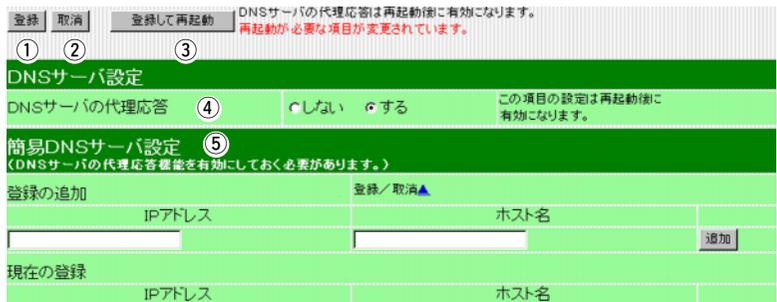
入力後は、<追加>をクリックして、画面の一番下に表示される[現在の登録]欄に登録されたことを確認してください。

MACアドレスを次のように入力すると、すべて同じアドレスとして処理します。 11-11-11-22-33-33、111111223333

無線通信LANカードのMACアドレスを知りたいときは、弊社無線通信カードに付属する取扱説明書をご覧ください。

## 3 ネットワーク

### 3. [簡易DNSサーバ設定]画面



- ①<登録> ..... この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。変更された内容で運用するには、再起動が必要です。
- ②<取消> ..... この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③<登録して再起動> ..... この画面中の設定内容を変更したとき、その内容を有効にするため、本製品を再起動します。
- ④DNSサーバの代理応答 ..... 本製品を代理DNSサーバとして代理応答するかしないかの設定です。代理DNS機能とは、プロバイダー側のDNSサーバアドレスを検出したり、パソコンからのDNS要求をDNSサーバへ転送したりする機能です。  
代理DNS機能を利用すると、Ethernet上のパソコンのDNSサーバを本製品のアドレスに設定すると異なるプロバイダーに接続するときでもDNSサーバのアドレスを変更する必要がありませんので便利です。
- ⑤簡易DNSサーバ設定 ..... 代理DNSサーバ機能を使うとき、本製品を簡易DNSサーバとして使用できます。  
簡易DNSサーバを使用する場合、パソコンのホスト名と対応するIPアドレスの組合せを登録する欄です。  
簡易DNSサーバ機能を使用すると、UDP/53によるドメイン名からIPアドレスを検索するDNS要求と、IPアドレスからドメイン名を検索するDNS逆引き要求に応じます。  
ホスト名として“ホスト名.ドメイン名”を登録しておく、ホスト名のみ一致する場合でも応答が返されます。  
入力後は、<追加>をクリックしてください。  
ローカルなIPアドレスとそのホスト名を登録するときは、静的DHCPサーバを利用してMACアドレスとIPアドレスの組み合わせを固定しておくことをおすすめします。

4. [IPフィルタ設定]画面

- 本体ネットワーク設定
- 無線LAN設定
- 簡易DNSサーバ設定
- IPフィルタ設定**
- ポート設定
- ルーティング設定

**IPフィルタ設定** 追加 ①

番号 ②  編集 ③

フィルタ方向 ④

フィルタ方法 ⑤

プロトコル ⑥  その他選択時

ポート番号 ⑦  ~

発信元IPアドレス ⑧

始点IPアドレス  始点サブネットマスク

終点IPアドレス  終点サブネットマスク

宛先IPアドレス ⑨

始点IPアドレス  始点サブネットマスク

終点IPアドレス  終点サブネットマスク

					ポート番号		発信元IPアドレス		IPアドレ	
⑩	番号	方向	方法	プロトコル	ポート方向	始点	終点	IPアドレス	サブネットマスク	IPアドレ
削除	55	IN	遮断	TCP_EST	宛先	*	*	255.255.255.255	255.255.255.255	-
削除	56	IN	遮断	TCP_EST	宛先/発信元	*	*	255.255.255.255	255.255.255.255	-
削除	57	IN	遮断	ALL	宛先/発信元	*	*	10.0.0.0	255.0.0.0	-
削除	58	IN	遮断	ALL	宛先/発信元	*	*	172.16.0.0	255.240.0.0	-
削除	59	IN	遮断	ALL	宛先/発信元	*	*	192.168.0.0	255.255.0.0	-
削除	60	OUT	遮断	ALL	宛先/発信元	*	*	255.255.255.255	255.255.255.255	-
削除	61	OUT	遮断	ALL	宛先/発信元	*	*	255.255.255.255	255.255.255.255	-
削除	62	OUT	遮断	ALL	宛先/発信元	*	*	255.255.255.255	255.255.255.255	-
削除	63	OUT	透過(接続中)	TCP	宛先	137	139	255.255.255.255	255.255.255.255	-
削除	64	OUT	透過(接続中)	UDP	宛先/発信元	137	139	255.255.255.255	255.255.255.255	-

- ①<追加> .....
- ②番号 .....
- ③<編集> .....
- ④フィルタ方向 .....

上記の画面で入力した条件で、IPフィルターを設定します。追加した内容は、この画面の下に表示されます。

最大64件のフィルターを登録できます。フィルターを登録すると、本製品が受信または送信するパケットごとに登録されたフィルターと比較します。この項目では、フィルターを比較する順位を指定します。フィルターを複数設定しているときは、番号の小さい順番に比較を開始します。フィルターの条件に一致した時点で、それ以降の識別番号のフィルターは比較しません。

設定済みのフィルターを編集するボタンです。編集するフィルター番号を入力してから、ボタンをクリックします。

パケットの通信方向で、WAN側から本製品に対して、フィルターの対象となる方向を設定します。以下の中から選択してください。

- OUT 本製品からWAN側に送信するIPパケットに対して、フィルタリング処理を行います。フィルタリング処理は、アドレス変換の前に行います。
- IN WAN側から本製品が受信するIPパケットに対して、フィルタリング処理を行います。フィルタリング処理は、アドレス変換のあとに行います。
- BOTH 本製品がWAN側に送信、およびWAN側から受信する両方のIPパケットに対して、フィルタリング処理を行います。

### 3 ネットワーク

#### 4. [IPフィルタ設定]画面(つづき)

The screenshot shows the 'IPフィルタ設定' (IP Filter Setting) screen. It has a green header with a '追加' (Add) button and a circled '1'. Below are several fields with circled numbers 2 through 9:

- ② 番号 (Number): Input field with a '編集' (Edit) button.
- ④ フィルタ方向 (Filter Direction): Dropdown menu set to 'OUT'.
- ⑤ フィルタ方法 (Filter Method): Dropdown menu set to '遮断' (Block).
- ⑥ プロトコル (Protocol): Dropdown menu set to 'ALL', with a 'その他選択時' (When selecting other) link.
- ⑦ ポート番号 (Port Number): Dropdown menu set to '宛先' (Destination), with a range input field.
- ⑧ 発信元IPアドレス (Source IP Address): Fields for '始点IPアドレス' (Start IP Address) and '始点サブネットマスク' (Start Subnet Mask), and '終点IPアドレス' (End IP Address) and '終点サブネットマスク' (End Subnet Mask).
- ⑨ 宛先IPアドレス (Destination IP Address): Fields for '始点IPアドレス' (Start IP Address) and '始点サブネットマスク' (Start Subnet Mask), and '終点IPアドレス' (End IP Address) and '終点サブネットマスク' (End Subnet Mask).

Below the configuration fields is a table of existing filter rules:

⑩ 番号	方向	方法	プロトコル	ポート番号		発信元IPアドレス		IPアドレス	
				ポート方向	始点	終点	サブネットマスク		サブネットマスク
削除	55	IN	遮断	TCP_EST	宛先	*	*	255.255.255.255	-
削除	56	IN	遮断	TCP_EST	宛先/発信元	*	*	255.255.255.255	-
削除	57	IN	遮断	ALL	宛先/発信元	*	10.0.0.0	255.0.0.0	-
削除	58	IN	遮断	ALL	宛先/発信元	*	172.16.0.0	255.240.0.0	-
削除	59	IN	遮断	ALL	宛先/発信元	*	192.168.0.0	255.255.0.0	-
削除	60	OUT	遮断	ALL	宛先/発信元	*	*	255.255.255.255	-
削除	61	OUT	遮断	ALL	宛先/発信元	*	*	255.255.255.255	-
削除	62	OUT	遮断	ALL	宛先/発信元	*	*	255.255.255.255	-
削除	63	OUT	透過(接続中)	TCP	宛先	137	139	255.255.255.255	-
削除	64	OUT	透過(接続中)	UDP	宛先/発信元	137	139	255.255.255.255	-

#### ⑤フィルタ方法 .....

フィルタリングの方法として、以下の3通りがあります。

- 遮断 回線の接続に関係なく、フィルタリングの条件に一致した場合、そのパケットをすべて破棄します。
- 透過 回線の接続に関係なく、フィルタリングの条件に一致した場合、そのパケットをすべて通過させます。
- 透過(接続中) 回線がすでに接続されている状態で、フィルタリングの条件に一致した場合、そのパケットを通過させますが、回線が接続されていない場合には、そのパケットを破棄します。このように、パケットの送信をきっかけに自動発呼することを防止するときに設定してください。

#### ⑥プロトコル .....

フィルタリングの対象となるパケットのトランスポート層プロトコルを選ぶ項目です。

- ALL すべてのプロトコルの条件に一致します。
- TCP TCPプロトコルの条件だけに一致します。
- TCP\_FIN TCP\_FIN/RSTのパケットが処理の対象になります。
- TCP\_EST TCP\_SYNフラグのパケットが処理の対象になります。
- UDP UDPプロトコルの条件だけに一致します。
- ICMP ICMPプロトコルの条件だけに一致します。
- その他 IP層ヘッダーに含まれる上位層プロトコル番号を入力します。  
プロトコル表示の右の欄に、プロトコル番号を10進数で0～255までの半角数字を入力してください。

4. [IPフィルタ設定]画面(つづき)

**IPフィルタ設定** [追加] ①

番号 ② [編集] ③

フィルタ方向 ④ [OUT]

フィルタ方法 ⑤ [遮断]

プロトコル ⑥ [ALL] その他選択時

ポート番号 ⑦ [宛先] ~ [ ]

発信元IPアドレス ⑧

宛先IPアドレス ⑨

⑩	番号	方向	方法	プロトコル	ポート番号		発信元IPアドレス		宛先IPアドレス
					ポート方向	始点	終点	IPアドレス	
削除	55	IN	遮断	TCP_EST	宛先	*	*	255.255.255.255	-
削除	56	IN	遮断	TCP_EST	宛先/発信元	*	*	255.255.255.255	-
削除	57	IN	遮断	ALL	宛先/発信元	*	10.0.0.0	255.0.0.0	-
削除	58	IN	遮断	ALL	宛先/発信元	*	172.16.0.0	255.240.0.0	-
削除	59	IN	遮断	ALL	宛先/発信元	*	192.168.0.0	255.255.0.0	-
削除	60	OUT	遮断	ALL	宛先/発信元	*	*	255.255.255.255	-
削除	61	OUT	遮断	ALL	宛先/発信元	*	*	255.255.255.255	-
削除	62	OUT	遮断	ALL	宛先/発信元	*	*	255.255.255.255	-
削除	63	OUT	透過(接続中)	TCP	宛先	137	139	*	255.255.255.255
削除	64	OUT	透過(接続中)	UDP	宛先/発信元	137	139	*	255.255.255.255

⑦ポート番号 .....

フィルタリングの対象となるTCP/UDPポート番号を入力する項目です。  
 印をクリックし、対象となるポートが「宛先」、「発信元」、もしくは「宛先/発信元」なのかを指定して、番号を始点から終点まで連続で入力します。また、特定のポートだけを指定するときは、始点だけまたは、始点/終点に同一の番号を入力してください。  
 入力できるポート番号は、10進数で1～65535までの半角数字です。  
 なお、「宛先/発信元」を選択した場合は、宛先、発信元のどちらかが一方が一致すると、フィルタリングの対象とします。

⑧発信元IPアドレス .....

IPアドレスは、ドット(.)ごとに区切られた4つの10進数(0～255までの半角数字)で構成してください。

- 始点IPアドレス/終点IPアドレス  
 発信元ホストのIPアドレスを設定することにより、特定のホストからのパケットをフィルタリングします。  
 何も入力しない場合は、すべてのアドレスを対象とします。
- 始点サブネットマスク/終点サブネットマスク  
 この項目で指定したIPアドレスのネットマスクを設定します。  
 IPアドレスとサブネットマスクは、始点から終点まで連続で入力します。また、特定の発信元ホストだけを指定するときは、始点だけ入力してください。

### 3 ネットワーク

#### 4. [IPフィルタ設定]画面(つづき)

IPフィルタ設定 追加 ①

番号 ②  編集 ③

フィルタ方向 ④

フィルタ方法 ⑤

プロトコル ⑥  その他選択時

ポート番号 ⑦  ~

発信元IPアドレス ⑧

始点IPアドレス  始点サブネットマスク

終点IPアドレス  終点サブネットマスク

宛先IPアドレス ⑨

始点IPアドレス  始点サブネットマスク

終点IPアドレス  終点サブネットマスク

⑩	番号	方向	方法	プロトコル	ポート番号		発信元IPアドレス		IPアドレス
					ポート方向	始点	終点	IPアドレス	
削除	55	IN	遮断	TCP_EST	宛先	*	*	255.255.255.255	-
削除	56	IN	遮断	TCP_EST	宛先/発信元	*	*	255.255.255.255	-
削除	57	IN	遮断	ALL	宛先/発信元	*	10.0.0.0	255.0.0.0	-
削除	58	IN	遮断	ALL	宛先/発信元	*	172.16.0.0	255.240.0.0	-
削除	59	IN	遮断	ALL	宛先/発信元	*	192.168.0.0	255.255.0.0	-
削除	60	OUT	遮断	ALL	宛先/発信元	*	*	255.255.255.255	-
削除	61	OUT	遮断	ALL	宛先/発信元	*	*	255.255.255.255	-
削除	62	OUT	遮断	ALL	宛先/発信元	*	*	255.255.255.255	-
削除	63	OUT	透過(接続中)	TCP	宛先	137	139	255.255.255.255	-
削除	64	OUT	透過(接続中)	UDP	宛先/発信元	137	139	255.255.255.255	-

⑨宛先IPアドレス .....

IPアドレスは、ドット(.)ごとに区切られた4つの10進数(0 ~ 255までの半角数字)で構成してください。

● 始点IPアドレス/終点IPアドレス

宛先ホストのIPアドレスを設定することにより、特定のホストに対するパケットをフィルタリングします。

始点に何も入力しない場合は、すべてのアドレスを対象とします。

● 始点サブネットマスク/終点サブネットマスク

この項目で指定したIPアドレスのネットマスクを設定します。

IPアドレスとサブネットマスクは、始点から終点まで連続で入力します。また、特定の宛先ホストだけを指定するときは、始点だけ入力してください。

【発信元/宛先IPアドレスの設定例】

● IPアドレスに192.168.1.0

● サブネットマスクに255.255.255.252

フィルターの対象となるIPアドレスは、192.168.1.0から192.168.1.3までとなります。

⑩<削除> .....

設定したフィルターを削除するボタンです。

## 4. [IPフィルタ設定]画面(つづき)

ご参考に

フレッツISDN回線設定では、出荷時の設定として、下の画面サンプルのようにフィルターが登録されています。

削除	番号	方向	方法	プロトコル	ポート番号			発信元IPアドレス				宛先IPアドレス			
					ポート方向	始点	終点	IPアドレス	サブネットマスク	IPアドレス	サブネットマスク	IPアドレス	サブネットマスク	IPアドレス	サブネットマスク
削除	55	IN	遮断	TCP_EST	宛先	*	*	255.255.255.255	-	255.255.255.255	*	255.255.255.255	-	255.255.255.255	
削除	56	IN	遮断	TCP_EST	宛先/発信元	*	*	255.255.255.255	-	255.255.255.255	192.168.0.1	255.255.255.255	-	255.255.255.255	
削除	57	IN	遮断	ALL	宛先/発信元	*	10.0.0.0	255.0.0.0	-	255.255.255.255	*	255.255.255.255	-	255.255.255.255	
削除	58	IN	遮断	ALL	宛先/発信元	*	172.16.0.0	255.240.0.0	-	255.255.255.255	*	255.255.255.255	-	255.255.255.255	
削除	59	IN	遮断	ALL	宛先/発信元	*	192.168.0.0	255.255.0.0	-	255.255.255.255	*	255.255.255.255	-	255.255.255.255	
削除	60	OUT	遮断	ALL	宛先/発信元	*	*	255.255.255.255	-	255.255.255.255	10.0.0.0	255.0.0.0	-	255.255.255.255	
削除	61	OUT	遮断	ALL	宛先/発信元	*	*	255.255.255.255	-	255.255.255.255	172.16.0.0	255.240.0.0	-	255.255.255.255	
削除	62	OUT	遮断	ALL	宛先/発信元	*	*	255.255.255.255	-	255.255.255.255	192.168.0.0	255.255.0.0	-	255.255.255.255	
削除	63	OUT	透過(接続中)	TCP	宛先	137	139	*	255.255.255.255	-	255.255.255.255	*	255.255.255.255	-	255.255.255.255
削除	64	OUT	透過(接続中)	UDP	宛先/発信元	137	139	*	255.255.255.255	-	255.255.255.255	*	255.255.255.255	-	255.255.255.255

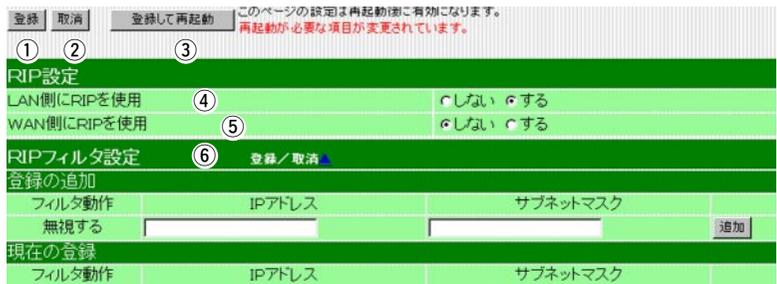
なお、設定されているフィルターの目的は、以下のとおりです。

- 55番 : 本製品への不正なパケットの着信を防止
- 56～59番 : プライベートIPアドレスを割り当てたパソコンや、インターネット上に公開しないサーバなどへの不正なパケットの着信を防止
- 60～62番 : プライベートIPアドレスを割り当てたパソコンや、インターネット上に公開しないサーバなどから、不正なパケットをWAN側への流出を防止
- 63、64番 : Windows95/98/NT/2000が行う定期的な通信によって発生する「意図しない自動接続」を防止

### 3 ネットワーク

#### 5. [RIP設定]画面

- 本体ネットワーク設定
- 無線LAN設定
- 静電DNSサーバ設定
- IPフィルタ設定
- RIP設定**
- ルーティング設定



- ①<登録> ..... この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。変更された内容で運用するには、再起動が必要です。
- ②<取消> ..... この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③<登録して再起動> ..... この画面中の設定内容を変更したとき、その内容を有効にするため、本製品を再起動します。  
  
RIP設定  
RIPを使用することで隣接ルータと経路情報を交換して、経路を動的に作成します。  
LAN間ダイヤルアップ接続やHSD(高速専用線)間で使用します。  
RIPを使うと、RIPパケットがそのルータのブロードキャストアドレスを使って、約30秒毎にブロードキャストされます。
- ④LAN側にRIPを使用 ..... LAN側にRIPパケットをブロードキャストするかどうかを選択します。
- ⑤WAN側にRIPを使用 ..... WAN側にRIPパケットをブロードキャストするかどうかを選択します。
- ⑥RIPフィルタ設定 ..... 同一サブネットで使う複数のルータにおいて、特定のルータが出力するRIPパケットを受信しないように、そのパケットを出力するルータのIPアドレスとサブネットマスクを入力します。  
最大20件の登録が可能です。  
入力後は、<追加>をクリックしてください。

6. [ルーティング設定]画面

- 本体ネットワーク設定
- 無線LAN設定
- 固定DNSサーバ設定
- IPフィルタ設定
- PIP設定
- ルーティング設定**

ネットワーク インターフェイス リスト

インターフェイス	IPアドレス	ネットマスク
local	192.168.0.1	255.255.255.0

IP経路情報

宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	ネット	作成	メトリック
192.168.0 ①	255.255.255 ②	192.168.0.1 ③	loc ④	sta ⑤	⑥ 0
192.168.0.0	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0
192.168.0.1	255.255.255.255	192.168.0.1	local	static	0
192.168.0.255	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0

スタティックルーティング設定

登録の追加

経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値
local ⑦	⑧	⑨	⑩	⑪

現在の登録

経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値
----	----	--------	--------	--------

セレクトルーティング ⑫ ⑬

番号 ⑭

接続方法 ⑮  \* 拒絶する\*を選択した場合は全ての経路に対して適用されます

経路 ⑯ 01:プロバイダ1

発信元IPアドレス ⑰ -

プロトコル制御 ⑱  ポート番号 -

宛先IPアドレスまたはドメイン名 ⑲

セレクトルーティングを使用する時間帯 ⑳ 00 : 00 ~ 00 : 00

終了時刻で強制切断 ㉑  しない  する

⑳ 番号	経路	接続方法	発信元IPアドレス	プロトコル制御	ポート番号	宛先IPアドレスまたはド
削除 01	01:プロバイダ1	手動発信		使用しない		

発信元IPアドレス	プロトコル制御	ポート番号	宛先IPアドレスまたはドメイン名	使用する時間帯	強制切断
	使用しない			00:00 - 00:00	しない

IP経路情報

ルータがパケットの送信において、そのパケットをどのルータまたは端末に配送すべきかの情報を表示します。

この画面には、[スタティックルーティング設定]画面(P 40)で追加した経路も表示されます。

- ①宛先 ..... ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスを表示します。
- ②ネットマスク ..... ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスに対するネットマスクを表示します。
- ③ゲートウェイ ..... ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスに対するゲートウェイを表示します。
- ④ネット ..... ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスに対する転送先インターフェイスを表示します。  
その詳細は、この画面の最上部に「ネットワーク インターフェイス リスト」として表示されます。
- ⑤作成 ..... どのように経路情報が作られたかを表示します。
  - static スタティック(定義された)ルートにより作成されています。
  - rip ダイナミック(自動生成された)ルートにより作成されています。
  - misc ブロードキャストに関係するフレーム処理で作成されています。
- ⑥メトリック ..... 経路のコストを表示します。

### 3 ネットワーク

#### 6. [ルーティング設定]画面(つづき)

ネットワーク インターフェイス リスト		
インターフェイス	IPアドレス	ネットマスク
local	192.168.0.1	255.255.255.0

IP経路情報						
宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	ネット	作成	メトリック	
192.168.0.1	255.255.255.255	192.168.0.1	loc	sta		0
192.168.0.0	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc		0
192.168.0.1	255.255.255.255	192.168.0.1	local	static		0
192.168.0.255	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc		0

スタティックルーティング設定					
登録の追加					
経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値	
local					<input type="button" value="追加"/>

現在の登録					
経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値	

セレクトルーティング						
番号	経路	接続方法	発信元IPアドレス	プロトコル制御	ポート番号	宛先IPアドレスまたはドメイン名
01	01:プロバイダ1	手動発信		使用しない		

発信元IPアドレス	プロトコル制御	ポート番号	宛先IPアドレスまたはドメイン名	使用する時間帯	強制切断
	使用しない			00:00 - 00:00	しない

#### スタティックルーティング設定

パケットの中継経路を、意図的に定義するルーティングテーブルです。登録できるのは、最大20件までです。

入力後は、<追加>をクリックして、[現在の登録]欄に登録されたことを確認してください。また、その内容は、[IP経路情報]画面(☞P39)にも表示されます。

- ⑦経路 .....
  - local : 登録する経路情報がLAN側の場合です。
  - 登録先選択 : 登録する接続先がWAN側の場合、  をクリックすると、登録された接続先があれば表示します。
- ⑧宛先 .....
 

経路にLAN側を選択したときは、対象となる相手先のIPアドレスを入力します。

経路にWAN側を選択したときは、対象となる相手先のネットワークIPアドレスを入力します。
- ⑨ネットマスク .....
 

対象となる宛先のIPアドレスに対するネットマスクを入力します。
- ⑩ゲートウェイ .....
 

ルーティングの対象となるパケット転送先ルータのゲートウェイを入力します。
- ⑪メトリック値 .....
 

宛先までのコストを表す数値を入力します。

数値が小さければ転送能力の高い回線と見なされ、数値が大きければ転送能力が低い回線と見なされます。

0～16まで入力できます。

6. [ルーティング設定]画面(つづき)

ネットワーク インターフェイス リスト		
インターフェイス	IPアドレス	ネットマスク
local	192.168.0.1	255.255.255.0

IP経路情報						
宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	ネット	作成	メトリック	
192.168.0.1 ①	255.255.255.0 ②	192.168.0.1 ③	loc ④	sta ⑤	⑥	0
192.168.0.0	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc		0
192.168.0.1	255.255.255.255	192.168.0.1	local	static		0
192.168.0.255	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc		0

スタティックルーティング設定					
登録の追加					
経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値	
local ⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	追加

現在の登録					
経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値	

セレクトルーティング ⑫ ⑬								
番号 ⑭	設定	編集						
接続方法 ⑮	手動発信 "拒絶する"を選択した場合は全ての経路に対して適用されます							
経路 ⑯	01:プロバイダ1							
発信元IPアドレス ⑰	-							
プロトコル制御 ⑱	使用しない ポート番号 -							
宛先IPアドレスまたはドメイン名 ⑲								
セレクトルーティングを使用する時間帯 ⑳	00 : 00 ~ 00 : 00							
終了時刻で強制切断 ㉑	し/しない する							
⑳ 番号	経路	接続方法	発信元IPアドレス	プロトコル制御	ポート番号	宛先IPアドレスまたはドメイン名	使用する時間帯	強制切断
削除 01	01:プロバイダ1	手動発信		使用しない			00:00 - 00:00	し/しない

セレクトルーティング

スタティックルーティングに加えて、以下の機能を併せて設定することで、より詳細な条件でルーティングがおこなえます。

- 発信元IPアドレス情報をもとに、特定の相手(相手先のパソコンを限定する)と通信できるソースルーティング機能
- プロトコルとポート番号を指定することで、特定のアプリケーションデータを優先して送受信することができる優先ルーティング機能
- IPアドレスやURL情報をもとに、特定の発信元からのデータを遮断できるURLフィルター機能

⑫<設定> .....

入力した値を、本製品に設定するボタンです。  
クリックすると、一番下の欄に、設定した内容を表示します。

⑬<編集> .....

設定されている内容を変更・編集するために、画面の各欄に表示させるボタンです。  
変更・編集するときは、一番下の欄から該当する登録内容の番号を、「⑭番号」欄に入力してから、このボタンをクリックします。

⑭番号 .....

データを送受信する優先度を、1～16の番号で指定する欄です。  
半角数字で入力し、最大16件、登録できます。  
小さい番号に設定された内容が優先して比較され、設定内容と一致すると、それ以降の内容については比較しません。

### 3 ネットワーク

#### 6. [ルーティング設定]画面(つづき)

ネットワーク インターフェイス リスト		
インターフェイス	IPアドレス	ネットマスク
local	192.168.0.1	255.255.255.0

IP経路情報					
宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	ネット	作成	メトリック
192.168.0.①	255.255.255.②	192.168.0.1 ③	loc④	sta⑤	⑥ 0
192.168.0.0	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0
192.168.0.1	255.255.255.255	192.168.0.1	local	static	0
192.168.0.255	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0

スタティックルーティング設定				
登録の追加				
経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値
local ⑦	⑧	⑨	⑩	⑪

現在の登録				
経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値

セレクトルーティング ⑫ ⑬				
番号 ⑭	設定	編集		
接続方法 ⑮	手動発信 <input type="checkbox"/> 「拒絶する」を選択した場合は全ての経路に対して適用されます			
経路 ⑯	01:プロバイダ			
発信元IPアドレス ⑰	-			
プロトコル制御 ⑱	使用しない <input type="checkbox"/> ポート番号 <input type="text"/> - <input type="text"/>			
宛先IPアドレスまたはドメイン名 ⑲				
セレクトルーティングを使用する時間帯 ⑳	00 : 00 ~ 00 : 00			
終了時刻で強制切断 ㉑	<input type="checkbox"/> しない <input checked="" type="checkbox"/> する			

⑳	㉑	経路	接続方法	発信元IPアドレス	プロトコル制御	ポート番号	宛先IPアドレスまたはドメイン名	使用する時間帯	強制切断
削除	01	01:プロバイダ	手動発信		使用しない			00.00 - 00.00	しない

⑮接続方法 .....

送受信するデータが、登録された内容に一致したとき、その相手先への接続方法を選択します。

「手動発信」を選択すると、その接続先について手動接続します。

「自動発信」を選択すると、その接続先について自動接続します。

「拒絶する」を選択すると、その接続先には接続しません。

⑯経路 .....

登録された接続先を選択します。

複数の接続先が登録されている場合、  印をクリックして選択します。

セレクトルーティング機能を設定しているときは、通常のルーティング経路よりもソースルーティングで設定された経路を優先します。したがって、あらかじめ通常のルーティングで自動接続が設定されている接続先をソースルーティングの経路に選択すると、通常のルーティングで設定された自動接続は、解除されます。なお、接続先をメール着信通知機能(☞P15)と同じに選んだ場合、その接続先に対するメール着信通知機能は自動的に停止します。

[接続状況]画面において、通常の「自動接続」は赤色の文字、「手動接続」は黒色の文字で[接続方法]欄に表示されますが、セレクトルーティングの経路に設定されているときは、青色の文字で表示されます。

6. [ルーティング設定]画面(つづき)

ネットワーク インターフェイス リスト		
インターフェイス	IPアドレス	ネットマスク
local	192.168.0.1	255.255.255.0

IP経路情報						
宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	ネット	作成	メトリック	
192.168.0.1 ①	255.255.255.0 ②	192.168.0.1 ③	loc ④	sta ⑤	⑥	0
192.168.0.0	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc		0
192.168.0.1	255.255.255.255	192.168.0.1	local	static		0
192.168.0.255	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc		0

スタティックルーティング設定					
登録の追加					
経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値	
local ⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	追加

現在の登録						
経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値		

セレクトルーティング ⑫ ⑬						
番号 ⑭	設定	編集				
接続方法 ⑮	手動発信 "拒絶する"を選択した場合は全ての経路に対して適用されます					
経路 ⑯	01:プロバイダ1					
発信元IPアドレス ⑰	-					
プロトコル制御 ⑱	使用しない ポート番号 -					
宛先IPアドレスまたはドメイン名 ⑲						
セレクトルーティングを使用する時間帯 ⑳	00 : 00 ~ 00 : 00					
終了時刻で強制切断 ㉑	し/しない する					
⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖
削除	01	01:プロバイダ1	手動発信		使用しない	

発信元IPアドレス	プロトコル制御	ポート番号	宛先IPアドレスまたはドメイン名	使用する時間帯	強制切断
	使用しない			00.00 - 00.00	し/ない

- ⑰発信元アドレス ..... セレクトルーティングを使用するとき、選択した「経路」を使用する発信元端末のIPアドレスを指定する欄です。  
 一台だけ指定するときには、左のボックスに入力します。
- ⑱プロトコル制御 ..... 優先ルーティングとして使用する場合は、使用プロトコル、およびそのポート番号を指定します。  
 ポート番号とは、ホスト上のインターネットアプリケーション(FTPやWEBブラウザ)を識別するのに使用する番号で、どのアプリケーションがどのポート番号を使用するかが決められています。  
 たとえば、メール受信専用を設定するときには、使用プロトコルを「TCP」、ポート番号を「110」に設定します。
- ⑲宛先IPアドレスまたはドメイン名 ..... 接続先端末のIPアドレス、または特定のドメイン名を指定する欄です。  
 ワイルドカードとして、「?」「\*」が入力できます。また、「?」は任意の一文字、「\*」は任意の文字列として認識されます。  
 この機能を利用するときは、本製品のDNS代理応答機能を併用してください。  
 URLフィルターとして使用するときは、この項目と同時に「⑮接続方法」を「拒絶する」に設定してください。  
 たとえば、[\* .icom.co.jp]を指定した場合は、[www.icom.co.jp]や[pop.icom.co.jp]へのデータが拒絶されます。

### 3 ネットワーク

#### 6. [ルーティング設定]画面(つづき)

ネットワーク インターフェイス リスト		
インターフェイス	IPアドレス	ネットマスク
local	192.168.0.1	255.255.255.0

IP経路情報						
宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	ネット	作成	メトリック	
192.168.0.①	255.255.255.②	192.168.0.1 ③	loc④	sta⑤	⑥	0
192.168.0.0	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc		0
192.168.0.1	255.255.255.255	192.168.0.1	local	static		0
192.168.0.255	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc		0

スタティックルーティング設定					
登録の追加					
経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値	
local ⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	追加

現在の登録					
経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値	

セレクトルーティング ⑫ ⑬					
番号 ⑭	設定	編集			
接続方法 ⑮	手動発信 <input type="checkbox"/> "拒絶する"を選択した場合は全ての経路に対して適用されます				
経路 ⑯	01:プロバイダ				
発信元IPアドレス ⑰	-				
プロトコル制御 ⑱	使用しない <input type="checkbox"/> ポート番号 <input type="text"/> - <input type="text"/>				
宛先IPアドレスまたはドメイン名 ⑲	<input type="text"/>				
セレクトルーティングを使用する時間帯 ⑳	00:00 ~ 00:00				
終了時刻で強制切断 ㉑	<input type="checkbox"/> しない <input checked="" type="checkbox"/> する				
⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕
削除	01	01:プロバイダ	手動発信	使用しない	

発信元IPアドレス	プロトコル制御	ポート番号	宛先IPアドレスまたはドメイン名	使用する時間帯	強制切断
	使用しない			00:00 - 00:00	しない

⑳セレクトルーティングを使用  
する時間帯 .....

設定された経路情報の利用開始時刻と終了時刻を入力します。  
開始時刻より終了時刻が早い時間の場合、終了時刻は次の日の時刻となります。

開始および終了時刻は、<本体設定と管理>メニューの[時計設定]画面で設定(⇒P21)された時刻で動作します。必ず、<回線と接続>メニューの[接続状況]画面に表示される時刻を確認してください。

㉑終了時間で強制切断 .....

上記「㉑セレクトルーティングを使用する時間帯」で設定された時間を経過したときに、通信中でも強制的に切断するかどうかを選択します。

㉒設定内容表示 .....

セレクトルーティングとして設定されている内容を表示します。

㉓<削除> .....

このボタンの行に表示する設定内容を消去します。

この章では、  
設定ページの、<アナログ設定>メニューで表示される画面について説明します。

---

1. [ポート共通の設定]画面 .....	46
2. [ポート1の設定]/[ポート2の設定]画面 .....	48
3. [転送 / 短縮番号]画面 .....	55
4. [セレクト番号]画面 .....	56

## 4 アナログ設定

### 1. [ポート共通の設定]画面



- ①<登録> ..... この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> ..... この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。  
なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③内線通話の使用設定 ..... [TEL1]と[TEL2]に接続されたアナログ機器間での内線通話形態を選択します。
- 内線を使用しない  
アナログ機器間で、通話しません。
  - 内線のみ使用する  
アナログ機器間で、通話します。  
どちらのアナログ機器からでも「\*」「0」とダイヤルすることで、もう一方を呼び出しできます。
  - 内線転送を使用する(出荷時の設定)  
内線通話を介して、外線電話を取り次ぎます。
- ④フレックスホン機能 ..... フレックスホン(コールウェイティング、通信中転送、三者通話、着信転送機能)の利用形態を設定します。
- 疑似  
フレックスホン機能を利用しない、またはNTTとフレックスホンの契約をしないで、ほぼ同等の機能を利用したい場合に選択します。
  - NTTとの契約による  
NTTが提供するフレックスホンを利用します。  
(NTTとの契約が必要です)
- ⑤コールウェイティング ..... 通話中に新たな電話がかかってきたときに、通話中の電話を切らずに、かかってきた電話に応答する機能です。  
契約/設定内容によって、三者通話、通信中転送に移行することができます。
- ⑥通信中転送 ..... 通話を、第三者(外線)に転送する機能を使用するかしないかを選択します。

## 1. [ポート共通の設定]画面(つづき)

登録		取消	
①	②	内線通話	
内線通話の使用設定		内線転送を使用する	
フレックスホンの設定			
登録 / 取消			
(注意) NTTフレックスホンをご使用になる場合はNTTとの契約が必要です。			
フレックスホン機能		④ <input checked="" type="radio"/> 疑似 <input type="radio"/> NTTとの契約による	
コールウェイトニング	⑤	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	疑似にてコールウェイトニングをする場合はポート番の設定で通話中に着信があると音でお知らせがするに設定されます。
通信中転送	⑥	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	
三者通話	⑦	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	
着信転送	⑧	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	
優先着信			
登録 / 取消			
優先着信	⑨	すべてのポートに着信	時間差優先着信が0秒の場合は優先ポートのみ着信します。
時間差優先着信	⑩	02 秒	
リソースBOD			
発信割り込みを使用	⑪	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	
受信割り込みを使用	⑫	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	

- ⑦三者通話 ..... 三人で通話する機能を使用するかしないかを選択します。契約 / 設定内容によって、他の二者間の通話にすることもできます。
- ⑧着信転送 ..... 着信した電話を、他の電話(外線)に転送する機能を使用するかしないかを選択します。転送先の電話番号は、[転送 / 短縮番号]画面、「③着信転送番号の登録」(P55)で設定します。
- ⑨優先着信 ..... 着信時に、どちらのポートに接続されたアナログ機器の着信音を優先して鳴らすかを指定します。
- すべてのポートに着信(出荷時の設定)  
両方のポートに接続されたアナログ機器の着信音が同時に鳴ります。
  - ポート1を優先  
[TEL1]に接続されたアナログ機器を着信音が優先して鳴ります。
  - ポート2を優先  
[TEL2]に接続されたアナログ機器を着信音が優先して鳴ります。
- ⑩時間差優先着信 ..... 上記、「⑨優先着信」で優先指定したポートに接続されたアナログ機器だけの着信音を鳴らす時間を設定します。設定した時間を経過しても応答しない(受話器を取らない)場合、両方のポートに接続されたアナログ機器の着信音が鳴ります。なお、0秒に設定した場合は、優先指定したポートに接続されたアナログ機器の着信音しか鳴りません。ただし、優先指定されたポートが通話中の場合、もう一方のポートへ着信させます。
- ⑪発信割り込みを使用 ..... 2Bでの通信中に、[TEL1]/[TEL2]ポートに接続されたアナログ機器からの発信を許可するかしないかを選択します。受話器を取ることで、1Bの通信に自動的に切り替わります。
- ⑫受信割り込みを使用 ..... 2Bでの通信中に、[TEL1]/[TEL2]ポートに接続されたアナログ機器への着信を許可するかしないかを選択します。着信中は、1Bでの通信となります。

## 4 アナログ設定

### 2. [ポート1の設定]/[ポート2の設定]画面

ポート共通の設定
ポート1の設定
ポート2の設定
転送/短縮番号
セレクト番号

登録		取消	
① ② 設定			
回線番号(ダイヤルイン番号)*サブアドレス ③		ナンバースタイル ④	
接続機器の種類 ⑤		ナンバースタイル ⑥	
標準設定		対応しない	
無鳴動着信 ⑦		する しない	
ポート使用設定 ⑧		宛着信で使用	
受話音量 ⑨	送話音量 ⑩	外線呼出音 ⑪	内線呼出音 ⑫
標準	標準	呼出音1	呼出音1
なりわけ着信機能 ⑬		なりわけ呼出音 ⑭	
着信拒否する		呼出音1	
<b>着信機能</b> 登録/取消			
グローバル着信 ⑮		する しない	
セレクト着信 ⑯		する しない	
通話中に着信があると音でお知らせ ⑰		する しない	
<b>送信機能</b> 登録/取消			
発信者番号通知 ⑱		する しない	
高位レイヤ整合性を上げて発信 ⑲		する しない	
<b>ダイヤルタイミング</b> 登録/取消			
ダイヤル待ち時間 ⑳		5 秒	
フッキング判定時間 ㉑		1 秒	
<b>着信転送</b> 登録/取消			
転送トーク ㉒		あり なし	
転送元トーク ㉓		あり なし	
起動タイミング ㉔		呼出回数 4 回	
		即、起動	

- ①<登録> .....
- ②<取消> .....
- ③回線番号(ダイヤルイン番号)  
\*サブアドレス .....

この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。

この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。  
なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

NTTのダイヤルインサービス(有料)を契約している / 契約する場合  
ダイヤルイン番号を入力します。ポートごと(TEL1、TEL2)にダイヤル  
イン番号を入力(ひとつは回線契約番号でもよい)することで、着信  
形態を個別に指定できます。また、本製品の機能を活用するためにも、  
入力する必要があります。

なお、ダイヤルインサービスには、グローバル着信機能(回線契約番号  
にかかってきた通信を、ダイヤルイン番号を割り当てた端末で着信す  
る機能)が含まれます。(契約時に、「グローバル着信する」で契約する  
ことをおすすめします。)

NTTのダイヤルインサービス(有料)が未契約 / 契約しない場合  
何も入力しません。ただし、サブアドレスを利用して、着信形態を個  
別に指定する場合は、回線契約番号に続けて「\*(アスタリスク)」+ サ  
ブアドレス(任意の半角英数字32文字以内)を入力します。(NTTとの  
契約は不要で、ISDN回線契約者が、この欄に入力したサブアドレス  
を契約電話番号と一緒にダイヤルしてきたときに限り、着信します。)

サブアドレスを設定すると、アナログ回線契約者からの電話を着信  
できなくなりますので、ご注意ください。

アナログ回線契約者からの通信においても着信形態を指定したい場  
合は、ダイヤルインサービス、i・ナンバーサービス(いずれも有料)  
などをご契約ください。

## 2. [ポート1の設定]/[ポート2の設定]画面(つづき)

登録 取消			
① ② 設定			
回線番号(ダイヤルイン番号)*サブアドレス ③	i・ナンバー ④ ポート <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3		
接続機器の種類 ⑤ 標準設定	ナンバーディスプレイ ⑥ 対応しない		
無の自動着信 ⑦	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
ポート使用設定 ⑧	<input type="checkbox"/> 宛着信で使用		
受話音量 ⑨ 標準	送話音量 ⑩ 標準	外線呼出音 ⑪ 呼出音1	内線呼出音 ⑫ 呼出音1
なりわけ着信機能 着信拒否する ⑬	なりわけ呼出音 ⑭ 呼出音1		
<b>着信機能</b> 登録/取消▲			
グローバル着信 ⑮	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
セレクト着信 ⑯	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
通話中に着信があると音でお知らせ ⑰	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
<b>送信機能</b> 登録/取消▲			
発信者番号通知 ⑱	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
高位レイヤ整合性をつけて発信 ⑲	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
<b>ダイヤルタイミング</b> 登録/取消▲			
ダイヤル待ち時間 ⑳	5 秒		
フッキング判定時間 ㉑	1 秒		
<b>着信転送</b> 登録/取消▲			
転送トーカー ㉒	<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし		
転送元トーカー ㉓	<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし		
起動タイミング ㉔	呼出回数 4 回 <input type="button" value="即 起動"/>		

## ④ i・ナンバーポート .....

[TEL1]、[TEL2]に割り当てる i・ナンバーを選択します。

i・ナンバーサービス(有料)の契約にて取得した2つ、または3つの電話番号を、[TEL1]、[TEL2]に設定することにより、アナログ機器を鳴り分けることができます。

## ⑤ 接続機器の種類 .....

接続されているアナログ機器の種類を選択します。

- 標準設定：接続する機器を指定しません。(出荷時の設定)
- 電話：アナログ電話機専用です。
- FAX：G3FAX専用です。
- モデム：アナログモデム専用です。

接続機器の種類を「電話」または「FAX」と指定すると、アナログ回線とISDN回線契約者から高位レイヤ整合性をつけずに発信された通信(電話、FAX)は着信できなくなりますので、ご注意ください。

## ⑥ ナンバーディスプレイ .....

- 対応しない(出荷時の設定)

ナンバーディスプレイに対応した電話機、表示器などを接続していない場合に選択します。

- INSナンバーディスプレイ

ナンバーディスプレイに対応した電話機、表示器などを接続している場合に選択します。

ナンバー・ディスプレイサービスを契約(有料)していない場合、アナログ回線からの通信は、番号が表示されません。

- キャッチホンナンバーディスプレイ

キャッチホンナンバーディスプレイに対応した電話機、表示器などを接続し、キャッチホン・ディスプレイサービスを契約(有料)している場合に選択します。

## 4 アナログ設定

### 2. [ポート1の設定]/[ポート2の設定]画面(つづき)

登録   取消			
① ② 設定			
回線番号(ダイヤルイン/番号)＊サブアドレス ③	ナンバー ④ ポート <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3		
接続機器の種類 ⑤ 標準設定 ▼	ナンバーディスプレイ ⑥ 対応しない ▼		
無鳴動着信 ⑦ 標準 ▼	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
ポート使用設定 ⑧	発着信で使用 ▼		
受話音量 ⑨ 標準 ▼	送話音量 ⑩ 標準 ▼	外線呼出音 ⑪ 呼出音1 ▼	内線呼出音 ⑫ 呼出音1 ▼
なりわけ着信機能 着信拒否する ▼ ⑬	なりわけ呼出音 ⑭ 呼出音1 ▼		
着信機能		登録 / 取消 ▲	
グローバル着信 ⑮	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
セレクト着信 ⑯	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
通話中に着信があると音でお知らせ ⑰	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
送信機能		登録 / 取消 ▲	
発信者番号通知 ⑱	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
高位レイヤ整合性を上げて発信 ⑲	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
ダイヤルタイミング		登録 / 取消 ▲	
ダイヤル待ち時間 ⑳	5 秒		
フッキング判定時間 ㉑	1 秒		
着信転送		登録 / 取消 ▲	
転送トーカー ㉒	<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし		
転送元トーカー ㉓	<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし		
起動タイミング ㉔	呼出回数 4 回	即、起動 ▼	

- ⑦無鳴動着信 ..... 無鳴動着信機能を持ったFAXを接続している場合、着信音を鳴らさずに対応させることができます。
- しない：着信音が鳴ってから応答します。(出荷時の設定)
  - する：着信音が鳴らずに応答します。
- ⑧ポート使用設定 ..... 接続されたアナログ機器の使用用途の制限を選択します。
- 発着信で使用：通常どおりに使用できます。(出荷時の設定)
  - 着信専用：電話をかける/FAXを送ることはできません。
  - 発信専用：電話をとる/FAXを受信することはできません。
  - 使用しない：動作しません。
- ⑨受話音量 ..... 受話器から聞こえる音量を、「最大」「標準」「最小」から設定します。アナログ機器に受話音量調整機能がある場合は、この設定と併せて適量に調整してください。
- ⑩送話音量 ..... 相手の受話器から聞こえる音量を、「最大」「標準」「最小」から設定します。
- 「最大」にすると、比較的小さな声でも相手にハッキリ聞こえますが、「最小」では大きな声で話さないと相手にハッキリ聞こえません。
- ⑪外線呼出音 ..... 外線電話がかかってきたときの着信音パターンを選択します。
- 「⑫内線呼出音」(☞P51)と区別することで、外線もしくは内線着信かを着信音で判断できます。
- 呼出音1(出荷時の設定)
  - 呼出音2
  - 呼出音3

## 2. [ポート1の設定]/[ポート2の設定]画面(つづき)

登録 取消			
① ② 設定			
回線番号(ダイヤルイン番号)*サブアドレス ③	ナンバー ④ ポート <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3		
接続機器の種類 ⑤ 標準設定	ナンバーディスプレイ ⑥ 対応しない		
無鳴動着信 ⑦	<input type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない		
ポート使用設定 ⑧	宛着信で使用		
受話音量 ⑨ 標準	送話音量 ⑩ 標準	外線呼出音 ⑪ 呼出音1	内線呼出音 ⑫ 呼出音1
なりわけ着信機能 着信拒否する ⑬	なりわけ呼出音 呼出音1 ⑭		
<b>着信機能</b> 登録/取消▲			
グローバル着信 ⑮	<input type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない		
セレクト着信 ⑯	<input type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない		
通話中に着信があると音でお知らせ ⑰	<input type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない		
<b>送信機能</b> 登録/取消▲			
発信者番号通知 ⑱	<input type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない		
高位レイヤ整合性をつけて発信 ⑲	<input type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない		
<b>ダイヤルタイミング</b> 登録/取消▲			
ダイヤル待ち時間 ⑳	5 秒		
フッキング判定時間 ㉑	1 秒		
<b>着信転送</b> 登録/取消▲			
転送トーンキ ㉒	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし		
転送元トーンキ ㉓	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし		
起動タイミング ㉔	呼出回数 4 回 <input type="button" value="即 起動"/>		

- ⑫内線呼出音 ..... 内線電話がかかってきたときの着信音パターンを選択します。  
「⑪外線呼出音」(☞P50)と区別することで、外線もしくは内線着信かを着信音で判断できます。
- 呼出音1(出荷時の設定)
  - 呼出音2
  - 呼出音3
- ⑬なりわけ着信機能 ..... あらかじめNTTに登録した電話番号から通信があった場合の着信形態を設定します。
- 通常・話中共に着信：通話中に着信すると、着信していることを音でお知らせします。
  - 話中は着信しない：通話中は着信しません。
  - 着信拒否する：登録した電話番号からの通信のみ着信します。  
(出荷時の設定) (未登録電話番号からの通信は着信しません)  
この機能を利用するには、NTTとの契約(有料)が必要です。
- ⑭なりわけ呼出音 ..... あらかじめNTTに登録した電話番号で電話がかかってきたときの着信音パターンを設定します。
- 呼出音1(出荷時の設定)
  - 呼出音2
  - 呼出音3
- この機能を利用するには、NTTとの契約(有料)が必要です。

## 4 アナログ設定

### 2. [ポート1の設定]/[ポート2の設定]画面(つづき)

登録 取消			
① ② 設定			
回線番号(ダイヤルイン番号)*サブアドレス ③	ナンバー ④ ポート <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3		
接続機器の種類 ⑤ 標準設定	ナンバーディスプレイ ⑥ 対応しない		
無鳴動着信 ⑦	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
ポート使用設定 ⑧	発信音で使用		
受話音量 ⑨ 標準	送話音量 ⑩ 標準	外線呼出音 ⑪ 呼出音1	内線呼出音 ⑫ 呼出音1
なりわけ着信機能 着信拒否する ⑬	なりわけ呼出音 ⑭ 呼出音1		
着信機能		登録/取消▲	
グローバル着信 ⑮	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
セレクト着信 ⑯	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
通話中に着信があると音でお知らせ ⑰	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
送信機能		登録/取消▲	
発信者番号通知 ⑱	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
高位レイヤ整合性を上げて発信 ⑲	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
ダイヤルタイミング		登録/取消▲	
ダイヤル待ち時間 ⑳	5 秒		
フッキング判定時間 ㉑	1 秒		
着信転送		登録/取消▲	
転送トーク ㉒	<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし		
転送元トーク ㉓	<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし		
起動タイミング ㉔	呼出回数 4 回	即、起動	

#### ⑮グローバル着信 .....

グローバル着信を利用する内容でダイヤルインサービス(有料)を契約している場合、回線契約番号にかかってきた電話を、ダイヤルイン追加番号を割り当てたポートにも着信させる設定です。

- する : 回線契約番号でかかってきた電話を着信します。  
(出荷時の設定)
- しない : 回線契約番号でかかってきた電話を着信しません。

**注意!**ダイヤルインサービスが未契約で、[回線設定]画面の「④電話番号」(☞P10)、本画面の「③回線番号(ダイヤルイン番号)\*サブアドレス」(☞P48)が空欄の場合、または回線契約番号を設定したポートでも、本項目は「する」に設定してください。「しない」を設定すると、まったく着信できなくなります。

#### ⑯セレクト着信 .....

本製品に任意の電話番号を登録することにより、それらから発信された電話の着信形態を指定するかしないかを選択します。

- する : 発信者により、着信形態を指定します。
- しない : 着信形態を指定しません。

電話番号は、[セレクト番号]画面(☞P56)で登録します。

「する」に設定した場合、「⑧ポート使用設定」(☞P50)で「発信専用」に設定されていても、有効です。

#### ⑰通話中に着信があると音でお知らせ .....

通話中に新たな着信があった場合、音で通知するかしないかを選択します。

[ポート共通の設定]画面の「⑤コールウェイティング」(☞P46)を「する」としている場合、本設定を「する」に設定します。

2. [ポート1の設定]/[ポート2の設定]画面(つづき)

⑱発信者番号通知 ..... 電話をかけたときに、「③回線番号(ダイヤルイン番号)\*サブダイヤル」(☞P48)で設定された番号を、相手側に通知するかしないかを選択します。

⑲高位レイヤ整合性をつけて  
発信 ..... [TEL1]、[TEL2]に接続されている機器の種類(電話、FAXなど)を相手先に通知することで、ISDN回線契約している発信先の接続機器ごとに鳴り分け(自動応答)をするかしないかを選択します。  
「⑤接続機器の種類」(☞P49)で、「電話」または「FAX」を選択し、この項目で「する」を選択すると、相手先のTAなどで、接続機器の種類が「電話」か「FAX」に指定されている場合に限り、発信装置に合わせて該当する機器が自動的に応答します。

⑳ダイヤル待ち時間 ..... [TEL1]、[TEL2]に接続されたアナログ機器から電話をかけたとき、末尾番号がダイヤルされてから発信するまでの時間を設定します。

㉑フッキング判定時間 ..... フックボタンを押して(受話器を置いて)から、実際に通話回線が切断されるまでの時間を設定します。  
設定された時間内にフックボタンをはなす(受話器を取る)と、保留状態となり、通話の転送ができます。

## 4 アナログ設定

### 2. [ポート1の設定]/[ポート2の設定]画面(つづき)

登録   取消	
<b>① ② 設定</b>	
回線番号(ダイヤルイン番号)*サブアドレス ③	ナンバー ④ ポート <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3
接続機器の種類 ⑤ 標準設定 ▼	ナンバーディスプレイ ⑥ 対応しない ▼
無鳴動着信 ⑦ ポート使用設定 ⑧	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない 宛着信で使用 ▼
受話音量 ⑨ 標準 ▼	送話音量 ⑩ 標準 ▼
なりわけ着信機能 ⑬ 着信拒否する ▼	外線呼出音 ⑪ 呼出音1 ▼
	内線呼出音 ⑫ 呼出音1 ▼
	なりわけ呼出音 ⑭ 呼出音1 ▼
<b>着信機能</b> <span style="float:right">登録/取消▲</span>	
グローバル着信 ⑮	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない
セレクト着信 ⑯	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない
通話中に着信があると音でお知らせ ⑰	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない
<b>送信機能</b> <span style="float:right">登録/取消▲</span>	
発信者番号通知 ⑱	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない
高位レイヤ整合性を上げて発信 ⑲	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない
<b>ダイヤルタイミング</b> <span style="float:right">登録/取消▲</span>	
ダイヤル待ち時間 ⑳	5 秒
フッキング判定時間 ㉑	1 秒
<b>着信転送</b> <span style="float:right">登録/取消▲</span>	
転送トーク ㉒	<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし
転送元トーク ㉓	<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし
起動タイミング ㉔	呼出回数 4 回 <span style="float:right">即、起動 ▼</span>

#### ㉒転送トーク .....

NTTとの契約により着信転送(フレックスホン機能)する場合、電話をかけてきた相手に対して、「ただいま電話を転送していますので、そのままの状態でお待ちください」という音声ガイダンス(メッセージ)を流すか、流さないかを選択します。

[ポート共通の設定]画面の「④フレックスホン機能」(⇨P46)が「疑似」に設定されているときは、機能しません。

#### ㉓転送元トーク .....

NTTとの契約により着信転送(フレックスホン機能)する場合、転送電話をつなく前に、転送先電話機を受話器をとった相手に対して、「電話が転送されますので、そのままの状態でお待ちください」という音声ガイダンス(メッセージ)を流すか、流さないかを選択します。

[ポート共通の設定]画面の「④フレックスホン機能」(⇨P46)が「疑似」に設定されているときは、機能しません。

#### ㉔起動タイミング .....

着信転送有効時に電話がかかってきたとき、実際に転送先の電話へ転送を開始するタイミングを設定します。

- 即、起動 : 着信すると同時に、転送が開始されます。  
(出荷時の設定)
- 呼出後起動 : 着信音が、「呼出回数」で設定された回数鳴ったあと、転送が開始されます。

### 3. [転送 / 短縮番号設定]画面

- ポート共通の設定
- ポート1の設定
- ポート2の設定
- 転送 / 短縮番号**
- レイト番号

- ①<登録> ..... この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> ..... この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③着信転送番号の登録 ..... [ポート共通の設定]画面の「⑧着信転送」(☞P47)を「する」に設定している場合の転送先を設定します。
- 転送先名：転送先の名称や名前を入力します。
  - 電話番号：転送先の電話番号を市外局番から入力します。  
NTTとの契約で、着信転送オプションがなくても、動作します。  
「転送先電話番号2」は、[ポート共通の設定]画面の「④フレックスホン機能」(☞P46)を「疑似」に設定していて、「転送先電話番号1」が話中などの理由でつながらないとき、かけ直す電話番号です。
- ④短縮ダイヤルの登録 ..... [TEL1]または[TEL2]に接続されたアナログ機器に共通の短縮ダイヤルを、最大20個、登録できます。  
アナログ機器の[\*]ボタンに続けて2桁の番号をダイヤルするだけで、登録された相手先に電話をかけることができます。  
このとき、[ポート1の設定]/[ポート2の設定]画面の「⑩ダイヤル待ち時間」(☞P53)で設定した時間に関係なく、直ちに発信します。
- 名前 : 相手先の名称や名前を入力します。
  - プリダイヤル：電話番号ごとに、発信者番号の通知 / 非通知および利用する電話会社を指定する場合に、電話番号の前にダイヤルする番号(例：186 / 184、0070、0041など)を入力します。
  - 電話番号 : 相手先の電話番号を、市外局番から入力します。

## 4 アナログ設定

### 4. [セレクト番号]画面

- ポート共通の設定
- ポート1の設定
- ポート2の設定
- 転送/短縮番号
- セレクト番号**

登録した電話番号(ISDN回線契約者)から発信された通信の着信形態を指定します。最大20件登録できます。

[ポート1の設定] / [ポート2の設定]画面の「⑩セレクト着信」(≒P52)が「する」と設定されている場合に限り、有効です。

なお、アナログ回線からの発信についても着信形態を指定したい場合は、別途、INSナンバー・ディスプレイの契約が必要です。

- ①<登録> ..... この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> ..... この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③相手先名 ..... 相手先の名前や名称を入力します。
- ④電話番号 ..... 相手先の回線契約番号、ダイヤルイン番号またはi-ナンバーを、市外局番から入力します。  
(入力例：012345679)
- ⑤着信ポート&着信動作 .....
  - 両ポートに着信しない  
着信を拒否します。
  - ポート1のみに着信する  
[TEL1]に接続されたアナログ機器だけに着信させます。
  - ポート2のみに着信する  
[TEL2]に接続されたアナログ機器だけに着信させます。
  - ポート1を優先して着信  
[ポート共通の設定]画面、「⑪時間差優先着信」(≒P47)で設定された時間、[TEL1]に接続されたアナログ機器だけに着信させ、そのあと[TEL2]に接続されたアナログ機器にも着信させます。
  - ポート2を優先して着信  
[ポート共通の設定]画面、「⑪時間差優先着信」(≒P47)で設定された時間、[TEL2]に接続されたアナログ機器だけに着信させ、そのあと[TEL1]に接続されたアナログ機器にも着信させます。
  - 両ポートに着信する(出荷時の設定)  
[TEL1]、[TEL2]に接続されたアナログ機器に着信させます。
- ⑥着信呼出音 ..... 登録した電話番号から着信があったときの着信音パターンを選択します。内線/外線呼出音と区別することで、セレクト着信であることが、容易に判断できます。
  - 呼出音1(出荷時の設定)
  - 呼出音2
  - 呼出音3

この章では、  
設定ページの、<通信記録>メニューで表示される画面について説明します。

---

1. [通信記録]画面 .....	58
2. [アナログポート1]/[アナログポート2]画面 .....	59

# 5 通信記録

## 1. [通信記録]画面



- ①<クリア> .....
- ②日付・時間 .....
- ③通信記録 .....

回線を接続および切断したときの状態を、履歴として表示します。

A screenshot of the '通信記録' screen. At the top left is a 'クリア' button. Below it is a table with two columns: '日付・時間' and '通信記録'. The first row shows '01/01 00:02:56' and '網より切断理由コード#38網障害'. The second row shows '01/01 00:02:56' and 'PPP02 手動接続要求番号(1234567890)'.

①	②	③
	日付・時間	通信記録
	01/01 00:02:56	網より切断理由コード#38網障害
	01/01 00:02:56	PPP02 手動接続要求番号(1234567890)

「②日付・時間」と「③通信記録」に表示される内容を、消去します。

日時を表示します。

接続状況を表示します。

## 2. [アナログポート1]/[アナログポート2]画面



### ①アナログポート1/2累積情報

- 料金合計：該当するポートに接続されたアナログ機器からかけた電話の通話料金の合計を表示します。  
表示された課金情報累計は、あくまでも目安にしてください。実際にNTTから請求される回線使用料金とは異なる場合がありますので、ご注意ください。
- 回数合計：該当するポートに接続されたアナログ機器から電話をかけた回数の合計を表示します。なお、つながらなかった場合(相手先が話し中など)は、加算されません。
- 時間合計：該当するポートに接続されたアナログ機器からかけた電話の通話時間の合計を表示します。

### ②アナログポート1/2累積情報 初期化 .....

「①アナログポート1/2累積情報」表示を初期化したい場合、初期化する項目を、この欄の[ ]をクリックして表示するプルダウンメニューから選択し、<リセット>をクリックします。

プルダウンメニューの内容は、以下のようになっています。

- 初期化対象項目
  - 全合計項目：料金・回数・時間の全合計
  - 料金合計：累積通話料金の合計のみ
  - 回数合計：累積発信回数の合計のみ
  - 時間合計：累積通話時間の合計のみ

### ③<クリア> .....

「④日付・時間」と「⑤通信記録」に表示される内容を、消去します。

### ④日付・時間 .....

電話をかけた / 電話がかかってきた日時を表示します。

### ⑤通信記録 .....

本製品側からかけた電話は、ダイヤルした電話番号などを表示します。外部からかかってきた電話は、電話をかけてきた相手の電話番号、相手がダイヤルした電話番号などを表示します。

サブアドレスが設定 / ダイヤルされている場合は、サブアドレスも併せて表示します。

ナンバー・ディスプレイサービスを契約(有料)していない場合、アナログ回線契約者からかかってきた電話については、電話番号を表示しません。

---

## 5 通信記録

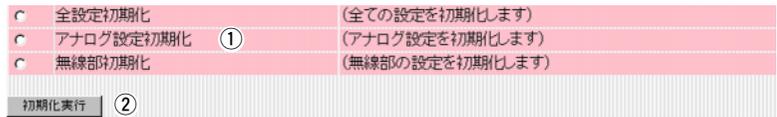
この章では、  
設定ページの、<保存と記録>メニューで表示される画面について説明します。

---

1. [設定初期化]画面 .....	62
2. [設定保存]画面 .....	62

## 6 保存と記録

### 1. [設定初期化]画面



①初期化条件 .....

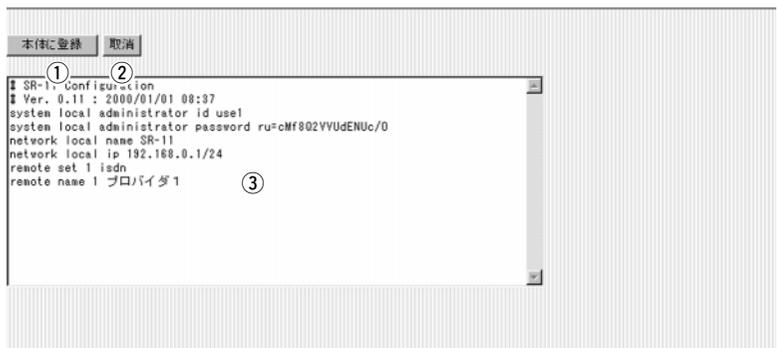
該当する初期化条件に合わせてラジオボタンをクリックします。

- 全設定初期化  
設定した全内容を、出荷時の設定に戻します。
- アナログ設定初期化  
[TEL1]、[TEL2]の設定を、出荷時の設定に戻します。
- 無線部初期化  
無線LANに関係のある設定を、出荷時の設定に戻します。

②<初期化実行> .....

上記、「①初期化条件」で選択された初期化条件に従って、初期化を開始します。

### 2. [設定保存]画面



①<本体に登録> .....

「③表示画面」に表示する内容を、設定ページに書き込みます。

②<取消> .....

「③表示画面」に表示する内容を変更したとき、変更を取り消して、このファイルを最初に開いたときの内容に戻します。

③表示画面 .....

全設定(変更含む)内容を表示します。  
この画面内容をパソコンに保存することで、本製品の設定をバックアップすることができます。  
なお、各画面で設定されたパスワードや、キージェネレーター(無線LAN通信用暗号化鍵の生成元文字列)の内容は、暗号化されて表示されます。そのため、保存されたファイルよりそれらが外部へ漏れることはありません。

## 設定画面の構成

## 付 録

本製品のWWWブラウザによる設定画面の構成についてまとめています。

回線と接続 (第1章)	接続状況 (1.)	回線接続状況	フレッツISDN接続状況	
	接続先の追加 /~ の設定 (2.)	接続 (2-1.)	接続設定	
		自動接続 (2-2.)	自動接続設定	
		自動切断 (2-3.)	自動切断設定	
		WAN設定 (2-5.)	WANインターフェース設定	
		アドレス変換 (2-6.)	アドレス変換設定	静的NATテーブル設定
回線設定 (3.)	回線設定	ISDN着信識別番号設定		
本体設定と管理 (第2章)	本体管理設定 (1.)	管理者ID設定	使用者ID設定(使用者1~4)	
	SYSLOG設定 (2.)	SYSLOG設定		
	メール着信通知設定 (3.)	サーバ設定	メール転送設定	
		メールフィルタ		
	着信メール一覧 (4.)	着信メール一覧		
時計設定 (5.)	内部時計設定	自動時計設定		

ネットワーク  
(第3章)

本体ネットワーク設定 (1.)	本体名称 / IPアドレス設定	リモートアクセス用IP設定
	DHCPサーバ設定	静的DHCPサーバ設定

無線LAN設定 (2.)	無線LAN設定	無線詳細設定
	MACアドレスセキュリティ設定	

簡易DNSサーバ設定 (3.)	DNSサーバ設定	簡易DNSサーバ設定
-----------------	----------	------------

IPフィルタ設定 (4.)	IPフィルタ設定
---------------	----------

RIP設定 (5.)	RIP設定	RIPフィルタ設定
------------	-------	-----------

ルーティング設定 (6.)	ネットワークインターフェイスリスト	IP経路情報
	スタティックルーティング設定	セレクトルーティング

アナログ設定  
(第4章)

ポート共通の設定 (1.)	内線通話	フレックスホンの設定
	優先着信	リソースBOD

ポート1/ポート2の設定 (2.)	ポート毎の設定	着信機能
	送信機能	ダイヤルタイミング
	着信転送	

転送 / 短縮番号 (3.)	着信転送番号の登録	短縮ダイヤルの登録
----------------	-----------	-----------

セレクト番号 (4.)	セレクト着信
-------------	--------

通信記録  
(第5章)

通信記録 (1.)	通信記録
-----------	------

ポート1/ポート2通信累積 (2.)	アナログポート1/アナログポート2累積情報
	アナログポート1/アナログポート2累積情報初期化

保存と記録  
(第6章)

設定初期化 (1.)	設定初期化
------------	-------

設定保存 (2.)	設定保存
-----------	------





SOHOROUTER  
**SR-11**

## 第3部 OCNエコノミー

第 1章	回線と接続.....	1
第 2章	本体設定と管理.....	7
第 3章	ネットワーク .....	13
第 4章	通信記録 .....	31
第 5章	保存と記録 .....	33
第 6章	OCNエコノミーの設定例集 .....	35
付 録	設定画面の構成 .....	41

<アナログ設定>メニューは、OCNエコノミー回線では設定できません。

取扱説明書[基本編]に記載のない内容について説明しています。本書の設定例集と併せてご覧ください。



この章では、  
設定ページの、<回線と接続>メニューで表示される画面について説明します。

---

1. [接続状況]画面 .....	2
2. [詳細設定]画面 .....	3
2-1. [接続]画面 .....	3
2-2. [WAN設定]画面 .....	4
2-3. [アドレス変換]画面 .....	5
3. [回線設定]画面 .....	6

# 1 回線と接続

## 1. [接続状況]画面

通信中の回線接続状況について表示します。  
登録できる接続先は、1件だけです。

接続状況
• 詳細設定
回線設定

OCN選択状況			
名称	発信元IPアドレス	相手先IPアドレス	状況
①	②	③	④

- ①名称 ..... 通信している接続先(プロバイダーなど)の名称を表示します。  
なお、表示されるのは本製品に接続先として登録されている名称です。
- ②発信元IPアドレス ..... 通信しているパソコンのIPアドレスです。
- ③相手先IPアドレス ..... 通信している接続先(プロバイダーなど)のIPアドレスを表示します。
- ④状況 ..... 通信中は「発信」を表示します。

## 2. [詳細設定]画面

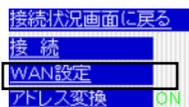
### 2-1. [接続]画面



- |                    |   |
|--------------------|---|
| ①<登録> .....        | この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。  |
| ②<取消> .....        | この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。<br>なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。                  |
| ③接続先名 .....        | 接続する相手先名を、任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。<br>(入力例：icom)                                  |
| ④プライマリDNSサーバ ..... | DNSサーバのアドレスが2つ指定されている場合は、どちらか一方、または指定されているプライマリDNSアドレスを入力します。<br>(入力例：123.114.101.34) |
| ⑤セカンダリDNSサーバ ..... | DNSサーバのアドレスが2つ指定されている場合は、どちらか一方、または指定されているセカンダリDNSアドレスを入力します。<br>(入力例：123.114.151.64) |

# 1 回線と接続

## 2-2. [WAN設定]画面



- ①<登録> ..... この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> ..... この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。  
なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③本体のWAN側 ..... IPアドレス/サブネットマスク  
OCN契約時に指定されたIPアドレスとサブネットマスクを入力します。

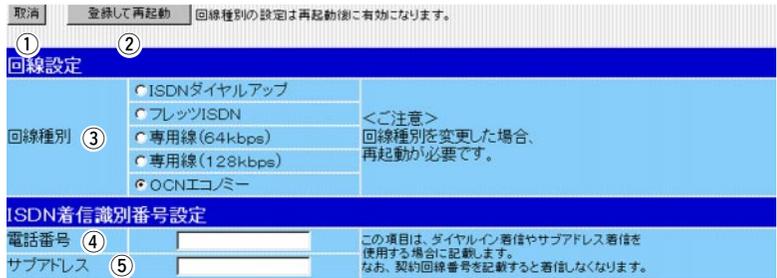
2-3. [アドレス変換]画面



- ①<登録> ..... この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> ..... この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。  
 なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③アドレス変換 ..... NAT、IPマスカレード機能を使用して、グローバルアドレスをプライベートアドレスに変換するかしないかを選択します。
- ④マスカレードIPアドレス ..... [WAN設定]画面の「③本体のWAN側」(P4)で入力したIPアドレスをマスカレードIPアドレスとして使用しますので、入力は不要です。
- ⑤静的マスカレード ..... マスカレードIP(ルータグローバルIP)に対して、アクセスしてきたパケットをプロトコルにより判定し、ここで指定したプライベートIPアドレスを割り当てたローカル端末へアドレス変換します。  
 最大32個のマスカレードテーブルを設定できます。
  - ローカルIP : プライベートIPアドレスを入力します。  
(入力例: 192.168.0.1)
  - プロトコル : TCP、UDP、TCP/UDPから選択します。
  - 開始ポート : 選択したプロトコルの開始ポート番号を入力します。
  - 終了ポート : 選択したプロトコルの終了ポート番号を入力します。  
 入力後は、<追加>をクリックして、[現在の登録]欄に登録されたことを確認後、<登録>をクリックしてください。
- ⑥静的NATテーブル設定 ..... OCNエコノミーの契約で指定されたグローバルIPアドレス(6個)と、ローカルIPアドレスを1対1で変換させるためのテーブル設定です。  
 最大32個のNATテーブルを設定できます。
  - グローバルIP : 指定されたグローバルIPアドレスを入力します。  
(入力例: 172.16.0.49)
  - ローカルIP : 任意のプライベートIPアドレスを入力します。  
(入力例: 192.168.0.10)
 入力後は、<追加>をクリックして、[現在の登録]欄に登録されたことを確認後、<登録>をクリックしてください。

# 1 回線と接続

## 3. [回線設定]画面



- ①<取消> ..... この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
- ②<登録して再起動> ..... この画面中の設定内容を変更したとき、その内容を有効にするため、本製品を再起動します。
- ③回線種別 ..... 以下の5つから、使用する回線を選択します。
- ISDNダイヤルアップ(出荷時の設定)  
「INSネット64」を利用して、ダイヤルアップ接続をする設定を行います。
  - フレッツISDN  
NTTが提供するフレッツISDNを利用して、ご契約のプロバイダーと定額接続するための設定を行います。
  - 専用線(64kbps)  
通信速度が64kbpsの専用線を利用するための設定を行います。
  - 専用線(128kbps)  
通信速度が128kbpsの専用線を利用するための設定を行います。
  - OCNエコノミー  
NTTが提供するプロバイダーと契約してインターネット接続のための専用線サービスを利用する設定を行います。  
OCNには「ダイヤルアクセスサービス」もありますが、この場合の設定は、「ISDNダイヤルアップ」を選択して設定を行ってください。
- ④電話番号 ..... OCNエコノミー回線では、入力不要です。
- ⑤サブアドレス ..... OCNエコノミー回線では、入力不要です。

この章では、  
設定ページの、<本体設定と管理>メニューで表示される画面について説明します。

---

1. [本体管理設定]画面 .....	8
2. [SYSLOG設定]画面 .....	10
3. [時計設定]画面 .....	11

[メール着信通知設定]および[着信メール一覧]画面は、OCNエコノミー回線では利用できません。

## 2 本体設定と管理

### 1. [本体管理設定]画面



登録		取消	
① ②			
管理者ID設定			
管理者ID	③	<input type="text"/>	
管理者/パスワード	④	<input type="password"/>	
パスワードの確認入力	⑤	<input type="password"/>	
⑥ ⑦			
使用者ID設定			
使用者ID	⑦	<input type="text"/>	登録/取消▲
使用者/パスワード	⑧	<input type="password"/>	
パスワードの確認入力	⑨	<input type="password"/>	
手動接続・切断を許可			する
接続設定編集を許可	⑩		<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
通信記録表示・クリアを許可	⑪		<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
使用者ID		<input type="text"/>	
使用者/パスワード		<input type="password"/>	
パスワードの確認入力		<input type="password"/>	
手動接続・切断を許可			する
接続設定編集を許可			<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
通信記録表示・クリアを許可			<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
使用者ID		<input type="text"/>	
使用者/パスワード		<input type="password"/>	
パスワードの確認入力		<input type="password"/>	
手動接続・切断を許可			する
接続設定編集を許可			<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
通信記録表示・クリアを許可			<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する

- ①<登録> ..... この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> ..... この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③管理者ID ..... 本製品の設定ページへのアクセスを制限する場合に、管理者としての名前を、大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。(入力例: Router)  
管理者IDを設定すると、次のアクセスからユーザー名の入力を求められますので、そこに管理者IDを入力します。
- ④管理者パスワード ..... 「③管理者ID」に対するパスワードを設定する場合、大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。  
入力した文字は、すべて「\*(アスタリスク)」で表示されます。(表示例: \*\*\*\*)  
管理者パスワードを設定すると、次のアクセスからパスワードの入力を求められますので、そこに管理者パスワードを入力します。
- ⑤パスワードの確認入力 ..... 「④管理者パスワード」の入力間違いを防ぐために、パスワードを再入力します。(表示例: \*\*\*\*)

1. [本体管理設定]画面(つづき)

The screenshot shows a settings page with a top bar containing '登録' (Register) and '取消' (Cancel) buttons. The main content is divided into sections for '管理者ID設定' (Administrator ID Settings) and '使用者ID設定' (User ID Settings). The '管理者ID設定' section includes fields for '管理者ID', '管理者/パスワード', and 'パスワードの確認入力'. The '使用者ID設定' section includes a '登録/取消▲' button and four user profiles (使用者1 to 使用者4). Each user profile has a checkbox, a '使用者ID' field, a '使用者/パスワード' field, a 'パスワードの確認入力' field, and three permission checkboxes: '手動接続・切断を許可', '接続設定編集を許可', and '通信記録表示・クリアを許可'.

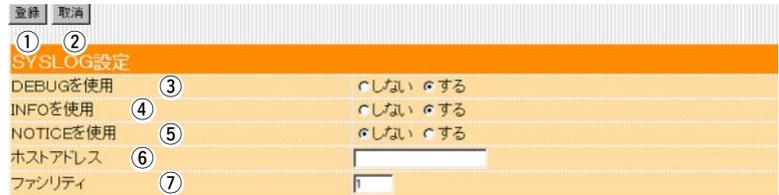
- ⑥使用者1～4 ..... [管理者ID設定]で設定した管理者とは別に、設定ページへのアクセスを許可する使用者を設定する場合、チェックボックスをクリックします。最大4人の使用者を登録できます。
- ⑦使用者ID ..... 本製品の設定ページへのアクセスを許可された使用者の名前を、大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角30(全角15)文字以内で入力します。  
(入力例：icom)  
使用者IDを設定すると、管理者IDが設定されているときと同じようにパスワードの入力を求められますので、そこに使用者IDを入力します。
- ⑧使用者パスワード ..... 「⑥使用者ID」に対するパスワードを設定する場合、大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角30(全角15)文字以内で入力します。  
(表示例：\*\*\*\*)  
使用者パスワードを設定すると、管理者パスワードが設定されているときと同じようにパスワードの入力を求められますので、そこに使用者パスワードを入力します。
- ⑨パスワードの確認入力 ..... 「⑦使用者パスワード」の入力間違いを防ぐため、パスワードを再入力します。  
(表示例：\*\*\*\*)
- ⑩接続設定編集を許可 ..... 使用者に接続先の編集を許可するかしないかの選択です。
- ⑪通信記録表示・クリアを許可 ... 使用者に[通信記録]画面へのアクセスと、画面中の<クリア>の操作を許可するかしないかの選択です。

## 2 本体設定と管理

### 2. [SYSLOG設定]画面



ログ情報などをSYSLOGホストを利用して管理する場合、SYSLOG機能を利用したファイルとして一括管理ができます。以下の項目から、SYSLOGとして出力する情報を選択します。



登録		取消	
SYSLOG設定			
DEBUGを使用	③	<input type="radio"/> しない	<input type="radio"/> する
INFOを使用	④	<input type="radio"/> しない	<input type="radio"/> する
NOTICEを使用	⑤	<input type="radio"/> しない	<input type="radio"/> する
ホストアドレス	⑥	<input type="text"/>	
ファシリティ	⑦	<input type="text"/>	

- ①<登録> ..... この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> ..... この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③DEBUGを使用 ..... ISDNやPPPなど各種デバッグ情報をSYSLOGに出力するかしないかを選択します。
- ④INFOを使用 ..... INFOタイプのメッセージをSYSLOGに出力するかしないかを選択します。
- ⑤NOTICEを使用 ..... NOTICEタイプのメッセージをSYSLOGに出力するかしないかを選択します。
- ⑥ホストアドレス ..... SYSLOG機能を使用する場合、SYSLOGを受けるホストのアドレスを入力します。  
ホストは、SYSLOGサーバ機能に対応している必要があります。
- ⑦ファシリティ ..... SYSLOGのファシリティを入力します。  
0～23の値を設定してください。  
通常「1」を使用します。

### 3. [時計設定]画面



- ①<登録> ..... この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> ..... この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。  
なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③本体の時刻 ..... 本製品に設定されている時刻を表示します。
- ④設定する時刻 ..... 本製品の設定ページにアクセスしたとき、パソコンの時計設定を取得して表示します。  
表示する時間は、[時計設定]画面アクセス時の時間です。  
正確に設定したいとき、全設定を初期化したとき、停電対策用電池を交換したあとなどは、画面更新(左フレームの[時計設定]項目をクリック)してから、<登録>をクリックしてください。
- ⑤自動時計設定を使用 ..... インターネット上に存在するタイムサーバに日時の問い合わせを行い、内部時計を自動設定します。
- ⑥NTPサーバ1 IPアドレス ..... 最初にアクセスさせたいタイムサーバのIPアドレスを入力します。
- ⑦NTPサーバ2 IPアドレス ..... 「⑥NTPサーバ1 IPアドレス」の次にアクセスさせるタイムサーバがあるときは、そのIPアドレスを入力します。  
返答がないときは、再度「⑥NTPサーバ1 IPアドレス」で設定したタイムサーバにアクセスします。
- ⑧アクセス時間間隔 ..... タイムサーバにアクセスさせる間隔を、日数で設定します。  
最大99日まで設定でき、その日数にしたがってアクセスします。
- ⑨前回アクセス日時 ..... タイムサーバにアクセスした日時を表示します。
- ⑩次回アクセス日時 ..... タイムサーバにアクセスする予定日時を、「⑨前回アクセス日時」と「⑧アクセス時間間隔」で設定された日数より算出して表示します。

---

## 2 本体設定と管理

この章では、  
設定ページの、<ネットワーク>メニューで表示される画面について説明します。

---

1. [本体ネットワーク設定]画面 .....	14
2. [無線LAN設定]画面 .....	18
3. [簡易DNSサーバ設定]画面 .....	22
4. [IPフィルタ設定]画面 .....	23
5. [RIP設定]画面 .....	27
6. [ルーティング設定]画面 .....	28

### 3 ネットワーク

#### 1. [本体ネットワーク設定]画面



登録	取消	登録して再起動	このページの設定は再起動後に有効になります。 再起動が必要な項目が変更されています。
<b>① ② ③ 本体名称/IPアドレス設定</b>			
④ 本体名称	SR-11		
⑤ IPアドレス	192.168.0.1		
⑥ サブネットマスク	255.255.255.0		
<b>リモートアクセス用IP設定</b>			登録/取消
リモートアクセスサーバを使用	⑦	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する	
IPアドレス1			DHCPの割り当て範囲と重ならないように設定します。
IPアドレス2	⑧		
<b>DHCPサーバ設定</b>			登録/取消
DHCPサーバ機能を使用	⑨	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する	
割り当て開始IPアドレス	⑩	192.168.0.10	
割り当て個数	⑪	90 個	
サブネットマスク	⑫	255.255.255.0	
リース期間	⑬	9 日	
ドメイン名	⑭		
プライマリDNSサーバ	⑮		DNSサーバの代理応答機能を使用する場合は無効となります。
セカンダリDNSサーバ	⑯		
プライマリWINSサーバ	⑰		
セカンダリWINSサーバ	⑱		
<b>静的DHCPサーバ設定</b>			登録/取消
登録の追加			
MACアドレス		IPアドレス	
			追加
現在の登録			
MACアドレス		IPアドレス	

- ①<登録> ..... この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。変更された内容で運用するには、再起動が必要です。
- ②<取消> ..... この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③<登録して再起動> ..... この画面中の設定内容を変更したとき、その内容を有効にするため、本製品を再起動します。
- ④本体名称 ..... ネットワーク上で、本製品を識別する名前です。設定した名前は、ネットワーク上の有線/無線接続されたパソコンから、本製品に直接アクセスするためのドメイン名の一部として使えます。  
入力形式：[http://web.本体名称/]  
この場合、[簡易DNSサーバ設定]画面の「④DNSサーバの代理応答」(☞P30)を「する」(初期設定)に設定しておく必要があります。また、ほかのネットワーク機器と重複しないように、アルファベットで始まる半角英数字(A~Z、0~9、-)、31文字以内で設定します。  
全角文字(15文字以内)も入力できますが、DNSサーバの代理応答機能は利用できません。
- ⑤IPアドレス ..... [WAN設定]画面の「③本体のWAN側」(☞P4)で設定した内容をこの項目に反映します。
- ⑥サブネットマスク ..... [WAN設定]画面の「③本体のWAN側」(☞P4)で設定した内容をこの項目に反映します。

1. [本体ネットワーク設定]画面(つづき)

登録 取消 登録して再起動 このページの設定は再起動時に有効になります。再起動が必要な項目が変更されています。

① ② ③ 本体名/IPアドレス設定

④ 本体名称 SR-11

⑤ IPアドレス 192.168.0.1

⑥ サブネットマスク 255.255.255.0

リモートアクセス用IP設定 登録/取消

⑦ リモートアクセスサーバを使用 しない する

⑧ IPアドレス1

IPアドレス2 DHCPの割り当て範囲と重ならないように設定します。

DHCPサーバ設定 登録/取消

⑨ DHCPサーバ機能を使用 しない する

⑩ 割り当て開始IPアドレス 192.168.0.10

⑪ 割り当て個数 90 個

⑫ サブネットマスク 255.255.255.0

⑬ リース期間 9 日

⑭ ドメイン名

⑮ プライマリDNSサーバ

⑯ セカンダリDNSサーバ DNSサーバの代理応答機能を使用する場合は無効となります。

⑰ プライマリWINSサーバ

⑱ セカンダリWINSサーバ

静的DHCPサーバ設定 登録/取消

登録の追加

MACアドレス	IPアドレス
<input type="text"/>	<input type="text"/>

現在の登録

MACアドレス	IPアドレス
---------	--------

- ⑦ リモートアクセスサーバを使用 ..... OCNエコノミー回線では利用できないため、設定しても無効です。
- ⑧ IPアドレス1/IPアドレス2 ... OCNエコノミー回線では利用できないため、設定しても無効です。
- ⑨ DHCPサーバ機能を使用 ..... 本製品を動的DHCPサーバとして使用するかどうかを設定します。本製品に有線および無線で直接接続しているパソコンのTCP/IP設定を、“IPアドレスを自動的に取得する”と設定している場合、本製品のDHCPクライアントになります。この機能によって、動的にDHCPサーバである本製品からIPアドレス/サブネットマスク、ルータやDNSサーバのIPアドレス/ドメイン名が与えられます。
- ⑩ 割り当て開始IPアドレス ..... 本製品に有線および無線で直接接続するパソコンへ、IPアドレスを自動で割り当てるときの開始アドレスを設定します。
- ⑪ 割り当て個数 ..... 上記「⑩割り当て開始IPアドレス」から連続で自動割り当て可能なアドレスの最大個数を、5～128のあいだで設定します。
- ⑫ サブネットマスク ..... 上記「⑩割り当て開始IPアドレス」に対するサブネットマスクです。
- ⑬ リース期間 ..... DHCPサーバが自動で、ローカルIPアドレスを定期的に、クライアントに割り当てなおす期限を日数で指定します。

# 3 ネットワーク

## 1. [本体ネットワーク設定]画面(つづき)

The screenshot shows a network configuration interface with the following sections and callouts:

- ① ② ③ 本体名称/IPアドレス設定**
  - ④ 本体名称: SR-11
  - ⑤ IPアドレス: 192.168.0.1
  - ⑥ サブネットマスク: 255.255.255.0
- リモートアクセス用IP設定**
  - ⑦ リモートアクセスサーバを使用: しない する
  - ⑧ IPアドレス1: [ ]
  - IPアドレス2: [ ]
- DHCPサーバ設定**
  - ⑨ DHCPサーバ機能を使用: しない する
  - ⑩ 割り当て開始IPアドレス: 192.168.0.10
  - ⑪ 割り当て個数: 90 個
  - ⑫ サブネットマスク: 255.255.255.0
  - ⑬ リース期間: 9 日
  - ⑭ ドメイン名: [ ]
  - ⑮ プライマリDNSサーバ: [ ]
  - ⑯ セカンダリDNSサーバ: [ ]
  - ⑰ プライマリWINSサーバ: [ ]
  - ⑱ セカンダリWINSサーバ: [ ]
- 静的DHCPサーバ設定**
  - 登録の追加: Table with MACアドレス and IPアドレス columns, and a 追加 button.
  - 現在の登録: Table with MACアドレス and IPアドレス columns.

- ⑭ドメイン名 ..... Ethernetでドメイン名を使用しているときなど必要があれば、DHCPサーバがクライアントに通知するネットワークアドレスのドメイン名を入力します。
- ⑮プライマリDNSサーバ ..... [接続]画面(☞P3)で設定した同項目の内容を、この項目に反映します。「⑨DHCPサーバ機能を使用」を「する」に設定し、必要に応じて使い分けたいDNSサーバのアドレスが2つある場合は、優先するどちらか一方を入力します。  
入力すると、本製品のIPアドレスの代わりに設定したDNSサーバアドレスをDHCPクライアントに通知します。
- ⑯セカンダリDNSサーバ ..... [接続]画面(☞P3)で設定した内容をこの項目に反映します。  
上記「⑮プライマリDNSサーバ」と同様に、使い分けたいDNSサーバアドレスのもう一方を入力します。
- ⑰プライマリWINSサーバ ..... Microsoftネットワークを使ってWINSサーバを利用する場合は、WINSサーバアドレスを入力します。WINSサーバのアドレスが2つある場合は、どちらか一方を入力します。
- ⑱セカンダリWINSサーバ ..... 上記「⑰プライマリWINSサーバ」と同様、WINSサーバのアドレスが2つある場合は、残りの一方を入力します。

1. [本体ネットワーク設定]画面(つづき)

登録 取消 登録して再起動 このページの設定は再起動時に有効になります。再起動が必要な項目が変更されています。

① ② ③  
**本体名称/IPアドレス設定**

本体名称 ④ SR-11  
 IPアドレス ⑤ 192.168.0.1  
 サブネットマスク ⑥ 255.255.255.0

**リモートアクセス用IP設定** 登録/取消

リモートアクセスサーバを使用 ⑦ しない する

IPアドレス1 ⑧  
 IPアドレス2 ⑧ DHCPの割り当て範囲と重ならないように設定します。

**DHCPサーバ設定** 登録/取消

DHCPサーバ機能を使用 ⑨ しない する

割り当て開始IPアドレス ⑩ 192.168.0.10  
 割り当て回数 ⑪ 90 回  
 サブネットマスク ⑫ 255.255.255.0  
 リース期間 ⑬ 9 日  
 ドメイン名 ⑭

プライマリDNSサーバ ⑮  
 セカンダリDNSサーバ ⑯ DNSサーバの代理応答機能を使用する場合は無効となります。  
 プライマリWINSサーバ ⑰  
 セカンダリWINSサーバ ⑱

**静的DHCPサーバ設定** ⑲ 登録/取消

登録の追加

MACアドレス	IPアドレス
<input type="text"/>	<input type="text"/>

追加

現在の登録

MACアドレス	IPアドレス
---------	--------

⑲静的DHCPサーバ設定 .....

DHCPサーバ機能を使用して自動割り当てるIPアドレスを、特定のパソコンに固定するとき、パソコンのMACアドレスとIPアドレスの組み合わせを登録する欄です。

入力後は、<追加>をクリックしてください。

この欄には、最大16個の組み合わせまで登録でき、登録するパソコンのIPアドレスは、DHCPサーバ機能で割り当てることができる範囲外のアドレスを指定してください。

### 3 ネットワーク

#### 2. [無線LAN設定]画面

- 本体ネットワーク設定
- 無線LAN設定**
- 無線LANの接続設定
- IDフィルタ設定
- IP設定
- ルーティング設定



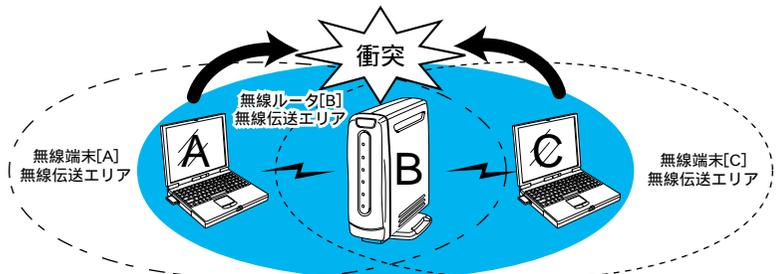
- ①<登録> ..... この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。変更された内容で運用するには、再起動が必要です。
- ②<取消> ..... この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③<登録して再起動> ..... この画面中の設定内容を変更したとき、その内容を有効にするため、本製品を再起動します。
- ④ESS ID ..... ワイヤレス接続による本製品、およびローカルネットワークへの不正なアクセスなどを防止するための識別用IDを入力します。同じESS IDが設定された本製品と無線端末のあいだでのみ、ワイヤレス接続できます。大文字/小文字の区別にご注意して、任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。 (出荷時の設定：LG) また、入力した文字は、すべて「\*」で表示されます。(表示例：\*\*)
- ⑤ESS IDの確認入力 ..... 「④ESS ID」の入力間違いを防ぐために、ESS IDを再入力します。大文字/小文字の区別にご注意してください。(表示例：\*\*)
- ⑥チャンネル ..... 本製品と無線端末がワイヤレス接続に使用する無線伝送用チャンネルを設定します。  
無線伝送エリア内に、別の無線LANなどの機器が存在する場合は、相互の電波干渉を避けるために、5チャンネル以上間隔をあけて設定してください。  
伝送距離は、約50m(見通し距離：室内)です。

2. [無線LAN設定]画面(つづき)

登録 取消		登録して再起動		アドレス登録以外の設定は再起動時に有効になります。	
<b>無線LAN設定</b>					
ESS ID ④	**	この項目の設定は再起動時に有効になります。			
ESS IDの確認入力 ⑤	**				
<b>無線詳細設定</b>					
チャンネル ⑥	14				
Rts/Ctsスレッシュホールド ⑦	無し				
WEPキーを使用 ⑧	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する				
キージェネレータ ⑨					
WEPキー ⑩		選択	文字列		
		<input type="radio"/> 1	00-00-00-00-00		
		<input type="radio"/> 2	00-00-00-00-00		
		<input type="radio"/> 3	00-00-00-00-00		
		<input type="radio"/> 4	00-00-00-00-00		
<b>MACアドレスセキュリティ設定</b>					
MACアドレスセキュリティを使用 ⑪	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	この項目の設定は再起動時に有効になります。			
本体無線部のMACアドレス ⑫	00-90-C7-0B-01-A9				
<b>登録の追加</b>					
MACアドレス ⑬		追加			
<b>現在の登録</b>					
登録済みの端末	受信中の端末	通信状況			

⑦Rts/Ctsスレッシュホールド

ネゴシエーションするために送るパケットのデータサイズを、「500バイト」または「1000バイト」から選択します。(出荷時の設定：無し) Rts/Cts(Request to send/Clear to send)スレッシュホールドを設定すると、隠れ端末の影響による通信速度の低下を防止できます。隠れ端末とは、下図のように、それぞれが無線ルータ[B]と通信できても、互いが直接通信できない無線端末[A]-[C]どうし([A]に対して[C]、[C]に対して[A])のことを呼びます。通信の衝突を防止するには、送信要求(Rts)信号を受信した無線ルータ[B]が、無線伝送エリア内にある無線端末[A]および[C]に送信可能(Cts)信号を送り返すことで、Rts信号を送信していない無線端末は無線ルータ[B]が隠れ端末と通信中であることを認識させます。これにより、Rts信号を送信していない無線端末[A]または[C]は、無線ルータ[B]へのアクセスを自制して、通信の衝突を防止できます。



⑧WEPキーを使用 .....

無線ネットワーク間で通信するデータを保護するために、WEP方式(Wired Equivalent Privacy)によるデータの暗号化をするかしないかを選択します。WEPキーを使用「する」と設定した場合、「⑨キージェネレータ」、および「⑩WEPキー」の設定に基づいて暗号化されます。

### 3 ネットワーク

#### 2. [無線LAN設定]画面(つづき)

#### ⑨キージェネレータ .....

暗号化および復号化に使う鍵を生成するための文字列を設定します。入力する文字は、すべて「\*」で表示します。(表示例：\* \*)  
入力された文字列より生成された鍵は、下記の「⑩WEPキー」のテキストボックスに表示されます。

通信対象となる相手間で、同じ文字列(大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字/記号)を設定します。通信の対象となる相手間で、設定された文字列が異なると、暗号化されたデータを復号できません。

#### ⑩WEPキー .....

「⑨キージェネレータ」のテキストボックスに入力した文字列より生成されたキーが、「1」、「2」、「3」、「4」の各「文字列」に、40ビット(16進数：10文字)ずつ表示されます。

「1」、「2」、「3」、「4」から選択したキーだけを暗号化に使用します。復号化できるのは、「1」、「2」、「3」、「4」から選択した表示内容を相手が暗号化に使用する場合だけです。

「1」、「2」、「3」、「4」の各テキストボックスに直接入力することもできます。(この場合、「⑨キージェネレータ」のテキストボックスに、文字列は表示されません。)

#### ⑪MACアドレスセキュリティを使用 .....

あらかじめ、登録しておいたMACアドレスと同じ無線端末だけが、本製品にワイヤレス接続できるようにするかしないかを選択します。この項目の設定を変更したあとは、<登録して再起動>をクリックして本製品を再起動してください。

#### ⑫本体無線部のMACアドレス ...

本製品の無線部に登録されたMACアドレスを表示します。

2. [無線LAN設定]画面(つづき)

登録		取消		登録して再起動		アドレス登録以外の設定は再起動後に有効になります。											
<b>無線LAN設定</b>																	
ESS ID	④	**		この項目の設定は再起動後に有効になります。													
ESS IDの確認入力	⑤	**															
<b>無線詳細設定</b>																	
チャンネル	⑥	14		登録/取消▲													
Rts/Ctsスレッシュホールド	⑦	無し															
WEPキーを使用	⑧	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する															
キージェネレータ	⑨																
WEPキー	⑩	<table border="1"> <thead> <tr> <th>選択</th> <th>文字列</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><input checked="" type="radio"/> 1</td> <td>00-00-00-00-00</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/> 2</td> <td>00-00-00-00-00</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/> 3</td> <td>00-00-00-00-00</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/> 4</td> <td>00-00-00-00-00</td> </tr> </tbody> </table>	選択	文字列	<input checked="" type="radio"/> 1	00-00-00-00-00	<input type="radio"/> 2	00-00-00-00-00	<input type="radio"/> 3	00-00-00-00-00	<input type="radio"/> 4	00-00-00-00-00					
選択	文字列																
<input checked="" type="radio"/> 1	00-00-00-00-00																
<input type="radio"/> 2	00-00-00-00-00																
<input type="radio"/> 3	00-00-00-00-00																
<input type="radio"/> 4	00-00-00-00-00																
<b>MACアドレスセキュリティ設定</b>																	
MACアドレスセキュリティを使用	⑪	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する		この項目の設定は再起動後に有効になります。													
本体無線部のMACアドレス	⑫	00-90-C7-0B-01-A9															
<b>登録の追加</b>																	
MACアドレス	⑬			追加													
<b>現在の登録</b>																	
登録済みの端末		受信中の端末		通信状況													

⑬MACアドレス .....

MACアドレスセキュリティが有効なとき、この欄に設定したMACアドレスが登録された無線通信LANカードを装着する弊社製ネットワーク機器と通信できます。

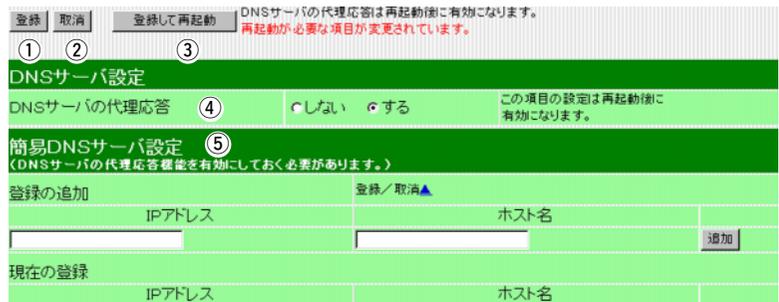
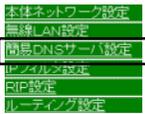
入力は、半角文字で12桁を入力します。

入力後は、<追加>をクリックして、画面の一番下に表示される[現在の登録]欄に登録されたことを確認してください。

MACアドレスを次のように入力すると、すべて同じアドレスとして処理します。 11-11-11-22-33-33、111111223333  
無線通信LANカードのMACアドレスを知りたいときは、弊社無線通信カードに付属する取扱説明書をご覧ください。

## 3 ネットワーク

### 3. [簡易DNSサーバ設定]画面



- ①<登録> ..... この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。変更された内容で運用するには、再起動が必要です。
- ②<取消> ..... この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③<登録して再起動> ..... この画面中の設定内容を変更したとき、その内容を有効にするため、本製品を再起動します。
- ④DNSサーバの代理応答 ..... 本製品を代理DNSサーバとして代理応答するかしないかの設定です。代理DNS機能とは、プロバイダー側のDNSサーバアドレスを検出したり、パソコンからのDNS要求をDNSサーバへ転送したりする機能です。  
代理DNS機能を利用すると、Ethernet上のパソコンのDNSサーバを本製品のアドレスに設定すると異なるプロバイダーに接続するときでもDNSサーバのアドレスを変更する必要がありませんので便利です。
- ⑤簡易DNSサーバ設定 ..... 代理DNSサーバ機能を使うとき、本製品を簡易DNSサーバとして使用できます。  
簡易DNSサーバを使用する場合、パソコンのホスト名と対応するIPアドレスの組合せを登録する欄です。  
簡易DNSサーバ機能を使用すると、UDP/53によるドメイン名からIPアドレスを検索するDNS要求と、IPアドレスからドメイン名を検索するDNS逆引き要求に応じます。  
ホスト名として“ホスト名.ドメイン名”を登録しておく、ホスト名のみ一致する場合でも応答が返されます。  
入力後は、<追加>をクリックしてください。  
ローカルなIPアドレスとそのホスト名を登録するときは、静かなDHCPサーバを利用してMACアドレスとIPアドレスの組み合わせを固定しておくことをおすすめします。

4. [IPフィルタ設定]画面

- 本体ネットワーク設定
- 無線LAN設定
- 簡易DNSサーバ設定
- IPフィルタ設定**
- ポート設定
- ルーティング設定

番号	方向	方法	プロトコル	ポート番号	始点	終点	IPアドレス	サブネットマスク	IPアドレス	
削除	(10) OUT	透過 (接続中)	TCP	宛先	137	139	*	255.255.255.255	-	
削除	64	OUT	透過 (接続中)	UDP	宛先/発信元	137	139	*	255.255.255.255	-

- ①<追加> ..... 上記の画面で入力した条件で、IPフィルターを設定します。追加した内容は、この画面の下に表示されます。
- ②番号 ..... 最大64件のフィルターを登録できます。フィルターを登録すると、本製品が受信または送信するパケットごとに登録されたフィルターと比較します。この項目では、フィルターを比較する順位を指定します。フィルターを複数設定しているときは、番号の小さい順番に比較を開始します。フィルターの条件に一致した時点で、それ以降の識別番号のフィルターは比較しません。
- ③<編集> ..... 設定済みのフィルターを編集するボタンです。編集するフィルター番号を入力してから、ボタンをクリックします。
- ④フィルタ方向 ..... パケットの通信方向で、WAN側から本製品に対して、フィルターの対象となる方向を設定します。以下の中から選択してください。
  - OUT 本製品からWAN側に送信するIPパケットに対して、フィルタリング処理を行います。フィルタリング処理は、アドレス変換の前に行います。
  - IN WAN側から本製品が受信するIPパケットに対して、フィルタリング処理を行います。フィルタリング処理は、アドレス変換のあとに行います。
  - BOTH 本製品がWAN側に送信、およびWAN側から受信する両方のIPパケットに対して、フィルタリング処理を行います。

### 3 ネットワーク

#### 4. [IPフィルタ設定]画面(つづき)

番号	方向	方法	プロトコル	ポート番号	ポート方向	始点	終点	IPアドレス	サブネットマスク	IPアドレス
削除 (10)	OUT	透過 (接続中)	TCP	宛先	137	139	*	255.255.255.255	-	-
削除	64	OUT	透過 (接続中)	UDP	宛先/発信元	137	139	*	255.255.255.255	-

#### ⑤フィルタ方法 .....

フィルタリングの方法として、以下の3通りがあります。

- 遮断 回線の接続に関係なく、フィルタリングの条件に一致した場合、そのパケットをすべて破棄します。
- 透過 回線の接続に関係なく、フィルタリングの条件に一致した場合、そのパケットをすべて通過させます。
- 透過(接続中) 回線がすでに接続されている状態で、フィルタリングの条件に一致した場合、そのパケットを通過させますが、回線が接続されていない場合には、そのパケットを破棄します。このように、パケットの送信をきっかけに自動発呼することを防止するときに設定してください。

#### ⑥プロトコル .....

フィルタリングの対象となるパケットのトランスポート層プロトコルを選ぶ項目です。

- ALL すべてのプロトコルの条件に一致します。
- TCP TCPプロトコルの条件だけに一致します。
- TCP\_FIN TCP\_FIN/RSTのパケットが処理の対象になります。
- TCP\_EST TCP\_SYNフラグのパケットが処理の対象になります。
- UDP UDPプロトコルの条件だけに一致します。
- ICMP ICMPプロトコルの条件だけに一致します。
- その他 IP層ヘッダーに含まれる上位層プロトコル番号を入力します。

プロトコル表示の右の欄に、プロトコル番号を10進数で0～255までの半角数字を入力してください。

4. [IPフィルタ設定]画面(つづき)

番号	方向	方法	プロトコル	ポート番号	始点	終点	IPアドレス	サブネットマスク	IPアドレス	
削除	(10) OUT	透過(接続中)	TCP	宛先	137	139	*	255.255.255.255	-	
削除	64	OUT	透過(接続中)	UDP	宛先/発信元	137	139	*	255.255.255.255	-

⑦ポート番号 .....

フィルタリングの対象となるTCP/UDPポート番号を入力する項目です。印をクリックし、対象となるポートが「宛先」、「発信元」、もしくは「宛先/発信元」なのかを指定して、番号を始点から終点まで連続で入力します。また、特定のポートだけを指定するときは、始点だけまたは、始点/終点に同一の番号を入力してください。入力できるポート番号は、10進数で1～65535までの半角数字です。なお、「宛先/発信元」を選択した場合は、宛先、発信元のどちらかが一方が一致すると、フィルタリングの対象とします。

⑧発信元IPアドレス .....

IPアドレスは、ドット(.)ごとに区切られた4つの10進数(0～255までの半角数字)で構成してください。

- 始点IPアドレス/終点IPアドレス  
発信元ホストのIPアドレスを設定することにより、特定のホストからのパケットをフィルタリングします。  
何も入力しない場合は、すべてのアドレスを対象とします。
- 始点サブネットマスク/終点サブネットマスク  
この項目で指定したIPアドレスのネットマスクを設定します。  
IPアドレスとサブネットマスクは、始点から終点まで連続で入力します。また、特定の発信元ホストだけを指定するときは、始点だけ入力してください。

### 3 ネットワーク

#### 4. [IPフィルタ設定]画面(つづき)

番号	方向	方法	プロトコル	ポート番号	開始	終了	IPアドレス	サブネットマスク	宛先IPアドレス
削除 (10)	OUT	透過 (接続中)	TCP	宛先	137	139	*	255.255.255.255	-
削除	64	OUT	透過 (接続中)	UDP	宛先/発信元	137	139	*	255.255.255.255

⑨宛先IPアドレス .....

IPアドレスは、ドット(.)ごとに区切られた4つの10進数(0～255までの半角数字)で構成してください。

● 始点IPアドレス/終点IPアドレス

宛先ホストのIPアドレスを設定することにより、特定のホストに対するパケットをフィルタリングします。  
始点に何も入力しない場合は、すべてのアドレスを対象とします。

● 始点サブネットマスク/終点サブネットマスク

この項目で指定したIPアドレスのネットマスクを設定します。  
IPアドレスとサブネットマスクは、始点から終点まで連続で入力します。また、特定の宛先ホストだけを指定するときは、始点だけ入力してください。

【発信元/宛先IPアドレスの設定例】

- IPアドレスに192.168.1.0
- サブネットマスクに255.255.255.252

フィルターの対象となるIPアドレスは、192.168.1.0から192.168.1.3までとなります。

⑩<削除> .....

設定したフィルターを削除するボタンです。

ご参考に

OCNエコノミー回線設定では、出荷時の設定として、下の画面サンプルのようにフィルターが登録されています。

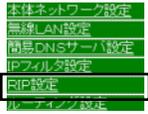
	番号	方向	方法	プロトコル	ポート番号			発信元IPアドレス				宛先IPアドレス			
					ポート方向	始点	終点	IPアドレス	サブネットマスク	-	IPアドレス	サブネットマスク	IPアドレス	サブネットマスク	-
削除	63	IN	遮断	TCP_EST	宛先	*	*	255.255.255.255	-	255.255.255.255	*	255.255.255.255	-	255.255.255.255	
削除	64	IN	遮断	TCP_EST	宛先/発信元	*	*	255.255.255.255	-	255.255.255.255	172.20.102.130	255.255.255.255	-	255.255.255.255	

なお、設定されているフィルターの目的は、以下のとおりです。

63番：プライベートIPアドレスを割り当てたパソコンや、インターネット上に公開しないサーバなどへの不正なパケットの着信を防止

64番：本製品への不正なパケットの着信を防止

## 5. [RIP設定]画面



- ①<登録> ..... この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。変更された内容で運用するには、再起動が必要です。
- ②<取消> ..... この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③<登録して再起動> ..... この画面中の設定内容を変更したとき、その内容を有効にするために、本製品を再起動します。

### RIP設定

RIPを使用することで隣接ルータと経路情報を交換して、経路を動的に作成します。

LAN間ダイヤルアップ接続やHSD(高速専用線)間で使用します。

RIPを使うと、RIPパケットがそのルータのブロードキャストアドレスを使って、約30秒毎にブロードキャストされます。

- ④LAN側にRIPを使用 ..... LAN側にRIPパケットをブロードキャストするかどうかを選択します。
- ⑤RIPフィルタ設定 ..... 同一サブネットで使う複数のルータにおいて、特定のルータが出力するRIPパケットを受信しないように、そのパケットを出力するルータのIPアドレスとサブネットマスクを入力します。  
最大20件の登録が可能です。  
入力後は、<追加>をクリックしてください。

### 3 ネットワーク

#### 6. [ルーティング設定]画面

- 本体ネットワーク設定
- 無線LAN設定
- 静態DNSサーバ設定
- IPフィルタ設定
- FTP設定
- ルーティング設定**

ネットワーク インターフェイス リスト

インターフェイス	IPアドレス	ネットマスク
local	192.168.0.1	255.255.255.0

IP経路情報

宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	ネット	作成	メトリック
192.168.0 ①	255.255.255 ②	192.168.0.1 ③	loc ④	sta ⑤	⑥ 0
192.168.0.0	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0
192.168.0.1	255.255.255.255	192.168.0.1	local	static	0
192.168.0.255	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0

スタティックルーティング設定

登録の追加

経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値
local ⑦	⑧	⑨	⑩	⑪

現在の登録

経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値
----	----	--------	--------	--------

セレクトルーティング

番号

接続方法  \* 拒絶する\*を選択した場合は全ての経路に対して適用されます

経路

発信元IPアドレス

プロトコル制御  ポート番号

宛先IPアドレスまたはドメイン名

セレクトルーティングを使用する時間帯

終了時刻で強制切断  しない  する

番号	経路	接続方法	発信元IPアドレス	プロトコル制御	ポート番号	宛先IPアドレスまたはド
----	----	------	-----------	---------	-------	--------------

#### IP経路情報

ルータがパケットの送信において、そのパケットをどのルータまたは端末に配送すべきかの情報を表示します。

この画面には、[スタティックルーティング設定]画面(P29)で追加した経路も表示されます。

- ①宛先 ..... ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスを表示します。
- ②ネットマスク ..... ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスに対するネットマスクを表示します。
- ③ゲートウェイ ..... ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスに対するゲートウェイを表示します。
- ④ネット ..... ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスに対する転送先インターフェイスを表示します。  
その詳細は、この画面の最上部に「ネットワーク インターフェイス リスト」として表示されます。
- ⑤作成 ..... どのように経路情報が作られたかを表示します。
  - static スタティック(定義された)ルートにより作成されています。
  - rip ダイナミック(自動生成された)ルートにより作成されています。
  - misc ブロードキャストに関するフレーム処理で作成されています。
- ⑥メトリック ..... 経路のコストを表示します。

6. [ルーティング設定]画面(つづき)

ネットワーク インターフェイス リスト		
インターフェイス	IPアドレス	ネットマスク
local	192.168.0.1	255.255.255.0

IP経路情報						
宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	ネット	作成	メトリック	
192.168.0.1 ①	255.255.255.255 ②	192.168.0.1 ③	loc ④	sta ⑤	⑥	0
192.168.0.0	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc		0
192.168.0.1	255.255.255.255	192.168.0.1	local	static		0
192.168.0.255	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc		0

スタティックルーティング設定					
登録の追加					
経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値	
local ⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	追加

現在の登録					
経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値	

セレクトルーティング						
番号	<input type="text"/> <input type="button" value="設定"/> <input type="button" value="編集"/>					
接続方法	手動発信 <input type="button" value="拒絶する"/> を選択した場合は全ての経路に対して適用されます					
経路	01:プロバイダ1 <input type="button" value="▼"/>					
発信元IPアドレス	<input type="text"/> - <input type="text"/>					
プロトコル制御	使用しない <input type="button" value="▼"/> ポート番号 <input type="text"/> - <input type="text"/>					
宛先IPアドレスまたはドメイン名	<input type="text"/>					
セレクトルーティングを使用する時間帯	00:00 ~ 00:00					
終了時刻で強制切断	<input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> する					
番号	経路	接続方法	発信元IPアドレス	プロトコル制御	ポート番号	宛先IPアドレスまたはド

スタティックルーティング設定

パケットの中継経路を、意図的に定義するルーティングテーブルです。登録できるのは、最大20件までです。

入力後は、<追加>をクリックして、[現在の登録]欄に登録されたことを確認してください。また、その内容は、[IP経路情報]画面(⇒P28)にも表示されます。

- ⑦経路 .....
  - local : 登録する経路情報がLAN側の場合です。
  - 登録先選択 : 登録する接続先がWAN側の場合、  をクリックすると、登録された接続先があれば表示します。
  
- ⑧宛先 .....
 

経路にLAN側を選択したときは、対象となる相手先のIPアドレスを入力します。

経路にWAN側を選択したときは、対象となる相手先のネットワークIPアドレスを入力します。
  
- ⑨ネットマスク .....
 

対象となる宛先のIPアドレスに対するネットマスクを入力します。
  
- ⑩ゲートウェイ .....
 

ルーティングの対象となるパケット転送先ルータのゲートウェイを入力します。
  
- ⑪メトリック値 .....
 

宛先までのコストを表す数値を入力します。

数値が小さければ転送能力の高い回線と見なされ、数値が大きければ転送能力が低い回線と見なされます。

0～16まで入力できます。

### 3 ネットワーク

#### 6. [ルーティング設定]画面(つづき)

ネットワーク インターフェイス リスト		
インターフェイス	IPアドレス	ネットマスク
local	192.168.0.1	255.255.255.0

IP経路情報					
宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	ネット	作成	メトリック
192.168.0.①	255.255.255.②	192.168.0.1 ③	loc④	sta⑤	⑥ 0
192.168.0.0	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0
192.168.0.1	255.255.255.255	192.168.0.1	local	static	0
192.168.0.255	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0

スタティックルーティング設定					
登録の追加					
経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値	
local ⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	追加

現在の登録					
経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値	

セレクトルーティング					
番号	<input type="text"/>	<input type="button" value="設定"/>	<input type="button" value="編集"/>		
接続方法	手動発信 <input type="button" value="拒絶する"/> * 拒絶するを選択した場合は全ての経路に対して適用されます				
経路	01:プロバイダ <input type="button" value=""/>				
発信元IPアドレス	- <input type="text"/>				
プロトコル制御	使用しない <input type="button" value=""/> ポート番号 <input type="text"/> - <input type="text"/>				
宛先IPアドレスまたはドメイン名	<input type="text"/>				
セレクトルーティングを使用する時間帯	00 : 00 ~ 00 : 00				
終了時刻で強制切断	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する				

番号	経路	接続方法	発信元IPアドレス	プロトコル制御	ポート番号	宛先IPアドレスまたはド
----	----	------	-----------	---------	-------	--------------

#### セレクトルーティング

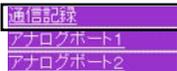
OCNエコノミー回線では、動作しません。

この章では、  
設定ページの、<通信記録>メニューで表示される画面について説明します。

- 
1. [通信記録]画面 ..... 32  
[アナログポート1]および[アナログポート2]画面は、OCNエコノミー回線では使用できないアナログ機器の通信累積です。

## 4 通信記録

### 1. [通信記録]画面



- ①<クリア> .....
- ②日付・時間 .....
- ③通信記録 .....

回線を接続および切断したときの状態を、履歴として表示します。



①	② 日付・時間	③ 通信記録
	01/01 00:02:56	網より切断理由コード#38網障害
	01/01 00:02:56	PPP02 手動接続要求番号(1234567890)

「②日付・時間」と「③通信記録」に表示される内容を、消去します。

日時を表示します。

接続状況を表示します。

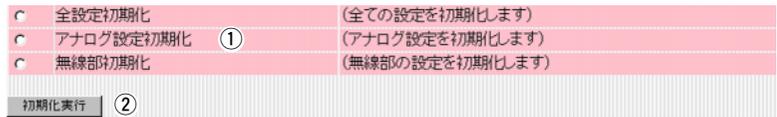
この章では、  
設定ページの、<保存と記録>メニューで表示される画面について説明します。

---

1. [設定初期化]画面 .....	34
2. [設定保存]画面 .....	34

## 5 保存と記録

### 1. [設定初期化]画面



①初期化条件 .....

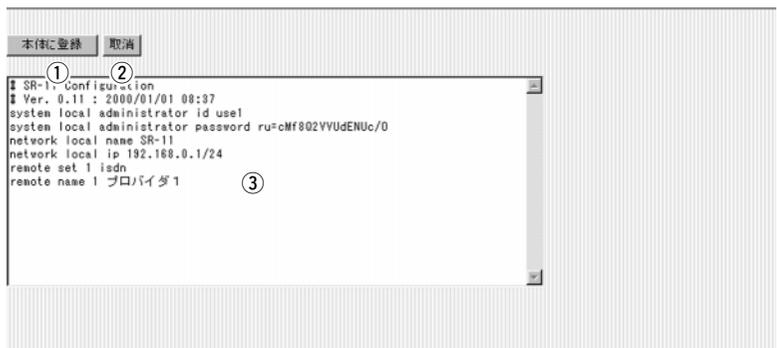
該当する初期化条件のラジオボタンをクリックします。

- 全設定初期化  
設定した全内容を、出荷時の設定に戻します。
- アナログ設定初期化  
OCNエコノミー設定では、動作しません。
- 無線部初期化  
無線LANに関する設定を、出荷時の設定に戻します。

②<初期化実行> .....

上記、「①初期化条件」で選択された初期化条件に従って、初期化を開始します。

### 2. [設定保存]画面



①<本体に登録> .....

「③表示画面」に表示する内容を、設定ページに書き込みます。

②<取消> .....

「③表示画面」に表示する内容を変更したとき、変更を取り消して、このファイルを最初に開いたときの内容に戻します。

③表示画面 .....

全設定(変更含む)内容を表示します。  
この画面内容をパソコンに保存することで、本製品の設定をバックアップすることができます。  
なお、各画面で設定されたパスワードや、キージェネレーター(無線LAN通信用暗号化鍵の生成元文字列)の内容は、暗号化されて表示されるます。そのため、保存されたファイルよりそれらが外部へ漏れることはありません。

この章では、  
OCNエコノミーでの具体的な接続例に沿って、どのように設定するかについて説明します。  
なお、回線種別は、すでに設定されていることを前提として説明していますので、設定方法を省略して  
います。(回線種別の設定は、6ページを参照してください。)

---

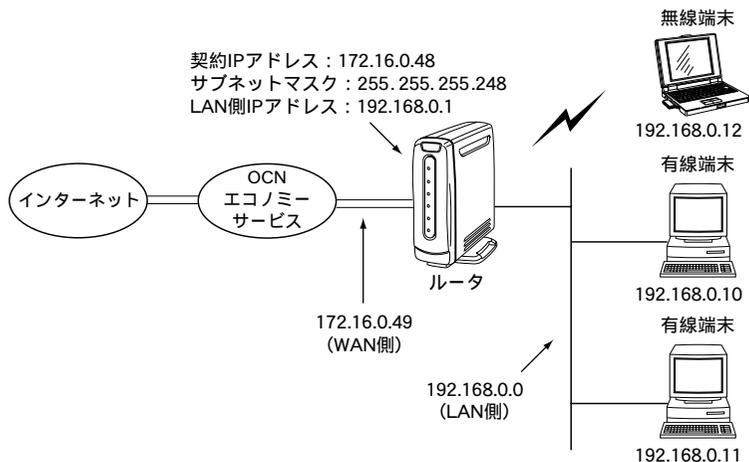
1. 無線端末と有線端末をインターネットに常時接続 .....	36
---------------------------------	----

## 6 OCNエコノミーの設定例集

### 1. 無線端末と有線端末をインターネットに常時接続

#### 【条件】

- OCNが指定するIPアドレスの数が、8個の場合
- 3台の端末には、自動生成されたNATテーブルを適用
- 残りの端末には、自動生成されたマスカレード用IPアドレスを共通に使用



ここでは、NTTから以下の8個のIPアドレスを指定された場合を例に説明します。

- 172.16.0.48 ~ 172.16.0.55(指定された8個)
- 172.16.0.50 ~ 172.16.0.54(端末用IPアドレス)
- 172.16.0.48(ネットワークIPアドレス)
- 172.16.0.49(契約ルータIPアドレス)
- 172.16.0.55(ブロードキャストアドレス)

マスカレード用IPアドレスと静的NATテーブルに割り当てるIPアドレスが自動設定(☞P5)されます。

自動設定は、指定された8個のIPアドレスを使うことを想定して設定されますので、16個を指定されている場合は、自動設定された値(☞P5)を、必要に応じて再設定してください。

#### 【手順】

##### 1. 設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

本製品のIPアドレスは、出荷時の設定(192.168.0.1)とします。

1. http://192.168.0.1/  
を指定



1. 無線端末と有線端末をインターネットに常時接続(つづき)

2. 接続先設定

<詳細設定>をクリックして、接続情報を以下のように設定します。

4. クリック	登録   取消
1. ocn(任意でよい)	接続先名: ocn
2. 172.16.0.49	プライマリDNSサーバ: 172.16.0.49
3. 255.255.255.248	セカンダリDNSサーバ: 255.255.255.248

3. 管理者IDの設定

<設定と管理>メニューをクリックして、管理者ID、管理者パスワードを設定します。

3. クリック	登録   取消
1. router(任意でよい)	管理者ID: router
2. 任意の英数字を入力 入力値は表示されません。	管理者パスワード: ***** パスワードの確認入力: *****

管理者ID設定		登録 / 取消
管理者ID	router	
管理者パスワード	*****	
パスワードの確認入力	*****	
使用者ID設定		登録 / 取消
<input type="checkbox"/> 使用者ID		
<input type="checkbox"/> 使用者パスワード		
パスワードの確認入力		
手動接続・切断を許可	する	
接続設定編集を許可	しない <input type="radio"/> する <input type="radio"/>	
通信記録表示・クリアを許可	しない <input type="radio"/> する <input type="radio"/>	
<input type="checkbox"/> 使用者ID		
<input type="checkbox"/> 使用者パスワード		
パスワードの確認入力		
手動接続・切断を許可	する	
接続設定編集を許可	しない <input type="radio"/> する <input type="radio"/>	
通信記録表示・クリアを許可	しない <input type="radio"/> する <input type="radio"/>	
<input type="checkbox"/> 使用者ID		
<input type="checkbox"/> 使用者パスワード		
パスワードの確認入力		
手動接続・切断を許可	する	
接続設定編集を許可	しない <input type="radio"/> する <input type="radio"/>	
通信記録表示・クリアを許可	しない <input type="radio"/> する <input type="radio"/>	

## 6 OCNエコノミーの設定例集

### 1. 無線端末と有線端末をインターネットに常時接続(つづき)

#### 4. 本体名称の設定

必要であれば、<ネットワーク>メニューをクリックして、本体名称を設定します。

登録 取消 登録して再起動 このページの設定は再起動後に有効になります。再起動が必要な項目が変更されています。

2. クリック

1. SR-11(任意でよい)

本体名称/IPアドレス設定	
本体名称	SR-11
IPアドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0

リモートアクセス用IP設定 登録/取消

リモートアクセスサーバを使用	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する	
IPアドレス1		DHCPの割り当て範囲と重ならないように設定します。
IPアドレス2		

DHCPサーバ設定 登録/取消

DHCPサーバ機能を使用	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する	
割り当て開始IPアドレス	192.168.0.10	
割り当て個数	30 個	
サブネットマスク	255.255.255.0	
リース期間	3 日	
ドメイン名		
プライマリDNSサーバ		DNSサーバの代理応答機能を使用する場合は無効となります。
セカンダリDNSサーバ		
プライマリWINSサーバ		
セカンダリWINSサーバ		

静的DHCPサーバ設定 登録/取消

登録の追加		
MACアドレス	IPアドレス	
		追加

現在の登録

MACアドレス	IPアドレス
---------	--------

設定内容登録後、設定した契約IPアドレスに応じて、自動的設定されたマスカレードIPアドレスを[アドレス変換]画面(⇨P5)で確認できません。

1.無線端末と有線端末をインターネットに常時接続(つづき)

6.無線LAN設定

<無線LAN設定>をクリックして、無線端末の設定を以下のように行います。

この画面で設定するESS IDを出荷時の設定(半角 : LG)で使うと、ほかの端末から不正にアクセスされるおそれがありますので、変更することをおすすめします。

無線端末から、本製品のESS IDの設定を変更するときは、この手順で<登録して再起動>操作を行ってから、本製品と通信する無線端末のESS IDを同じ値に変更してください。

変更後、無線端末を再起動します。

- 2. クリック
- 1. 任意の英数字を入力  
入力値は表示されません。

登録 取消 登録して再起動 アドレス登録以外の設定は再起動後に有効になります。

無線LAN設定		
ESS ID	**	この項目の設定は再起動後に有効になります。
ESS IDの確認入力	**	
無線詳細設定		登録 / 取消▲
チャンネル	14	
Rts/Ctsスレッシュホールド	無し	
WEPキーを使用	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	
キージェネレータ		
WEPキー	選択 文字列 <input checked="" type="radio"/> 1 00-00-00-00-00 <input type="radio"/> 2 00-00-00-00-00 <input type="radio"/> 3 00-00-00-00-00 <input type="radio"/> 4 00-00-00-00-00	
MACアドレスセキュリティー設定		登録 / 取消▲
MACアドレスセキュリティーを使用	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	この項目の設定は再起動後に有効になります。
本体無線部のMACアドレス	00-90-C7-0B-01-A9	
登録の追加		
MACアドレス		追加
現在の登録		
登録済みの端末	受信中の端末	通信状況

---

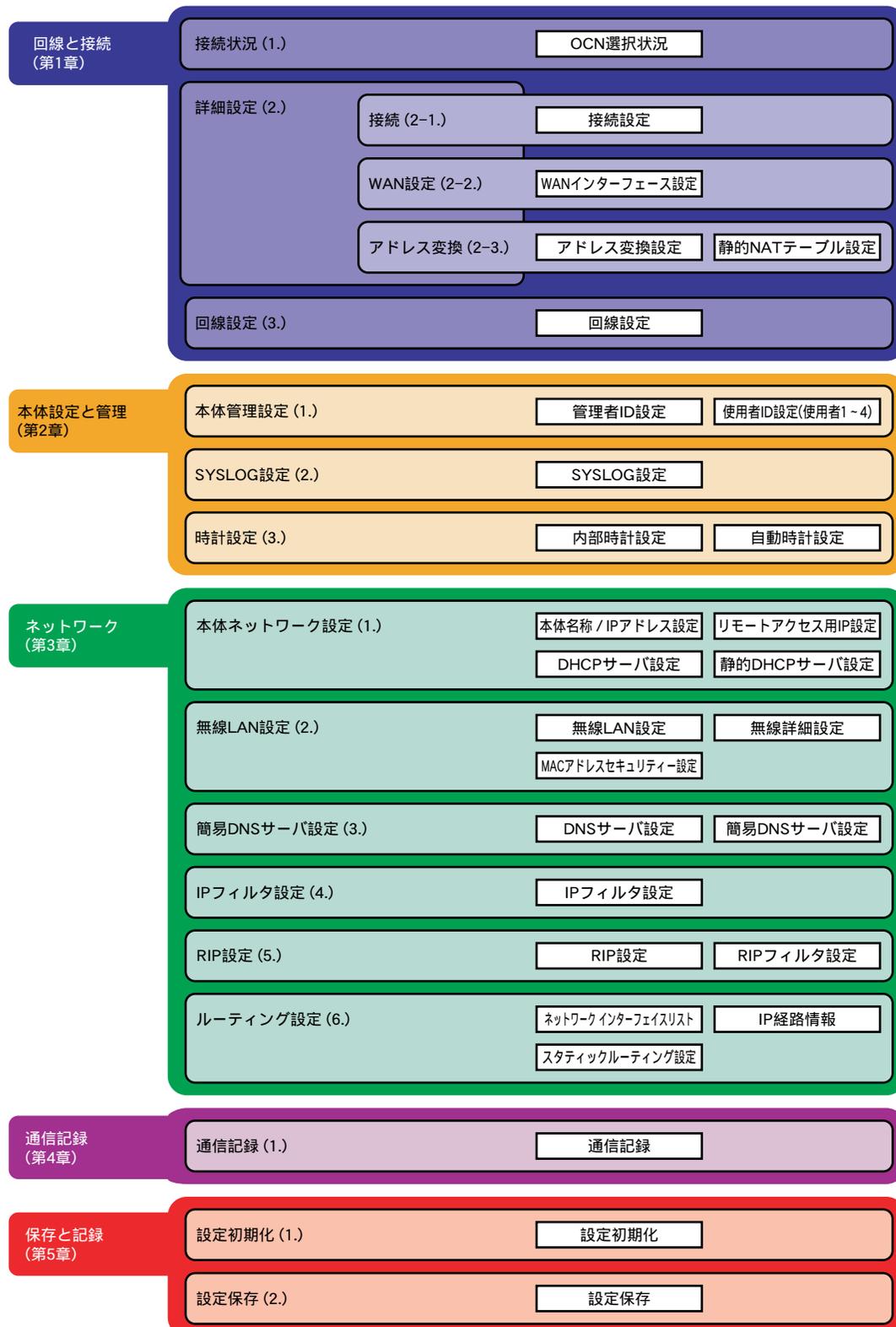
## 6 OCNエコノミーの設定例集

## 設定画面の構成

## 付 録

本製品のWWWブラウザによる設定画面の構成についてまとめています。

設定画面の構成





SOHOROUTER  
**SR-11**

## 第4部 専用線(64/128kbps)

第 1章	回線と接続.....	1
第 2章	本体設定と管理.....	7
第 3章	ネットワーク.....	13
第 4章	通信記録.....	31
第 5章	保存と記録.....	33
第 6章	専用線の設定例集.....	35
付 録	設定画面の構成.....	51

<アナログ設定>メニューは、専用線では設定できません。

取扱説明書[基本編]に記載のない内容について説明  
しています。本書の設定例集と併せてご覧ください。



この章では、  
設定ページの、<回線と接続>メニューで表示される画面について説明します。

---

1. [接続状況]画面 .....	2
2. [詳細設定]画面 .....	3
2-1. [接続]画面 .....	3
2-2. [WAN設定]画面 .....	4
2-3. [アドレス変換]画面 .....	5
3. [回線設定]画面 .....	6

# 1 回線と接続

## 1. [接続状況]画面

通信中の回線接続状況について表示します。  
登録できる接続先は、1件だけです。

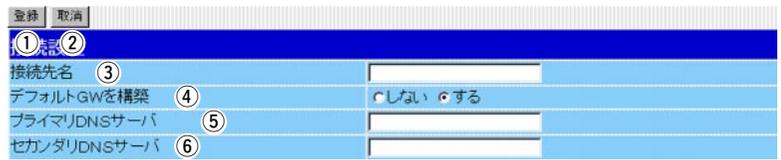
接続状況
• 詳細設定
回線設定

専用線(128kbps)接続状況			
名称	発信元IPアドレス	相手先IPアドレス	状況
①	②	③	④

- ①名称 ..... 通信している接続先(プロバイダーなど)の名称を表示します。  
なお、表示されるのは本製品に接続先として登録されている名称です。
- ②発信元IPアドレス ..... 通信しているパソコンのIPアドレスです。
- ③相手先IPアドレス ..... 通信している接続先(プロバイダーなど)のIPアドレスを表示します。
- ④状況 ..... 通信中は「発信」を表示します。

## 2. [詳細設定]画面

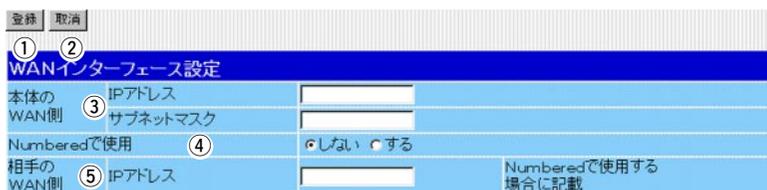
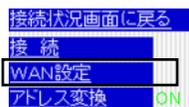
### 2-1. [接続]画面



- ①<登録> ..... この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> ..... この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③接続先名 ..... 接続する相手先名を、任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。  
(入力例：icom)
- ④デフォルトGWを構築 ..... LAN環境で発生したパケットのうち、宛先不明のパケットを送り出す出口を意味し、この接続をその出口とするかしないかを選択します。
- しない：パケットデータを送る先が支社など、閉じられた環境のとき選択します。
  - する：パケットデータを送る先がインターネットなどグローバルな環境のとき選択します。(出荷時の設定)
- ⑤プライマリDNSサーバ ..... 接続先からDNSサーバのアドレスが2つ指定されている場合は、どちらか一方、または指定されているプライマリDNSアドレスを入力します。  
(入力例：123.114.101.34)
- ⑥セカンダリDNSサーバ ..... 接続先からDNSサーバのアドレスが2つ指定されている場合は、どちらか一方、または指定されているセカンダリDNSアドレスを入力します。  
(入力例：123.114.151.64)
- 相手先が、IPCP(DNSアドレス送信)に対応している場合は、回線接続時にDNSアドレスを自動取得できますので、⑤、⑥の設定は不要です。

# 1 回線と接続

## 2-2. [WAN設定]画面



- ①<登録> ..... この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> ..... この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③本体のWAN側 ..... IPアドレス/サブネットマスク  
自分のWAN側のIPアドレスとサブネットマスクを設定します。  
接続先がIPCPに対応している場合(プロバイダーなど)は、設定の必要がありません。
- ④Numberedで使用 ..... 通信対象となる相手先ルータがUnnumberedに対応しない場合など、LAN側とWAN側に異なるIPアドレスを設定するとき使用します。  
使用するときは、「③本体WAN側」のIPアドレスとサブネットマスク、「⑤相手のWAN側」のIPアドレスを入力してください。
- ⑤相手のWAN側 ..... IPアドレス  
Numbered接続をする場合には、ここに自己WAN側IPアドレスを入力する必要があります。  
接続先がIPCPに対応している場合(プロバイダーなど)は、設定の必要がありません。

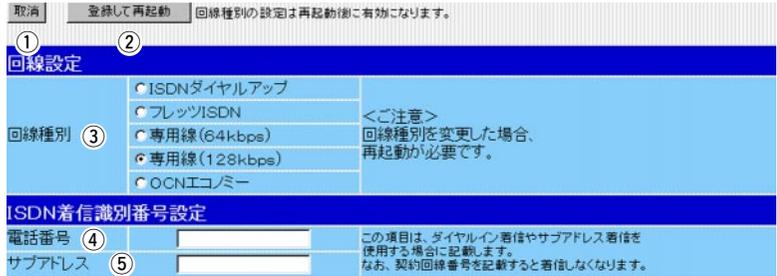
2-3. [アドレス変換]画面



- ①<登録> ..... この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> ..... この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③アドレス変換 ..... NAT、IPマスカレード機能を使用して、グローバルアドレスをプライベートアドレスに変換するかどうかを選択します。
- ④マスカレードIPアドレス ..... IPCPによってプロバイダーから取得したIPアドレスをマスカレードIPアドレスとして使用しますので、入力は不要です。
- ⑤静的マスカレード ..... マスカレードIP(ルータグローバルIP)に対して、アクセスしてきたパケットをプロトコルにより判定し、ここで指定したプライベートIPアドレスを割り当てたローカル端末へアドレス変換します。最大32個のマスカレードテーブルを設定できます。
  - ローカルIP : プライベートIPアドレスを入力します。  
(入力例: 192.168.0.1.0)
  - プロトコル : TCP、UDP、TCP/UDPから選択します。
  - 開始ポート : 選択したプロトコルの開始ポート番号を入力します。
  - 終了ポート : 選択したプロトコルの終了ポート番号を入力します。  
入力後は、<追加>をクリックして、[現在の登録]欄に登録されたことを確認後、<登録>をクリックしてください。
- ⑥静的NATテーブル設定 ..... プロバイダーとのLAN型契約などで、複数のグローバルIPアドレスを取得した場合に、ローカルIPアドレスに1対1で変換させるためのテーブル設定です。最大32個のNATテーブルを設定できます。
  - グローバルIP : 指定されたグローバルIPアドレスを入力します。  
(入力例: 172.16.0.49)
  - ローカルIP : 任意のプライベートIPアドレスを入力します。  
(入力例: 192.168.0.10)
 入力後は、<追加>をクリックして、[現在の登録]欄に登録されたことを確認後、<登録>をクリックしてください。

# 1 回線と接続

## 3. [回線設定]画面



- ①<取消> ..... この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
- ②<登録して再起動> ..... この画面中の設定内容を変更したとき、その内容を有効にするため、本製品を再起動します。
- ③回線種別 ..... 以下の5つから、使用する回線を選択します。
- ISDNダイヤルアップ(出荷時の設定)  
「INSネット64」を利用して、ダイヤルアップ接続をする設定を行います。
  - フレッツISDN  
NTTが提供するフレッツISDNを利用して、ご契約のプロバイダーと定額接続するための設定を行います。
  - 専用線(64kbps)  
通信速度が64kbpsの専用線を利用するための設定を行います。
  - 専用線(128kbps)  
通信速度が128kbpsの専用線を利用するための設定を行います。
  - OCNエコノミー  
NTTが提供するプロバイダーと契約してインターネット接続のための専用線サービスを利用する設定を行います。  
OCNには「ダイヤルアクセスサービス」もありますが、この場合の設定は、「ISDNダイヤルアップ」を選択して設定を行ってください。
- ④電話番号 ..... 専用線では、入力不要です。
- ⑤サブアドレス ..... 専用線では、入力不要です。

この章では、  
設定ページの、<本体設定と管理>メニューで表示される画面について説明します。

---

1. [本体管理設定]画面 .....	8
2. [SYSLOG設定]画面 .....	10
3. [時計設定]画面 .....	11

[メール着信通知設定]および[着信メール一覧]画面は、専用線では利用できません。

## 2 本体設定と管理

### 1. [本体管理設定]画面



登録		取消	
① ②			
管理者ID設定			
管理者ID	③	<input type="text"/>	
管理者/パスワード	④	<input type="password"/>	
パスワードの確認入力	⑤	<input type="password"/>	
⑥ ⑦			
使用者ID設定			
使用者ID	⑦	<input type="text"/>	登録/取消▲
使用者/パスワード	⑧	<input type="password"/>	
パスワードの確認入力	⑨	<input type="password"/>	
手動接続・切断を許可			する
接続設定編集を許可	⑩		<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
通信記録表示・クリアを許可	⑪		<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
使用者ID		<input type="text"/>	
使用者/パスワード		<input type="password"/>	
パスワードの確認入力		<input type="password"/>	
手動接続・切断を許可			する
接続設定編集を許可			<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
通信記録表示・クリアを許可			<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
使用者ID		<input type="text"/>	
使用者/パスワード		<input type="password"/>	
パスワードの確認入力		<input type="password"/>	
手動接続・切断を許可			する
接続設定編集を許可			<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
通信記録表示・クリアを許可			<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する

- ①<登録> ..... この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> ..... この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。  
なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③管理者ID ..... 本製品の設定ページへのアクセスを制限する場合に、管理者としての名前を、大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。  
(入力例：Router)  
管理者IDを設定すると、次のアクセスからユーザー名の入力を求められますので、そこに管理者IDを入力します。
- ④管理者パスワード ..... 「③管理者ID」に対するパスワードを設定する場合、大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。  
入力した文字は、すべて「\*(アスタリスク)」で表示されます。  
(表示例：\*\*\*\*)  
管理者パスワードを設定すると、次のアクセスからパスワードの入力を求められますので、そこに管理者パスワードを入力します。
- ⑤パスワードの確認入力 ..... 「④管理者パスワード」の入力間違いを防ぐために、パスワードを再入力します。  
(表示例：\*\*\*\*)

1. [本体管理設定]画面(つづき)

The screenshot shows a settings page with a top bar containing '登録' (Register) and '取消' (Cancel) buttons. The main content is divided into sections for '管理者ID設定' (Administrator ID Settings) and '使用者ID設定' (User ID Settings). The administrator section includes fields for ID, password, and password confirmation. The user section is repeated for four users (使用者1 to 4), each with a checkbox to enable, and fields for ID, password, and password confirmation. Additionally, there are four sets of radio buttons for permissions: '手動接続・切断を許可' (Allow manual connection/disconnection), '接続設定編集を許可' (Allow connection settings editing), and '通信記録表示・クリアを許可' (Allow communication record display/clearing).

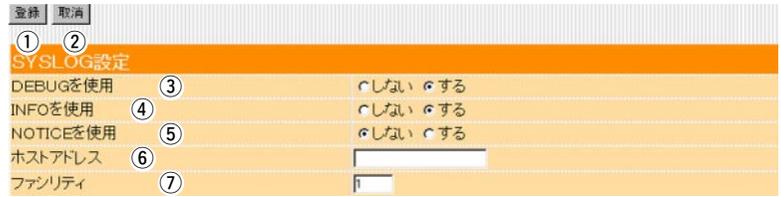
- ⑥使用者1～4 ..... [管理者ID設定]で設定した管理者とは別に、設定ページへのアクセスを許可する使用者を設定する場合、チェックボックスをクリックします。最大4人の使用者を登録できます。
- ⑦使用者ID ..... 本製品の設定ページへのアクセスを許可された使用者の名前を、大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角30(全角15)文字以内で入力します。  
(入力例：icom)  
使用者IDを設定すると、管理者IDが設定されているときと同じようにパスワードの入力を求められますので、そこに使用者IDを入力します。
- ⑧使用者パスワード ..... 「⑥使用者ID」に対するパスワードを設定する場合、大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角30(全角15)文字以内で入力します。  
(表示例：\*\*\*\*)  
使用者パスワードを設定すると、管理者パスワードが設定されているときと同じようにパスワードの入力を求められますので、そこに使用者パスワードを入力します。
- ⑨パスワードの確認入力 ..... 「⑦使用者パスワード」の入力間違いを防ぐため、パスワードを再入力します。  
(表示例：\*\*\*\*)
- ⑩接続設定編集を許可 ..... 使用者に接続先の編集を許可するかどうかの選択です。
- ⑪通信記録表示・クリアを許可 ... 使用者に[通信記録]画面へのアクセスと、画面中の<クリア>の操作を許可するかどうかの選択です。

## 2 本体設定と管理

### 2. [SYSLOG設定]画面

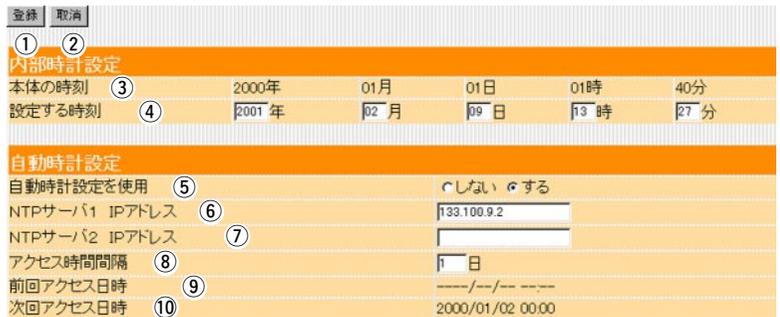


ログ情報などをSYSLOGホストを利用して管理する場合、SYSLOG機能を利用したファイルとして一括管理ができます。以下の項目から、SYSLOGとして出力する情報を選択します。



- ①<登録> ..... この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> ..... この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。  
なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③DEBUGを使用 ..... ISDNやPPPなど各種デバッグ情報をSYSLOGに出力するかしないかを選択します。
- ④INFOを使用 ..... INFOタイプのメッセージをSYSLOGに出力するかしないかを選択します。
- ⑤NOTICEを使用 ..... NOTICEタイプのメッセージをSYSLOGに出力するかしないかを選択します。
- ⑥ホストアドレス ..... SYSLOG機能を使用する場合、SYSLOGを受けるホストのアドレスを入力します。  
ホストは、SYSLOGサーバ機能に対応している必要があります。
- ⑦ファシリティ ..... SYSLOGのファシリティを入力します。  
0～23の値を設定してください。  
通常「1」を使用します。

### 3. [時計設定]画面



- ①<登録> ..... この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> ..... この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。  
なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③本体の時刻 ..... 本製品に設定されている時刻を表示します。
- ④設定する時刻 ..... 本製品の設定ページにアクセスしたとき、パソコンの時計設定を取得して表示します。  
表示する時間は、[時計設定]画面アクセス時の時間です。  
正確に設定したいとき、全設定を初期化したとき、停電対策用電池を交換したあとなどは、画面更新(左フレームの[時計設定]項目をクリック)してから、<登録>をクリックしてください。
- ⑤自動時計設定を使用 ..... インターネット上に存在するタイムサーバに日時の問い合わせを行い、内部時計を自動設定します。
- ⑥NTPサーバ1 IPアドレス ..... 最初にアクセスさせたいタイムサーバのIPアドレスを入力します。
- ⑦NTPサーバ2 IPアドレス ..... 「⑥NTPサーバ1 IPアドレス」の次にアクセスさせるタイムサーバがあるときは、そのIPアドレスを入力します。  
返答がないときは、再度「⑥NTPサーバ1 IPアドレス」で設定したタイムサーバにアクセスします。
- ⑧アクセス時間間隔 ..... タイムサーバにアクセスさせる間隔を、日数で設定します。  
最大99日まで設定でき、その日数にしたがってアクセスします。
- ⑨前回アクセス日時 ..... タイムサーバにアクセスした日時を表示します。
- ⑩次回アクセス日時 ..... タイムサーバにアクセスする予定日時を、「⑨前回アクセス日時」と「⑧アクセス時間間隔」で設定された日数より算出して表示します。

---

## 2 本体設定と管理

この章では、  
設定ページの、<ネットワーク>メニューで表示される画面について説明します。

---

1. [本体ネットワーク設定]画面 .....	14
2. [無線LAN設定]画面 .....	18
3. [簡易DNSサーバ設定]画面 .....	22
4. [IPフィルタ設定]画面 .....	23
5. [RIP設定]画面 .....	27
6. [ルーティング設定]画面 .....	28

# 3 ネットワーク

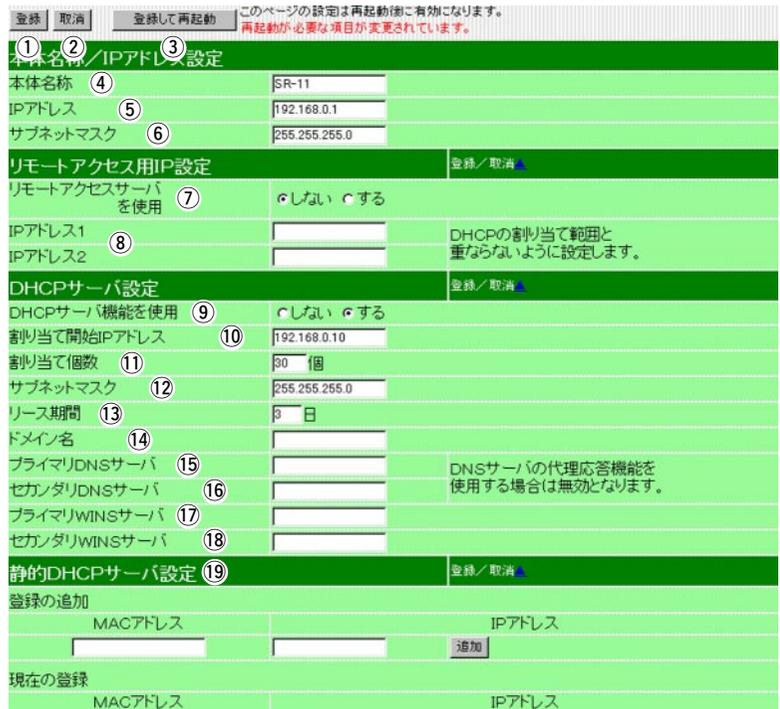
## 1. [本体ネットワーク設定]画面



登録	取消	登録して再起動	このページの設定は再起動後に有効になります。 再起動が必要な項目が変更されています。
<b>① ② ③ 本体名称/IPアドレス設定</b>			
④ 本体名称	SR-11		
⑤ IPアドレス	192.168.0.1		
⑥ サブネットマスク	255.255.255.0		
<b>リモートアクセス用IP設定</b>			登録/取消
リモートアクセスサーバを使用	⑦	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する	
IPアドレス1			DHCPの割り当て範囲と重ならないように設定します。
IPアドレス2	⑧		
<b>DHCPサーバ設定</b>			登録/取消
DHCPサーバ機能を使用	⑨	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する	
割り当て開始IPアドレス	⑩	192.168.0.10	
割り当て個数	⑪	90 個	
サブネットマスク	⑫	255.255.255.0	
リース期間	⑬	9 日	
ドメイン名	⑭		
プライマリDNSサーバ	⑮		DNSサーバの代理応答機能を使用する場合は無効となります。
セカンダリDNSサーバ	⑯		
プライマリWINSサーバ	⑰		
セカンダリWINSサーバ	⑱		
<b>静的DHCPサーバ設定</b>			登録/取消
登録の追加			
MACアドレス		IPアドレス	
			追加
現在の登録			
MACアドレス		IPアドレス	

- ①<登録> ..... この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。変更された内容で運用するには、再起動が必要です。
- ②<取消> ..... この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③<登録して再起動> ..... この画面中の設定内容を変更したとき、その内容を有効にするため、本製品を再起動します。
- ④本体名称 ..... ネットワーク上で、本製品を識別する名前です。設定した名前は、ネットワーク上の有線/無線接続されたパソコンから、本製品に直接アクセスするためのドメイン名の一部として使えます。  
入力形式：[http://web.本体名称/]  
この場合、[簡易DNSサーバ設定]画面の「④DNSサーバの代理応答」(☞P30)を「する」(初期設定)に設定しておく必要があります。また、ほかのネットワーク機器と重複しないように、アルファベットで始まる半角英数字(A~Z、0~9、-)、31文字以内で設定します。  
全角文字(15文字以内)も入力できますが、DNSサーバの代理応答機能は利用できません。
- ⑤IPアドレス ..... [WAN設定]画面の「③本体のWAN側」(☞P4)で設定した内容をこの項目に反映します。
- ⑥サブネットマスク ..... [WAN設定]画面の「③本体のWAN側」(☞P4)で設定した内容をこの項目に反映します。

1. [本体ネットワーク設定]画面(つづき)



- ⑦ リモートアクセスサーバを使用 ..... 専用線では利用できないため、設定しても無効です。
- ⑧ IPアドレス1/IPアドレス2 ... 専用線では利用できないため、設定しても無効です。
- ⑨ DHCPサーバ機能を使用 ..... 本製品を動的DHCPサーバとして使用するかしないかを設定します。本製品に有線および無線で直接接続しているパソコンのTCP/IP設定を、“IPアドレスを自動的に取得する”と設定している場合、本製品のDHCPクライアントになります。この機能によって、動的にDHCPサーバである本製品からIPアドレス/サブネットマスク、ルータやDNSサーバのIPアドレス/ドメイン名が与られます。
- ⑩ 割り当て開始IPアドレス ..... 本製品に有線および無線で直接接続するパソコンへ、IPアドレスを自動で割り当てるときの開始アドレスを設定します。
- ⑪ 割り当て個数 ..... 上記「⑩割り当て開始IPアドレス」から連続で自動割り当て可能なアドレスの最大個数を、5～128のあいだで設定します。
- ⑫ サブネットマスク ..... 上記「⑩割り当て開始IPアドレス」に対するサブネットマスクです。
- ⑬ リース期間 ..... DHCPサーバが自動で、ローカルIPアドレスを定期的に、クライアントに割り当てなおす期限を日数で指定します。

### 3 ネットワーク

#### 1. [本体ネットワーク設定]画面(つづき)

The screenshot shows a network configuration interface with the following sections and callouts:

- ① ② ③ ④ ⑤ ⑥** 本体名称/IPアドレス設定  
④ 本体名称: SR-11  
⑤ IPアドレス: 192.168.0.1  
⑥ サブネットマスク: 255.255.255.0
- ⑦** リモートアクセス用IP設定  
⑦ リモートアクセスサーバを使用: しない する
- ⑧** IPアドレス1, IPアドレス2
- ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭** DHCPサーバ設定  
⑨ DHCPサーバ機能を使用: しない する  
⑩ 割り当て開始IPアドレス: 192.168.0.10  
⑪ 割り当て個数: 90 個  
⑫ サブネットマスク: 255.255.255.0  
⑬ リリース期間: 9 日  
⑭ ドメイン名
- ⑮ ⑯ ⑰ ⑱** 静的DHCPサーバ設定  
⑮ プライマリDNSサーバ  
⑯ セカンダリDNSサーバ  
⑰ プライマリWINSサーバ  
⑱ セカンダリWINSサーバ

Buttons: 登録, 取消, 登録して再起動 (with note: このページの設定は再起動後に有効になります。再起動が必要な項目が変更されています。)

- ⑭ドメイン名 ..... Ethernetでドメイン名を使用しているときなど必要があれば、DHCPサーバがクライアントに通知するネットワークアドレスのドメイン名を入力します。
- ⑮プライマリDNSサーバ ..... [接続]画面(⇨P3)で設定した内容を、この項目に反映します。「⑨DHCPサーバ機能を使用」を「する」に設定し、必要に応じて使い分けたいDNSサーバのアドレスが2つある場合は、優先するどちらか一方を入力します。  
入力すると、本製品のIPアドレスの代わりに設定したDNSサーバアドレスをDHCPクライアントに通知します。
- ⑯セカンダリDNSサーバ ..... [接続]画面(⇨P3)から設定した内容をこの項目に反映します。  
上記「⑮プライマリDNSサーバ」と同様に、使い分けたいDNSサーバアドレスのもう一方を入力します。
- ⑰プライマリWINSサーバ ..... Microsoftネットワークを使ってWINSサーバを利用する場合は、WINSサーバアドレスを入力します。 WINSサーバのアドレスが2つある場合は、どちらか一方を入力します。
- ⑱セカンダリWINSサーバ ..... 上記「⑰プライマリWINSサーバ」と同様、WINSサーバのアドレスが2つある場合は、残りの一方を入力します。

1. [本体ネットワーク設定]画面(つづき)

登録 取消 登録して再起動 このページの設定は再起動時に有効になります。再起動が必要な項目が変更されています。

① ② ③  
**本体名称/IPアドレス設定**

本体名称 ④ SR-11

IPアドレス ⑤ 192.168.0.1

サブネットマスク ⑥ 255.255.255.0

**リモートアクセス用IP設定** 登録/取消

リモートアクセスサーバを使用 ⑦ しない する

IPアドレス1 ⑧

IPアドレス2 ⑧

DHCPの割り当て範囲と重ならないように設定します。

**DHCPサーバ設定** 登録/取消

DHCPサーバ機能を使用 ⑨ しない する

割り当て開始IPアドレス ⑩ 192.168.0.10

割り当て回数 ⑪ 90 回

サブネットマスク ⑫ 255.255.255.0

リース期間 ⑬ 9 日

ドメイン名 ⑭

プライマリDNSサーバ ⑮

セカンダリDNSサーバ ⑯

DNSサーバの代理応答機能を使用する場合は無効となります。

プライマリWINSサーバ ⑰

セカンダリWINSサーバ ⑱

**静的DHCPサーバ設定** ⑲ 登録/取消

登録の追加

MACアドレス	IPアドレス
<input type="text"/>	<input type="text"/>

追加

現在の登録

MACアドレス	IPアドレス
---------	--------

⑱静的DHCPサーバ設定 .....

DHCPサーバ機能を使用して自動割り当てるIPアドレスを、特定のパソコンに固定するとき、パソコンのMACアドレスとIPアドレスの組み合わせを登録する欄です。

入力後は、<追加>をクリックしてください。

この欄には、最大16個の組み合わせまで登録でき、登録するパソコンのIPアドレスは、DHCPサーバ機能で割り当てることができる範囲外のアドレスを指定してください。

### 3 ネットワーク

#### 2. [無線LAN設定]画面

- 本体ネットワーク設定
- 無線LAN設定**
- 無線LANの接続設定
- IDフィルタ設定
- IP設定
- ルーティング設定



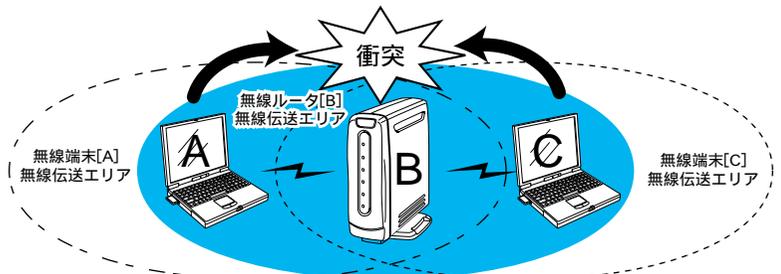
- ①<登録> ..... この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。変更された内容で運用するには、再起動が必要です。
- ②<取消> ..... この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③<登録して再起動> ..... この画面中の設定内容を変更したとき、その内容を有効にするため、本製品を再起動します。
- ④ESS ID ..... ワイヤレス接続による本製品、およびローカルネットワークへの不正なアクセスなどを防止するための識別用IDを入力します。同じESS IDが設定された本製品と無線端末のあいだでのみ、ワイヤレス接続できます。大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。(出荷時の設定：LG) また、入力した文字は、すべて「\*」で表示されます。(表示例：\* \*)
- ⑤ESS IDの確認入力 ..... 「④ESS ID」の入力間違いを防ぐために、ESS IDを再入力します。大文字/小文字の区別に注意してください。(表示例：\* \*)
- ⑥チャンネル ..... 本製品と無線端末がワイヤレス接続に使用する無線伝送用チャンネルを設定します。  
無線伝送エリア内に、別の無線LANなどの機器が存在する場合は、相互の電波干渉を避けるために、5チャンネル以上間隔をあけて設定してください。  
伝送距離は、約50m(見通し距離：室内)です。

2. [無線LAN設定]画面(つづき)

登録 取消		登録して再起動		アドレス登録以外の設定は再起動時に有効になります。											
<b>無線LAN設定</b>															
ESS ID ④	**	この項目の設定は再起動時に有効になります。													
ESS IDの確認入力 ⑤	**														
<b>無線詳細設定</b>															
チャンネル ⑥	14														
Rts/Ctsスレッシュホールド ⑦	無し														
WEPキーを使用 ⑧	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する														
キージェネレータ ⑨															
WEPキー ⑩	<table border="1"> <tr> <th>選択</th> <th>文字列</th> </tr> <tr> <td><input type="radio"/> 1</td> <td>00-00-00-00-00</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/> 2</td> <td>00-00-00-00-00</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/> 3</td> <td>00-00-00-00-00</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/> 4</td> <td>00-00-00-00-00</td> </tr> </table>	選択	文字列	<input type="radio"/> 1	00-00-00-00-00	<input type="radio"/> 2	00-00-00-00-00	<input type="radio"/> 3	00-00-00-00-00	<input type="radio"/> 4	00-00-00-00-00				
選択	文字列														
<input type="radio"/> 1	00-00-00-00-00														
<input type="radio"/> 2	00-00-00-00-00														
<input type="radio"/> 3	00-00-00-00-00														
<input type="radio"/> 4	00-00-00-00-00														
<b>MACアドレスセキュリティ設定</b>															
MACアドレスセキュリティを使用 ⑪	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	この項目の設定は再起動時に有効になります。													
本体無線部のMACアドレス ⑫	00-90-C7-0B-01-A9														
<b>登録の追加</b>															
MACアドレス ⑬		追加													
<b>現在の登録</b>															
登録済みの端末	受信中の端末	通信状況													

⑦Rts/Ctsスレッシュホールド

ネゴシエーションするために送るパケットのデータサイズを、「500バイト」または「1000バイト」から選択します。(出荷時の設定：無し) Rts/Cts(Request to send/Clear to send)スレッシュホールドを設定すると、隠れ端末の影響による通信速度の低下を防止できます。隠れ端末とは、下図のように、それぞれが無線ルータ[B]と通信できても、互いが直接通信できない無線端末[A]-[C]どうし([A]に対して[C]、[C]に対して[A])のことを呼びます。通信の衝突を防止するには、送信要求(Rts)信号を受信した無線ルータ[B]が、無線伝送エリア内にある無線端末[A]および[C]に送信可能(Cts)信号を送り返すことで、Rts信号を送信していない無線端末は無線ルータ[B]が隠れ端末と通信中であることを認識させます。これにより、Rts信号を送信していない無線端末[A]または[C]は、無線ルータ[B]へのアクセスを自制して、通信の衝突を防止できます。



⑧WEPキーを使用 .....

無線ネットワーク間で通信するデータを保護するために、WEP方式(Wired Equivalent Privacy)によるデータの暗号化をするかしないかを選択します。WEPキーを使用「する」と設定した場合、「⑨キージェネレータ」、および「⑩WEPキー」の設定に基づいて暗号化されます。

### 3 ネットワーク

#### 2. [無線LAN設定]画面(つづき)

#### ⑨キージェネレータ .....

暗号化および復号化に使う鍵を生成するための文字列を設定します。入力する文字は、すべて「\*」で表示します。(表示例：\* \*) 入力された文字列より生成された鍵は、下記の「⑩WEPキー」のテキストボックスに表示されます。

通信対象となる相手間で、同じ文字列(大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字/記号)を設定します。通信の対象となる相手間で、設定された文字列が異なると、暗号化されたデータを復号できません。

#### ⑩WEPキー .....

「⑨キージェネレータ」のテキストボックスに入力した文字列より生成されたキーが、「1」、「2」、「3」、「4」の各「文字列」に、40ビット(16進数：10文字)ずつ表示されます。

「1」、「2」、「3」、「4」から選択したキーだけを暗号化に使用します。復号化できるのは、「1」、「2」、「3」、「4」から選択した表示内容を相手が暗号化に使用する場合だけです。

「1」、「2」、「3」、「4」の各テキストボックスに直接入力することもできます。(この場合、「⑨キージェネレータ」のテキストボックスに、文字列は表示されません。)

#### ⑪MACアドレスセキュリティを使用 .....

あらかじめ、登録しておいたMACアドレスと同じ無線端末だけが、本製品にワイヤレス接続できるようにするかしないかを選択します。この項目の設定を変更したあとは、<登録して再起動>をクリックして本製品を再起動してください。

#### ⑫本体無線部のMACアドレス ...

本製品の無線部に登録されたMACアドレスを表示します。

2. [無線LAN設定]画面(つづき)

登録		取消		登録して再起動		アドレス登録以外の設定は再起動後に有効になります。											
<b>無線LAN設定</b>																	
ESS ID	④	**		この項目の設定は再起動後に有効になります。													
ESS IDの確認入力	⑤	**															
<b>無線詳細設定</b>																	
チャンネル	⑥	14		登録/取消▲													
Rts/Ctsスレッシュホールド	⑦	無し															
WEPキーを使用	⑧	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する															
キージェネレータ	⑨																
WEPキー	⑩	<table border="1"> <thead> <tr> <th>選択</th> <th>文字列</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><input type="radio"/> 1</td> <td>00-00-00-00-00</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/> 2</td> <td>00-00-00-00-00</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/> 3</td> <td>00-00-00-00-00</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/> 4</td> <td>00-00-00-00-00</td> </tr> </tbody> </table>	選択	文字列	<input type="radio"/> 1	00-00-00-00-00	<input type="radio"/> 2	00-00-00-00-00	<input type="radio"/> 3	00-00-00-00-00	<input type="radio"/> 4	00-00-00-00-00					
選択	文字列																
<input type="radio"/> 1	00-00-00-00-00																
<input type="radio"/> 2	00-00-00-00-00																
<input type="radio"/> 3	00-00-00-00-00																
<input type="radio"/> 4	00-00-00-00-00																
<b>MACアドレスセキュリティ設定</b>																	
MACアドレスセキュリティを使用	⑪	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する		この項目の設定は再起動後に有効になります。													
本体無線部のMACアドレス	⑫	00-90-C7-0B-01-A9															
<b>登録の追加</b>																	
MACアドレス	⑬			追加													
<b>現在の登録</b>																	
登録済みの端末		受信中の端末		通信状況													

⑬MACアドレス .....

MACアドレスセキュリティが有効なとき、この欄に設定したMACアドレスが登録された無線通信LANカードを装着する弊社製ネットワーク機器と通信できます。

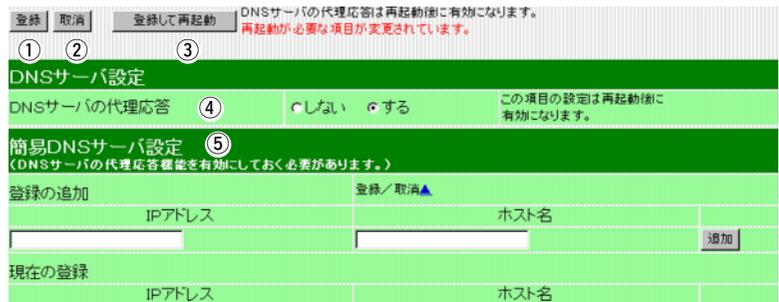
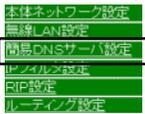
入力は、半角文字で12桁を入力します。

入力後は、<追加>をクリックして、画面の一番下に表示される[現在の登録]欄に登録されたことを確認してください。

MACアドレスを次のように入力すると、すべて同じアドレスとして処理します。 11-11-11-22-33-33、111111223333  
無線通信LANカードのMACアドレスを知りたいときは、弊社無線通信カードに付属する取扱説明書をご覧ください。

## 3 ネットワーク

### 3. [簡易DNSサーバ設定]画面



- ①<登録> ..... この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。変更された内容で運用するには、再起動が必要です。
- ②<取消> ..... この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③<登録して再起動> ..... この画面中の設定内容を変更したとき、その内容を有効にするため、本製品を再起動します。
- ④DNSサーバの代理応答 ..... 本製品を代理DNSサーバとして代理応答するかしないかの設定です。代理DNS機能とは、プロバイダー側のDNSサーバアドレスを検出したり、パソコンからのDNS要求をDNSサーバへ転送したりする機能です。代理DNS機能を利用すると、Ethernet上のパソコンのDNSサーバを本製品のアドレスに設定すると異なるプロバイダーに接続するときでもDNSサーバのアドレスを変更する必要がありませんので便利です。
- ⑤簡易DNSサーバ設定 ..... 代理DNSサーバ機能を使うとき、本製品を簡易DNSサーバとして使用できます。簡易DNSサーバを使用する場合、パソコンのホスト名と対応するIPアドレスの組合せを登録する欄です。簡易DNSサーバ機能を使用すると、UDP/53によるドメイン名からIPアドレスを検索するDNS要求と、IPアドレスからドメイン名を検索するDNS逆引き要求に応じます。ホスト名として“ホスト名.ドメイン名”を登録しておく、ホスト名のみ一致する場合でも応答が返されます。入力後は、<追加>をクリックしてください。ローカルなIPアドレスとそのホスト名を登録するときは、静かなDHCPサーバを利用してMACアドレスとIPアドレスの組み合わせを固定しておくことをおすすめします。

#### 4. [IPフィルタ設定]画面



IPフィルタ設定 追加 ①

番号 ②  編集 ③

フィルタ方向 ④ OUT

フィルタ方法 ⑤ 遮断

プロトコル ⑥ ALL その他選択時

ポート番号 ⑦ 宛先 ～

発信元IPアドレス ⑧

宛先IPアドレス ⑨

番号	方向	方法	プロトコル	ポート番号	始点	終点	IPアドレス	サブネットマスク	IPアドレス
削除	⑩ OUT	透過 (接続中)	TCP	宛先	137	139	*	255.255.255.255	-
削除	64	OUT	透過 (接続中)	UDP	宛先/発信元	137	139	*	255.255.255.255

①<追加> .....

上記の画面で入力した条件で、IPフィルターを設定します。  
追加した内容は、この画面の下に表示されます。

②番号 .....

最大64件のフィルターを登録できます。  
フィルターを登録すると、本製品が受信または送信するパケットごとに登録されたフィルターと比較します。  
この項目では、フィルターを比較する順位を指定します。  
フィルターを複数設定しているときは、番号の小さい順番に比較を開始します。  
フィルターの条件に一致した時点で、それ以降の識別番号のフィルターは比較しません。

③<編集> .....

設定済みのフィルターを編集するボタンです。  
編集するフィルター番号を入力してから、ボタンをクリックします。

④フィルタ方向 .....

パケットの通信方向で、WAN側から本製品に対して、フィルターの対象となる方向を設定します。  
以下の中から選択してください。

- OUT 本製品からWAN側に送信するIPパケットに対して、フィルタリング処理を行います。  
フィルタリング処理は、アドレス変換の前に行います。
- IN WAN側から本製品が受信するIPパケットに対して、フィルタリング処理を行います。  
フィルタリング処理は、アドレス変換のあとに行います。
- BOTH 本製品がWAN側に送信、およびWAN側から受信する両方のIPパケットに対して、フィルタリング処理を行います。

### 3 ネットワーク

#### 4. [IPフィルタ設定]画面(つづき)

番号	方向	方法	プロトコル	ポート番号	ポート方向	始点	終点	IPアドレス	サブネットマスク	IPアドレス
削除 (10)	OUT	透過 (接続中)	TCP	宛先	137	139	*	255.255.255.255	-	-
削除	64	OUT	透過 (接続中)	UDP	宛先/発信元	137	139	*	255.255.255.255	-

#### ⑤フィルタ方法 .....

フィルタリングの方法として、以下の3通りがあります。

- 遮断 回線の接続に関係なく、フィルタリングの条件に一致した場合、そのパケットをすべて破棄します。
- 透過 回線の接続に関係なく、フィルタリングの条件に一致した場合、そのパケットをすべて通過させます。
- 透過(接続中) 回線がすでに接続されている状態で、フィルタリングの条件に一致した場合、そのパケットを通過させますが、回線が接続されていない場合には、そのパケットを破棄します。このように、パケットの送信をきっかけに自動発呼することを防止するときに設定してください。

#### ⑥プロトコル .....

フィルタリングの対象となるパケットのトランスポート層プロトコルを選ぶ項目です。

- ALL すべてのプロトコルの条件に一致します。
- TCP TCPプロトコルの条件だけに一致します。
- TCP\_FIN TCP\_FIN/RSTのパケットが処理の対象になります。
- TCP\_EST TCP\_SYNフラグのパケットが処理の対象になります。
- UDP UDPプロトコルの条件だけに一致します。
- ICMP ICMPプロトコルの条件だけに一致します。
- その他 IP層ヘッダーに含まれる上位層プロトコル番号を入力します。

プロトコル表示の右の欄に、プロトコル番号を10進数で0～255までの半角数字を入力してください。

4. [IPフィルタ設定]画面(つづき)

番号	方向	方法	プロトコル	ポート番号	始点	終点	IPアドレス	サブネットマスク	IPアドレス
削除 (10)	OUT	透過 (接続中)	TCP	宛先	137	139	*	255.255.255.255	-
削除	64	OUT	透過 (接続中)	UDP	宛先/発信元	137	139	*	255.255.255.255

⑦ポート番号 .....

フィルタリングの対象となるTCP/UDPポート番号を入力する項目です。印をクリックし、対象となるポートが「宛先」、「発信元」、もしくは「宛先/発信元」なのかを指定して、番号を始点から終点まで連続で入力します。また、特定のポートだけを指定するときは、始点だけまたは、始点/終点に同一の番号を入力してください。入力できるポート番号は、10進数で1～65535までの半角数字です。なお、「宛先/発信元」を選択した場合は、宛先、発信元のどちらかが一方が一致すると、フィルタリングの対象とします。

⑧発信元IPアドレス .....

IPアドレスは、ドット(.)ごとに区切られた4つの10進数(0～255までの半角数字)で構成してください。

- 始点IPアドレス/終点IPアドレス  
発信元ホストのIPアドレスを設定することにより、特定のホストからのパケットをフィルタリングします。  
何も入力しない場合は、すべてのアドレスを対象とします。
- 始点サブネットマスク/終点サブネットマスク  
この項目で指定したIPアドレスのネットマスクを設定します。  
IPアドレスとサブネットマスクは、始点から終点まで連続で入力します。また、特定の発信元ホストだけを指定するときは、始点だけ入力してください。

### 3 ネットワーク

#### 4. [IPフィルタ設定]画面(つづき)

番号	方向	方法	プロトコル	ポート番号	始点	終点	IPアドレス	サブネットマスク	宛先IPアドレス
削除	(10) OUT	透過(接続中)	TCP	宛先	137	139	*	255.255.255.255	-
削除	64	OUT	透過(接続中)	UDP	宛先/発信元	137	139	*	255.255.255.255

⑨宛先IPアドレス .....

IPアドレスは、ドット(.)ごとに区切られた4つの10進数(0～255までの半角数字)で構成してください。

● 始点IPアドレス/終点IPアドレス

宛先ホストのIPアドレスを設定することにより、特定のホストに対するパケットをフィルタリングします。  
始点に何も入力しない場合は、すべてのアドレスを対象とします。

● 始点サブネットマスク/終点サブネットマスク

この項目で指定したIPアドレスのネットマスクを設定します。  
IPアドレスとサブネットマスクは、始点から終点まで連続で入力します。また、特定の宛先ホストだけを指定するときは、始点だけ入力してください。

【発信元/宛先IPアドレスの設定例】

- IPアドレスに192.168.1.0
- サブネットマスクに255.255.255.252

フィルターの対象となるIPアドレスは、192.168.1.0から192.168.1.3までとなります。

⑩<削除> .....

設定したフィルターを削除するボタンです。

ご参考に

専用線設定では、出荷時の設定として、下の画面サンプルのようにフィルターが登録されています。

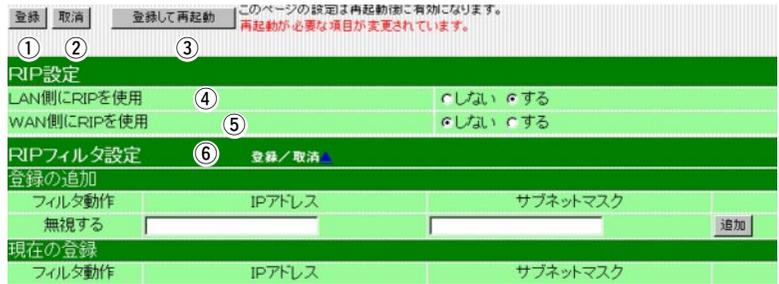
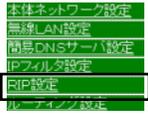
番号	方向	方法	プロトコル	ポート番号			発信元IPアドレス			宛先IPアドレス				
				ポート方向	始点	終点	IPアドレス	サブネットマスク	IPアドレス	サブネットマスク	IPアドレス	サブネットマスク		
削除	63	IN	遮断	TCP_EST	宛先	*	*	255.255.255.255	-	255.255.255.255	*	255.255.255.255	-	255.255.255.255
削除	64	IN	遮断	TCP_EST	宛先/発信元	*	*	255.255.255.255	-	255.255.255.255	172.20.102.130	255.255.255.255	-	255.255.255.255

なお、設定されているフィルターの目的は、以下のとおりです。

63番：プライベートIPアドレスを割り当てたパソコンや、インターネット上に公開しないサーバなどへの不正なパケットの着信を防止

64番：本製品への不正なパケットの着信を防止

## 5. [RIP設定]画面



- ①<登録> ..... この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。変更された内容で運用するには、再起動が必要です。
- ②<取消> ..... この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③<登録して再起動> ..... この画面中の設定内容を変更したとき、その内容を有効にするため、本製品を再起動します。
- RIP設定  
RIPを使用することで隣接ルータと経路情報を交換して、経路を動的に作成します。  
LAN間ダイヤルアップ接続やHSD(高速専用線)間で使用します。  
RIPを使うと、RIPパケットがそのルータのブロードキャストアドレスを使って、約30秒毎にブロードキャストされます。
- ④LAN側にRIPを使用 ..... LAN側にRIPパケットをブロードキャストするかどうかを選択します。
- ⑤WAN側にRIPを使用 ..... WAN側にRIPパケットをブロードキャストするかどうかを選択します。
- ⑥RIPフィルタ設定 ..... 同一サブネットで使う複数のルータにおいて、特定のルータが出力するRIPパケットを受信しないように、そのパケットを出力するルータのIPアドレスとサブネットマスクを入力します。  
最大20件の登録が可能です。  
入力後は、<追加>をクリックしてください。

### 3 ネットワーク

#### 6. [ルーティング設定]画面

- 本体ネットワーク設定
- 無線LAN設定
- 静置DNSサーバ設定
- IPフィルタ設定
- FTP設定
- ルーティング設定**

ネットワーク インターフェイス リスト

インターフェイス	IPアドレス	ネットマスク
local	192.168.0.1	255.255.255.0

IP経路情報

宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	ネット	作成	メトリック
192.168.0 ①	255.255.255 ②	192.168.0.1 ③	loc ④	sta ⑤	⑥ 0
192.168.0.0	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0
192.168.0.1	255.255.255.255	192.168.0.1	local	static	0
192.168.0.255	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0

スタティックルーティング設定

登録の追加

経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値
local ⑦	⑧	⑨	⑩	⑪

現在の登録

経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値
----	----	--------	--------	--------

セレクトルーティング

番号

接続方法  \* 拒絶する"を選択した場合は全ての経路に対して適用されます

経路

発信元IPアドレス

プロトコル制御  ポート番号

宛先IPアドレスまたはドメイン名

セレクトルーティングを使用する時間帯

終了時刻で強制切断  しない  する

番号	経路	接続方法	発信元IPアドレス	プロトコル制御	ポート番号	宛先IPアドレスまたはド
----	----	------	-----------	---------	-------	--------------

#### IP経路情報

ルータがパケットの送信において、そのパケットをどのルータまたは端末に配送すべきかの情報を表示します。

この画面には、[スタティックルーティング設定]画面(P29)で追加した経路も表示されます。

- ①宛先 ..... ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスを表示します。
- ②ネットマスク ..... ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスに対するネットマスクを表示します。
- ③ゲートウェイ ..... ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスに対するゲートウェイを表示します。
- ④ネット ..... ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスに対する転送先インターフェイスを表示します。  
その詳細は、この画面の最上部に「ネットワーク インターフェイス リスト」として表示されます。
- ⑤作成 ..... どのように経路情報が作られたかを表示します。
  - static スタティック(定義された)ルートにより作成されています。
  - rip ダイナミック(自動生成された)ルートにより作成されています。
  - misc ブロードキャストに関するフレーム処理で作成されています。
- ⑥メトリック ..... 経路のコストを表示します。

6. [ルーティング設定]画面(つづき)

ネットワーク インターフェイス リスト		
インターフェイス	IPアドレス	ネットマスク
local	192.168.0.1	255.255.255.0

IP経路情報						
宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	ネット	作成	メトリック	
192.168.0.1 ①	255.255.255.0 ②	192.168.0.1 ③	loc ④	sta ⑤	⑥	0
192.168.0.0	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc		0
192.168.0.1	255.255.255.255	192.168.0.1	local	static		0
192.168.0.255	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc		0

スタティックルーティング設定					
登録の追加					
経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値	
local ⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	追加

セレクトルーティング						
番号	<input type="text"/> <input type="button" value="設定"/> <input type="button" value="編集"/>					
接続方法	手動発信 <input type="button" value="拒絶する"/> を選択した場合は全ての経路に対して適用されます					
経路	01:プロバイダ1 <input type="button" value="▼"/>					
発信元IPアドレス	<input type="text"/> - <input type="text"/>					
プロトコル制御	使用しない <input type="button" value="▼"/> ポート番号 <input type="text"/> - <input type="text"/>					
宛先IPアドレスまたはドメイン名	<input type="text"/>					
セレクトルーティングを使用する時間帯	00 : 00 ~ 00 : 00					
終了時刻で強制切断	<input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> する					
番号	経路	接続方法	発信元IPアドレス	プロトコル制御	ポート番号	宛先IPアドレスまたはドメイン名

スタティックルーティング設定

パケットの中継経路を、意図的に定義するルーティングテーブルです。登録できるのは、最大20件までです。

入力後は、<追加>をクリックして、[現在の登録]欄に登録されたことを確認してください。また、その内容は、[IP経路情報]画面(⇒P28)にも表示されます。

- ⑦経路 .....
  - local : 登録する経路情報がLAN側の場合です。
  - 登録先選択 : 登録する接続先がWAN側の場合、  をクリックすると、登録された接続先があれば表示します。
  
- ⑧宛先 .....
 

経路にLAN側を選択したときは、対象となる相手先のIPアドレスを入力します。

経路にWAN側を選択したときは、対象となる相手先のネットワークIPアドレスを入力します。
  
- ⑨ネットマスク .....
 

対象となる宛先のIPアドレスに対するネットマスクを入力します。
  
- ⑩ゲートウェイ .....
 

ルーティングの対象となるパケット転送先ルータのゲートウェイを入力します。
  
- ⑪メトリック値 .....
 

宛先までのコストを表す数値を入力します。

数値が小さければ転送能力の高い回線と見なされ、数値が大きければ転送能力が低い回線と見なされます。

0～16まで入力できます。

### 3 ネットワーク

#### 6. [ルーティング設定]画面(つづき)

ネットワーク インターフェイス リスト		
インターフェイス	IPアドレス	ネットマスク
local	192.168.0.1	255.255.255.0

IP経路情報					
宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	ネット	作成	メトリック
192.168.0.①	255.255.255.②	192.168.0.1 ③	loc④	sta⑤	⑥ 0
192.168.0.0	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0
192.168.0.1	255.255.255.255	192.168.0.1	local	static	0
192.168.0.255	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0

スタティックルーティング設定					
登録の追加					
経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値	
local ⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	追加

現在の登録					
経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値	

セレクトルーティング					
番号		設定	編集		
接続方法	手動発信	"拒絶する"を選択した場合は全ての経路に対して適用されます			
経路	01:プロバイダ				
発信元IPアドレス	-				
プロトコル制御	使用しない	ポート番号	-		
宛先IPアドレスまたはドメイン名					
セレクトルーティングを使用する時間帯	00:00 ~ 00:00				
終了時刻で強制切断	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する				

番号	経路	接続方法	発信元IPアドレス	プロトコル制御	ポート番号	宛先IPアドレスまたはド
----	----	------	-----------	---------	-------	--------------

#### セレクトルーティング

専用線では、動作しません。

この章では、  
設定ページの、<通信記録>メニューで表示される画面について説明します。

- 
1. [通信記録]画面 ..... 32  
[アナログポート1]および[アナログポート2]画面は、OCNエコノミー回線では使用できないアナログ機器の通信累積です。

## 4 通信記録

### 1. [通信記録]画面

通信記録
アナログポート1
アナログポート2

①<クリア> .....

②日付・時間 .....

③通信記録 .....

回線を接続および切断したときの状態を、履歴として表示します。

クリア		
①	日付・時間	通信記録
01/01 00:02:56	②	網より切断理由コード#38網障害
01/01 00:02:56		PPP02 手動接続要求番号(1234567890)

「②日付・時間」と「③通信記録」に表示される内容を、消去します。

日時を表示します。

接続状況を表示します。

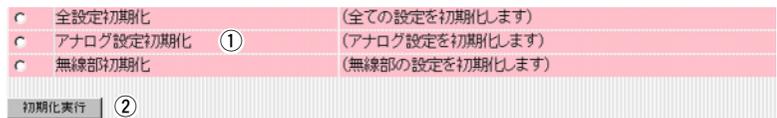
この章では、  
設定ページの、<保存と記録>メニューで表示される画面について説明します。

---

1. [設定初期化]画面 .....	34
2. [設定保存]画面 .....	34

## 5 保存と記録

### 1. [設定初期化]画面



①初期化条件 .....

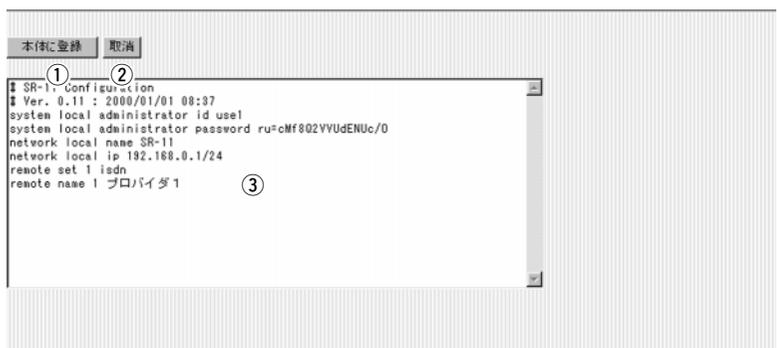
該当する初期化条件のラジオボタンをクリックします。

- 全設定初期化  
設定した全内容を、出荷時の設定に戻します。
- アナログ設定初期化  
専用線設定では、動作しません。
- 無線部初期化  
無線LANに関する設定を、出荷時の設定に戻します。

②<初期化実行> .....

上記、「①初期化条件」で選択された初期化条件に従って、初期化を開始します。

### 2. [設定保存]画面



①<本体に登録> .....

「③表示画面」に表示する内容を、設定ページに書き込みます。

②<取消> .....

「③表示画面」に表示する内容を変更したとき、変更を取り消して、このファイルを最初に開いたときの内容に戻します。

③表示画面 .....

全設定(変更含む)内容を表示します。  
この画面をパソコンに保存することで、本製品の設定をバックアップすることができます。  
なお、各画面で設定されたパスワードや、キージェネレーター(無線LAN通信用暗号化鍵の生成元文字列)の内容は、暗号化されて表示されます。そのため、保存されたファイルよりそれらが外部へ漏れることはありません。

この章では、

専用線の具体的な接続例に沿って、どのように設定するかについて説明します。

なお、回線種別はすでに設定(専用線：128kbps)されていることを前提として説明していますので、設定方法を省略しています。(回線種別の設定は、6ページをご覧ください。)

---

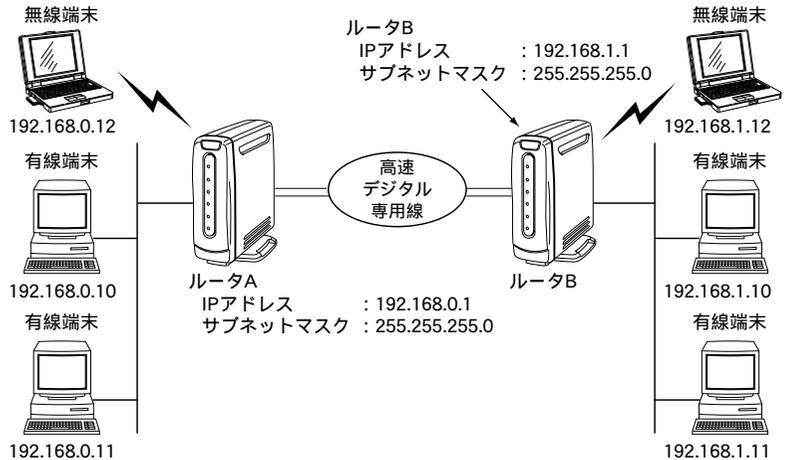
1. 二地点間で、UnnumberedによるLAN型接続 .....	36
ルータAの設定 .....	36
ルータBの設定 .....	39
2. 二地点間で、NumberedによるLAN型接続 .....	43
ルータAの設定 .....	43
ルータBの設定 .....	43
3. RIPによるLAN型接続 .....	44
ルータAの設定 .....	44
ルータBの設定 .....	46
ルータCの設定 .....	48

## 6 専用線の設定例集

### 1.二地点間で、UnnumberedによるLAN型接続

#### 【条件】

2地点間だけの接続で、インターネットへの接続をしない場合。



#### ルータAの設定

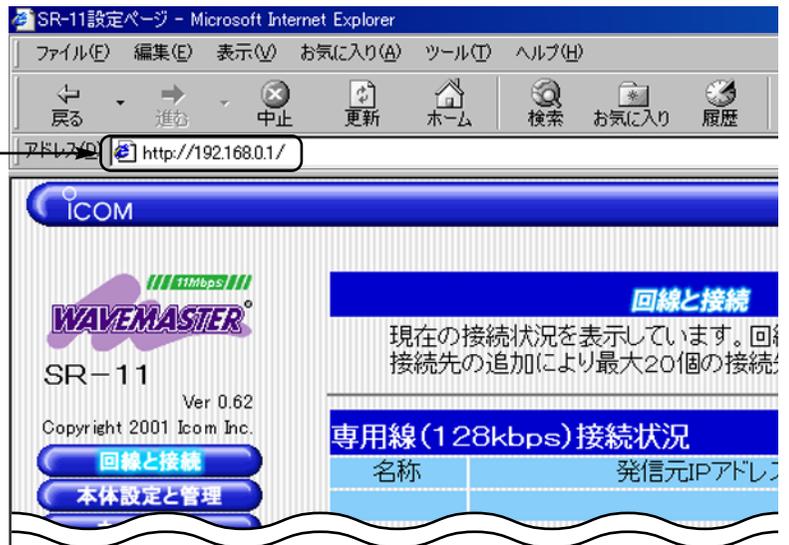
#### 【手順】

- 1.設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

本製品のIPアドレスは、出荷時の設定(192.168.0.1)とします。

1. http://192.168.0.1/  
を指定



- 2.接続先設定

<詳細設定>をクリックして、ルータBへ接続するための設定を以下のように行います。

2. クリック

1. bbb(任意でよい)



プライマリDNSサーバとセカンダリDNSサーバは、接続先から指定された場合に入力します。

1.二地点間で、UnnumberedによるLAN型接続(つづき)

3.WAN設定の確認

<WAN設定>をクリックして、「Numberedで使用」が「しない」になっていることを確認します。

2. クリック

1. 「しない」(確認)

本体のWAN側	IPアドレス	<input type="text"/>	
	サブネットマスク	<input type="text"/>	
Numberedで使用		<input type="radio"/> しない	<input type="radio"/> する
相手のWAN側	IPアドレス	<input type="text"/>	Numberedで使用する場合に記載

Unnumberedの場合、「本体のWAN側」の「IPアドレス」、「サブネットマスク」および「相手のWAN側」の「IPアドレス」は、設定不要です。

4.管理者IDの設定

必要であれば設定します。

<設定と管理>メニューをクリックして、管理者のID、管理者パスワードを設定します。

3. クリック

1. router(任意でよい)

2. 任意の英数字を入力  
入力値は表示されません。

管理者ID	<input type="text" value="router"/>
管理者パスワード	<input type="password" value="*****"/>
パスワードの確認入力	<input type="password" value="*****"/>

登録 / 取消

5.本体名称の設定

必要であれば設定します。

<ネットワーク>メニューをクリックして、「本体名称」を設定します。

2. クリック

1. SR-11(任意)

本体名称	<input type="text" value="SR-11"/>
IPアドレス	<input type="text" value="192.168.0.1"/>
サブネットマスク	<input type="text" value="255.255.255.0"/>

登録 / 取消

ルータAでは、IPアドレスとサブネットマスクを初期設定の状態とします。

## 6 専用線の設定例集

### 1.二地点間で、UnnumberedによるLAN型接続(つづき)

### 7.無線LANセキュリティの設定

この画面で設定するESS IDを出荷時の設定(半角:LG)で使うと、ほかの端末から不正にアクセスされるおそれがありますので、変更することをお勧めします。

無線端末から、本製品のESS IDの設定を変更するときは、本手順で<登録して再起動>操作を行ってから、本製品と通信する無線端末のESS IDを本製品と同じ値に変更してください。  
変更後、無線端末を再起動します。

2. クリック

1. 任意の英数字を入力  
入力値は表示されません。

登録 取消 登録して再起動

アドレス登録以外の設定は再起動後に有効になります。

無線LAN設定

ESS ID  \*\* この項目の設定は再起動後に有効になります。

ESS IDの確認入力  \*\*

無線詳細設定

チャンネル 14

Rts/Ctsスレッシュホールド 無し

WEPキーを使用  しない  する

キージェネレータ

WEPキー

選択 文字列

- 1 00-00-00-00-00
- 2 00-00-00-00-00
- 3 00-00-00-00-00
- 4 00-00-00-00-00

MACアドレスセキュリティ設定

MACアドレスセキュリティを使用  しない  する この項目の設定は再起動後に有効になります。

本体無線部のMACアドレス 00-90-C7-0B-01-A9

登録の追加

MACアドレス  追加

現在の登録

登録済みの端末	受信中の端末	通信状況

本製品の再起動を開始します。

有線端末から再起動を行った場合、約10秒経過して、[専用線(128kbps)接続状況]画面を表示します。

専用線(128kbps)接続状況			
名称	発信元IPアドレス	相手先IPアドレス	状況
			切断

ルータBの接続先設定完了後、「接続」を上記画面の「状況」欄に表示することを確認してください。

1.二地点間で、UnnumberedによるLAN型接続(つづき)

ルータBの設定

設定には、36ページの図と併せてご覧ください。

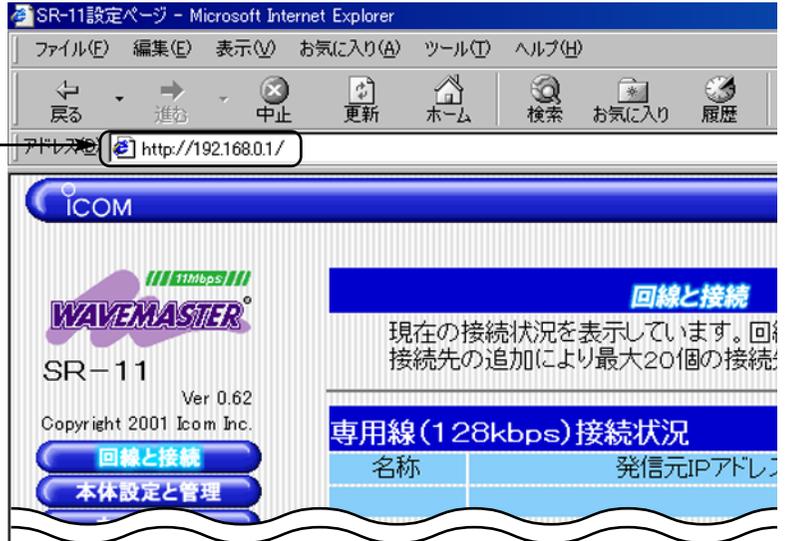
【手順】

1.設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

本製品のIPアドレスは、出荷時の設定(192.068.0.1)とします。

1. http://192.168.0.1/  
を指定



2.接続先設定

<詳細設定>をクリックして、ルータBへ接続するための設定を以下のように行います。

2. クリック

1. aaa(任意でよい)



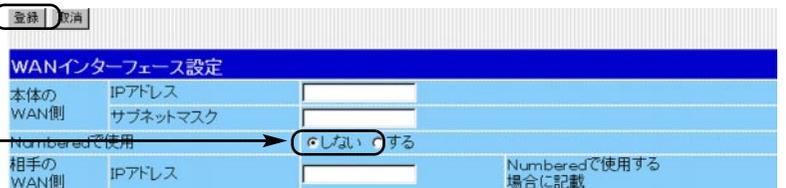
プライマリDNSサーバとセカンダリDNSサーバは、接続先から指定された場合に入力します。

3.WAN設定の確認

<WAN設定>をクリックして、「Numberedで使用」が「しない」になっていることを確認します。

2. クリック

1. 「しない」(確認)



Unnumberedの場合、「本体のWAN側」の「IPアドレス」、「サブネットマスク」および「相手のWAN側」の「IPアドレス」は、設定しても無効です。

## 6 専用線の設定例集

1.二地点間で、UnnumberedによるLAN型接続(つづき)

4.管理者IDの設定

必要であれば設定します。

<設定と管理>メニューをクリックして、管理者のID、管理者パスワードを設定します。

3. クリック

1. router(任意でよい)

2. 任意の英数字を入力  
入力値は表示されません。

5.本体名称の設定

<ネットワーク>メニューをクリックして、「本体名称」、IPアドレス、およびサブネットマスクを以下のように設定します。

本体名称は、ルータAと重複しないようにします。

ルータAとネットワーク部が異なるIPアドレスを入力します。

IPアドレスのネットワーク部を変更後は、手順6.で<登録して再起動>操作を行ってから、無線端末および有線端末を再起動して、本製品とネットワーク部が同じIPアドレスを取得してください。

5. クリック

1. SR-11B(任意)

2. 192.168.1.1

3. 255.255.255.0

4. 192.168.1.10

## 1.二地点間で、UnnumberedによるLAN型接続(つづき)

6.無線LANセキュリティの設定 <無線LAN設定>をクリックして、ESS IDを設定します。

この画面で設定するESS IDを出荷時の設定(半角:LG)で使うと、ほかの端末から不正にアクセスされるおそれがありますので、変更することをおすすめします。

無線端末から、本製品のESS IDの設定を変更するときは、この手順で<登録して再起動>操作を行ってから、本製品と通信する無線端末のESS IDを同じ値に変更してください。

変更後、無線端末を再起動します。

## 2. クリック

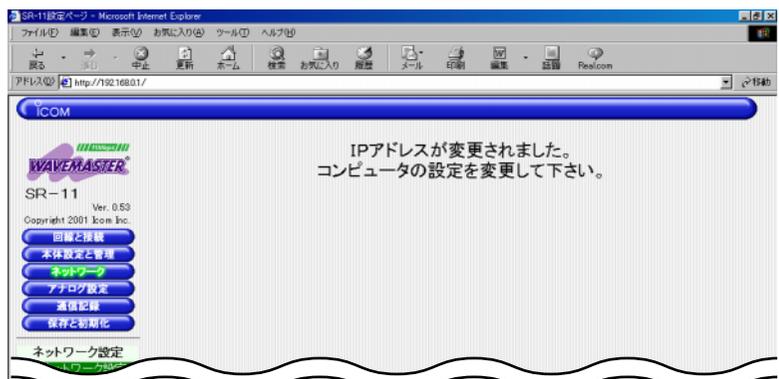
1. 任意の英数字を入力  
入力値は表示されません。

登録 取消 登録して再起動 (アドレス登録以外の設定は再起動後に有効になります。)

無線LAN設定		
ESS ID	**	この項目の設定は再起動後に有効になります。
ESS IDの確認入力	**	
無線詳細設定		登録 / 取消▲
チャンネル	14	
Rts/Ctsスレッシュホールド	無し	
WEPキーを使用	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	
キージェネレータ		
WEPキー	選択 文字列 <input checked="" type="radio"/> 1 00-00-00-00-00 <input type="radio"/> 2 00-00-00-00-00 <input type="radio"/> 3 00-00-00-00-00 <input type="radio"/> 4 00-00-00-00-00	
MACアドレスセキュリティ設定		登録 / 取消▲
MACアドレスセキュリティを使用	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	この項目の設定は再起動後に有効になります。
本体無線部のMACアドレス	00-90-C7-0B-01-A9	
登録の追加		
MACアドレス		追加
現在の登録		
登録済みの端末	受信中の端末	通信状況

本製品の再起動を開始します。

約10秒経過して、右の画面を表示しますので、再起動して、IPアドレスを再取得します。

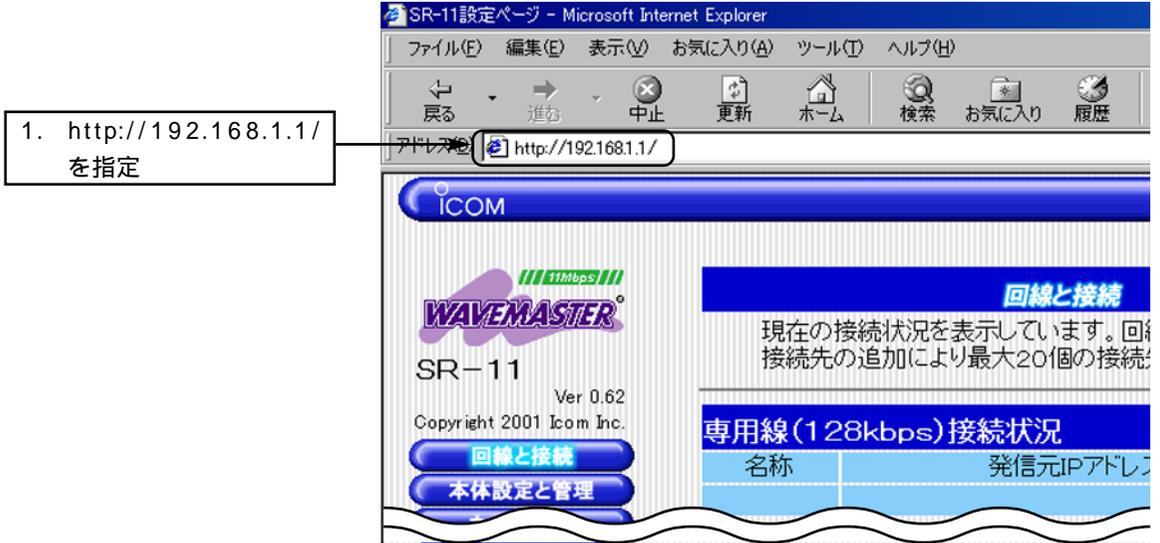


## 6 専用線の設定例集

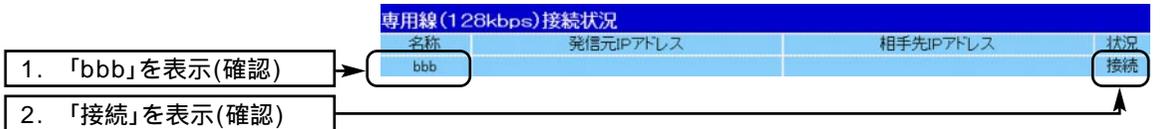
1.二地点間で、UnnumberedによるLAN型接続(つづき)

7.設定ページにアクセスできることを確認

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.1.1」をアドレスバーに指定します。

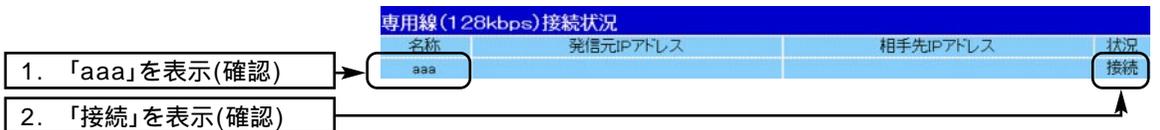


8.ルータAの[専用線(128kbps)選択状況]画面の確認



上記画面の「状況」欄に、「接続」を表示しないときは、ルータAまたはルータBの設定内容を確認してください。

9.ルータBの[専用線(128kbps)選択状況]画面の確認

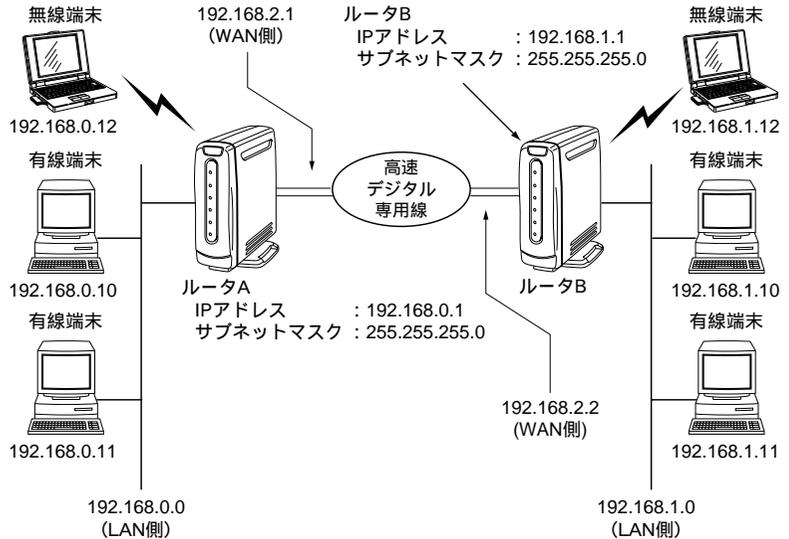


上記画面の「状況」欄に、「接続」を表示しないときは、ルータAまたはルータBの設定内容を確認してください。

## 2.二地点間で、NumberedによるLAN型接続

### 【条件】

通信対象となるルータが Unnumberedに対応しない場合、LAN側とWAN側に異なるIPアドレスを設定します。



### ルータAの設定

「1.二地点間で、UnnumberedによるLAN型接続(ルータAの設定)」の手順1.~2.と同じように設定後、以下の画面を設定します。

### 【手順2.のつづき】

#### 3.接続先設定

<WAN設定>をクリックして、WANインターフェイスを以下のように設定します。

5. クリック	<input type="button" value="登録"/> <input type="button" value="取消"/>
1. 192.168.2.1	WANインターフェイス設定
2. 255.255.255.0	本体の IPアドレス: 192.168.2.1 WAN側 サブネットマスク: 255.255.255.0
3. 「する」を選択	Numberedで使用 <input type="button" value="する"/> <input type="button" value="しない"/>
4. 192.168.2.2	相手の IPアドレス: 192.168.2.2 WAN側

上記画面を設定後、「1.二地点間で、UnnumberedによるLAN型接続(ルータAの設定)」の手順4.以降と同じように設定します。

### ルータBの設定

「1.二地点間で、UnnumberedによるLAN型接続(ルータBの設定)」の手順1.~2.と同じように設定後、以下の画面を設定します。

### 【手順2.のつづき】

#### 3.接続先設定

<WAN設定>をクリックして、WANインターフェイスを以下のように設定します。

5. クリック	<input type="button" value="登録"/> <input type="button" value="取消"/>
1. 192.168.2.2	WANインターフェイス設定
2. 255.255.255.0	本体の IPアドレス: 192.168.2.2 WAN側 サブネットマスク: 255.255.255.0
3. 「する」を選択	Numberedで使用 <input type="button" value="する"/> <input type="button" value="しない"/>
4. 192.168.2.1	相手の IPアドレス: 192.168.2.1 WAN側

上記画面を設定後、「1.二地点間で、UnnumberedによるLAN型接続(ルータBの設定)」の手順4.以降と同じように設定します。

## 6 専用線の設定例集

### 3.RIPによるLAN型接続

#### 【ルータ共通条件】

- Numberedで接続

#### 【ルータAの条件】

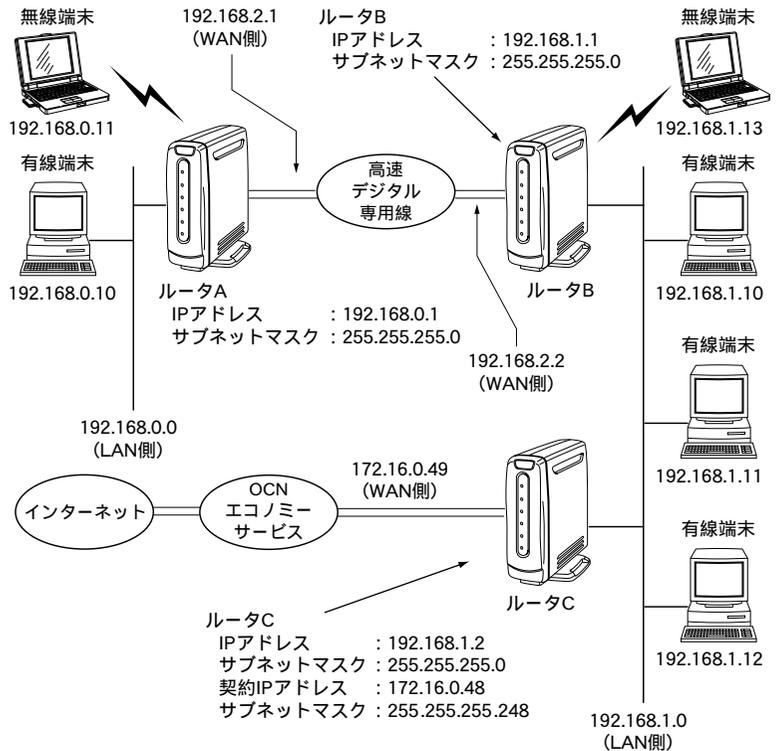
- デフォルトGW構築：「する」
- DHCPサーバ機能を使用：「する」
- DNSサーバの代理応答：「しない」
- RIP(LAN側)：「する」
- RIP(WAN側)：「する」

#### 【ルータBの条件】

- デフォルトGW構築：「しない」
- DHCPサーバ機能を使用：「しない」
- RIP(LAN側)：「する」
- RIP(WAN側)：「する」

#### 【ルータCの条件】

- DHCPサーバ機能を使用：「する」
- RIP(LAN側)：「する」



#### ルータAの設定

「2.二地点間で、NumberedによるLAN型接続(ルータAの設定)」の手順1.~7.にしたがって設定されている状態から、設定の追加を行います。

#### 【手順】

- 1.設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

1. http://192.168.0.1/  
を指定



3.RIPによるLAN型接続(つづき)

2.デフォルトGWを構築

<詳細設定>をクリックして、「デフォルトGWを構築」を「する」に設定します。

2. クリック

1. 「する」を選択

登録 取消	
接続設定	
接続先名	
デフォルトGWを構築	<input checked="" type="radio"/> する
プライマリDNSサーバ	
セカンダリDNSサーバ	

4.DNSサーバアドレスを指定

<ネットワーク>メニューの<本体ネットワーク>をクリックして、DNSサーバアドレスを指定します。

2. クリック

1. 192.168.1.2  
ルータCのIPアドレスを指定します。

登録 取消 登録して再起動 このページの設定は再起動後に有効になります。	
本体名称/IPアドレス設定	
本体名称	SR-11
IPアドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0
リモートアクセス用IP設定 <span>登録/取消▲</span>	
リモートアクセスサーバを使用	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
IPアドレス1	
IPアドレス2	
DHCPサーバ設定 <span>登録/取消▲</span>	
DHCPサーバ機能を使用	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
割り当て開始IPアドレス	192.168.0.10
割り当て個数	90 個
サブネットマスク	255.255.255.0
リース期間	9 日
ドメイン名	
プライマリDNSサーバ	192.168.1.2 <small>DNSサーバの代理応答機能を使用する場合は無効となります。</small>
セカンダリDNSサーバ	
プライマリWINSサーバ	
セカンダリWINSサーバ	
静的DHCPサーバ設定 <span>登録/取消▲</span>	
登録の追加	
MACアドレス	IPアドレス
	<input type="button" value="追加"/>
現在の登録	
MACアドレス	IPアドレス

5.簡易DNSサーバ設定

<簡易DNSサーバ設定>をクリックして、「DNSサーバの代理応答」を「しない」に設定します。

2. クリック

1. 「しない」を選択

登録 取消 登録して再起動 DNSサーバの代理応答は再起動後に有効になります。	
DNSサーバ設定	
DNSサーバの代理応答	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する <small>この項目の設定は再起動後に有効になります。</small>
簡易DNSサーバ設定 (DNSサーバの代理応答機能を有効にしておく必要があります。)	
登録の追加 <span>登録/取消</span>	
IPアドレス	ホスト名
	<input type="button" value="追加"/>
現在の登録	
IPアドレス	ホスト名

## 6 専用線の設定例集

### 3.RIPによるLAN型接続(つづき)

#### 6.RIP設定

<RIP設定>をクリックして、「WAN側にRIPを使用」を「する」に設定します。



本製品の再起動を開始します。

再起動後、表示する画面で設定内容を確認して、設定画面を閉じます。

すべてのルータの設定完了後、ルータAと通信する無線端末および有線端末を再起動して、IPアドレスを取得する必要があります。

ルータBの設定を、以下を参考に行います。

#### ルータBの設定

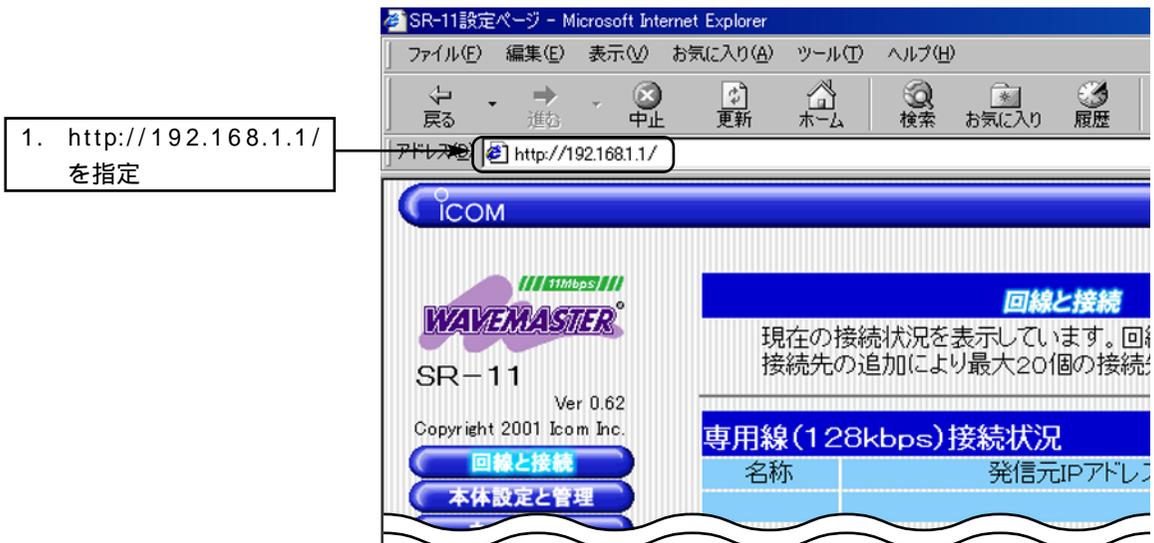
設定には、44ページの図と併せてご覧ください。

「2.二地点間で、NumberedによるLAN型接続(ルータBの設定)」の手順1.~7.にしたがって設定されている状態から、設定の追加を行います。

#### 【手順】

##### 1.設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.1.1」をアドレスバーに指定します。



## 3.RIPによるLAN型接続(つづき)

## 2.DHCPサーバ機能の設定

<ネットワーク>メニューの<本体ネットワーク>をクリックして、「DHCPサーバ機能を使用」を「しない」に設定します。

2. クリック

1. 「しない」を選択

本体名称/IPアドレス設定	
本体名称	SR-11
IPアドレス	192.168.1.1
サブネットマスク	255.255.255.0
リモートアクセス用IP設定	
リモートアクセスサーバを使用	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
IPアドレス1	
IPアドレス2	
DHCPサーバ設定	
DHCPサーバ機能使用	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
割り当て開始IPアドレス	192.168.1.10
割り当て回数	90 個
サブネットマスク	255.255.255.0
リース期間	9 日
ドメイン名	
プライマリDNSサーバ	
セカンダリDNSサーバ	
プライマリWINSサーバ	
セカンダリWINSサーバ	
静的DHCPサーバ設定	
登録の追加	
MACアドレス	IPアドレス
	追加
現在の登録	
MACアドレス	IPアドレス

## 3.RIP設定

<RIP設定>をクリックして、「WAN側にRIPを使用」を「する」に設定します。

2. クリック

1. 「する」を選択

RIP設定		
LAN側にRIPを使用	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	
WAN側にRIPを使用	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	
RIPフィルタ設定		
登録の追加		
フィルタ動作	IPアドレス	サブネットマスク
無視する		
		追加
現在の登録		
フィルタ動作	IPアドレス	サブネットマスク

本製品の再起動を開始します。

手順2.で、DHCPサーバ機能を使用しない設定に変更したため、現在、接続されているパソコンから、ルータBの設定内容を確認するには、そのパソコンのIPアドレスを手動で設定してから、または、ルータCを設定後、ルータBとルータCを図(☞P44)のように接続して、WWWブラウザより、設定ページにアクセスしてください。

パソコンのIPアドレスを手動で設定するには、取扱説明書[基本編]第3章の手順にしたがい、設定を「IPアドレスを指定」に変更して、IPアドレス、サブネットマスクを設定(手入力:アドレスが重複しないこと)したのち、再起動する必要があります。

## 6 専用線の設定例集

### 3.RIPによるLAN型接続(つづき)

ルータCの設定

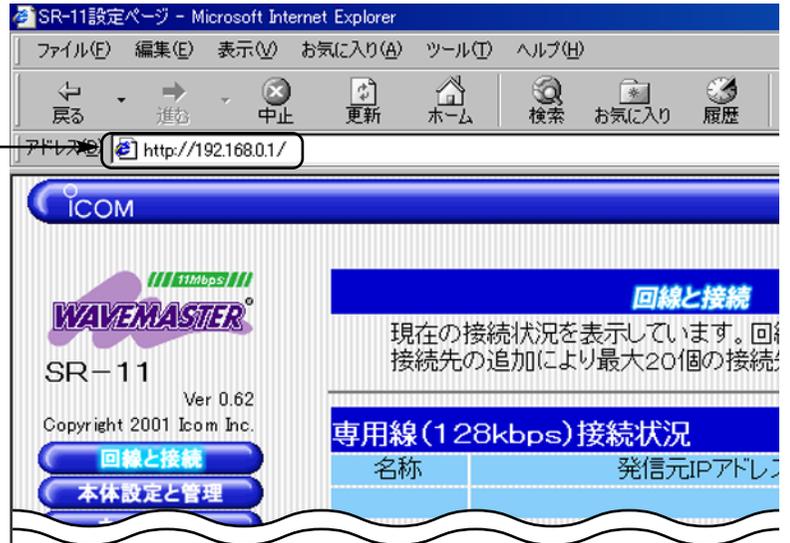
設定には、44ページの図と併せてご覧ください。

#### 【手順】

#### 1.設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

1. http://192.168.0.1/  
を指定

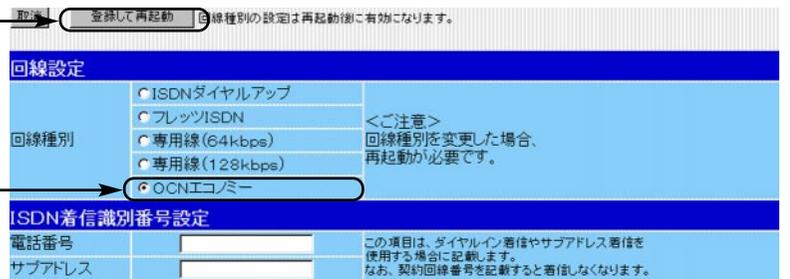


#### 2.OCNエコノミーの選択

<回線設定>をクリックして、「OCNエコノミー」を選択します。

2. クリック

1. 「OCNエコノミー」を  
選択



再起動後、OCNエコノミーの[接続状況]画面を表示します。

#### 3.接続先設定

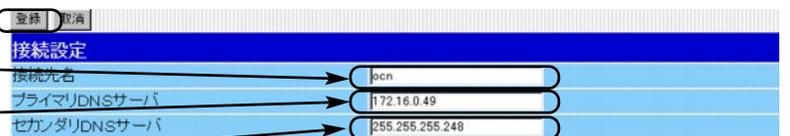
<詳細設定>をクリックして、接続情報を以下のように設定します。

4. クリック

1. ocn(任意でよい)

2. 172.16.0.49

3. 255.255.255.248



3.RIPによるLAN型接続(つづき)

4.管理者IDの設定

<設定と管理>メニューをクリックして、管理者ID、管理者パスワードを設定します。

3. クリック

1. router(任意でよい)

2. 任意の英数字を入力  
入力値は表示されません。

5.本体IPアドレスの変更

<ネットワーク>メニューの<本体ネットワーク>をクリックして、ネットワーク部がルータBと同じIPアドレスとなるように設定します。

5. クリック

1. SR-11C(任意)

2. 192.168.1.2

3. 255.255.255.0

4. 192.168.1.10

設定内容登録後、設定した契約IPアドレスに応じて、自動的設定されたマスカレードIPアドレスを[アドレス変換]画面(☞P5)で確認できます。

## 6 専用線の設定例集

### 3.RIPによるLAN型接続(つづき)

#### 6.無線LAN設定

<無線LAN設定>をクリックして、無線端末の設定を以下のように行います。

この画面で設定するESS IDを出荷時の設定(半角:LG)で使うと、ほかの端末から不正にアクセスされるおそれがありますので、変更することをおすすめします。

無線端末から、本製品のESS IDの設定を変更するときは、この手順で<登録して再起動>操作を行ってから、本製品と通信する無線端末のESS IDを同じ値に変更してください。

変更後、無線端末を再起動します。

2. クリック	登録 取消	登録して再起動	アドレス登録以外の設定は再起動後に有効になります。	
1. 任意の英数字を入力 入力値は表示されません。	無線LAN設定	ESS ID	**	この項目の設定は再起動後に有効になります。
		ESS IDの確認入力	**	
	無線詳細設定	チャンネル	14	登録/取消▲
		Rts/Ctsスレッシュホールド	無し	
		WEPキーを使用	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	
		キージェネレータ		
		WEPキー	選択 文字列 <input checked="" type="radio"/> 1 00-00-00-00-00 <input type="radio"/> 2 00-00-00-00-00 <input type="radio"/> 3 00-00-00-00-00 <input type="radio"/> 4 00-00-00-00-00	
	MACアドレスセキュリティー設定	MACアドレスセキュリティーを使用	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	この項目の設定は再起動後に有効になります。
		本体無線部のMACアドレス	00-90-C7-0B-01-A9	
	登録の追加	MACアドレス		追加
	現在の登録	登録済みの端末	受信中の端末	通信状況

本製品の再起動を開始します。

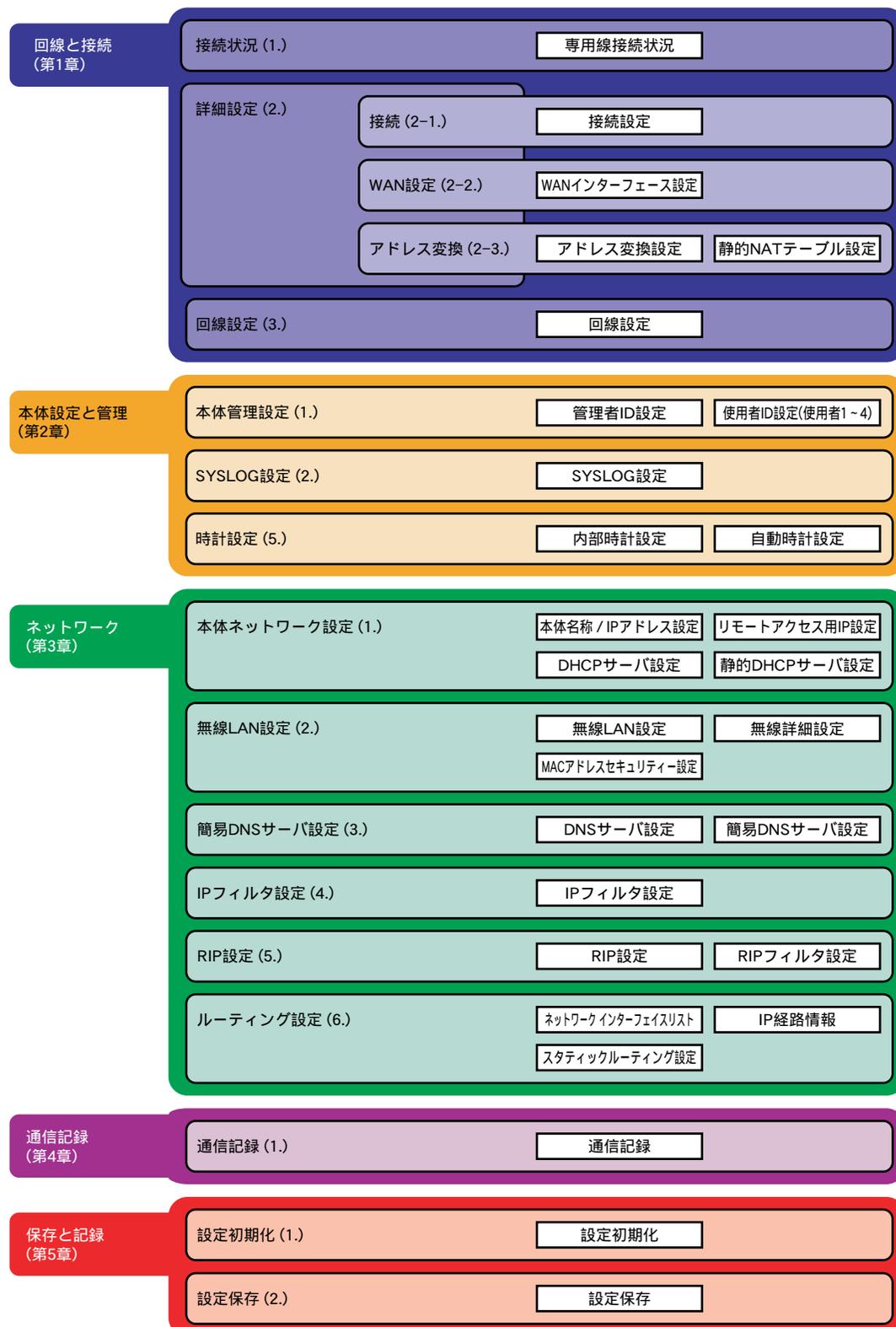
登録後、表示する画面で設定内容を確認して、設定画面を閉じます。

## 設定画面の構成

## 付 録

本製品のWWWブラウザによる設定画面の構成についてまとめています。

設定画面の構成





取扱説明書[応用編]



SOHORUOTER  
**SR-11**

## 第5部 ネットワークの設定例集

1. セレクトルーティングを設定する ..... 1
2. URLフィルターとして設定する ..... 3

---

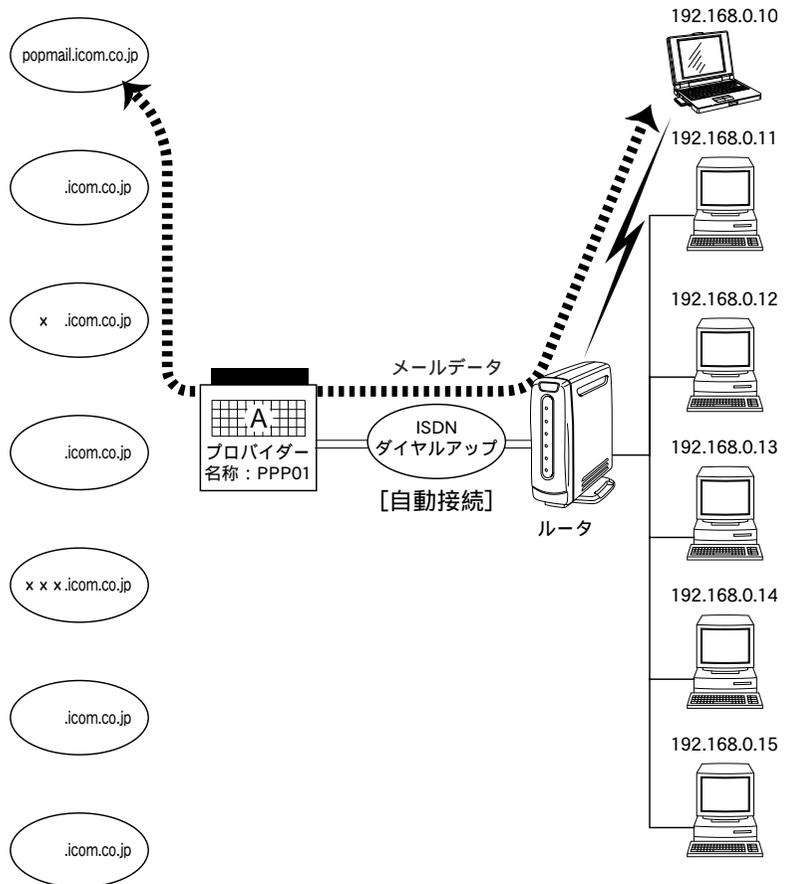
取扱説明書[基本編]に記載のない内容について説明  
しています。本書の設定例集と併せてご覧ください。



## 1. セレクトルーティングを設定する

### 【条件】

IPアドレス：192.168.0.10のパソコンが、メールサーバ：popmail.icom.co.jpからメールを受信する場合、PPP01に設定された接続先を自動接続にて経由し、通信を行う。



### 【手順】

1. 設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

本製品のIPアドレスは、出荷時の設定(192.168.0.1)とします。

1. http://192.168.0.1/ を指定



# ネットワークの設定例集

## 1. セレクトルーティングを設定する(つづき)

2.セレクトルーティングの設定 <ネットワーク>メニューの<ルーティング設定>をクリックし、セレクトルーティングを設定します。

ネットワーク インターフェイス リスト

インターフェイス	IPアドレス	ネットマスク
local	192.168.0.1	255.255.255.0

IP経路情報

宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	ネット	作成	メトリック
192.168.0.0	255.255.255.0	192.168.0.1	local	static	0
192.168.0.0	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0
192.168.0.1	255.255.255.255	192.168.0.1	local	static	0
192.168.0.255	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0

スタティックルーティング設定

登録の追加

経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値
local				

現在の登録

経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値

セレクトルーティング

番号: 01 [設定] [編集]

接続方法: 自動発信 拒絶する"を選択した場合は全ての経路に於て適用されます

経路: 01:PPP01

発信元IPアドレス: 192.168.0.10

プロトコル制御: TCP [ポート番号] 110

宛先IPアドレスまたはドメイン名: popmail.icom.co.jp

セレクトルーティングを使用する時間帯: 00:00 ~ 00:00

終了時刻で強制切断: しない する

- 7. クリック
- 1. 「01」を入力
- 2. 「自動発信」を選択
- 3. 「PPP01」を選択
- 4. 「192.168.0.10」を入力
- 5. 「TCP」を選択し、ポート番号に「110」を入力
- 6. 「popmail.icom.co.jp」を入力

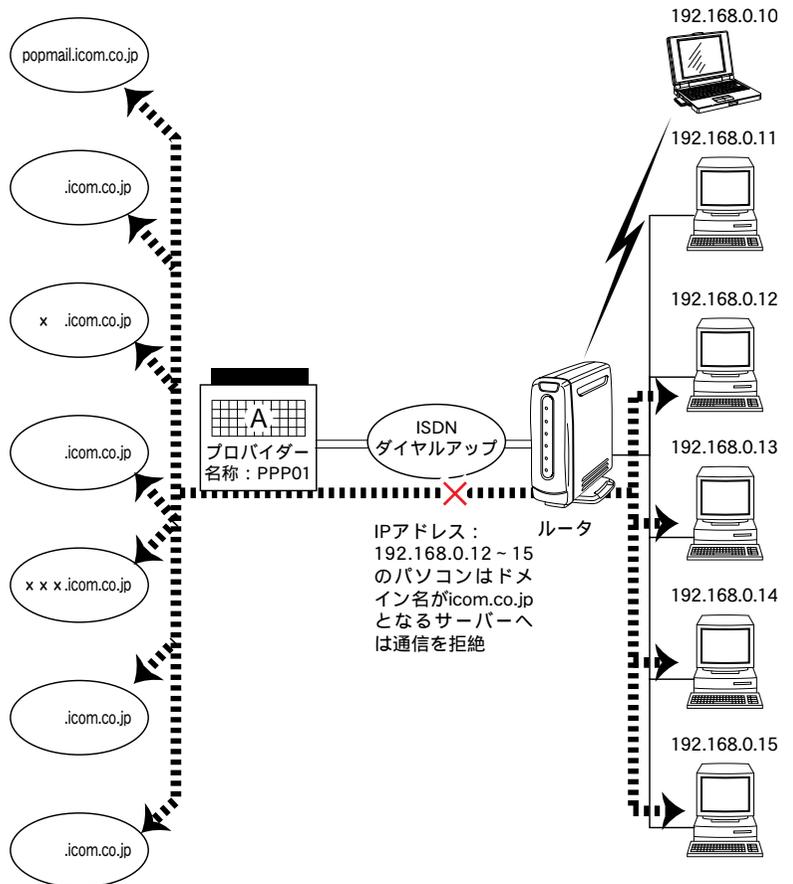
### フィルター設定表示

番号	経路	接続方法	発信元IPアドレス	プロトコル制御	ポート番号	宛先IPアドレスまたはドメイン名	使用する時間帯	強制切断
01	01:PPP01	自動発信	192.168.0.10	TCP	110	popmail.icom.co.jp	00:00 - 00:00	しない

## 2. URLフィルターとして設定する

### 【条件】

IPアドレス：192.168.0.12～15のパソコンが、ドメイン名：icom.co.jpとなるサーバへの接続を、拒絶する。



### 【手順】

1. 設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

本製品のIPアドレスは、出荷時の設定(192.168.0.1)とします。

1. http://192.168.0.1/  
を指定



## 2. URLフィルターとして設定する(つづき)

2.セレクトルーティングの設定 <ネットワーク>メニューの<ルーティング設定>をクリックし、URLフィルターとして動作するように設定します。

**ネットワーク インターフェイス リスト**

インターフェイス	IPアドレス	ネットマスク
local	192.168.0.1	255.255.255.0

**IP経路情報**

宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	ネット	作成	メトリック
192.168.0.0	255.255.255.0	192.168.0.1	local	static	0
192.168.0.0	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0
192.168.0.1	255.255.255.255	192.168.0.1	local	static	0
192.168.0.255	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0

**スタティックルーティング設定**

登録の追加

経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値
local				

現在の登録

経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値

**セレクトルーティング**

番号: 02 [決定] [編集]

接続方法: 拒絶する (拒絶する"を選択した場合)は全ての経路に於て適用されます)

経路: 01:PPP01

発信元IPアドレス: 192.168.0.12 | 192.168.0.15

プロトコル制御: 使用しない | ポート番号: -

宛先IPアドレスまたはドメイン名: \*.icom.co.jp

セレクトルーティングを使用する時間帯: 00:00 ~ 00:00

終了時刻で強制切断: [しない] [する]

番号	経路	接続方法	発信元IPアドレス	プロトコル制御	ポート番号	宛先IPアドレスまたはドメイン名	
削除	01	01:PPP01	自動発信	192.168.0.10	TCP	110	popmail.icom.co.jp

### フィルター設定表示

番号	経路	接続方法	発信元IPアドレス	プロトコル制御	ポート番号	宛先IPアドレスまたはドメイン名	使用する時間帯	強制切断	
削除	01	01:PPP01	自動発信	192.168.0.10	TCP	110	popmail.icom.co.jp	00:00 - 00:00	しない
削除	02	PPP01	拒絶する	192.168.0.12 - 192.168.0.15	使用しない	*.icom.co.jp	00:00 - 00:00	しない	

### ご参考に

WEBアクセス専用(TCP/80)や、メール受信専用(TCP/110)に設定した状態でも、その前に名前の解決(UDP/53)が発生するときには、既存のルーティングテーブルを使用します。

たとえば、TCP/110で、PPP01をメール受信専用で作成している状態でも、メールサーバへの名前の解決には、既存の自動接続設定にしたがいます。

PPP02が既存の自動接続に設定されているときは、まずPPP02に自動接続して、名前を解決します。そのあと、PPP01に自動接続されて、メールの受信が行われます。

このような動作を避けるためには、メール用アプリケーションでの受信サーバアドレスの設定を、ドメイン名ではなくIPアドレスで行うか、簡易DNSサーバ機能を利用して、受信サーバ名とIPアドレスを事前に設定しておくことで回避できます。

ご使用になる受信サーバのIPアドレスが不明なときは、本製品に付属のソフトウェア(IP Name : 第8部 付属ソフトウェアについて)を利用することで調べられます。



取扱説明書[応用編]



SOHORUOTER  
**SR-11**

## 第6部 無線LANの設定例集

1. アクセスポイント機能を設定する .....	1
A 無線端末から設定する場合 .....	1
B 有線端末から設定する場合 .....	4
2. ローミング機能を設定する .....	7
ルータAの設定 .....	7
ルータBの設定 .....	10

取扱説明書[基本編]に記載のない内容について説明  
しています。本書の設定例集と併せてご覧ください。



## 1. アクセスポイント機能を設定する

### △ 無線端末から設定する場合

#### 【ルータの条件】

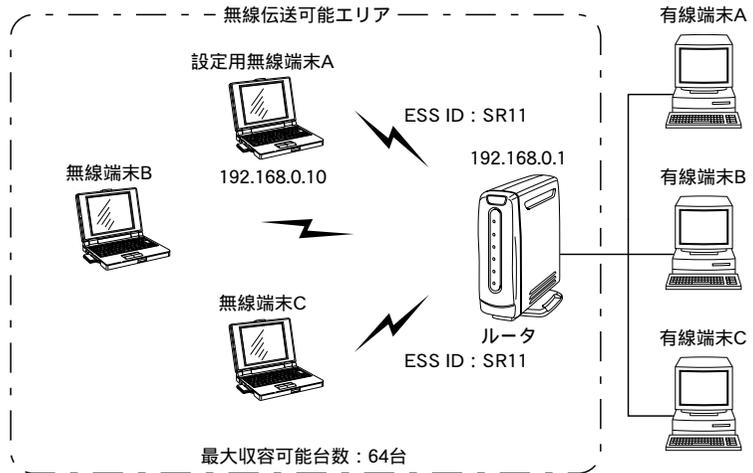
- 回線への接続はしない
- ESS ID : SR11
- DHCPサーバ機能を使用して、IPアドレスを自動的に無線端末と有線端末に割り当てる

#### 【無線端末A～Cの条件】

- ESS ID : SR11
- DHCPクライアント機能を使用して、ルータよりIPアドレスを取得

#### 【有線端末A～Cの条件】

- DHCPクライアント機能を使用して、ルータよりIPアドレスを取得



有線端末と無線端末の合計台数が30台を超える場合は、DHCPの自動割り当て個数の変更が必要です。

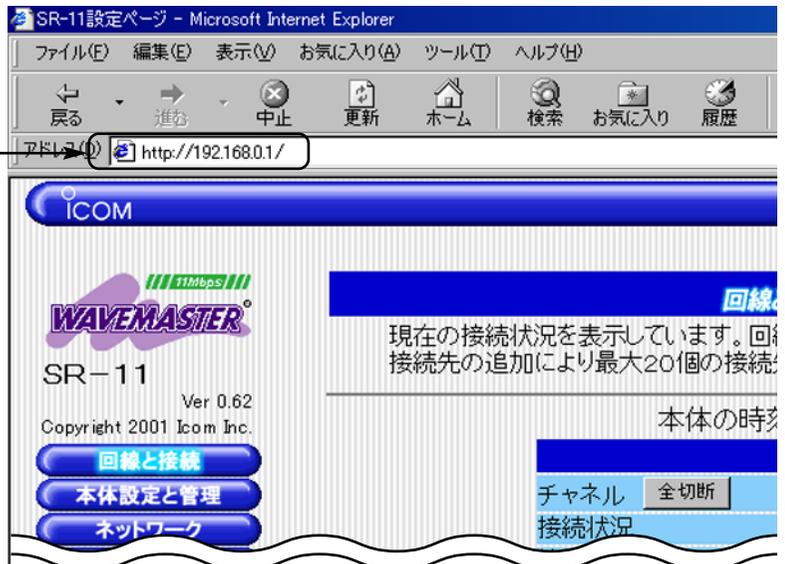
### 【手順】

#### 1. 設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

本製品のIPアドレスは、出荷時の設定(192.168.0.1)とします。

1. http://192.168.0.1/  
を指定



# 無線LANの設定例集

## 1. アクセスポイント機能を設定する(つづき)

### 2. 管理者IDの設定

必要であれば設定します。

<管理と設定>メニューをクリックし、管理者ID、管理者パスワードを設定します。

3. クリック

1. router

2. 任意の英数字を入力  
入力値は表示されません。

管理者ID設定	
管理者ID	router
管理者/パスワード	*****
パスワードの確認入力	*****
使用者ID設定	
登録 / 取消	
<input type="checkbox"/> 使用者ID	
使用者/パスワード	
パスワードの確認入力	
手動接続・切断を許可	する
接続設定編集を許可	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
通信記録表示・クリアを許可	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
<input type="checkbox"/> 使用者ID	
使用者/パスワード	
パスワードの確認入力	
手動接続・切断を許可	する
接続設定編集を許可	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
通信記録表示・クリアを許可	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
<input type="checkbox"/> 使用者ID	
使用者/パスワード	
パスワードの確認入力	
手動接続・切断を許可	する

### 3. 本体名称の設定

必要であれば設定します。

<ネットワーク>メニューをクリックし、本体名称を以下のように設定します。

2. クリック

1. SR-11(任意でよい)

本体名称/IPアドレス設定	
本体名称	SR-11
IPアドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0
リモートアクセス用IP設定	
リモートアクセスサーバを使用	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
IPアドレス1	
IPアドレス2	
DHCPサーバ設定	
DHCPサーバ機能を使用	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
割り当て開始IPアドレス	192.168.0.10
割り当て個数	30 個
サブネットマスク	255.255.255.0
リース期間	3 日
ドメイン名	
プライマリDNSサーバ	
セカンダリDNSサーバ	
プライマリWINSサーバ	
セカンダリWINSサーバ	
静的DHCPサーバ設定	
登録の追加	
MACアドレス	IPアドレス
	追加
現在の登録	
MACアドレス	IPアドレス

## 1. アクセスポイント機能を設定する(つづき)

4.無線LANセキュリティの設定 <無線LAN設定>をクリックし、無線LANに関して、以下のように設定します。

この画面で設定するESS IDを出荷時の設定(半角 : LG)で使うと、ほかの端末から不正にアクセスされるおそれがありますので、変更することをお勧めします。

無線端末から、本製品のESS IDの設定を変更するときは、この手順で<登録して再起動>操作を行ってから、無線端末のESS IDを同じ値に変更してください。

変更後、無線端末を再起動します。

2. クリック

1. 「SR11」を入力  
入力値は表示されません。

登録 取消 登録して再起動 ※アドレス登録以外の設定は再起動後に有効になります。

**無線LAN設定**

ESS ID  この項目の設定は再起動後に有効になります。

ESS IDの確認入力

**無線詳細設定** 登録 / 取消▲

チャンネル

Rts/Ctsスレッシュホールド

WEPキーを使用  しない  する

キージェネレータ

WEPキー

選択	文字列
<input checked="" type="radio"/> 1	00-00-00-00-00
<input type="radio"/> 2	00-00-00-00-00
<input type="radio"/> 3	00-00-00-00-00
<input type="radio"/> 4	00-00-00-00-00

**MACアドレスセキュリティ設定** 登録 / 取消▲

MACアドレスセキュリティを使用  しない  する この項目の設定は再起動後に有効になります。

本体無線部のMACアドレス 00-90-C7-0B-01-A9

**登録の追加**

MACアドレス  追加

**現在の登録**

登録済みの端末	受信中の端末	通信状況

本製品の再起動を開始します。

再起動後、無線端末のESS IDを本製品と同じ内容に変更してください。

## 5.動作モードの確認

無線端末のESS IDを変更後に行ってください。

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

手順1.と同じ画面を表示します。

# 無線LANの設定例集

## 1. アクセスポイント機能を設定する(つづき)

### ☑ 有線端末から設定する場合

#### 【ルータの条件】

- 回線への接続はしない
- ESS ID : SR11
- DHCPサーバ機能を使用して、IPアドレスを自動的に無線端末と有線端末に割り当てる

#### 【無線端末A～Cの条件】

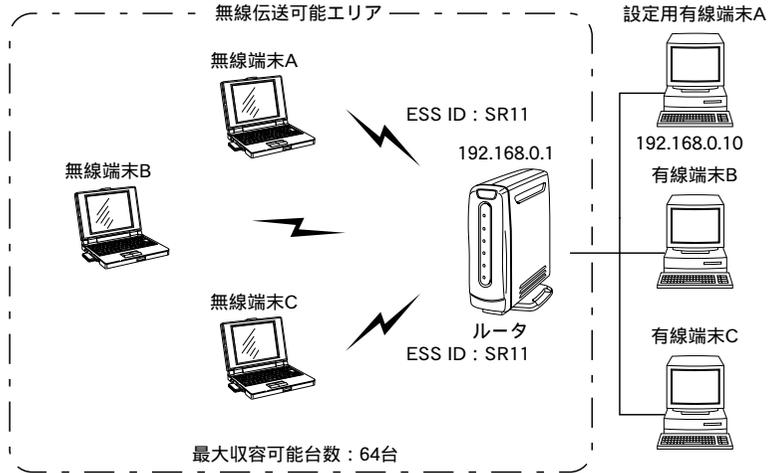
- ESS ID : SR11
- DHCPクライアント機能を使用して、ルータよりIPアドレスを取得

#### 【有線端末A～Cの条件】

- DHCPクライアント機能を使用して、ルータよりIPアドレスを取得

#### 【手順】

1. 設定ページを開く

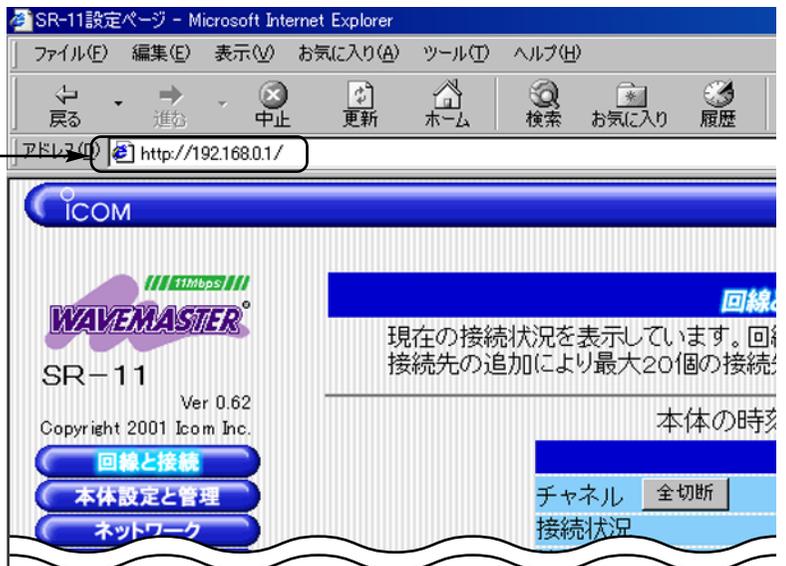


有線端末と無線端末の合計台数が30台を超える場合は、DHCPの自動割り当て個数の変更が必要です。

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

本製品のIPアドレスは、出荷時の設定(192.168.0.1)とします。

1. http://192.168.0.1/  
を指定



## 1. アクセスポイント機能を設定する(つづき)

## 2. 管理者IDの設定

必要であれば設定します。

&lt;管理と設定&gt;メニューをクリックし、管理者ID、管理者パスワードを設定します。

3. クリック

1. router

2. 任意の英数字を入力  
入力値は表示されません。

管理者ID設定

管理者ID

管理者/パスワード

パスワードの確認入力

登録/取消

使用者ID設定

使用者ID

使用者/パスワード

パスワードの確認入力

手動接続・切断を許可  する

接続設定編集を許可  しない  する

通信記録表示・クリアを許可  しない  する

使用者ID

使用者/パスワード

パスワードの確認入力

## 3. 本体名称の設定

必要であれば設定します。

&lt;ネットワーク&gt;メニューをクリックし、本体名称を以下のように設定します。

2. クリック

1. SR-11(任意でよい)

登録 取消 登録して再起動 このページの設定は再起動時に有効になります。  
再起動が必要な項目が変更されています。

本体名称/IPアドレス設定

本体名称

IPアドレス

サブネットマスク

リモートアクセス用IP設定 登録/取消

リモートアクセスサーバを使用  しない  する

IPアドレス1

IPアドレス2

DHCPサーバ設定 登録/取消

DHCPサーバ機能を使用  しない  する

割り当て開始IPアドレス

割り当て個数  個

サブネットマスク

リース期間  日

ドメイン名

プライマリDNSサーバ

セカンダリDNSサーバ

プライマリWINSサーバ

セカンダリWINSサーバ

静的DHCPサーバ設定 登録/取消

登録の追加

MACアドレス

IPアドレス

追加

現在の登録

MACアドレス

IPアドレス

# 無線LANの設定例集

## 1. アクセスポイント機能を設定する(つづき)

4.無線LANセキュリティの設定 <無線LAN設定>をクリックし、無線LANに関して、以下のように設定します。

この画面で設定するESS IDを出荷時の設定(半角:LG)で使うと、ほかの端末から不正にアクセスされるおそれがありますので、変更することをお勧めします。

本製品のESS IDの設定を変更するときは、この手順で<登録して再起動>操作を行ってから、本製品と通信する無線端末のESS IDを、本製品と同じ値に変更してください。

2. クリック

1. 「SR11」を入力  
入力値は表示されません。

登録して再起動 (アドレス登録以外の設定は再起動後に有効になります。)

無線LAN設定

ESS ID [\*\*\*\*] この項目の設定は再起動後に有効になります。

ESS IDの確認入力 [\*\*\*\*]

無線詳細設定 [登録/取消▲]

チャンネル [14]

Rts/Ctsスレッシュホールド [無し]

WEPキーを使用  しない  する

キージェネレータ

WEPキー

選択	文字列
<input checked="" type="radio"/> 1	00-00-00-00-00
<input type="radio"/> 2	00-00-00-00-00
<input type="radio"/> 3	00-00-00-00-00
<input type="radio"/> 4	00-00-00-00-00

MACアドレスセキュリティ設定 [登録/取消▲]

MACアドレスセキュリティを使用  しない  する この項目の設定は再起動後に有効になります。

本体無線部のMACアドレス 00-90-C7-0B-01-A9

登録の追加

MACアドレス [ ] [追加]

現在の登録

登録済みの端末	受信中の端末	通信状況	端末

本製品の再起動を開始します。  
再起動後、無線端末のESS IDを本製品と同じ内容に変更してください。

## 5.動作モードの確認

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

手順1.と同じ画面を表示します。

## 2. ローミング機能を設定する

ここでは、有線端末を個々のルータに接続して、設定することを前提に説明します。

全設定完了後、図のように接続してください。

次の動作モードで、ルータが動作するよう設定する手順です。

ルータA：ダイヤルアップルータ

ルータB：アクセスポイント専用

### 【ルータAの条件】

- 回線(ISDNダイヤルアップインターネット)接続する
- ESS ID : SR11
- DHCPサーバ機能を使用して、IPアドレスを自動的に無線端末と有線端末に割り当てる

### 【ルータBの条件】

- 回線への接続はしない
- ESS ID : SR11
- DHCPサーバ機能を使用しない

### 【無線端末A～Cの条件】

- ESS ID : SR11
- DHCPクライアント機能を使用して、ルータAよりIPアドレスを取得

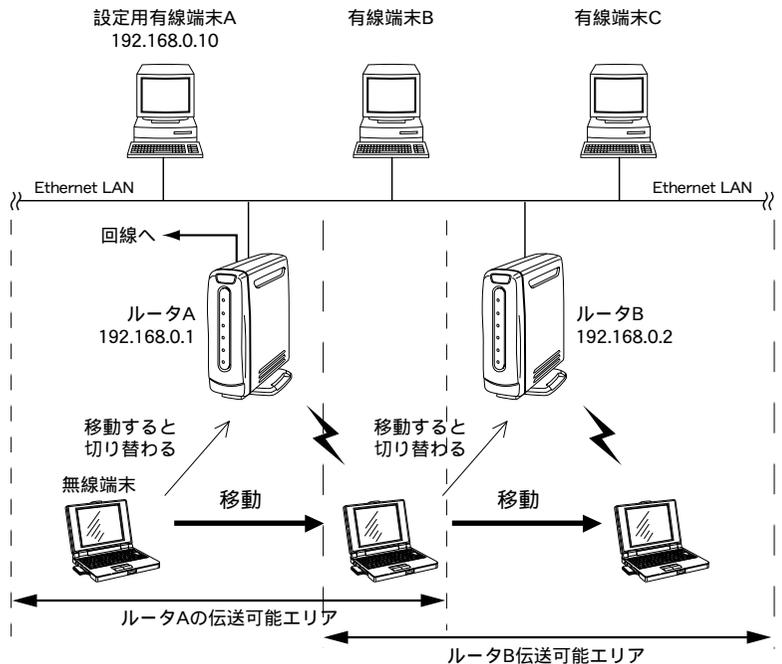
### 【有線端末A～Cの条件】

- DHCPクライアント機能を使用して、ルータAよりIPアドレスを取得

ルータAの設定

### 【手順】

1. 設定ページを開く



WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

本製品のIPアドレスは、出荷時の状態(192.168.0.1)とします。

1. http://192.168.0.1/  
を指定



2. ローミング機能を設定する(つづき)

2.接続先設定

<接続先の追加>をクリックし、プロバイダー情報を以下のように入力します。

7. クリック

1. aaa(任意でよい)

2. 1234567890

3. user

4. himitu  
(表示: \* \* \* \* \*)

5. 192.169.100.10

6. 192.169.101.15

接続設定

接続先名: aaa

電話番号1: 1234567890

電話番号2:

電話番号3:

ユーザID: user

パスワード: \*\*\*\*\*

認証プロトコル: 相手に合わせる

デフォルトQoSを構築: しない する

コールバック要求: しない する

コールバック電話番号:

プライマリDNSサーバ: 192.169.100.10

セカンダリDNSサーバ: 192.169.101.15

スループットBOD

BODを使用	<input checked="" type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> する	BODを使用するには、通信速度を可測しておく必要があります。
移行トラフィック量	1B→2B: 75 % 2B→1B: 25 %	65～95の範囲で記載 5～45の範囲で記載

マルチダイヤル機能(☞取扱説明書[応用編] 第1部 P3)を使用する場合は、「電話番号2」、「電話番号3」も入力が必要です。「5.プライマリDNSサーバアドレス」、「6.セカンダリDNSサーバアドレス」は、プロバイダーから指定されている場合に入力します。

3.管理者IDの設定

必要であれば設定します。

<設定と管理>メニューをクリックし、管理者ID、管理者パスワードを入力します。

3. クリック

1. router(任意)

2. 任意の英数字を入力  
入力値は表示されません。

管理者ID設定

管理者ID: router

管理者パスワード: \*\*\*\*\*

パスワードの確認入力: \*\*\*\*\*

使用者ID設定

<input type="checkbox"/>	使用者ID	
<input type="checkbox"/>	使用者パスワード	
<input type="checkbox"/>	パスワードの確認入力	
<input type="checkbox"/>	手動接続・切断を許可	する
<input type="checkbox"/>	接続設定編集を許可	<input checked="" type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> する
<input type="checkbox"/>	通信記録表示・クリアを許可	<input checked="" type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> する
<input type="checkbox"/>	使用者ID	
<input type="checkbox"/>	使用者パスワード	
<input type="checkbox"/>	パスワードの確認入力	
<input type="checkbox"/>	手動接続・切断を許可	する
<input type="checkbox"/>	接続設定編集を許可	<input checked="" type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> する
<input type="checkbox"/>	通信記録表示・クリアを許可	<input checked="" type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> する
<input type="checkbox"/>	使用者ID	
<input type="checkbox"/>	使用者パスワード	

## 2. ローミング機能を設定する(つづき)

## 4. 本体名称の設定

必要であれば設定します。

<ネットワーク>メニューをクリックし、本体名称を入力します。

2. クリック

1. SR-11(任意でよい)

登録 取消 登録して再起動 このページの設定は再起動後に有効になります。再起動が必要な項目が変更されています。

本体名称/IPアドレス設定

本体名称 SR-11

IPアドレス 192.168.0.1

サブネットマスク 255.255.255.0

リモートアクセス用IP設定 登録/取消▲

リモートアクセスサーバを使用 しない する

IPアドレス1

IPアドレス2

DHCPの割り当て範囲と重ならないように設定します。

DHCPサーバ設定 登録/取消▲

DHCPサーバ機能を使用 しない する

割り当て開始IPアドレス 192.168.0.10

## 5. 無線LAN設定

<無線LAN設定>をクリックし、無線LANに関して以下のように入力します。

この画面で設定するESS IDを出荷時の設定(半角 : LG)で使うと、ほかの無線端末から不正にアクセスされるおそれがありますので、変更することをおすすめします。

無線端末から、本製品のESS IDの設定を変更するときは、本手順で<登録して再起動>操作を行ってから、本製品と通信する無線端末のESS IDを、本製品と同じ値に変更してください。変更後、無線端末を再起動します。

2. クリック

1. 任意の英数字を入力  
入力値は表示されません。

登録 取消 登録して再起動 IPアドレス登録以外の設定は再起動後に有効になります。

無線LAN設定

ESS ID \*\*

ESS IDの確認入力 \*\*

この項目の設定は再起動後に有効になります。

無線詳細設定 登録/取消▲

チャンネル 14

Rts/Ctsスレッシュホールド 無し

WEPキーを使用 しない する

キージェネレータ

WEPキー

選択 文字列

1 00-00-00-00-00

2 00-00-00-00-00

3 00-00-00-00-00

4 00-00-00-00-00

MACアドレスセキュリティー設定 登録/取消▲

MACアドレスセキュリティーを使用 しない する

この項目の設定は再起動後に有効になります。

本体無線部のMACアドレス 00-90-C7-0B-01-A9

登録の追加

MACアドレス

追加

現在の登録

登録済みの端末	受信中の端末	通信状況

再起動後、設定ページを閉じて、ルータBの設定を行います。

## 2. ローミング機能を設定する(つづき)

ルータBの設定

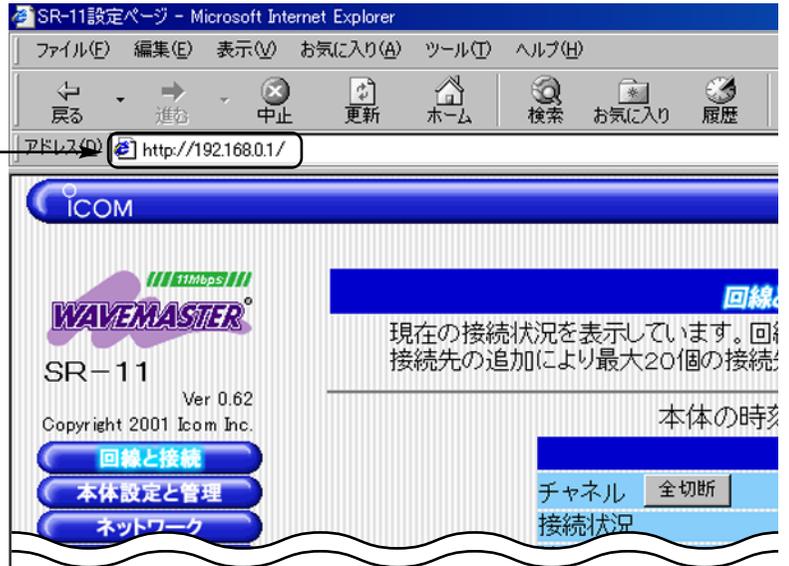
【手順】

1.設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

本製品のIPアドレスは、出荷時の設定(192.168.0.1)とします。

1. http://192.168.0.1/  
を指定



2.管理者IDの設定

必要であれば設定します。

<管理と設定>メニューをクリックし、管理者ID、管理者パスワードを設定します。

3. クリック

1. router

管理者ID

2. 任意の英数字を入力  
入力値は表示されま  
せん。

管理者パスワード

パスワードの確認入力

管理者ID設定		登録 / 取消▲
管理者ID	<input type="text" value="router"/>	
管理者パスワード	<input type="password" value="****"/>	
パスワードの確認入力	<input type="password" value="****"/>	
使用者ID設定		登録 / 取消▲
<input type="checkbox"/> 使用者ID	<input type="text"/>	
<input type="checkbox"/> 使用者パスワード	<input type="password"/>	
<input type="checkbox"/> パスワードの確認入力	<input type="password"/>	
<input type="checkbox"/> 手動接続・切断を許可	<input type="radio" value="する"/>	
<input type="checkbox"/> 接続設定編集を許可	<input type="radio" value="しない"/> <input type="radio" value="する"/>	
<input type="checkbox"/> 通信記録表示・クリアを許可	<input type="radio" value="しない"/> <input type="radio" value="する"/>	
<input type="checkbox"/> 使用者ID	<input type="text"/>	
<input type="checkbox"/> 使用者パスワード	<input type="password"/>	
<input type="checkbox"/> パスワードの確認入力	<input type="password"/>	
<input type="checkbox"/> 手動接続・切断を許可	<input type="radio" value="する"/>	
<input type="checkbox"/> 接続設定編集を許可	<input type="radio" value="しない"/> <input type="radio" value="する"/>	
<input type="checkbox"/> 通信記録表示・クリアを許可	<input type="radio" value="しない"/> <input type="radio" value="する"/>	
<input type="checkbox"/> 使用者ID	<input type="text"/>	

## 2. ローミング機能を設定する(つづき)

## 3. 本体名称の設定

<ネットワーク>メニューをクリックし、本体名称を以下のように設定します。

<p>4. クリック</p> <p>1. SR-11B ルータAと重複しないようにします。</p> <p>2. 192.168.0.2 IPアドレスには、ルータAとネットワーク部が同じで、ルータAが自動で割り当てるアドレス範囲と重ならないように、ホスト部の番号が異なるIPアドレスを手動で割り当てます。</p> <p>3. 「しない」を選択</p>	<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between; border-bottom: 1px solid gray;"> <span>登録 取消</span> <span>登録して再起動</span> <span>このページの設定は再起動後に有効になります。</span> </div> <div style="background-color: #e0f0e0; padding: 5px;"> <p><b>本体名称/IPアドレス設定</b></p> <p>本体名称 <input type="text" value="SR-11B"/></p> <p>IPアドレス <input type="text" value="192.168.0.2"/></p> <p>サブネットマスク <input type="text" value="255.255.255.0"/></p> </div> <div style="background-color: #e0f0e0; padding: 5px;"> <p><b>リモートアクセス用IP設定</b> <span style="float: right;">登録/取消▲</span></p> <p>リモートアクセスサーバを使用 <input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する</p> <p>IPアドレス1 <input type="text"/></p> <p>IPアドレス2 <input type="text"/></p> <p style="font-size: small;">DHCPの割り当て範囲と重ならないように設定します。</p> </div> <div style="background-color: #e0f0e0; padding: 5px;"> <p><b>DHCPサーバ設定</b> <span style="float: right;">登録/取消▲</span></p> <p>DHCPサーバ機能を使用 <input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する</p> <p>割り当て開始IPアドレス <input type="text" value="192.168.0.10"/></p> <p>割り当て個数 <input type="text" value="30"/> 個</p> <p>サブネットマスク <input type="text" value="255.255.255.0"/></p> <p>リース期間 <input type="text" value="3"/> 日</p> <p>ドメイン名 <input type="text"/></p> <p>プライマリDNSサーバ <input type="text"/></p> <p>セカンダリDNSサーバ <input type="text"/></p> <p>プライマリWINSサーバ <input type="text"/></p> <p>セカンダリWINSサーバ <input type="text"/></p> <p style="font-size: small;">DNSサーバの代理応答機能を使用する場合は無効となります。</p> </div> <div style="background-color: #e0f0e0; padding: 5px;"> <p><b>静的DHCPサーバ設定</b> <span style="float: right;">登録/取消▲</span></p> <p>登録の追加</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">MACアドレス</th> <th style="width: 50%;">IPアドレス</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><input type="text"/></td> <td><input type="text"/></td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;"><input type="button" value="追加"/></p> <p>現在の登録</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">MACアドレス</th> <th style="width: 50%;">IPアドレス</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><input type="text"/></td> <td><input type="text"/></td> </tr> </tbody> </table> </div> </div>	MACアドレス	IPアドレス	<input type="text"/>	<input type="text"/>	MACアドレス	IPアドレス	<input type="text"/>	<input type="text"/>
MACアドレス	IPアドレス								
<input type="text"/>	<input type="text"/>								
MACアドレス	IPアドレス								
<input type="text"/>	<input type="text"/>								

2. ローミング機能を設定する(つづき)

4.無線LANセキュリティの設定 <無線LAN設定>をクリックし、無線LANに関して、以下のように設定します。

この画面で設定するESS IDを出荷時の設定(半角 : LG)で使うと、ほかの端末から不正にアクセスされるおそれがありますので、変更することをお勧めします。

2. クリック

1. 「SR11」を入力  
入力値は表示されません。

本製品の再起動を開始します。

約10秒経過して、右の画面を表示します。

手順3.で、DHCPサーバ機能を使用しない設定に変更したため、現在、接続されているパソコンから、ルータBの設定内容を確認するには、そのパソコンのIPアドレスを手動で設定してから、または、ルータAとルータBを図(P6)のように接続してから、WWWブラウザより、設定ページにアクセスしてください。

パソコンのIPアドレスを手動で設定するには、取扱説明書[基本編] 第3章の手順にしたがい、設定を「IPアドレスを指定」に変更して、IPアドレス、サブネットマスクを設定(手入力 : アドレスが重複しないこと)したのち、再起動する必要があります。



SOHORUOTER  
**SR-11**

取扱説明書[基本編]に記載のない内容について説明  
しています。本書の設定例集と併せてご覧ください。

## 第7部 アナログポートの設定例集

1. フレックスホン機能を利用する	1
コールウェイティング	1
【電話機の操作】	3
通信中転送	4
【電話機の操作】	6
三者通話	7
【電話機の操作】	9
[A] 切り替えモード	9
[B] ミキシングモード	10
着信転送	11
2. 優先着信	14
3. アナログ機器を鳴り分ける	16
ダイヤルインサービスの利用	16
i-ナンバーサービスの利用	19
なりわけ着信サービスの利用	21
サブドレスの利用	23
セレクト着信の利用	25



## 1. フレックスホン機能を利用する

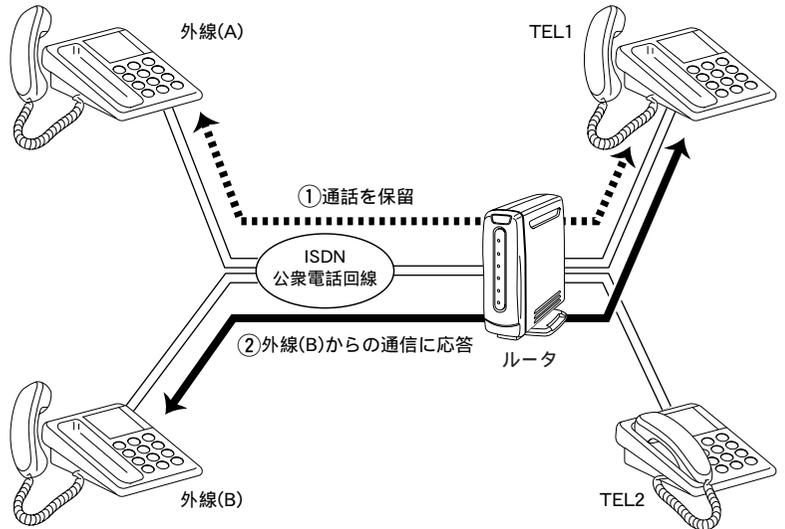
フレックスホン機能とは、コールウェイティング、通信中転送、三者通話、および着信転送をとりまとめた総称です。

これらを利用するには、NTTとの契約が必要ですが、本製品を使うと、契約なしで、ほぼ同等の機能を利用することができます。

### コールウェイティング

#### 【条件】

TEL1と外線(A)で通話中に、新たにかかってきた電話(外線(B))を音で知らせ、外線(A)との通話を切断することなく外線(B)に应答する。



**注意！**：フレックスホン機能を「疑似」に設定する場合で、一方のアナログ機器が通話中、または本製品に接続されたパソコンが通信中のときは、コールウェイティングは利用できません。

#### 【手順】

1. 設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

本製品のIPアドレスは、出荷時の設定(192.168.0.1)とします。

1. http://192.168.0.1/ を指定



## アナログポートの設定例集

### 1. フレックスホン機能を利用する～ コールウェイティング(つづき)

2. コールウェイティングを設定 <アナログ設定>メニューをクリックして、「コールウェイティング」を「する」に設定します。

3. クリック

1. いずれかを選択

2. 「する」を選択

フレックスホンの設定		登録/取消▲
フレックスホン機能 <input checked="" type="radio"/> 疑似 <input type="radio"/> NTTとの契約による		
コールウェイティング	<input checked="" type="radio"/> する <input type="radio"/> しない	疑似にてコールウェイティングをするには場合はポート番の設定で通話中に着信があると音でお知らせするに設定されます。
通信中転送	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	
三者通話	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	
着信転送	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	

### 3. フッキング判定時間の設定

<ポート1の設定>をクリックして、「通話中に着信があると音でお知らせ」と「フッキング判定時間」(時間は任意)を設定します。

3. クリック

1. 「する」を選択

2. 1秒(任意でよい)

着信機能		登録/取消▲
グローバル着信	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない	
セレクト着信	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない	
通話中に着信があると音でお知らせ	<input checked="" type="radio"/> する <input type="radio"/> しない	

フッキング判定時間		登録/取消▲
フッキング判定時間	1 秒	

<登録>をクリックして、設定ページを閉じます。

TEL2でもコールウェイティングを利用する場合は、<ポート2の設定>をクリックして、同様に設定します。



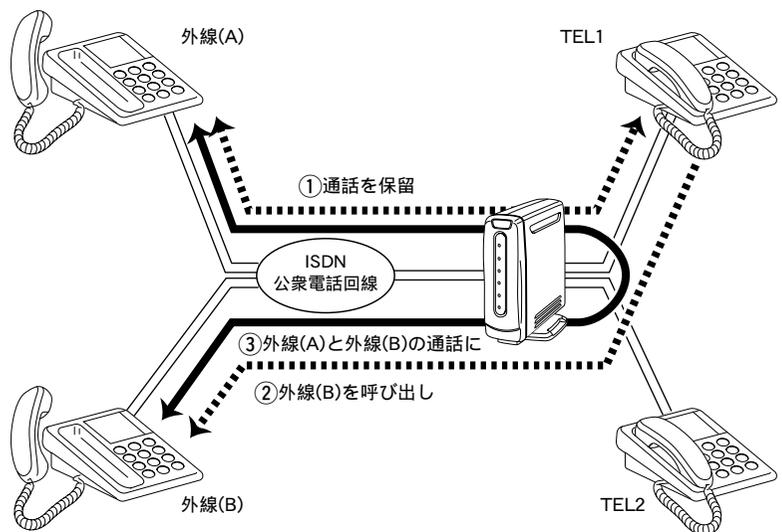
## アナログポートの設定例集

### 1. フレックスホン機能を利用する(つづき)

#### 通信中転送

##### 【条件】

外線(A)からの着信をTEL1で応答し、外線(A)との通話を切断することなく外線(B)に転送する。



**注意！**：フレックスホン機能を「疑似」に設定する場合で、一方のアナログ機器が通話中、または本製品に接続されたパソコンが通信中のときは、通信中転送は利用できません。  
本設定例の場合、フレックスホン機能の設定が「疑似」、「NTTとの契約による」に関係なく、外線(B)への通話料金は、本製品側に課金されます。  
また、外線(A)との通話がTEL1からの発信による場合、外線(B)を呼び出して転送することはできません。

##### 【手順】

#### 1. 設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

本製品のIPアドレスは、出荷時の設定(192.168.0.1)とします。

1. http://192.168.0.1/  
を指定



1. フレックスホン機能を利用する～ 通信中転送(つづき)

2.通信中転送を設定

<アナログ設定>メニューをクリックして、「通信中転送」を「する」に設定します。

3. クリック

1. いずれかを選択

2. 「する」を選択

内線通話	
内線通話の使用設定	内線転送を使用する
フレックスホンの設定 <small>登録/取消▲</small>	
<small>(注意)NTTフレックスホンをご使用になる場合はNTTとの契約が必要です。</small>	
フレックスホン機能 <small>登録/取消▲</small>	
コールウェイトニング	<input checked="" type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する <small>離席にてコールウェイトニングをする場合はポート番の設定で通話中に着信があると音でお知らせがするに設定されます。</small>
通信中転送	<input checked="" type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
三者通話	<input checked="" type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
着信転送	<input checked="" type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
優先着信 <small>登録/取消▲</small>	
優先着信	すべてのポートに着信
時間差優先着信	02 秒 <small>時間差優先着信が0秒の場合は優先ポートのみ着信します。</small>
リソースBOD	
発信割り込みを使用	<input checked="" type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
受信割り込みを使用	<input checked="" type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する

3.フッキング判定時間の設定

<ポート1の設定>をクリックして、「通話中に着信があると音でお知らせ」と「フッキング判定時間」(時間は任意)を設定します。

3. クリック

2. 「する」を選択

1. 1秒(任意でよい)

ポート毎の設定	
回線番号(ダイヤルイン番号)*サブアドレス	ナンバーポート <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3
接続機器の種類	ナンバーディスプレイ
標準設定	対応しない
無鳴動着信	<input checked="" type="radio"/> する <input checked="" type="radio"/> しない
ポート使用設定	宛着信で使用
受話音量	送話音量
標準	標準
なりわけ着信機能	外線呼出音
着信拒否する	内線呼出音
	呼出音1
	なりわけ呼出音
	呼出音1
着信機能 <small>登録/取消▲</small>	
グローバル着信	<input checked="" type="radio"/> する <input checked="" type="radio"/> しない
セレクト着信	<input checked="" type="radio"/> する <input checked="" type="radio"/> しない
通話中に着信があると音でお知らせ	<input checked="" type="radio"/> する <input checked="" type="radio"/> しない
送信機能 <small>登録/取消▲</small>	
発信者番号通知	<input checked="" type="radio"/> する <input checked="" type="radio"/> しない
高位レイヤ整合性をつけて発信	<input checked="" type="radio"/> する <input checked="" type="radio"/> しない
ダイヤルタイミング <small>登録/取消▲</small>	
ダイヤル待ち時間	1 秒
フッキング判定時間	1 秒
着信転送 <small>登録/取消▲</small>	
転送トーカー	<input checked="" type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし
転送元トーカー	<input checked="" type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし
起動タイミング	呼出回数 1 回 <small>即、起動</small>

<登録>をクリックして、設定ページを閉じます。

TEL2でも通信中転送を利用する場合は、<ポート2の設定>をクリックして、同様に設定します。

# アナログポートの設定例集

## 1. フレックスホン機能を利用する～ 通信中転送(つづき)

### 【電話機の操作】

1. 外線(A)との通話中に、TEL1のフックスイッチを1回だけ、短く押します(フッキング)。このとき、[ポート1の設定]画面で設定した「フッキング判定時間」より長く押すと、TEL1と外線(A)との通話が切断されますので、ご注意ください。

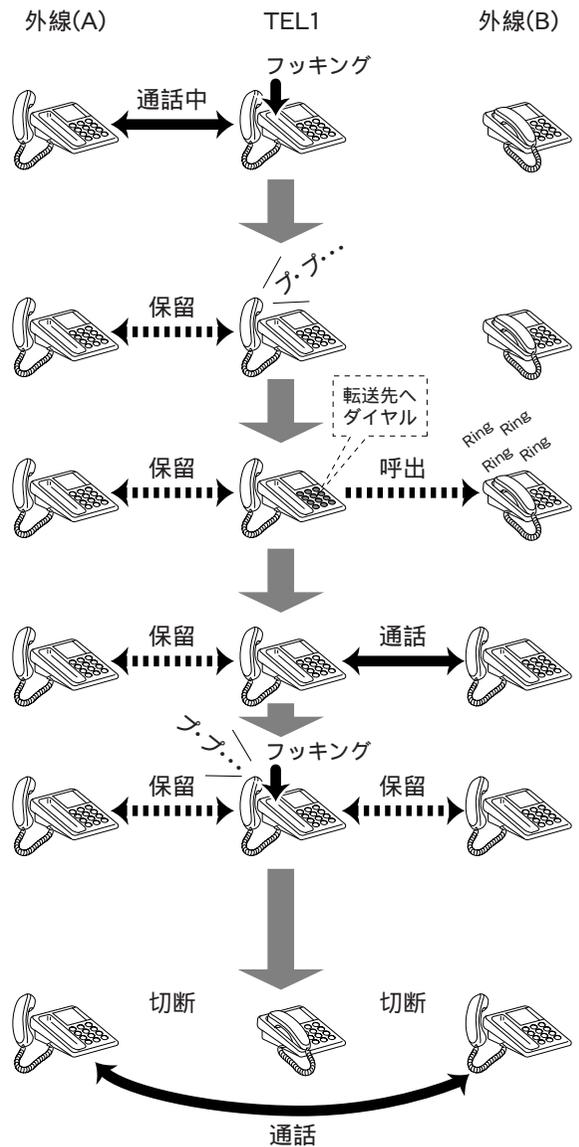
2. TEL1の受話器から「プ・プ・・・」と第二発信音が聞こえ、外線(A)との通話を保留します。

3. 転送先である外線(B)の電話番号をダイヤルします。

4. 外線(B)と通話します。

5. 外線(B)との通話中に、TEL1をフッキングします。TEL1の受話器から「プ・プ・・・」と第二発信音が聞こえます。

6. TEL1の受話器を戻します。外線(A)と外線(B)の通話を開始します。



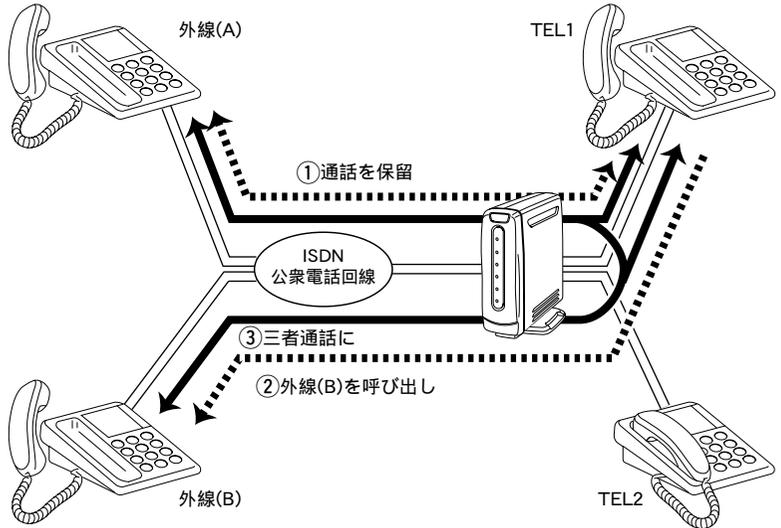
1. フレックスホン機能を利用する(つづき)

三者通話

三者通話には、二人の通話相手と交互に話す「切り替えモード」と、同時に三人で話せる「ミキシングモード」があります。  
本製品は、フレックスホン機能を「疑似」に設定して利用する三者通話においても、両モードに対応しています。

【条件】

外線(A)からの着信をTEL1で応答し、外線(A)との通話を切断することなく新たに外線(B)を呼び出して三者で通話する。



**注意！**：フレックスホン機能を「疑似」に設定する場合で、一方のアナログ機器が通話中、または本製品に接続されたパソコンが通信中の場合、三者通話は利用できません。  
本設定例の場合、フレックスホン機能の設定が、「疑似」、「NTTとの契約による」に関係なく、外線(B)への通話料金は、本製品側に課金されます。  
また、外線(A)との通話がTEL1からの発信による場合、外線(B)を呼び出して三者通話することはできません。

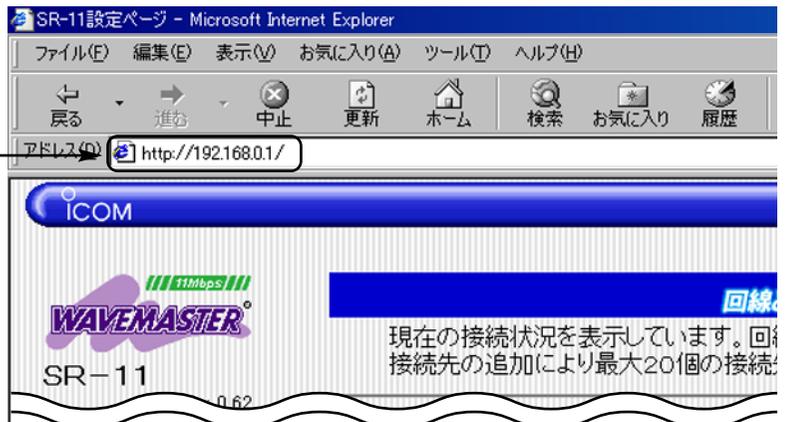
【手順】

1. 設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

本製品のIPアドレスは、出荷時の設定(192.168.0.1)とします。

1. http://192.168.0.1/  
を指定



## アナログポートの設定例集

### 1. フレックスホン機能を利用する～ 三者通話(つづき)

#### 2.三者通話を設定

<アナログ設定>メニューをクリックして、「三者通話」で「する」を選択します。

3. クリック

1. いずれかを選択

2. 「する」を選択

登録		取消	
<b>内線通話</b>			
内線通話の使用設定		内線転送を使用する	
<b>フレックスホンの設定</b> <span>登録/取消</span>			
【注意】NTTフレックスホンをご使用になる場合はNTTとの契約が必要です。			
フレックスホン機能		疑似 <input type="radio"/> NTTとの契約による <input type="radio"/>	
コールウェイトニング	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	疑似にてコールウェイトニングをするにた場合はポート番の設定で通話中に着信があると音でお知らせするに設定されます。	
通信中転送	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する		
三者通話	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する		
着信転送	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する		
<b>優先着信</b> <span>登録/取消</span>			
優先着信	すべてのポートに着信	時間差優先着信が0秒の場合は優先ポートのみ着信します。	
時間差優先着信	02 秒		
<b>リソースBOD</b>			
発信割り込みを使用	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する		
受信割り込みを使用	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する		

#### 3.フッキング判定時間の設定

<ポート1の設定>をクリックして、「通話中に着信があると音でお知らせ」と「フッキング判定時間」(時間は任意)を設定します。

3. クリック

2. 「する」を選択

1. 1秒(任意でよい)

登録		取消	
<b>ポート毎の設定</b>			
回線番号(ダイヤルイン番号)*サブアドレス		iナンバー ポート <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3	
接続機器の種類	標準設定	ナンバーディスプレイ	対応しない
無鳴動着信	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない	宛着信で使用	<input type="checkbox"/>
ポート使用設定		宛着信で使用	<input type="checkbox"/>
受話音量	標準	送話音量	標準
なりわけ着信機能	着信拒否する	外線呼出音	呼出音1
		内線呼出音	呼出音1
<b>着信機能</b> <span>登録/取消</span>			
グローバル着信	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
セレクト着信	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
通話中に着信があると音でお知らせ	<input checked="" type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
<b>送信機能</b> <span>登録/取消</span>			
発信者番号通知	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
高位レイヤ整合性をつけて発信	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
<b>ダイヤルタイミング</b> <span>登録/取消</span>			
ダイヤル待ち時間	1 秒		
フッキング判定時間	1 秒		
<b>着信転送</b> <span>登録/取消</span>			
転送トーク	<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし		
転送元トーク	<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし		
起動タイミング	呼出回数 4 回	既、起動	

<登録>をクリックして、設定ページを閉じます。

TEL2でも通信中転送を利用する場合は、<ポート2の設定>をクリックして、同様に設定します。

1. フレックスホン機能を利用する～ 三者通話(つづき)

【電話機の操作】

㊦ 切り替えモード

1. 外線(A)との通話中に、TEL1のフックスイッチを1回だけ、短く押します(フッキング)。このとき、[ポート1の設定]画面で設定した「フッキング判定時間」より長く押すと、TEL1と外線(A)との通話が切断されますので、ご注意ください。

2. TEL1の受話器から「プ・プ・・・」と第二発信音が聞こえ、外線(A)との通話を保留します。

3. 別の相手である外線(B)の電話番号をダイヤルします。

4. 外線(B)と通話します。

つながらない場合、TEL1をもう一度フッキングして切り替えモードを中止し、外線(A)との通話に戻ります。また、そのまま受話器を置くと、TEL1の呼出音が鳴ります。

5. 外線(B)との通話中に、TEL1をフッキングします。TEL1の受話器から「プ・プ・・・」と第二発信音が聞こえ、外線(B)との通話が保留状態になります。

6. さらにTEL1をフッキングします。

外線(A)との通話が再開されます。

以後、フッキングするたびに、保留(第二発信音が聞こえる)状態をはさんで、外線(A)/(B)を交互に切り替えます。

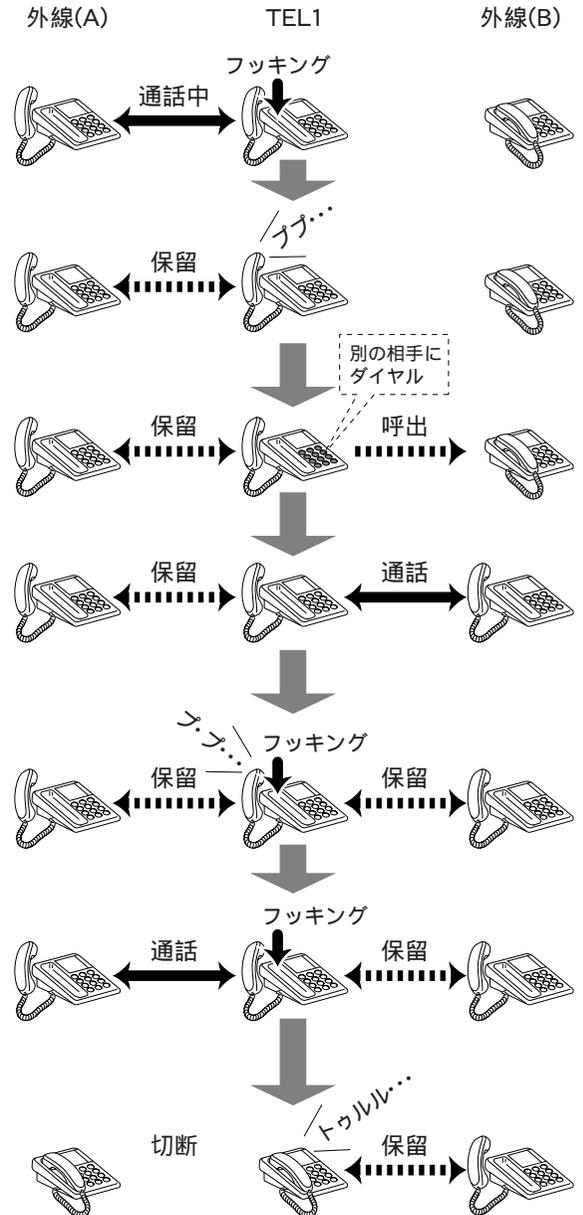
7. 通話が終了したら、TEL1の受話器を戻します。

外線(A)または外線(B)との通話が終了します。

保留中の相手がいる場合は、TEL1の呼出音が「トゥルル・・・」と鳴ります。

受話器を取ることで、保留中の外線と通話が再開されます。

保留中の外線がある場合に、通話中の外線が通話を切断した場合は、TEL1の受話器から「プー・・・」と話し中音が聞こえます。TEL1をフッキングすると、保留中の外線との通話が再開されます。



## アナログポートの設定例集

### 1. フレックスホン機能を利用する～ 三者通話(つづき)

#### ㊦ ミキシングモード

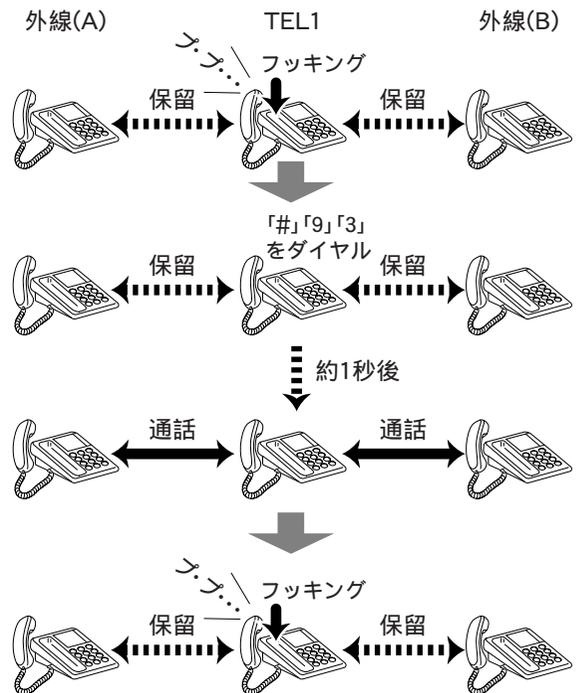
1. 「**A** 切り替えモード」の手順1～5と同じ操作をします。  
通話中の外線(A)と外線(B)が保留状態になります。

2. TEL1から「#」「9」「3」をダイヤルします。  
約1秒後、ミキシングモードに切り替わり、保留状態にある外線(A)、(B)の両方と通話(三者通話)できます。

3. 通話が終わったら、「**A** 切り替えモード」の手順7と同じ操作をします。

外線(A)または外線(B)との通話が終了します。  
このとき、もう一方の外線が受話器を戻さない場合、TEL1の呼出音が「トゥルル・・・」と鳴ります。

受話器を取ることで、その外線との通話が再開されます。

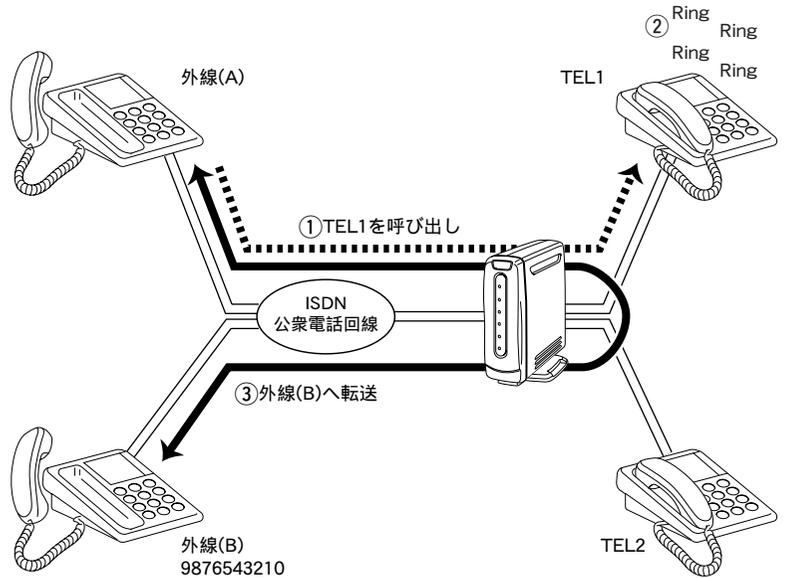


1. フレックスホン機能を利用する(つづき)

着信転送

【条件】

外線(A)からの通信をTEL1で着信し、呼出音が4回鳴っても応答がない場合、外線(B)(回線契約者番号：9876543210)に転送する。



**注意！**：フレックスホン機能を「疑似」に設定する場合で、一方のアナログ機器が通話中、または本製品に接続されたパソコンが通信中のときは、着信転送は利用できません。  
 本設定例の場合、フレックスホン機能の設定が、「疑似」、「NTTとの契約による」に関係なく、外線(B)への通話料金は、本製品側に課金されます。

【手順】

1. 設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

本製品のIPアドレスは、出荷時の設定(192.168.0.1)とします。

1. http://192.168.0.1/  
を指定





1. フレックスホン機能を利用する～ 着信転送(つづき)

4. 転送先電話番号の設定

<転送 / 短縮番号設定>ボタンをクリックして、アナログポート1の「転送先電話番号1」に転送先情報を入力します。

3. クリック

1. 転送先の名称・名前を入力(任意)

2. 「9876543210」を入力

登録 取消

**着信転送番号の登録**  
(注意)サブアドレス、転送先電話番号2の設定は専用設定時のみ可能です。

	転送先電話番号1	転送先名	電話番号
アナログポート1		A	9876543210
	転送先電話番号2	転送先名	電話番号
アナログポート2	転送先電話番号1	転送先名	電話番号
	転送先電話番号2	転送先名	電話番号

短縮ダイヤルの登録			登録 / 取消
*10	名前	プリダイヤル	電話番号
*11	名前	プリダイヤル	電話番号
*12	名前	プリダイヤル	電話番号
*13	名前	プリダイヤル	電話番号
*14	名前	プリダイヤル	電話番号
*15	名前	プリダイヤル	電話番号
*16	名前	プリダイヤル	電話番号
*17	名前	プリダイヤル	電話番号
*18	名前	プリダイヤル	電話番号
*19	名前	プリダイヤル	電話番号
*20	名前	プリダイヤル	電話番号
*21	名前	プリダイヤル	電話番号
*22	名前	プリダイヤル	電話番号
*23	名前	プリダイヤル	電話番号
*24	名前	プリダイヤル	電話番号
*25	名前	プリダイヤル	電話番号
*26	名前	プリダイヤル	電話番号
*27	名前	プリダイヤル	電話番号
*28	名前	プリダイヤル	電話番号
*29	名前	プリダイヤル	電話番号

<登録>をクリックして、設定ページを閉じます。

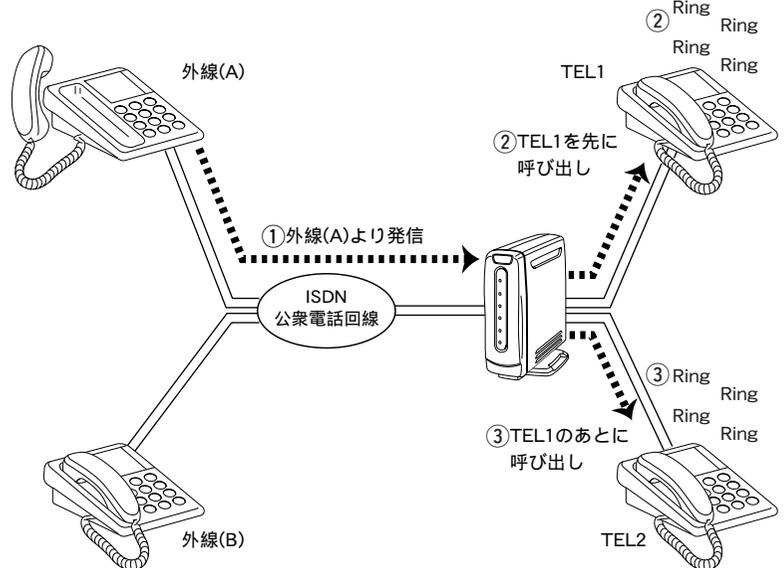
TEL2でも通信中転送を利用する場合は、<ポート2の設定>をクリックして、手順3と同様に設定したのち、アナログポート2の「転送先電話番号1」に転送先情報を入力します。

## 2. 優先着信

外線通信着信時に、[TEL1]、[TEL2]ポートに接続したアナログ機器のどちらか一方に優先して着信させ、一定時間、応答しないともう一方にも着信させることができる機能です。

### 【条件】

外線通信をTEL1で優先着信させ、10秒間応答しない場合、TEL2にも着信させます。



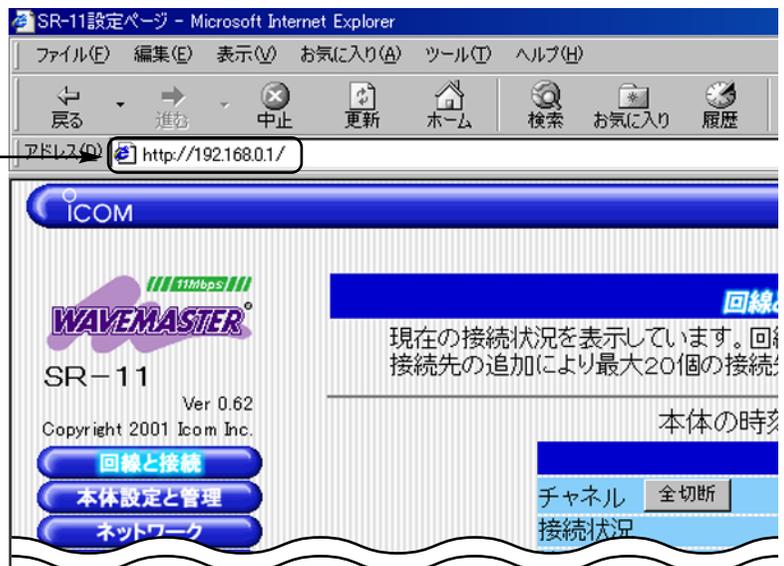
### 【手順】

1. 設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

本製品のIPアドレスは、出荷時の設定(192.168.0.1)とします。

1. http://192.168.0.1/  
を指定



2. 優先着信(つづき)

2.優先着信を設定

<アナログ設定>メニューをクリックして、「優先着信」を「ポート1を優先」に、「時間差優先着信」を「10秒」に設定します。

3. クリック

1. 「ポート1を優先」を選択

2. 「10秒」を設定

内線通話  
 内線通話の使用設定  内線転送を使用する  
 フレックスホンの設定    
【注意】NTTフレックスホンをご使用になる場合はNTTとの契約が必要です。  
 フレックスホン機能  疑似  NTTとの契約による  
 コールウェイトニング  しない  する 疑似にてコールウェイトニングをするにいた場合はポート番の設定で通話中に着信があると音でお知らせがするに設定されます。  
 通信中転送  しない  する  
 三者通話  しない  する  
 着信転送  しない  する  
 優先着信    
 優先着信  時間差優先着信が0秒の時は優先ポートのみ着信します。  
 時間差優先着信   
 リソースBOD  
 発信割り込みを使用  しない  する  
 受信割り込みを使用  しない  する

<登録>をクリックして、設定ページを閉じます。

## 3. アナログ機器を鳴り分ける

一般のアナログ回線では、一つの契約回線に複数の端末機器(電話、FAXなど)が接続されている場合、全端末機器が同時に外部からの通信を着信します。これに対して、INSネット64は、NTTが提供する以下のサービスを契約するか、サブアドレスの設定や、セレクト着信機能の利用などにより、発信者が各端末機器を個別に鳴り分け・着信させることが可能になります。

NTTが提供するサービス(有料)

- ダイヤルインサービス
- i-ナンバーサービス
- なりわけ着信

### ダイヤルインサービスの利用

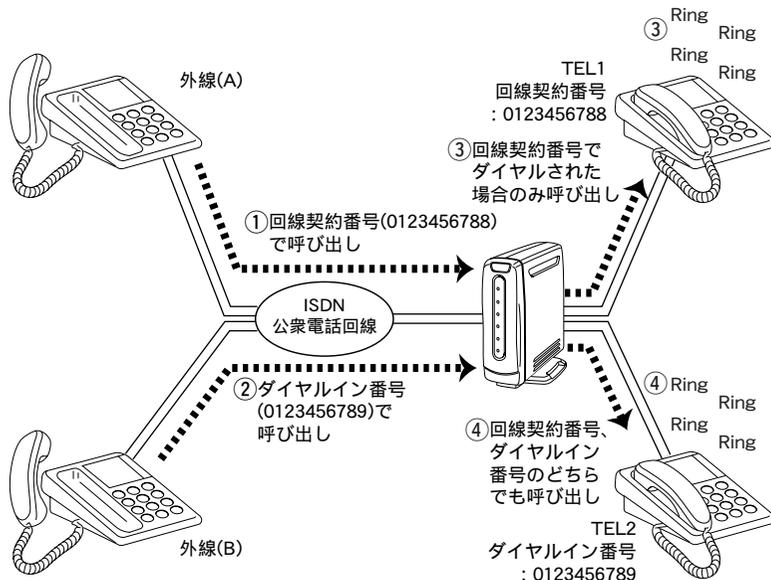
ダイヤルインサービスは、NTTとの契約により回線契約番号(代表電話番号)とは別に、各端末機器に個別の電話番号(ダイヤルイン番号)を割り当て、端末ごとに鳴り分け・着信させるサービスです。

ダイヤルインサービスには、グローバル着信機能(回線契約番号にかかってきた通信を、ダイヤルイン番号を割り当てた端末で着信する機能)が含まれます。(契約時に選択:「グローバル着信する」で契約することをおすすめします)

ご契約されている回線の接続方式(P-MP、P-P接続)によって異なりますが、ダイヤルインサービスでは、回線契約番号を含めて、最大1,000個までの電話番号を取得することができます。

#### 【条件】

- 契約内容  
グローバル着信: 「する」
- 本体設定  
回線契約番号(代表番号: 0123456788): TEL1  
ダイヤルイン番号(0123456789): TEL2  
グローバル着信: 「する」



## 3. アナログ機器を鳴り分ける～ダイヤルインサービスの利用(つづき)

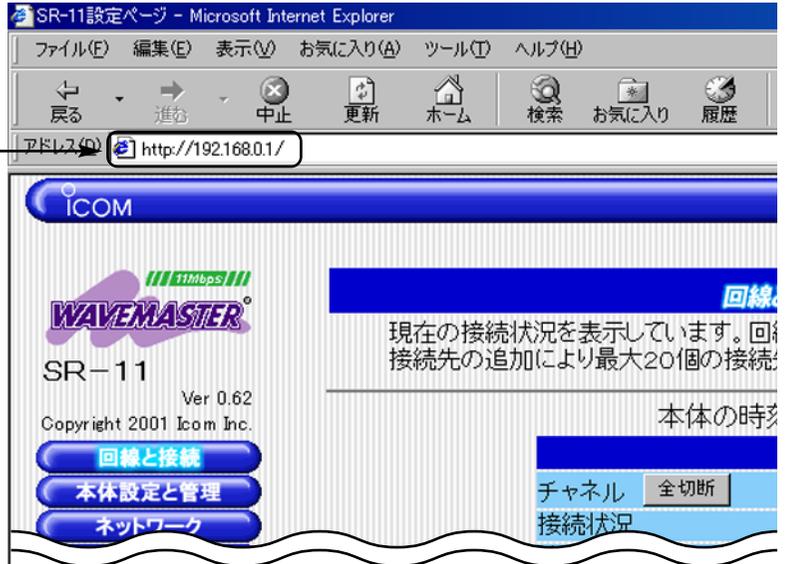
## 【手順】

## 1. 設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

本製品のIPアドレスは、出荷時の設定(192.168.0.1)とします。

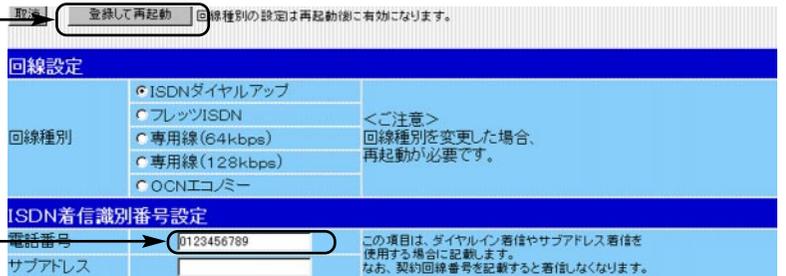
1. http://192.168.0.1/  
を指定



## 2. ダイヤルイン番号の登録

<回線設定>をクリックして、「電話番号」にダイヤルイン番号「0123456789」を入力します。

2. クリック



1. 「0123456789」を  
入力

<登録して再起動>をクリックすると、約10秒後に[接続状況]画面を表示します。

## アナログポートの設定例集

### 3. アナログ機器を鳴り分ける～ ダイヤルインサービスの利用(つづき)

#### 3.TEL1ポートの設定

<アナログ>メニューの<ポート1の設定>をクリックして、「電話番号(ダイヤルイン番号)\*サブアドレス」に回線契約番号「0123456788」を入力し、「グローバル着信」を「する」に設定します。

3. クリック

1. 「0123456788」を入力

2. 「する」(確認)

The screenshot shows the configuration page for an analog port. The 'ダイヤルイン番号' field contains '0123456788'. Under the '着信機能' section, the 'グローバル着信' option is set to 'する' (checked).

#### 4.TEL2ポートの設定

<ポート2の設定>をクリックして、「電話番号(ダイヤルイン番号)\*サブアドレス」にダイヤルイン番号「0123456789」を入力し、「グローバル着信」を「する」に設定します。

3. クリック

1. 「0123456789」を入力

2. 「する」を選択

The screenshot shows the configuration page for an analog port. The 'ダイヤルイン番号' field contains '0123456789'. Under the '着信機能' section, the 'グローバル着信' option is set to 'する' (checked).

<登録>ボタンをクリックしたあと、設定ページを閉じます。

### 3. 鳴り分け機能を利用する(つづき)

#### i-ナンバーサービスの利用

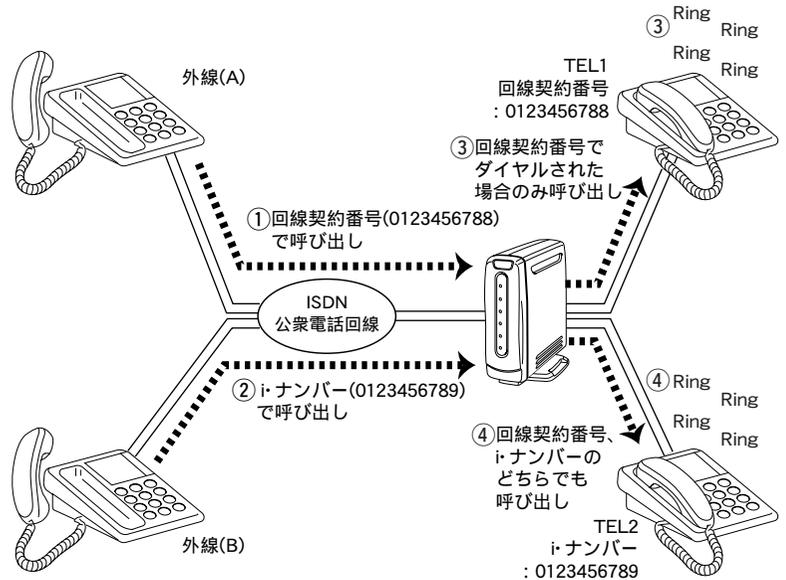
i-ナンバーサービスは、NTTとの契約により回線契約番号(代表電話番号)とは別に、各端末機器に個別の電話番号(i-ナンバー)を割り当て、端末ごとに鳴り分け・着信させるサービスです。

i-ナンバーサービスは、ダイヤルインサービスと違って、回線契約番号にかかってきた通信を、i-ナンバーを割り当てた端末で着信させるには、本製品での設定が必要です。

i-ナンバーサービスでは、回線契約番号を含めて、最大3個まで電話番号を取得することができます。

#### 【条件】

- 契約内容
  - i-ナンバー : 2番号
- 本体設定
  - 回線契約番号(代表番号 : 0123456788) : TEL1
  - i-ナンバー(0123456789) : TEL2



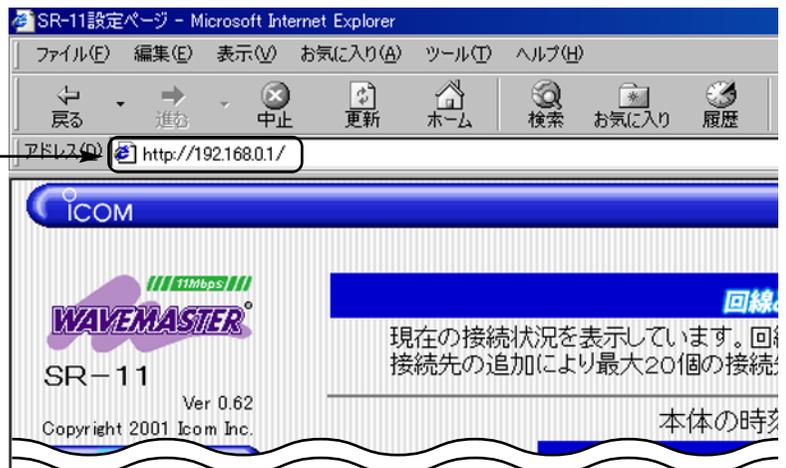
#### 【手順】

1. 設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

本製品のIPアドレスは、出荷時の設定(192.168.0.1)とします。

1. http://192.168.0.1/ を指定



## アナログポートの設定例集

### 3. アナログ機器を鳴り分ける～ iナンバーサービスの利用(つづき)

#### 2.TEL1ポートの設定

<アナログ>メニューの<ポート1の設定>をクリックして、「iナンバーポート」の「1」をクリックし、チェックマークを付けます。

2. クリック

1. 「1」をクリック  
(✓が表示される)

登録 取消

ポート毎の設定

回線番号(ダイヤルイン番号)\*サブアドレス

iナンバー  
1 2 3

接続機器の種類 ナンバーディスプレイ  
標準設定 対応しない

無鳴動着信  する  しない

ポート使用設定 宛着信で使用

受話音量 送話音量 外線呼出音 内線呼出音  
標準 標準 呼出音1 呼出音1

なりわけ着信機能 なりわけ呼出音  
着信拒否する 呼出音1

着信機能 登録/取消▲

グローバル着信  する  しない

セレクト着信  する  しない

通話中に着信があると音でお知らせ  する  しない

送信機能 登録/取消▲

発信者番号通知  する  しない

高位レイヤ整合性をつけて発信  する  しない

ダイヤルタイミング 登録/取消▲

ダイヤル待ち時間 5 秒

フッキング判定時間 1 秒

#### 3.TEL2ポートの設定

<ポート2の設定>をクリックして、さらに「iナンバーポート」の「1」と「2」をクリックし、チェックマークを付けます。

2. クリック

1. 「1」と「2」をクリック  
(✓が表示される)

登録 取消

ポート毎の設定

回線番号(ダイヤルイン番号)\*サブアドレス

iナンバー  
1 2 3

接続機器の種類 ナンバーディスプレイ  
標準設定 対応しない

無鳴動着信  する  しない

ポート使用設定 宛着信で使用

受話音量 送話音量 外線呼出音 内線呼出音  
標準 標準 呼出音1 呼出音1

なりわけ着信機能 なりわけ呼出音  
着信拒否する 呼出音1

着信機能 登録/取消▲

グローバル着信  する  しない

セレクト着信  する  しない

通話中に着信があると音でお知らせ  する  しない

送信機能 登録/取消▲

発信者番号通知  する  しない

高位レイヤ整合性をつけて発信  する  しない

ダイヤルタイミング 登録/取消▲

ダイヤル待ち時間 5 秒

フッキング判定時間 1 秒

<登録>ボタンをクリックしたあと、設定ページを閉じます。

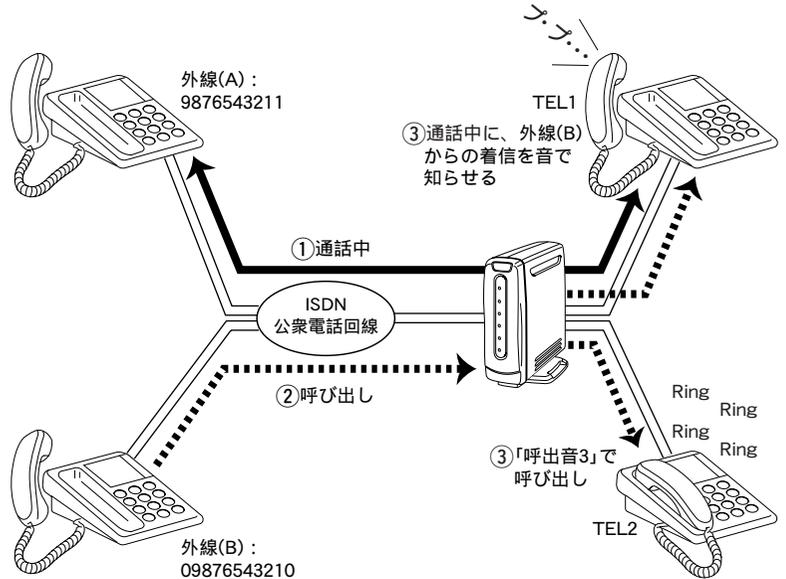
### 3. 鳴り分け機能を利用する(つづき)

#### なりわけ着信サービスの利用

なりわけ着信サービスは、NTTに登録した電話番号からの通信に対して、端末機器への着信形態を指定できるようにするサービスです。このサービスを利用するには、NTTとの契約(有料)が必要です。

#### 【条件】

- 登録電話番号：  
9876543210(外線(B))
- TEL1設定  
外線(B)からの通信：  
話し中でも、音で知らせる  
なりわけ呼出音：「呼出音3」
- TEL2設定  
外線(B)からの通信：  
話し中は着信しない  
なりわけ呼出音：「呼出音3」



#### 【手順】

1. 設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

本製品のIPアドレスは、出荷時の設定(192.168.0.1)とします。

1. http://192.168.0.1/  
を指定



## アナログポートの設定例集

### 3. アナログ機器を鳴り分ける～ なりわけ着信サービスの利用(つづき)

#### 2.TEL1ポートの設定

<アナログ>メニューの<ポート1の設定>をクリックして、「なりわけ着信機能」を「通常・話中共に着信」に、「なりわけ呼出音」を「呼出音3」に設定します。

3. クリック

1. [ ]をクリックして、「通常・話中共に着信」を選択

2. [ ]をクリックして、「呼出音3」を選択

ポート毎の設定			
回線番号(ダイヤルイン番号)*サブアドレス	ナンバーポート <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3		
接続機器の種類	ナンバーディスプレイ		
標準設定	対応しない		
無鳴動着信	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
ポート使用設定	発着信で使用		
受話音量	送話音量	外線呼出音	内線呼出音
標準	標準	呼出音1	呼出音2
なりわけ着信機能	なりわけ呼出音		
通常・話中共に着信	呼出音3		
着信機能			
グローバル着信	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
外線外着信	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
通話中に着信があると音でお知らせ	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
送信機能			
発信者番号通知	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
高位レイヤ整合性を付けて発信	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
ダイヤルタイミング			
ダイヤル待ち時間	5 秒		
フッキング判定時間	1 秒		

#### 3.TEL2ポートの設定

<ポート2の設定>をクリックして、「なりわけ着信機能」を「話中は着信しない」に、「なりわけ呼出音」を「呼出音3」に設定します。

3. クリック

1. [ ]をクリックして、「話中は着信しない」を選択

2. [ ]をクリックして、「呼出音3」を選択

ポート毎の設定			
回線番号(ダイヤルイン番号)*サブアドレス	ナンバーポート <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3		
接続機器の種類	ナンバーディスプレイ		
標準設定	対応しない		
無鳴動着信	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
ポート使用設定	発着信で使用		
受話音量	送話音量	外線呼出音	内線呼出音
標準	標準	呼出音1	呼出音2
なりわけ着信機能	なりわけ呼出音		
話中は着信しない	呼出音3		
着信機能			
グローバル着信	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
外線外着信	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
通話中に着信があると音でお知らせ	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
送信機能			
発信者番号通知	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
高位レイヤ整合性を付けて発信	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
ダイヤルタイミング			
ダイヤル待ち時間	5 秒		
フッキング判定時間	1 秒		

<登録>ボタンをクリックしたあと、設定ページを閉じます。

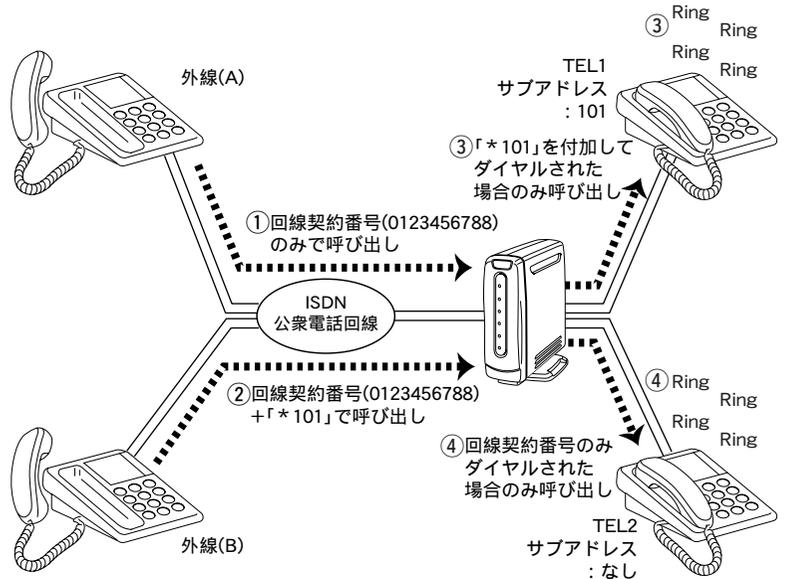
### 3. 鳴り分け機能を利用する(つづき)

#### サブアドレスの利用

NTTとの契約は不要で、各端末機器に個別のサブアドレスを割り当て、通信の発信者が契約電話番号とともにサブアドレスをダイヤルすることで、端末ごとに鳴り分け・着信させることが可能になります。ただし、サブアドレスによる鳴り分け・着信は、ISDN回線契約者からサブアドレスを付加してダイヤルされた発信に限り、鳴り分け・着信できますが、サブアドレスをダイヤルしない、またはアナログ回線契約者からの発信では、まったく着信できません。

#### 【条件】

- 本体設定
  - 回線契約番号(代表番号) : 0123456788
- サブアドレス
  - TEL1 : 101
  - TEL2 : なし



#### 【手順】

1. 設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

本製品のIPアドレスは、出荷時の設定(192.168.0.1)とします。

1. http://192.168.0.1/ を指定



## アナログポートの設定例集

### 3. 鳴り分け機能を利用する ~ サブダイヤルを利用する(つづき)

#### 2. TEL1ポートの設定

<アナログ>メニューの<ポート1の設定>をクリックして、「電話番号(ダイヤルイン番号)\*サブアドレス」に回線契約番号「0123456788」に続けて「\*(アスタリスク)」とサブアドレス「101」を入力します。

2. クリック	<input type="button" value="登録"/> <input type="button" value="取消"/>
1. 「0123456788 * 101」と入力	<input type="text" value="0123456788*101"/>

ポート毎の設定			
回線番号(ダイヤルイン番号)*サブアドレス		ナンバー ポート <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3	
接続機器の種類		ナンバーディスプレイ	
<input type="text" value="標準設定"/>	<input type="text" value="対応しない"/>		
無鳴動着信		<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない	
ポート使用設定		<input type="checkbox"/> 宛着信で使用	
受話音量	送話音量	外線呼出音	内線呼出音
<input type="text" value="標準"/>	<input type="text" value="標準"/>	<input type="text" value="呼出音1"/>	<input type="text" value="呼出音1"/>
なりわけ着信機能		なりわけ呼出音	
<input type="text" value="着信拒否する"/>		<input type="text" value="呼出音1"/>	
着信機能			
<input type="button" value="登録"/> <input type="button" value="取消"/>			
グローバル着信	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
セレクト着信	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
通話中に着信があると音でお知らせ	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
送信機能			
<input type="button" value="登録"/> <input type="button" value="取消"/>			
発信者番号通知	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
高位レイヤ整合性をつけて発信	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
ダイヤルタイミング			
<input type="button" value="登録"/> <input type="button" value="取消"/>			
ダイヤル待ち時間	<input type="text" value="5"/> 秒		
フッキング判定時間	<input type="text" value="1"/> 秒		
着信転送			
<input type="button" value="登録"/> <input type="button" value="取消"/>			
転送トーン	<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし		
転送元トーン	<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし		
起動タイミング	呼出回数 <input type="text" value="4"/> 回		<input type="text" value="呼出後起動"/>

<登録>ボタンをクリックしたあと、設定ページを閉じます。

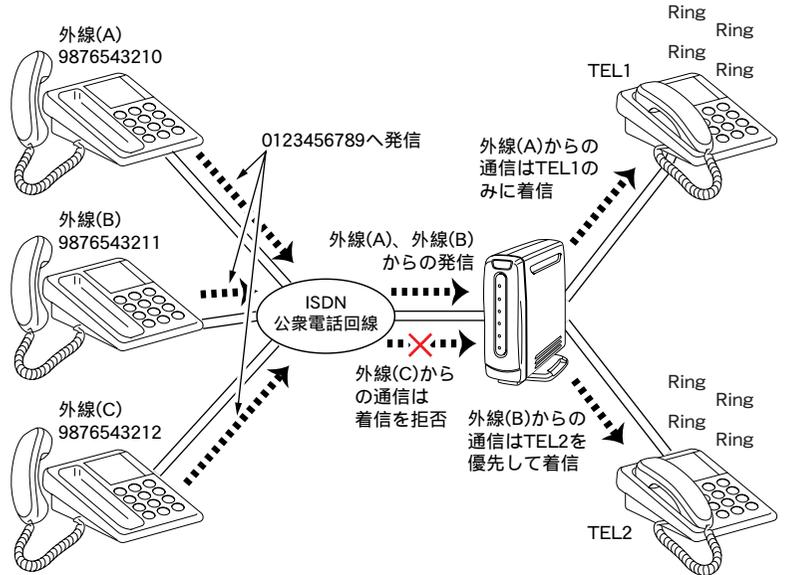
3. 鳴り分け機能を利用する(つづき)

セレクト着信の利用

セレクト着信機能とは、ISDN回線網より通知された発信者(電話)番号と、登録した電話番号が一致した場合に、TEL1、TEL2ポートに接続されたアナログ機器の着信形態を指定する機能です。着信形態には、ポート指定、優先、着信拒否、および指定無しの中から選択でき、最大20件の電話番号に対して指定できます。なお、アナログ回線網からの発信者(電話)番号通知には、別途、INSナンバー・ディスプレイの契約(有料)が必要です。

【条件】

- TEL1、TEL2の電話番号：  
0123456789(回線契約者番号のみ：ダイヤルイン、ナンバー契約無し、サブアドレス未使用)
- ① 発信者番号、9876543210からの通信は、TEL1のみに着信させ、着信音2を使用
- ② 発信者番号、9876543211からの通信は、TEL2を10秒間優先して着信させ、着信音3を使用
- ③ 発信者番号、9876543212からの通信は着信を拒否



【手順】

1. 設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

本製品のIPアドレスは、出荷時の設定(192.168.0.1)とします。

1. http://192.168.0.1/を指定



## アナログポートの設定例集

### 3. 鳴り分け機能を利用する ~ セレクト着信の利用(つづき)

#### 2. 優先時間の設定

<アナログ>メニューをクリックして、「時間差優先着信」を10秒に設定します。

2. クリック

登録 取消

内線通話  
内線通話の使用設定 [内線転送を使用する]

フレックスホンの設定 登録/取消▲  
【注意】NTTフレックスホンをご使用になる場合はNTTとの契約が必要です。

フレックスホン機能  疑似  NTTとの契約による

コールウェイトニング	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	疑似にてコールウェイトニングをするに場合はポート番の設定で通話中に着信があると音でお知らせするに設定されます。
通信中転送	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	
三者通話	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	
着信転送	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	

優先着信 登録/取消▲

優先着信	すべてのポートに着信	時間差優先着信が0秒の場合は優先ポートのみ着信します。
時間差優先着信	10 秒	

リソースBOD

発信割り込みを使用	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
受信割り込みを使用	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する

1. 「10秒」を入力(任意)

#### 3. TEL1ポートの設定

<ポート1の設定>をクリックして、「セレクト着信」を「する」に設定します。

2. クリック

登録 取消

ポート毎の設定

回線番号(ダイヤルイン番号)\*サブアドレス [ ] 番号ポート [ 1 ] [ 2 ] [ 3 ]

接続機器の種類 ナンバーディスプレイ  
標準設定 [ ] 対応しない [ ]

無鳴動着信  する  しない

ポート使用設定 [宛着信で使用]

受話音量 [標準] 送話音量 [標準] 外線呼出音 [呼出音1] 内線呼出音 [呼出音1]

なりわけ着信機能 [着信拒否する] なりわけ呼出音 [呼出音1]

着信機能 登録/取消▲

グローバル着信	<input type="radio"/> する <input checked="" type="radio"/> しない
セレクト着信	<input checked="" type="radio"/> する <input type="radio"/> しない
通話中に着信があると音でお知らせ	<input type="radio"/> する <input checked="" type="radio"/> しない

送信機能 登録/取消▲

発信者番号通知	<input type="radio"/> する <input checked="" type="radio"/> しない
高位レイヤ整合性をつけて発信	<input type="radio"/> する <input checked="" type="radio"/> しない

ダイヤルタイミング 登録/取消▲

ダイヤル待ち時間	5 秒
フッキング判定時間	1 秒

着信転送 登録/取消▲

転送トーン	<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし
転送元トーン	<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし
起動タイミング	呼出回数 4 回 [ ] 即、起動 [ ]

1. 「する」を選択

3. 鳴り分け機能を利用する ~ セレクト着信の利用(つづき)

4. TEL2ポートの設定

<ポート2の設定>をクリックして、「セレクト着信」を「する」に設定します。

2. クリック

1. 「する」を選択

録音 取消

ポート毎の設定

回線番号(ダイヤルイン番号)\*サブアドレス

接続機器の種類

無鳴動着信

ポート使用設定

受話音量

送話音量

なりわけ着信機能

着信拒否する

ナンバーディスプレイ

対応しない

する しない

宛着信で使用

外線呼出音

内線呼出音

呼出音1

呼出音1

なりわけ呼出音

呼出音1

呼出音1

着信機能

グローバル着信

セレクト着信

通話中に着信があると音でお知らせ

送信機能

発信者番号通知

ダイヤル整合性を高める発信

する しない

する しない

する しない

録音/取消

5. 電話番号・着信形態の登録

<セレクト番号>をクリックして、登録番号(登録01~20)ごとに「相手先名」「電話番号」「着信ポート&着信動作」「着信音」を設定します。

① 外線(A)の登録

1. 「外線(A)」(任意)

2. 「9876543210」を入力

3. 「ポート1のみに着信する」を選択

4. 「呼出音2」を選択

録音 取消

セレクト着信

登録番号	相手先名	電話番号	着信ポート&着信動作	着信呼出音
登録01	外線(A)	9876543210	ポート1のみに着信する	呼出音2
登録02			両ポートに着信する	呼出音1
登録03			着信ポート&着信動作	着信呼出音
登録04			両ポートに着信する	呼出音1
登録05			着信ポート&着信動作	着信呼出音
登録06			両ポートに着信する	呼出音1
登録07			着信ポート&着信動作	着信呼出音
登録08			両ポートに着信する	呼出音1
登録09			着信ポート&着信動作	着信呼出音
登録10			両ポートに着信する	呼出音1

## アナログポートの設定例集

### 3. 鳴り分け機能を利用する～ セレクト着信の利用(つづき)

#### ②外線(B)の登録

	登録	取消	セレクト着信			
	登録01		相手先名 外線(A)	電話番号 9876543210	着信ポート&着信動作 [ポート1のみに着信する]	着信呼出音 [呼出音2]
1. 「外線(B)」(任意)	登録02		相手先名 外線(B)	電話番号 9876543211	着信ポート&着信動作 [ポート2を優先して着信]	着信呼出音 [呼出音3]
2. 「9876543211」を 入力	登録03		相手先名	電話番号	着信ポート&着信動作 [両ポートに着信する]	着信呼出音 [呼出音1]
3. 「ポート2を優先して着 信」を選択	登録04		相手先名	電話番号	着信ポート&着信動作 [両ポートに着信する]	着信呼出音 [呼出音1]
4. 「呼出音3」を選択	登録05		相手先名	電話番号	着信ポート&着信動作 [両ポートに着信する]	着信呼出音 [呼出音1]
	登録06		相手先名	電話番号	着信ポート&着信動作 [両ポートに着信する]	着信呼出音 [呼出音1]
	登録07		相手先名	電話番号	着信ポート&着信動作 [両ポートに着信する]	着信呼出音 [呼出音1]
	登録08		相手先名	電話番号	着信ポート&着信動作 [両ポートに着信する]	着信呼出音 [呼出音1]

#### ③外線(C)の登録

	登録	取消	セレクト着信			
	登録01		相手先名 外線(A)	電話番号 9876543210	着信ポート&着信動作 [ポート1のみに着信する]	着信呼出音 [呼出音2]
	登録02		相手先名 外線(B)	電話番号 9876543211	着信ポート&着信動作 [ポート2を優先して着信]	着信呼出音 [呼出音3]
1. 「外線(C)」(任意)	登録03		相手先名 外線(C)	電話番号 9876543212	着信ポート&着信動作 [両ポートに着信しない]	着信呼出音 [呼出音1]
2. 「9876543212」を 入力	登録04		相手先名	電話番号	着信ポート&着信動作 [両ポートに着信する]	着信呼出音 [呼出音1]
3. 「両ポートに着信しな い」を選択	登録05		相手先名	電話番号	着信ポート&着信動作 [両ポートに着信する]	着信呼出音 [呼出音1]
	登録06		相手先名	電話番号	着信ポート&着信動作 [両ポートに着信する]	着信呼出音 [呼出音1]
	登録07		相手先名	電話番号	着信ポート&着信動作 [両ポートに着信する]	着信呼出音 [呼出音1]
	登録08		相手先名	電話番号	着信ポート&着信動作 [両ポートに着信する]	着信呼出音 [呼出音1]

<登録>ボタンをクリックしたあと、設定ページを閉じます。



SOHOROUTER  
**SR-11**

## 第8部 付属ソフトウェアについて

1. Quick Connect.....	1
操作パネル .....	1
[Option]ウィンドウ .....	3
[接続設定]ウィンドウ .....	4
2. IP Name .....	7

取扱説明書[基本編]に記載のない内容について説明しています。本書の設定例集と併せてご覧ください。



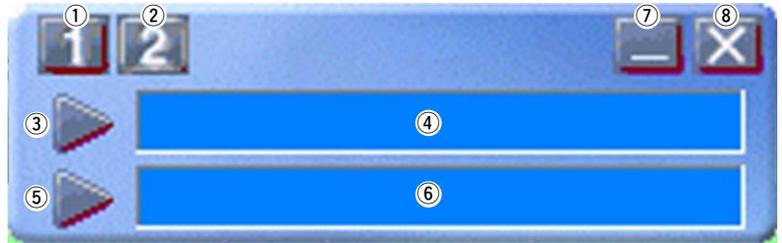
## 1. Quick Connect(クイックコネクト)

Quick Connectとは、設定ページへアクセスせずに、手動でISDN回線の接続/切断を操作するためのソフトウェアです。

Quick Connectは、デスクトップ上に常駐させることが可能で、本製品に登録された接続先(プロバイダーなど)へ簡単に接続できます。

なお、Quick Connectは、「ISDNダイヤルアップ」、「フレッツ・ISDN」の設定環境でのみ利用できます。

### 操作パネル



- ①<1> ..... 回線接続ボタン1です。  
[Option]ウィンドウの「④接続ボタン1接続先No」(☞P3)で設定された接続先へ、回線を接続します。
- ②<2> ..... 回線接続ボタン2です。  
[Option]ウィンドウの「⑤接続ボタン2接続先No」(☞P3)で設定された接続先へ、回線を接続します。
- ③<▶> ..... B1チャンネルの回線を切断します。
- ④接続状況表示 ..... B1チャンネルの回線接続状況を表示します。
- ⑤<▶> ..... B2チャンネルの回線を切断します。
- ⑥接続状況表示 ..... B2チャンネルの回線接続状況を表示します。
- ⑦<\_\_> ..... 操作パネル表示を最小化します。
- ⑧<x> ..... Quick Connectを終了します。

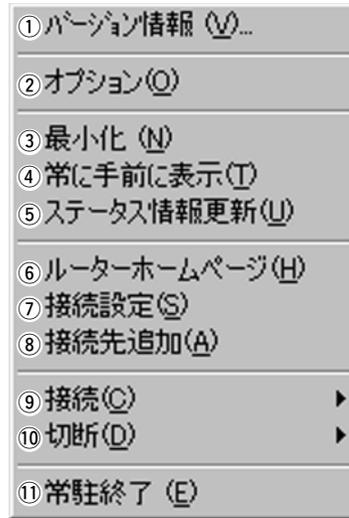
なお、Quick Connectから本製品にアクセスできない場合、操作パネルが右の表示になります。このような場合は、パソコンのIPアドレス設定を確認してください。



# 付属ソフトウェアについて

## 1. Quick Connect(クイックコネクト)(つづき)

Quick Connectの操作パネル上で、右クリックすると、次のメニューが表示されます。



- ①バージョン情報 (V) ..... Quick Connectのバージョン情報を表示する、右のウィンドウを開きます。
- ②オプション (O) ..... [Option]ウィンドウを開きます。  
詳細は、 [Option]ウィンドウ(⇒P3)をご覧ください
- ③最小化 (N) ..... 操作パネルを最小化します。
- ④常に手前に表示 (I) ..... Quick Connect以外のアプリケーションを起動させていても、操作パネルが常に見えるように表示させます。
- ⑤ステータス情報更新 (U) ..... 本製品と通信して、設定ページの設定内容、通信チャネルの接続状況などの情報を更新します。
- ⑥ルーターホームページ (H) ..... WWWブラウザを自動的に起動して、本製品の設定ページを開きます。
- ⑦接続設定 (S) ..... [接続設定]ウィンドウを開きます。  
Quick Connectから、設定ページに登録されている接続先設定を編集することができます。  
詳細は、 [接続設定]ウィンドウ(⇒P4)をご覧ください。
- ⑧接続先追加 (A) ..... 「⑥接続設定 (C)」と同様に、 [接続設定]ウィンドウを開きます。  
Quick Connectから、接続先を追加することができます。  
詳細は、 [接続設定]ウィンドウ(⇒P4)をご覧ください。
- ⑨接続 (C) ..... 接続ボタン<1>、または<2>に登録された接続先へ回線を接続します。
- ⑩切断 (D) ..... 「B1」、「B2」チャネル、または「B1/B2」チャネルを切断します。
- ⑪常駐終了 (E) ..... Quick Connectを終了します。

1. Quick Connect(クイックコネクト)(つづき)

[Option]ウィンドウ

Quick Connectから本製品へアクセスするための設定と、操作パネルの<1>、<2>での接続先を選択します。



- ①SR-11のIPアドレス ..... 本製品に設定されたIPアドレスを表示 / 入力します。
- ②ユーザID ..... 設定されている管理者、または使用者IDを表示 / 入力します。
- ③パスワード ..... 設定されている管理者、または使用者パスワードを表示 / 入力します。  
パスワードは「\*(アスタリスク)」で表示します。
- ④接続ボタン1接続先No ..... <1>に割り当てられた接続先の登録番号を表示 / 入力します。
- ⑤接続ボタン2接続先No ..... <2>に割り当てられた接続先の登録番号を表示 / 入力します。
- ⑥ステータス更新間隔(秒) ..... Quick Connectが本製品の設定、接続状況などの情報を更新する時間を表示 / 入力します。  
なお、設定する時間は5～60秒のあいだで入力してください。(1～4秒を入力しても、設定を拒否します。)  
0秒に設定すると、右クリックで表示されるメニューでの手動更新となります。
- ⑦通信チャンネル ..... 接続先との通信に使われているチャンネルを表示します。

# 付属ソフトウェアについて

## 1. Quick Connect(クイックコネクト)(つづき)

### [接続設定]ウィンドウ

本製品に登録されている接続先を編集、および接続先を追加するときに表示されるウィンドウです。

なお、このウィンドウに表示される項目は、以下の設定ページ画面で設定されていますので、それぞれの詳細説明については、該当する画面の説明をご覧ください。

- ① [接続]画面
- ② [自動接続]画面
- ③ [自動切断]画面



- ① 接続先名 ..... 接続する相手先名を入力します。
- ② 電話番号1～3 ..... 接続先から指定された電話番号を、市外局番から入力します。
- ③ ユーザID ..... 接続先から指定されたユーザID(ログイン名)を入力します。
- ④ パスワード ..... 接続先から指定されたパスワードを入力します。
- ⑤ 認証プロトコル ..... ユーザIDとパスワードを発信するときの認証方法を選択します。
- ⑥ デフォルトGWを構築 ..... この接続先への接続を、LAN環境で発生した宛先不明のパケットを送り出す出口とするかしないかを選択します。
- ⑦ コールバック要求 ..... 相手先に発信したときに、相手先にかけておいてもらうように(コールバック)要求するかどうかを選択します。
- ⑧ コールバック電話番号 ..... CBCPによるコールバックを要求した場合に、相手先にかけておいてもらう電話番号を入力します。
- ⑨ プライマリDNSサーバ ..... 接続先から指定されたプライマリDNSサーバアドレス、またはDNSサーバアドレスが2つ以上指定されている場合は、どちらか一方を入力します。  
DNSサーバを使用しない場合は、「0.0.0.0」としておきます。

1. Quick Connect(クイックコネクト)～ [接続設定]ウィンドウ(つづき)



- ⑩セカンダリDNSサーバ ..... 接続先から指定されたプライマリDNSサーバアドレス、またはDNSサーバアドレスが2つ以上指定されている場合は、どちらか一方を入力します。  
DNSサーバを使用しない場合は、「0.0.0.0」としておきます。
- ⑪BODを使用 ..... MP接続に対応している接続先と、128kbps(回線速度)の契約をしていて、「⑭通信速度」を「64k可変」、もしくは「128k可変」に設定している場合に限り、回線を流れるパケット量を監視しながら、必要に応じて自動的にチャンネルを増減するかどうかを選択します。
- ⑫移行トラフィック量 ..... 上記「⑪BODを使用」に“✓”(チェックマーク)がある場合に有効となり、回線を流れるパケット量が、ここで設定する値になれば使用するBチャンネル数(1B 2B、2B 1B)を自動的に切り替えます。
- ⑬自動接続する ..... パソコンが、メールサーバやインターネットなどへアクセスする操作をした場合、自動で回線を接続するかどうかを選択します。
- ⑭通信速度 ..... Bチャンネルを使って、接続先とどのように通信するかを選択します。
- ⑮自動切断する ..... 接続中の回線を自動で切断するか、操作パネル上の<▶>をクリックするまで切断しないかを選択します。
- ⑯タイマー1..... 上記「⑮自動切断する」に“✓”(チェックマーク)がある場合に、ここで設定する時間、通信がないと自動的に回線を切断します。
- ⑰タイマー2..... 上記「⑯タイマー1」とは別に、下記「⑱タイマー2を使用する時間」で設定された時間帯で自動的に回線を切断するタイマーです。
- ⑱タイマー2を使用する時間..... 上記「⑰タイマー2」を有効にする時間帯を設定します。
- ⑲<削除> ..... 表示している接続先の登録を削除します。
- ⑳<OK> ..... 設定、または編集した内容を本製品に登録してウィンドウを閉じます。

## 付属ソフトウェアについて

### 1. Quick Connect(クイックコネクト)～ [接続設定]ウィンドウ(つづき)

- ①<キャンセル> ..... 設定、または編集した内容を取り消して、ウィンドウを閉じます。  
なお、一度<適用>をクリックすると、設定/編集した内容を取り消すことはできません。
- ②<適用> ..... 設定、または編集した内容を確定して、本製品に登録します。
- ③<再取得> ..... 本製品と通信して、本製品に登録されている接続設定内容表示を更新します。

## 2. IP Name

本製品の簡易DNSサーバ機能を利用する際、あらかじめパソコンのホスト名に対応するIPアドレスを登録しておく必要があります。IP Nameを使うと、このホスト名に対応するIPアドレスを検索することができます。また、IPアドレスからホスト名を検索(逆引き)することも可能です。

### 注意！

グローバル環境のホスト名解決には、インターネットへ接続して外部DNSへ問い合わせを行う必要があります。

よって、ダイヤルアップ接続の場合、自動接続を設定していると、検索のためにインターネットに自動接続して課金されますので、注意してください。



- |                        |  |
|------------------------|--|
| ①Host Name .....       | 目的の名前を、「ホスト名.(ドット)ドメイン名」の書式で入力/表示します。<br>(入力/表示例：www.icom.co.jp) |
| ②<IP Addressに変換> ..... | 入力したホスト名のIPアドレス検索を開始します。   |
| ③IP Address .....      | 目的のIPアドレスを入力/表示します。(入力/表示例：172.16.2.2)                           |
| ④<Host Nameに変換> .....  | 入力したIPアドレスのホスト名検索を開始します。   |
| ⑤Class表示 .....         | 検索された/検索したIPアドレスが所属するクラスを表示します。<br>一般的に、A～Cクラスに分けられています。         |
| ⑥<中止> .....            | 検索中に表示されるボタンです。<br>途中で、検索を中止したい場合にクリックします。                       |
| ⑦<閉じる> .....           | IP Nameを終了します。   |

高品質がテーマです。

## アイコム株式会社

本 社	547-0003	大阪市平野区加美南1-1-32	
北海道営業所	060-0041	札幌市中央区大通東9-14	TEL 011-251-3888
仙台営業所	983-0857	仙台市宮城野区東十番丁54-1	TEL 022-298-6211
東京営業所	130-0021	東京都墨田区緑1-22-14	TEL 03-5600-0331
名古屋営業所	466-0015	名古屋市昭和区御器所通2-24	TEL 052-842-2288
大阪営業所	547-0004	大阪市平野区加美鞍作1-6-19	TEL 06-6793-0331
広島営業所	733-0842	広島市西区井口3-1-1	TEL 082-501-4321
四国営業所	760-0071	高松市藤塚町3-19-43	TEL 087-835-3723
九州営業所	815-0032	福岡市南区塩原4-5-48	TEL 092-541-0211

●サービスについてのお問い合わせは各営業所サービス係宛にお願いします。